茨城県教育財団文化財調査報告第166集

島名・福田坪一体型特定土地区画整理事業地内埋蔵文化財調査報告書Ⅳ

熊の山遺跡
（上巻）

作業室用

平成12年3月

茨　　城　　県
財団法人　茨城県教育財団

茨城県教育財団文化財調査報告第166集

島名・福田坪一体型特定土地区画整理事業地内埋蔵文化財調査報告書Ⅳ

熊の山遺跡
（上 巻）

平成12年3月

茨　　城　　県
財団法人　茨城県教育財団

上：熊の山遺跡遠景（南から）　下：第888号住居跡出土遺物

序

茨城県は，昭和38年に筑波研究学園都市計画地域の指定を受けて以来，日本の科学技術の研究開発の核として，さらに，国際交流の拠点都市にふさわしい町づくりを進めております。

この新しい町づくりに欠かせない交通機関である常磐新線の整備は，つくばと東京圏を直結し，人・物・情報の交流を盛んにするだけでなく，地域活性化の大きな力となります。そこで，平成6年7月に県，市，地権者が三者協議で合意に達し，新線整備と沿線開発を一体的に進める土地区画整理事業が進められております。

この予定地内に熊の山遺跡が存在していたため，財団法人茨城県教育財団は，茨城県から埋蔵文化財発掘調査についての委託を受け，平成7年4月から発掘調査を実施してまいりました。その成果の一部は，既に平成8年度に「(仮称) 島名・福田坪地区土地区画整理事業地内埋蔵文化財調査報告書Ⅰ」，平成9年度に「(仮称) 島名・福田坪地区特定土地区画整理事業地内埋蔵文化財調査報告書Ⅱ」，平成10年度に「(仮称) 島名・福田坪地区土地区画整理事業地内埋蔵文化財調査報告書Ⅲ」として刊行いたしました。

本書は，平成9年度に調査を行った熊の山遺跡の調査成果を収録したものであります。本書が学術的な研究資料としてはもとより，教育・文化の向上の一助として，御活用いただければ幸いです。

なお，発掘調査から報告書の刊行に至るまで，委託者である茨城県からいただいた多大なる御協力に対し，心から御礼申し上げます。

また，茨城県教育委員会，つくば市教育委員会をはじめ，関係各機関及び関係各位から御指導，御協力をいただいたことに対し，衷心より感謝の意を表します。

平成12年3月

財団法人　茨城県教育財団
理事長　齋　藤　佳　郎

例　　言

1　本書は，茨城県の委託により，財団法人茨城県教育財団が平成９年４月から平成10年３月まで発掘調査を実施した，茨城県つくば市大字島名に所在する熊の山遺跡の一部の発掘調査報告書である。

2　当跡の発掘期間及び整理期間は以下のとおりである。

調査　平成９年４月１日～平成10年３月31日

整理　平成11年４月１日～平成12年３月31日

3　当遺跡の発掘調査は，調査第２課長和田雄次の指揮のもと，調査第２課第１班長鵜見貞雄，首席調査員吉沢義一，主任調査員川津法伸，吉原作平，原信田正夫，川上直登，平石尚和，川又清明，仙波亨，小林孝，川村満博，菱沼良幸，矢ノ倉正男が担当した。

4　当遺跡の整理及び本書の執筆・編集は，整理課長川井正一，首席調査員荻野谷悟の指揮のもと，首席調査員矢ノ倉正男，主任調査員小林孝，川上直登が担当した。執筆は，第１章，第２章，第３章第１節，第２節及び第３節６(1)竪穴住居跡のうち第733号竪穴住居跡から第844B号竪穴住居跡まで及び11区東部に分布するその他の遺構を矢ノ倉が，第３章第３節１～３を小林が，第３章第３節４，５及び６(1)竪穴住居跡のうち第845号竪穴住居跡から第906号竪穴住居跡まで及び11区の西部に分布するその他の遺構を川上がそれぞれ執筆した。

5　本書の作成にあたり，墨書・刻書の判読については国立歴史民俗博物館教授の平川南氏に御教示をいただいた。灰釉陶器については，文化庁文化財保護部美術工芸課文化財調査官の齋藤孝正氏に御教示をいただいた。鋳型については，東京国立博物館学芸部考古課原史室長の古谷毅氏・同考古課主任研究官の時枝務氏・同工芸課金工室長の原田一敏氏・同彫刻室長の岩佐光晴氏・同彫刻室員の浅見龍介氏に御教示をいただいた。

6　当遺跡から出土した鉄製品の金属学的保存処理については，財団法人岩手県文化振興事業団に委託した。

7　発掘調査及び整理に際し御指導・御協力を賜った関係各機関並びに関係各位に対し，深く感謝の意を表します。

凡　　例

1　当遺跡の地区設定は，日本平面直角座標第Ⅸ系座標に準拠し，X＝＋57,400m，Y＝＋54,000mの交点を基準点（A1a1）とした。

この基準点を基に遺跡範囲内を東西・南北各々40m四方の大調査区に分割し，さらに，この大調査区を東西・南北に各々10等分し，4m四方の小調査区を設定した。

大調査区の名称は，アルファベットと算用数字を用い，北から南へA，B，C……，西から東へ1，2，3……とし，「A1区」，「B2区」のように呼称した。大調査区内の小調査区は，北から南へa，b，c……j，西から東へ1，2，3……0とし，名称は，大調査区の名称を冠して「A1a1区」，「B2b2区」のように称した。

その他，調査年次等による調査区の名称は第3図に示した。

2　実測図・一覧表・遺物観察表等で使用した記号は次のとおりである。

遺構　住居跡－SI　掘立柱建物跡－SB　土坑－SK　井戸跡－SE　溝－SD　道路状遺構－SF
不明遺構－SX　ピット－P

遺物　土器・陶器－P　土製品－DP　石器・石製品－Q　金属製品・古銭－M　拓本記録土器－TP
土層　撹乱－K

計測値　現存値－（　）　推定値－［　］

3　遺構番号は平成7年度調査からの継続である。

4　土層観察と遺物における色調の判定には，『新版標準土色帖』（小山正忠・竹原秀雄編著　日本色研事業株式会社）を使用した。

5　遺構・遺物実測図の作成方法については，次のとおりである。

（1）　遺構全体図は200分の1，遺構は60分の1，または80分の1に縮尺して掲載した。

（2）　遺物は原則として3分の1の縮尺にした。種類や大きさにより異なる場合もある。

（3）　遺構・遺物実測図中の表示は，次のとおりである。

● 土器　○ 土製品　□ 石器・石製品　△ 金属製品　▲ 拓本土器

粘土・黒色処理　焼土・炉・釉　炭化物　赤彩　竈

6　遺物観察表の作成方法については，次のとおりである。

（1）　土器の計測値の表示は，A－口径　B－器高　C－底径　D－高台径　E－高台高　F－つまみ径　G－つまみ高とし，単位はcmである。

（2）　備考の欄は，残存率，実測番号（Pなど），出土位置及びその他必要と思われる事項を記した。

7　「主軸」は，竈を持つ竪穴住居跡については竈を通る軸線とし，他の遺構については長軸（径）を主軸とみなした。「主軸・長軸方向」は主軸が座標北からみて，どの方向にどれだけ振れているかを角度で表示した（例　N－10°－E，N－10°－W）。

ふ り が な	しまな・ふくだつぼいったいがたとくていとちくかくせいりじぎょうちないまいぞうぶんかざいちょうさほうこくしょ
書　　名	島名・福田坪一体型特定土地区画整理事業地内埋蔵文化財調査報告書
副 書 名	熊の山遺跡
巻　　次	Ⅳ
シリーズ名	茨城県教育財団文化財調査報告
シリーズ番号	第166集
著 者 名	矢ノ倉正男，小林　孝，川上　直登
編 集 機 関	財団法人　茨城県教育財団
所　在　地	〒310－0911　茨城県水戸市見和1丁目356番地の2　　TEL 029－225－6587
発 行 機 関	財団法人　茨城県教育財団
所　在　地	〒310－0911　茨城県水戸市見和1丁目356番地の2　　TEL 029－225－6587
発　行　日	2000（平成12）年3月21日

ふりがな 所収遺跡	ふりがな 所在地	コード	北緯	東経	標高	調査期間	調査面積	調査原因
熊の山遺跡	茨城県つくば市 大字島名字番取 1964番地ほか	08220－214	36度 3分 41秒	140度 3分 46秒	19 ～ 22m	19970401 ～ 19980331	33,421㎡	島名・福田坪一体型特定土地区画整理事業に伴う事前調査

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
熊の山遺跡	集落跡	古　　墳	竪穴住居跡　115軒	土師器　須恵器 土製品（土錘・支脚） 石器・石製品（勾玉・紡錘車・砥石・石製模造品）　鉄器・鉄製品（鉄鏃・鎌）	熊の山遺跡では，平成10年度整理分を含めて過去4か年間で，古墳時代から平安時代に位置づけられる892軒以上の住居跡が調査されている。県内でも最大規模の集落跡といえる。この地域は，古代の行政組織で常陸国河内郡島名郷に属しており，熊の山遺跡はその中心集落跡と考えられる。
		奈良・平安	竪穴住居跡　124軒 掘立柱建物跡　12棟 溝　2条 道路状遺構　1条 土坑　2基	土師器　須恵器 土製品（土錘・支脚） 石器・石製品（砥石・腰帯具）　鉄器・鉄製品（刀子・鎌・紡錘車）　灰釉陶器	
		中　　世	地下式壙　7基 道路状遺構　1条	陶磁器　土師質土器 古銭	
		時期不明	竪穴住居跡　3軒 掘立柱建物跡　7棟 土坑　91基 溝　12条 井戸跡　3基 道路状遺構　3条 不明遺構　3基		
		縄　　文		縄文土器片 石鏃	

目　　次

－上　巻－

序
例　言
凡　例
抄　録
目　次
第1章　調査経緯 …… 1
　第1節　調査に至る経緯 …… 1
　第2節　調査経過 …… 1
第2章　位置と環境 …… 3
　第1節　地理的環境 …… 3
　第2節　歴史的環境 …… 3
第3章　調査の成果 …… 7
　第1節　遺跡の概要 …… 7
　第2節　基本層序の検討 …… 7
　第3節　遺構と遺物 …… 9
　　1　4区の遺構と遺物 …… 9
　　(1)　竪穴住居跡 …… 9
　　①　古墳時代 …… 9
　　②　奈良・平安時代 …… 32
　　(2)　掘立柱建物跡 …… 51
　　(3)　溝 …… 54
　　(4)　地下式壙 …… 56
　　(5)　道路状遺構 …… 58
　　(6)　土坑 …… 59
　　(7)　不明遺構 …… 62
　　2　5区の遺構と遺物 …… 66
　　(1)　竪穴住居跡 …… 66
　　①　古墳時代 …… 66
　　②　奈良・平安時代 …… 98
　　③　時期不明 …… 109
　　(2)　土坑 …… 110
　　(3)　遺構外出土遺物 …… 111
　　3　6区の遺構と遺物 …… 113
　　(1)　竪穴住居跡 …… 113

① 奈良・平安時代 …… 113
② 時期不明 …… 130
(2) 溝 …… 131
(3) 不明遺構 …… 132
4 8区の遺構と遺物 …… 134
(1) 竪穴住居跡 …… 134
① 古墳時代 …… 134
② 奈良・平安時代 …… 161
(2) 掘立柱建物跡 …… 191
(3) 溝 …… 203
(4) 道路状遺構 …… 206
(5) 土坑 …… 207
(6) 遺構外出土遺物 …… 207
5 9区の遺構と遺物 …… 209
(1) 竪穴住居跡 …… 209
① 奈良・平安時代 …… 209
② 時期不明 …… 216
(2) 溝 …… 217
(3) 道路状遺構 …… 217
(4) 井戸跡 …… 218
(5) 地下式壙 …… 221
(6) 土坑 …… 223
(7) 遺構外出土遺物 …… 226
6 11区の遺構と遺物 …… 227
(1) 竪穴住居跡 …… 227
① 古墳時代 …… 227

－下 巻－

② 奈良・平安時代 …… 443
(2) 掘立柱建物跡 …… 609
(3) 溝 …… 620
(4) 道路状遺構 …… 626
(5) 地下式壙 …… 627
(6) 土坑 …… 631
(7) 遺構外出土遺物 …… 638
第4節 まとめ …… 640
写真図版

挿 図 目 次

－上 巻－

第 1 図　周辺遺跡位置図 …… 4
第 2 図　基本土層図 …… 7
第 3 図　熊の山遺跡調査区設定図 …… 8
第 4 図　第401号住居跡実測図 …… 9
第 5 図　第401号住居跡出土遺物実測図 …… 10
第 6 図　第407号住居跡実測図(1) …… 11
第 7 図　第407号住居跡実測図(2) …… 12
第 8 図　第407号住居跡出土遺物実測図 …… 13
第 9 図　第416号住居跡実測図 …… 14
第10図　第417号住居跡実測図 …… 15
第11図　第418号住居跡実測図 …… 16
第12図　第418号住居跡出土遺物実測図 …… 17
第13図　第911号住居跡実測図 …… 19
第14図　第911号住居跡出土遺物実測図 …… 20
第15図　第913・914・915号住居跡実測図(1) …… 22
第16図　第913・914・915号住居跡実測図(2) …… 23
第17図　第913号住居跡出土遺物実測図 …… 23
第18図　第914号住居跡出土遺物実測図 …… 25
第19図　第915号住居跡出土遺物実測図 …… 26
第20図　第916号住居跡実測図 …… 28
第21図　第916号住居跡出土遺物実測図(1) …… 29
第22図　第916号住居跡出土遺物実測図(2) …… 30
第23図　第916号住居跡出土遺物実測図(3) …… 31
第24図　第405号住居跡実測図 …… 33
第25図　第405号住居跡出土遺物実測図 …… 34
第26図　第406号住居跡実測図 …… 36
第27図　第406号住居跡出土遺物実測図 …… 36
第28図　第408号住居跡実測図 …… 38
第29図　第408号住居跡出土遺物実測図 …… 38
第30図　第409号住居跡実測図 …… 40
第31図　第409号住居跡出土遺物実測図 …… 40
第32図　第410号住居跡実測図 …… 41
第33図　第411号住居跡実測図 …… 42
第34図　第411号住居跡出土遺物実測図 …… 43
第35図　第412号住居跡実測図 …… 45
第36図　第412号住居跡出土遺物実測図 …… 46
第37図　第415号住居跡実測図 …… 47
第38図　第415号住居跡出土遺物実測図 …… 47
第39図　第912号住居跡実測図 …… 49
第40図　第912号住居跡出土遺物実測図 …… 50
第41図　第10号掘立柱建物跡実測図 …… 51
第42図　第11号掘立柱建物跡実測図 …… 52
第43図　第16号掘立柱建物跡実測図 …… 54
第44図　第21号溝土層実測図 …… 54
第45図　第22号溝土層実測図 …… 55
第46図　第23号溝土層実測図 …… 55
第47図　第43号溝土層実測図 …… 56
第48図　第44号溝土層実測図 …… 56
第49図　第14号地下式壙実測図 …… 57
第50図　第15号地下式壙実測図 …… 58
第51図　第1号道路状遺構土層実測図 …… 58
第52図　第264号土坑実測図 …… 59
第53図　第266号土坑実測図 …… 60
第54図　第269号土坑実測図 …… 60
第55図　第287号土坑実測図 …… 61
第56図　第5号不明遺構 …… 62
第57図　第6号不明遺構 …… 63
第58図　熊の山遺跡4区遺構全体図(1) …… 64
第59図　熊の山遺跡4区遺構全体図(2) …… 65
第60図　第726・728・729号住居跡実測図(1) …… 67
第61図　第726・728・729号住居跡実測図(2) …… 68
第62図　第726号住居跡出土遺物実測図 …… 68
第63図　第728号住居跡出土遺物実測図 …… 69
第64図　第729号住居跡出土遺物実測図(1) …… 71
第65図　第729号住居跡出土遺物実測図(2) …… 72
第66図　第730・731号住居跡実測図 …… 74
第67図　第730号住居跡出土遺物実測図 …… 75
第68図　第731号住居跡出土遺物実測図 …… 76
第69図　第732号住居跡出土遺物実測図 …… 76
第70図　第732・738号住居跡実測図(1) …… 77

第 71 図　第732・738号住居跡実測図(2) …… 78
第 72 図　第739号住居跡実測図 …… 80
第 73 図　第739号住居跡出土遺物実測図 …… 81
第 74 図　第741B号住居跡実測図 …… 82
第 75 図　第741B号住居跡出土遺物実測図 … 83
第 76 図　第742号住居跡出土遺物実測図 …… 83
第 77 図　第742・750号住居跡実測図 …… 84
第 78 図　第744号住居跡実測図(1) …… 86
第 79 図　第744号住居跡実測図(2) …… 87
第 80 図　第744号住居跡出土遺物実測図(1) … 88
第 81 図　第744号住居跡出土遺物実測図(2) … 89
第 82 図　第746号住居跡実測図 …… 91
第 83 図　第746号住居跡出土遺物実測図 …… 92
第 84 図　第748号住居跡実測図 …… 95
第 85 図　第748号住居跡出土遺物実測図 …… 96
第 86 図　第736号住居跡出土遺物実測図 …… 98
第 87 図　第736・737号住居跡実測図 …… 99
第 88 図　第737号住居跡出土遺物実測図 …… 100
第 89 図　第740号住居跡実測図 …… 102
第 90 図　第740号住居跡出土遺物実測図 …… 102
第 91 図　第741A号住居跡実測図 …… 103
第 92 図　第741A号住居跡出土遺物実測図 … 104
第 93 図　第743号住居跡実測図 …… 105
第 94 図　第743号住居跡出土遺物実測図 …… 106
第 95 図　第745号住居跡実測図 …… 107
第 96 図　第745号住居跡出土遺物実測図 …… 107
第 97 図　第747号住居跡実測図 …… 108
第 98 図　第747号住居跡出土遺物実測図 …… 108
第 99 図　第749号住居跡実測図 …… 109
第100図　第749号住居跡出土遺物実測図 …… 109
第101図　遺構外出土遺物実測図 …… 111
第102図　熊の山遺跡 5 区遺構全体図 …… 112
第103図　第662・663号住居跡実測図 …… 114
第104図　第662号住居跡出土遺物実測図 …… 115
第105図　第663号住居跡出土遺物実測図 …… 117
第106図　第665号住居跡実測図 …… 118
第107図　第665号住居跡出土遺物実測図 …… 119
第108図　第666号住居跡実測図 …… 121
第109図　第666号住居跡出土遺物実測図 …… 121
第110図　第667号住居跡実測図 …… 123
第111図　第667号住居跡出土遺物実測図 …… 123
第112図　第669号住居跡出土遺物実測図 …… 124
第113図　第669・670号住居跡実測図 …… 125
第114図　第671号住居跡実測図 …… 126
第115図　第671号住居跡出土遺物実測図 …… 127
第116図　第672号住居跡実測図 …… 128
第117図　第672号住居跡出土遺物実測図 …… 128
第118図　第686号住居跡実測図 …… 129
第119図　第686号住居跡出土遺物実測図 …… 130
第120図　第13号溝土層実測図 …… 131
第121図　第13号溝出土遺物実測図 …… 131
第122図　第 8 号不明遺構出土遺物実測図 …… 132
第123図　第 8 号不明遺構実測図 …… 132
第124図　熊の山遺跡 6 区遺構全体図 …… 133
第125図　第919号住居跡・出土遺物実測図 … 134
第126図　第921号住居跡・出土遺物実測図 … 136
第127図　第926号住居跡実測図 …… 138
第128図　第926号住居跡出土遺物実測図 …… 139
第129図　第927号住居跡・出土遺物実測図 … 140
第130図　第932号住居跡実測図 …… 143
第131図　第932号住居跡出土遺物実測図 …… 144
第132図　第933号住居跡実測図 …… 147
第133図　第933号住居跡出土遺物実測図 …… 148
第134図　第934号住居跡実測図 …… 151
第135図　第934号住居跡出土遺物実測図 …… 152
第136図　第935号住居跡実測図 …… 154
第137図　第935号住居跡出土遺物実測図 …… 155
第138図　第942号住居跡実測図 …… 157
第139図　第942号住居跡出土遺物実測図 …… 158
第140図　第943・944号住居跡実測図 …… 159
第141図　第944号住居跡出土遺物実測図 …… 159
第142図　第945号住居跡実測図 …… 160
第143図　第945号住居跡出土遺物実測図 …… 160
第144図　第917号住居跡・出土遺物実測図 … 162
第145図　第918号住居跡実測図 …… 165
第146図　第918号住居跡出土遺物実測図 …… 166
第147図　第922・923号住居跡実測図 …… 167
第148図　第924号住居跡実測図 …… 169
第149図　第924号住居跡出土遺物実測図 …… 170
第150図　第925号住居跡実測図 …… 172
第151図　第925号住居跡出土遺物実測図 …… 173
第152図　第928号住居跡実測図 …… 175

第153図　第928号住居跡出土遺物実測図 …… 176
第154図　第929号住居跡実測図 …… 177
第155図　第929号住居跡出土遺物実測図 …… 178
第156図　第930号住居跡実測図 …… 179
第157図　第930号住居跡出土遺物実測図 …… 181
第158図　第931号住居跡・出土遺物実測図 … 182
第159図　第936号住居跡実測図 …… 184
第160図　第936号住居跡出土遺物実測図 …… 185
第161図　第937号住居跡実測図 …… 187
第162図　第938号住居跡実測図 …… 188
第163図　第939号住居跡実測図 …… 189
第164図　第941号住居跡・出土遺物実測図 … 190
第165図　第35号掘立柱建物跡出土遺物実測図 …… 191
第166図　第35号掘立柱建物跡実測図 …… 192
第167図　第37号掘立柱建物跡実測図 …… 193
第168図　第37号掘立柱建物跡出土遺物実測図 …… 194
第169図　第38号掘立柱建物跡実測図 …… 195
第170図　第38号掘立柱建物跡出土遺物実測図 …… 195
第171図　第40号掘立柱建物跡実測図 …… 196
第172図　第41号掘立柱建物跡出土遺物実測図 …… 197
第173図　第41号掘立柱建物跡実測図 …… 197
第174図　第42号掘立柱建物跡実測図 …… 198
第175図　第43・45号掘立柱建物跡・出土遺物実測図 …… 199
第176図　第44号掘立柱建物跡・出土遺物実測図 …… 200
第177図　第46・47号掘立柱建物跡実測図 …… 202
第178図　第47号掘立柱建物跡出土遺物実測図 …… 203
第179図　第35号溝土層実測図 …… 203
第180図　第35号溝出土遺物実測図(1) …… 204
第181図　第35号溝出土遺物実測図(2) …… 205
第182図　第５号道路状遺構断面・土層実測図 …… 206
第183図　遺構外出土遺物実測図 …… 207
第184図　第950号住居跡実測図 …… 209
第185図　第950号住居跡出土遺物実測図 …… 211
第186図　第951号住居跡・出土遺物実測図 … 213
第187図　第953号住居跡・出土遺物実測図 … 215
第188図　第952号住居跡実測図 …… 216
第189図　第34号溝土層実測図 …… 217
第190図　第７号道路状遺構土層・出土遺物実測図 …… 218
第191図　第25号井戸跡出土遺物実測図 …… 218
第192図　第25・26号井戸跡実測図 …… 219
第193図　第27号井戸跡実測図 …… 220
第194図　第16号地下式壙実測図 …… 221
第195図　第16号地下式壙出土遺物実測図 …… 222
第196図　第681号土坑実測図 …… 223
第197図　第681号土坑出土遺物実測図(1) …… 224
第198図　第681号土坑出土遺物実測図(2) …… 225
第199図　遺構外出土遺物実測図 …… 226
第200図　第734号住居跡実測図 …… 228
第201図　第734号住居跡出土遺物実測図 …… 229
第202図　第735号住居跡実測図 …… 231
第203図　第735号住居跡出土遺物実測図 …… 232
第204図　第751号住居跡・出土遺物実測図 … 233
第205図　第752号住居跡実測図 …… 237
第206図　第752号住居跡出土遺物実測図(1) … 238
第207図　第752号住居跡出土遺物実測図(2) … 239
第208図　第758号住居跡実測図 …… 241
第209図　第758号住居跡出土遺物実測図 …… 242
第210図　第761号住居跡実測図 …… 244
第211図　第761号住居跡出土遺物実測図(1) … 246
第212図　第761号住居跡出土遺物実測図(2) … 247
第213図　第764号住居跡実測図 …… 249
第214図　第764号住居跡出土遺物実測図 …… 250
第215図　第766号住居跡実測図 …… 252
第216図　第766号住居跡出土遺物実測図(1) … 253
第217図　第766号住居跡出土遺物実測図(2) … 254
第218図　第767号住居跡実測図 …… 256
第219図　第767号住居跡出土遺物実測図 …… 257
第220図　第768号住居跡実測図 …… 258
第221図　第768号住居跡出土遺物実測図 …… 259
第222図　第771号住居跡実測図 …… 261
第223図　第771号住居跡出土遺物実測図 …… 262
第224図　第772・773号住居跡実測図(1) …… 264
第225図　第772・773号住居跡実測図(2) …… 265

第226図　第772号住居跡出土遺物実測図 …… 265
第227図　第773号住居跡出土遺物実測図 …… 267
第228図　第776号住居跡実測図 …… 268
第229図　第776号住居跡出土遺物実測図 …… 269
第230図　第777号住居跡実測図 …… 270
第231図　第777号住居跡出土遺物実測図 …… 271
第232図　第778号住居跡実測図 …… 272
第233図　第779・781・783・786号住居跡実測図(1) …… 274
第234図　第779・781・783・786号住居跡実測図(2) …… 275
第235図　第779号住居跡出土遺物実測図(1) … 276
第236図　第779号住居跡出土遺物実測図(2) … 277
第237図　第780号住居跡実測図 …… 279
第238図　第780号住居跡出土遺物実測図(1) … 280
第239図　第780号住居跡出土遺物実測図(2) … 281
第240図　第781号住居跡出土遺物実測図 …… 283
第241図　第783号住居跡出土遺物実測図 …… 284
第242図　第786号住居跡出土遺物実測図 …… 286
第243図　第787号住居跡実測図 …… 288
第244図　第787号住居跡出土遺物実測図(1) … 289
第245図　第787号住居跡出土遺物実測図(2) … 290
第246図　第788号住居跡実測図 …… 293
第247図　第788号住居跡出土遺物実測図 …… 294
第248図　第790号住居跡出土遺物実測図 …… 295
第249図　第790号住居跡実測図 …… 296
第250図　第792号住居跡実測図 …… 299
第251図　第792号住居跡出土遺物実測図 …… 300
第252図　第794号住居跡実測図 …… 302
第253図　第794号住居跡出土遺物実測図 …… 303
第254図　第796号住居跡実測図(1) …… 306
第255図　第796号住居跡実測図(2) …… 307
第256図　第796号住居跡出土遺物実測図 …… 307
第257図　第797号住居跡・出土遺物実測図 … 309
第258図　第800号住居跡実測図 …… 310
第259図　第800号住居跡出土遺物実測図(1) … 312
第260図　第800号住居跡出土遺物実測図(2) … 313
第261図　第801号住居跡実測図 …… 314
第262図　第801号住居跡出土遺物実測図 …… 316
第263図　第804・812号住居跡実測図(1) …… 319
第264図　第804・812号住居跡実測図(2) …… 320
第265図　第804号住居跡出土遺物実測図 …… 320
第266図　第805号住居跡出土遺物実測図 …… 321
第267図　第805・807号住居跡実測図(1) …… 322
第268図　第805・807号住居跡実測図(2) …… 323
第269図　第806号住居跡実測図 …… 324
第270図　第806号住居跡出土遺物実測図 …… 326
第271図　第807号住居跡出土遺物実測図 …… 328
第272図　第808号住居跡実測図 …… 329
第273図　第808号住居跡出土遺物実測図 …… 329
第274図　第810号住居跡実測図 …… 330
第275図　第811号住居跡実測図 …… 332
第276図　第811号住居跡出土遺物実測図 …… 333
第277図　第812号住居跡出土遺物実測図 …… 334
第278図　第816号住居跡実測図 …… 335
第279図　第819・822号住居跡・出土遺物実測図 …… 337
第280図　第822号住居跡出土遺物実測図 …… 338
第281図　第826号住居跡実測図 …… 339
第282図　第826号住居跡出土遺物実測図 …… 340
第283図　第827・832号住居跡実測図 …… 341
第284図　第827号住居跡出土遺物実測図 …… 341
第285図　第829号住居跡実測図 …… 343
第286図　第829号住居跡出土遺物実測図 …… 344
第287図　第831号住居跡実測図 …… 345
第288図　第831号住居跡出土遺物実測図 …… 347
第289図　第832号住居跡出土遺物実測図 …… 348
第290図　第834B・835A・835B・837A・837B号住居跡実測図(1) …… 350
第291図　第834B・835A・835B・837A・837B号住居跡実測図(2) …… 351
第292図　第834B号住居跡出土遺物実測図 … 352
第293図　第835B号住居跡出土遺物実測図 … 354
第294図　第836号住居跡実測図 …… 356
第295図　第836号住居跡出土遺物実測図 …… 358
第296図　第837A号住居跡出土遺物実測図 … 359
第297図　第837B号住居跡出土遺物実測図 … 360
第298図　第842号住居跡出土遺物実測図 …… 361
第299図　第842・843号住居跡実測図(1) …… 362
第300図　第842・843号住居跡実測図(2) …… 363
第301図　第843号住居跡出土遺物実測図 …… 364
第302図　第845号住居跡出土遺物実測図 …… 366

第303図　第845・847号住居跡実測図 …… 367
第304図　第846号住居跡実測図 …… 370
第305図　第846号住居跡遺物出土状況図 …… 371
第306図　第846号住居跡出土遺物実測図(1) … 372
第307図　第846号住居跡出土遺物実測図(2) … 373
第308図　第846号住居跡出土遺物実測図(3) … 374
第309図　第847号住居跡出土遺物実測図 …… 377
第310図　第848号住居跡実測図 …… 377
第311図　第848号住居跡出土遺物実測図 …… 378
第312図　第849号住居跡・出土遺物実測図 … 381
第313図　第853号住居跡出土遺物実測図 …… 382
第314図　第853号住居跡実測図 …… 382
第315図　第854号住居跡実測図 …… 383
第316図　第858号住居跡・出土遺物実測図 … 385
第317図　第859号住居跡実測図 …… 387
第318図　第859号住居跡出土遺物実測図 …… 387
第319図　第862A・862B号住居跡実測図 …… 388
第320図　第865号住居跡実測図 …… 390
第321図　第865号住居跡出土遺物実測図(1) … 391
第322図　第865号住居跡出土遺物実測図(2) … 392
第323図　第876号住居跡実測図 …… 394
第324図　第876号住居跡出土遺物実測図 …… 395
第325図　第877号住居跡出土遺物実測図 …… 396
第326図　第877号住居跡実測図 …… 397
第327図　第880号住居跡実測図 …… 399
第328図　第880号住居跡出土遺物実測図 …… 400
第329図　第888号住居跡実測図 …… 403
第330図　第888号住居跡遺物出土状況図 …… 404
第331図　第888号住居跡出土遺物実測図(1) … 405
第332図　第888号住居跡出土遺物実測図(2) … 406
第333図　第888号住居跡出土遺物実測図(3) … 407
第334図　第888号住居跡出土遺物実測図(4) … 408
第335図　第888号住居跡出土遺物実測図(5) … 409
第336図　第888号住居跡出土遺物実測図(6) … 410
第337図　第889号住居跡実測図 …… 414
第338図　第889号住居跡出土遺物実測図 …… 415
第339図　第890号住居跡出土遺物実測図 …… 416
第340図　第890号住居跡実測図 …… 417
第341図　第891号住居跡実測図 …… 419
第342図　第891号住居跡出土遺物実測図 …… 420
第343図　第892号住居跡実測図 …… 423
第344図　第892号住居跡遺物出土状況図 …… 424
第345図　第892号住居跡出土遺物実測図(1) … 425
第346図　第892号住居跡出土遺物実測図(2) … 426
第347図　第897A号住居跡実測図 …… 427
第348図　第897A号住居跡出土遺物実測図(1) …… 428
第349図　第897A号住居跡出土遺物実測図(2) …… 429
第350図　第897A号住居跡出土遺物実測図(3) …… 430
第351図　第900号住居跡実測図 …… 432
第352図　第900号住居跡出土遺物実測図 …… 433
第353図　第903号住居跡実測図 …… 434
第354図　第903号住居跡出土遺物実測図 …… 436
第355図　第904号住居跡実測図 …… 437
第356図　第904号住居跡出土遺物実測図 …… 438
第357図　第905号住居跡実測図 …… 440
第358図　第905号住居跡出土遺物実測図 …… 440
第359図　第906号住居跡実測図 …… 442

表　目　次

－上　巻－

表1　熊の山遺跡周辺遺跡一覧表 …… 5
表2　熊の山遺跡4区住居跡一覧表 …… 50
表3　熊の山遺跡4区土坑一覧表 …… 61
表4　熊の山遺跡5区住居跡一覧表 …… 110
表5　熊の山遺跡5区土坑一覧表 …… 110
表6　熊の山遺跡6区住居跡一覧表 …… 131
表7　熊の山遺跡8区住居跡一覧表 …… 190
表8　熊の山遺跡8区土坑一覧表 …… 207
表9　熊の山遺跡9区住居跡一覧表 …… 217
表10　熊の山遺跡9区土坑一覧表 …… 226

挿 図 目 次

－下 巻－

第360図　第733号住居跡実測図 …… 444
第361図　第733号住居跡出土遺物実測図 …… 445
第362図　第753号住居跡実測図 …… 446
第363図　第753号住居跡出土遺物実測図 …… 447
第364図　第754号住居跡実測図 …… 448
第365図　第754号住居跡出土遺物実測図 …… 449
第366図　第755号住居跡・出土遺物実測図 … 451
第367図　第756・757号住居跡実測図 …… 453
第368図　第756号住居跡出土遺物実測図 …… 454
第369図　第757号住居跡出土遺物実測図 …… 456
第370図　第759号住居跡実測図 …… 458
第371図　第759号住居跡出土遺物実測図 …… 458
第372図　第760号住居跡実測図 …… 460
第373図　第760号住居跡出土遺物実測図 …… 461
第374図　第762号住居跡実測図 …… 462
第375図　第762号住居跡出土遺物実測図 …… 463
第376図　第763号住居跡実測図 …… 465
第377図　第763号住居跡出土遺物実測図 …… 465
第378図　第765号住居跡実測図 …… 466
第379図　第765号住居跡出土遺物実測図 …… 467
第380図　第769・770号住居跡実測図 …… 469
第381図　第769号住居跡出土遺物実測図 …… 470
第382図　第770号住居跡出土遺物実測図 …… 471
第383図　第774・775号住居跡実測図 …… 472
第384図　第774号住居跡出土遺物実測図 …… 473
第385図　第775号住居跡出土遺物実測図 …… 474
第386図　第782号住居跡実測図 …… 476
第387図　第782号住居跡出土遺物実測図 …… 477
第388図　第784号住居跡実測図 …… 479
第389図　第784号住居跡出土遺物実測図 …… 480
第390図　第785号住居跡実測図 …… 482
第391図　第785号住居跡出土遺物実測図 …… 483
第392図　第789号住居跡実測図 …… 485
第393図　第789号住居跡出土遺物実測図 …… 486
第394図　第791・793号住居跡実測図 …… 487
第395図　第791号住居跡出土遺物実測図 …… 487
第396図　第793号住居跡出土遺物実測図 …… 488
第397図　第795号住居跡実測図 …… 490
第398図　第795号住居跡出土遺物実測図 …… 491
第399図　第798・799号住居跡実測図 …… 492
第400図　第798号住居跡出土遺物実測図 …… 493
第401図　第799号住居跡出土遺物実測図 …… 493
第402図　第802号住居跡実測図 …… 494
第403図　第802号住居跡出土遺物実測図 …… 495
第404図　第803号住居跡実測図 …… 496
第405図　第803号住居跡出土遺物実測図 …… 497
第406図　第809号住居跡実測図 …… 499
第407図　第809号住居跡出土遺物実測図 …… 500
第408図　第813号住居跡実測図 …… 501
第409図　第813号住居跡出土遺物実測図 …… 501
第410図　第814号住居跡実測図 …… 503
第411図　第814号住居跡出土遺物実測図 …… 504
第412図　第815・817・818号住居跡実測図 … 505
第413図　第817号住居跡出土遺物実測図 …… 506
第414図　第818号住居跡出土遺物実測図 …… 508
第415図　第820号住居跡・出土遺物実測図 … 509
第416図　第821号住居跡実測図 …… 511
第417図　第821号住居跡出土遺物実測図 …… 511
第418図　第823号住居跡実測図 …… 513
第419図　第823号住居跡出土遺物実測図 …… 514
第420図　第824・825・828号住居跡実測図(1) …… 515
第421図　第824・825・828号住居跡実測図(2) …… 516
第422図　第824号住居跡出土遺物実測図 …… 517
第423図　第825号住居跡出土遺物実測図 …… 518
第424図　第828号住居跡出土遺物実測図 …… 520
第425図　第830号住居跡実測図 …… 521

第426図　第830号住居跡出土遺物実測図 …… 521
第427図　第833号住居跡実測図 …… 523
第428図　第833号住居跡出土遺物実測図 …… 524
第429図　第834A号住居跡・出土遺物実測図 …… 526
第430図　第838号住居跡実測図 …… 527
第431図　第838号住居跡出土遺物実測図 …… 528
第432図　第839号住居跡実測図 …… 530
第433図　第839号住居跡出土遺物実測図 …… 531
第434図　第840号住居跡実測図 …… 533
第435図　第840号住居跡出土遺物実測図 …… 534
第436図　第841・844A・844B号住居跡実測図 …… 536
第437図　第841号住居跡出土遺物実測図 …… 537
第438図　第844A号住居跡出土遺物実測図 …… 538
第439図　第844B号住居跡出土遺物実測図 …… 539
第440図　第850号住居跡実測図 …… 541
第441図　第850号住居跡出土遺物実測図 …… 541
第442図　第851・852号住居跡実測図 …… 542
第443図　第855号住居跡実測図 …… 544
第444図　第855号住居跡出土遺物実測図 …… 544
第445図　第856・857号住居跡実測図 …… 546
第446図　第856号住居跡出土遺物実測図 …… 546
第447図　第857号住居跡出土遺物実測図 …… 547
第448図　第860号住居跡実測図 …… 549
第449図　第860号住居跡出土遺物実測図 …… 549
第450図　第861号住居跡実測図 …… 551
第451図　第861号住居跡出土遺物実測図 …… 551
第452図　第863号住居跡・出土遺物実測図 …… 553
第453図　第864号住居跡実測図 …… 555
第454図　第864号住居跡出土遺物実測図 …… 557
第455図　第866号住居跡・出土遺物実測図 …… 558
第456図　第867号住居跡実測図 …… 560
第457図　第868A・868B号住居跡実測図 …… 561
第458図　第868A号住居跡出土遺物実測図 …… 561
第459図　第868B号住居跡出土遺物実測図 …… 562
第460図　第869号住居跡・出土遺物実測図 …… 563
第461図　第871号住居跡・出土遺物実測図 …… 565
第462図　第872号住居跡・出土遺物実測図 …… 567
第463図　第873号住居跡・出土遺物実測図 …… 569
第464図　第874号住居跡実測図 …… 571
第465図　第874号住居跡出土遺物実測図 …… 572
第466図　第875号住居跡実測図 …… 573
第467図　第875号住居跡出土遺物実測図 …… 574
第468図　第878号住居跡・出土遺物実測図 …… 576
第469図　第879号住居跡実測図 …… 578
第470図　第879号住居跡出土遺物実測図 …… 579
第471図　第881号住居跡・出土遺物実測図 …… 582
第472図　第881号住居跡出土遺物実測図 …… 583
第473図　第882号住居跡実測図 …… 585
第474図　第882号住居跡出土遺物実測図 …… 586
第475図　第883号住居跡実測図 …… 587
第476図　第883号住居跡出土遺物実測図 …… 587
第477図　第884号住居跡実測図 …… 588
第478図　第884号住居跡出土遺物実測図 …… 589
第479図　第885号住居跡実測図 …… 590
第480図　第885号住居跡出土遺物実測図 …… 590
第481図　第886号住居跡実測図 …… 592
第482図　第886号住居跡出土遺物実測図 …… 593
第483図　第896号住居跡出土遺物実測図 …… 595
第484図　第896号住居跡実測図 …… 595
第485図　第897B号住居跡実測図 …… 596
第486図　第897B号住居跡出土遺物実測図 …… 597
第487図　第898号住居跡実測図 …… 598
第488図　第898号住居跡出土遺物実測図 …… 599
第489図　第902A・902B号住居跡実測図 …… 600
第490図　第902A号住居跡出土遺物実測図 …… 601
第491図　第902B号住居跡出土遺物実測図 …… 603
第492図　第28号掘立柱建物跡実測図 …… 609
第493図　第29号掘立柱建物跡実測図 …… 611
第494図　第30号掘立柱建物跡実測図 …… 612
第495図　第30号掘立柱建物跡出土遺物実測図 …… 613
第496図　第31号掘立柱建物跡実測図 …… 614
第497図　第31号掘立柱建物跡出土遺物実測図 …… 614

第498図　第32号掘立柱建物跡実測図 …… 615
第499図　第32号掘立柱建物跡出土遺物実測図 …… 616
第500図　第33号掘立柱建物跡実測図 …… 617
第501図　第34号掘立柱建物跡実測図 …… 618
第502図　第36号掘立柱建物跡実測図 …… 619
第503図　第32号溝土層実測図 …… 620
第504図　第35号溝土層実測図 …… 621
第505図　第35号溝出土遺物実測図 …… 622
第506図　第36号溝土層実測図 …… 623
第507図　第37号溝土層実測図 …… 623
第508図　第38号溝土層実測図 …… 624
第509図　第39号溝土層実測図 …… 624
第510図　第39号溝出土遺物実測図 …… 624
第511図　第40号溝土層実測図 …… 625
第512図　第41号溝土層実測図 …… 625
第513図　第42号溝土層実測図 …… 626
第514図　第45号溝土層実測図 …… 626
第515図　第4号道路状遺構土層実測図 …… 626
第516図　第17号地下式壙実測図 …… 627
第517図　第18号地下式壙実測図 …… 628
第518図　第19号地下式壙実測図 …… 629
第519図　第20号地下式壙実測図 …… 630
第520図　第606号土坑実測図 …… 631
第521図　第606号土坑出土遺物実測図 …… 632
第522図　第607号土坑実測図 …… 633
第523図　第607号土坑出土遺物実測図 …… 634
第524図　第659号土坑実測図 …… 635
第525図　第707号土坑実測図 …… 636
第526図　第707号土坑出土遺物実測図 …… 636
第527図　遺構外出土遺物実測図 …… 639

表　目　次

－下　巻－

表11　熊の山遺跡11区住居跡一覧表 …… 604
表12　熊の山遺跡11区土坑一覧表 …… 637

写真図版目次

－下　巻－

4区
PL 1　第401・407・416・417・911号住居跡完掘状況，第407号住居跡遺物出土状況，第911号住居跡貯蔵穴遺物出土状況
PL 2　第405・406・913・916号住居跡完掘状況，第405号住居跡竈遺物出土状況，第406号住居跡貯蔵穴遺物出土状況，第913・915・916号住居跡遺物出土状況
PL 3　第409・411・412・415号住居跡完掘状況，第408・912号住居跡遺物出土状況，第287号土坑遺物出土状況，第11号掘立柱建物跡完掘状況
5区
PL 4　第726・729～731号住居跡完掘状況，第728～731号住居跡遺物出土状況
PL 5　第738・739・741B・744・746・750号住居跡完掘状況，第739号住居跡遺物出土状況，第744号住居跡貯蔵穴遺物出土状況
PL 6　第737・740・741A・743・745号住居跡完掘状況，第740号住居跡遺物出土状況，第745号住居跡竈完掘状況，5区完掘全景

6区

PL 7　第662・663・665・669・670号住居跡完掘状況，第662・663・665・671・686号住居跡遺物出土状況，6区完掘全景

8・9区

PL 8　第917～919・922・923・925・926号住居跡完掘状況，第924号住居跡・竈遺物出土状況

PL 9　第927～929・931・932号住居跡完掘状況，第926・929・930号住居跡遺物出土状況

PL 10　第933～938号住居跡完掘状況，第935号住居跡遺物出土状況，第932号竈遺物出土状況

PL 11　第942号住居跡完掘状況，第38・41・42・44～47号掘立柱建物跡完掘状況，第35号溝遺物出土状況

PL 12　第950～952号住居跡完掘状況，第950号住居跡竈遺物出土状況，第35号溝完掘状況，第7号道路状遺構完掘状況

PL 13　第953号住居跡遺物出土状況，第25・26号井戸跡完掘状況，第27号井戸跡土層断面，第16号地下式壙完掘状況，第681号土坑完掘・遺物出土状況

11区

PL 14　11区完掘全景，第733～736号住居跡完掘状況第733・734号住居跡遺物出土状況

PL 15　第752～754号住居跡完掘状況，第751～754号住居跡遺物出土状況，第751号住居跡炉完掘状況

PL 16　第756～760号住居跡完掘状況，第756・757・759・760号住居跡遺物出土状況，第758号住居跡竈遺物出土状況

PL 17　第761～764・766・767号住居跡完掘状況，第766号住居跡遺物出土状況

PL 18　第768～771号住居跡完掘状況，第767～773号住居跡遺物出土状況

PL 19　第772・774～776・778号住居跡完掘状況，第772・776・777号住居跡遺物出土状況

PL 20　第780・782・784号住居跡完掘状況，第779～781・783号住居跡遺物出土状況，第784号住居跡竈遺物出土状況

PL 21　第787～789号住居跡完掘状況，第785号住居跡竈完掘状況，第785～788号住居跡遺物出土状況

PL 22　第792・794・795号住居跡完掘状況，第789号住居跡竈完掘状況，第791・792・795号住居跡遺物出土状況，第792号住居跡貯蔵穴遺物出土状況

PL 23　第796・798～801号住居跡完掘状況，第797・800号住居跡遺物出土状況

PL 24　第802・806・808・809・836・842号住居跡完掘状況，第803・804・807号住居跡遺物出土状況

PL 25　第810～818号住居跡完掘状況，第809号住居跡竈完掘状況，第809・839・842号住居跡遺物出土状況

PL 26　第818・820・821・823～825・828号住居跡完掘状況，第823号住居跡竈完掘状況，第823～825・828号住居跡遺物出土状況

PL 27　第827～829・831～833号住居跡完掘状況，第832号住居跡炉完掘状況，第833号住居跡遺物出土状況

PL 28　第834・835B・836号住居跡完掘状況，第834・835A・835B・836・837A・837B号住居跡遺物出土状況

PL 29　第837A・838～841号住居跡完掘状況，第836号住居跡竈遺物出土状況，第839・840号住居跡遺物出土状況

PL 30　第842・843・844A・844B・846号住居跡完掘状況，第843・845～847号住居跡遺物出土状況，第846号住居跡貯蔵穴遺物出土状況

PL 31　第849・852～854・855A・855B・856・857・859～861・889・890号住居跡完掘状況

PL 32　第866・867・868A・868B・871・873～875号住居跡完掘状況，第863～865号住居跡遺物出土状況
PL 33　第876～878・881号住居跡完掘状況，第877・879～881号住居跡遺物出土状況
PL 34　第882・883・886・888・891号住居跡完掘状況，第888・891号住居跡遺物出土状況
PL 35　第892・900・902A・902B・903号住居跡完掘状況，第892・897A・904号住居跡遺物出土状況
PL 36　第906号住居跡完掘状況，第28～34・36号掘立柱建物跡完掘状況
PL 37　第35・39～42号溝完掘状況，第35号溝土層確認状況
PL 38　第17～20号地下式壙完掘状況，第606・607・659・707号土坑完掘状況
4区
PL 39　第407・418・911・914号住居跡出土遺物
PL 40　第913号住居跡出土遺物
PL 41　第915・916号住居跡出土遺物
PL 42　第916号住居跡出土遺物
PL 43　第405・406・916号住居跡出土遺物
PL 44　第408・409・411号住居跡出土遺物
PL 45　第411・412・912号住居跡出土遺物
5区
PL 46　第726・728・730・731号住居跡出土遺物
PL 47　第729号住居跡出土遺物
PL 48　第729・732・739・742号住居跡出土遺物
PL 49　第744号住居跡出土遺物
PL 50　第744・746号住居跡出土遺物
PL 51　第746・748号住居跡出土遺物
PL 52　第748号住居跡出土遺物
PL 53　第737・740・741A・743・747号住居跡・遺構外出土遺物
6区
PL 54　第662・663号住居跡出土遺物
PL 55　第663・665号住居跡出土遺物
PL 56　第665・666・671・672・686号住居跡・第8号不明遺構出土遺物
8・9区
PL 57　第917～919・924・925・928～930号住居跡出土遺物
PL 58　第924～926・930・932・933号住居跡出土遺物
PL 59　第931～935号住居跡出土遺物
PL 60　第935・936・942号住居跡出土遺物
PL 61　第924・926・930・932・935・942号住居跡・第35号溝・遺構外出土遺物
PL 62　（9区）第950号住居跡出土遺物，（8区）第41・47号掘立柱建物跡・遺構外出土遺物
PL 63　第951・953号住居跡・第7号道路状遺構・第25号井戸跡・第16号地下式壙出土遺物
PL 64　第681号土坑・遺構外出土遺物
11区
PL 65　第733～735号住居跡出土遺物
PL 66　第735・751・752号住居跡出土遺物
PL 67　第752・753号住居跡出土遺物
PL 68　第754・756～758号住居跡出土遺物
PL 69　第759～761号住居跡出土遺物
PL 70　第761～765号住居跡出土遺物
PL 71　第766～768号住居跡出土遺物
PL 72　第769～772号住居跡出土遺物
PL 73　第773～777・779号住居跡出土遺物
PL 74　第780～782号住居跡出土遺物
PL 75　第782～786号住居跡出土遺物
PL 76　第787号住居跡出土遺物
PL 77　第787～791号住居跡出土遺物
PL 78　第792・794号住居跡出土遺物
PL 79　第795～799号住居跡出土遺物
PL 80　第800・801号住居跡出土遺物
PL 81　第802～807号住居跡出土遺物
PL 82　第808・809・811～814・817・818号住居跡出土遺物
PL 83　第819・821～826号住居跡出土遺物
PL 84　第827～832号住居跡出土遺物

ＰＬ 85　第832・833・834B・835B号住居跡出土遺物
ＰＬ 86　第836・837A・837B・838～840号住居跡出土遺物
ＰＬ 87　第840～843・844A・844B号住居跡出土遺物
ＰＬ 88　第845・846号住居跡出土遺物
ＰＬ 89　第846～850・855～857・859～861号住居跡出土遺物
ＰＬ 90　第858～861・863～865・868A・869号住居跡出土遺物
ＰＬ 91　第865・866・871～873号住居跡出土遺物
ＰＬ 92　第874～876・878～880号住居跡出土遺物
ＰＬ 93　第879・880～882・884・886号住居跡出土遺物
ＰＬ 94　第888号住居跡出土遺物
ＰＬ 95　第888号住居跡出土遺物
ＰＬ 96　第888号住居跡出土遺物
ＰＬ 97　第889～892号住居跡出土遺物
ＰＬ 98　第892・896・897A・897B号住居跡出土遺物
ＰＬ 99　第897A・898・900・902A・902B・903号住居跡出土遺物
ＰＬ100　第900・902A・903・904号住居跡出土遺物
ＰＬ101　第904・905号住居跡出土遺物
ＰＬ102　第794・801・845・876号住居跡，第30～32号掘立柱建物跡，第35号溝出土遺物
ＰＬ103　第606・607・707号土坑，遺構外出土遺物
ＰＬ104　出土遺物（ＳＩ734・735・754・766・780・788・796・800・836・860・883）
ＰＬ105　出土遺物（ＳＩ751・758・766・767・773・779・780・782・794・807・840・844A・845・858・865・888・892・896・898・904，ＳＢ31）
ＰＬ106　出土遺物（ＳＩ752・757・761・780・782・786・800・806・811・829・831・833・834A・835B・836・849・883・897A・900）
ＰＬ107　出土遺物（ＳＩ835B・839・840・848・849・863・877・879・886・891・892，遺構外）
ＰＬ108　出土遺物（ＳＩ754・757・846・855・873・875・898・902A・902B，ＳＫ607）
ＰＬ109　出土遺物（ＳＩ771・788・792・803・827・839・846・884・902B）
ＰＬ110　出土遺物（ＳＩ733・761・782・785・809・839・859・881・882・886・888・898・902A，ＳＤ39，遺構外）

付　　図

－下　巻－

付図１　熊の山遺跡８区遺構全体図
付図２　熊の山遺跡９区遺構全体図
付図３　熊の山遺跡11区遺構全体図

第1章　調　査　経　緯

第1節　調査に至る経緯

茨城県では，首都圏とつくば研究学園都市を結ぶ常磐新線の早期開通をめざし，常磐新線の建設とそれに伴う沿線開発に取り組んでいる。

島名地区については，平成6年8月18日，茨城県知事は茨城県教育委員会あてに，常磐新線沿線地域の土地区画整理事業地内における埋蔵文化財の有無及びその取り扱いについて照会した。これに対して茨城県教育委員会は，平成6年9月19日から27日にかけて現地踏査を行い，平成7年3月8日，島名・福田坪地区一体型特定土地区画整理事業地内に熊の山遺跡が所在する旨回答した。同日，茨城県知事から茨城県教育委員会あてに，同事業に係わる熊の山遺跡の取り扱いについて協議があった。

その結果，現状保存が困難であることから，平成7年3月9日，茨城県教育委員会は茨城県知事あてに，熊の山遺跡を記録保存とする旨回答し，調査機関として財団法人茨城県教育財団を紹介した。

茨城県教育財団は，茨城県から埋蔵文化財発掘調査事業についての委託を受け，平成7年4月1日から熊の山遺跡の発掘調査を開始した。平成7年度は，17,167㎡の調査を終了した。

同様に平成8年2月5日に，平成8年度の熊の山遺跡の取り扱いについて協議があり，平成8年2月9日，31,026㎡を記録保存することになった。しかし，遺構数が多いため平成8年9月，茨城県と協議の上，発掘調査計画を変更し，平成8年度は16,050㎡の調査を実施した。

平成9年度は，当初調査予定面積は60,784㎡であったが，遺構数が多数確認されたことから，茨城県と協議の上，33,421㎡に面積を縮小して調査を実施した。

第2節　調査経過

平成9年度の発掘調査は，平成9年4月1日から平成10年3月31日までの1年間にわたって，3～9・11区の調査を実施した。遺構番号については，前年度からの継続である。以下，調査経過について，その概要を記述する。

4月　初旬に発掘調査を開始するため，調査器材の搬入，補助員投入等の諸準備を行った。中旬から5区の西側の一部と7区の調査を開始した。24日に県南都市建設事務所と県教育庁文化課，茨城県教育財団の三者による今後の調査の打ち合わせを行った。

5月　4月に引き続き，5・7区の調査を行った。12日から4区の東側の一部の調査も並行して行った。

6月　引き続き4・5・7区の調査を行った。10日に県南都市建設事務所と9年度新たに表土除去し調査する区域の境界確認を行った。下旬に4区東側の一部と5区西側の一部の調査を終了し，7区の調査に入った。

7月　引き続き7区の調査を行った。7日から重機による表土除去（3～9区の一部，10・11区）を開始した。

8月　当月に限り調査担当者の増員があり，計8名の調査員で調査を担当した。3区南側の一部と6区南側の一部と7区の遺構調査を引き続き行った。25日に重機による表土除去を終了した。月末までに3・6区の調査は終了した。

9月　4日に業者委託による方眼杭打ちを開始した。9年度の調査区域は遺構が多く，重複が激しいため，期間内に調査を終了する事がかなり難しいとの見通しから対応策の検討を進め，29日に委託者である県南都市建設事

務所と県教育庁文化課，茨城県教育財団との三者協議を行い，その結果，平成９年度は33,421㎡の調査を行うことになった。

10月　５区東側の一部と７・11区の遺構調査を引き続き行った。特に７・11区は遺構の重複が激しいため，調査が困難であった。

11月　上旬に５区の東側の一部，中旬に７区の調査は終了し，調査の主力は11区に移った。

12月　引き続き11区の調査を行った。11日から４区南側の一部の調査も並行して行った。

１月　引き続き４・11区の調査を行った。21日から８区北側の一部の調査も並行して行った。上旬から中旬にかけて降雪が多かったため，調査が難航した。

２月　他の調査区と並行して９区北側の一部の調査を開始した。これまでの調査で出土遺物が多量なため注記が追いつかず，９日から自動注記機を導入することになった。12日に４区南側の一部の調査を終了した。

３月　２日から航空写真撮影のため，調査と並行して遺構清掃を行った。４日に航空写真撮影を実施した。11日に委託者に対する報告会，14日に遺跡の現地説明会を実施した。現地説明会には三百数十名の見学者が訪れた。16日から補足調査を行い，23日までに遺構調査を終了した。現場事務所で諸帳簿や諸記録の点検，調査区の安全対策を行い，24日に現場での作業を終了した。

第2章　位置と環境

第1節　地理的環境

熊の山遺跡は，茨城県つくば市大字島名字香取1964番地ほかに所在している。昭和62年11月の4町村合併（桜村，谷田部町，大穂町，豊里町，昭和63年1月に筑波町も編入）によるつくば市誕生以前は，筑波郡谷田部町に属していた。

つくば市は，茨城県南西部に位置し，北は真壁郡明野町，同郡真壁町，新治郡八郷町に，東は新治郡新治村，土浦市，南は牛久市，稲敷郡茎崎町，筑波郡伊奈町，同郡谷和原村に，西は水海道市，結城郡石下町，同郡千代川村，下妻市に接している。

つくば市の地形は，北は茨城県と福島県境にある八溝山から南に伸びる八溝山地の南端部に位置する筑波山を中心とする筑波山塊に接し，東側を東流して霞ヶ浦に流入する桜川と，西端を緩流して利根川に合流する小貝川の低地，及びそれらに挟まれた，筑波・稲敷台地からなる。筑波・稲敷台地は常総台地の一部で，標高20～25m前後の平坦な台地であるが，花室川，東谷田川，西谷田川などの中小河川によって，浅く開析されている。この台地は，竜ヶ崎層と呼ばれる砂層・砂礫層が主体で，その上に板橋層または常総粘土層と呼ばれる灰白色粘土層（0.3～5.0m），その上に関東ローム層（0.5～2.5m）が堆積し，最上部は腐植土層となっている。

当遺跡は，筑波研究学園都市の西部を北から南に流れる東谷田川右岸の標高約20mの台地上に立地している。この台地は東を東谷田川，西を西谷田川に挟まれ，牛久沼まで南東方向に細長く舌状に伸びている。両河川の沖積低地は，主に水田に利用されている。水田との比高は約8mである。調査前の現況は畑であった。

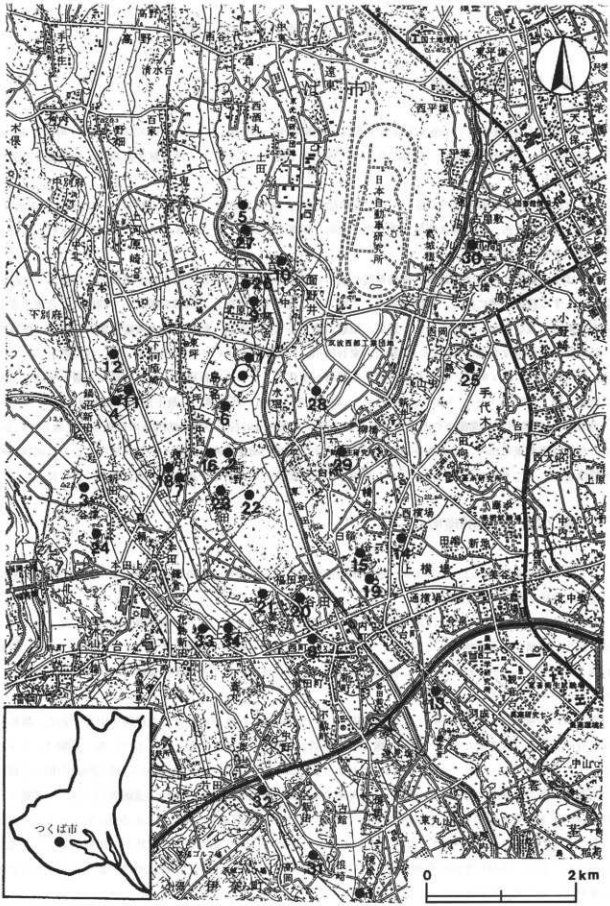
第2節　歴史的環境

つくば市谷田部地区には，東谷田川，西谷田川流域の台地上縁辺部や中央部と，東谷田川支流の蓮沼川右岸台地上に遺跡が数多く存在している。

旧石器時代については，つくば市苅間に所在する神田遺跡の調査で，ナイフ形石器，尖頭器，スクレーパー及び剥片が遺構外出土遺物として出土している。また，同市大字根崎字新畑に所在する根崎遺跡ではナイフ形石器と大形剥片がそれぞれ1点ずつ，同市大字西栗山字台代畑に所在する西栗山遺跡では尖頭器1点及び細石刃2点が出土している。

縄文時代の遺跡は，境松貝塚〈1〉，山田遺跡〈3〉など中期から後期にかけての遺跡が中心である。境松貝塚は谷田部地区の代表的な貝塚であり，縄文時代中期から後期の土器や石器が出土している。貝類は，オキシジミ，ヤマトシジミ，ムラサキガイ，シオフキなどで構成されている。山田遺跡からは縄文時代中期から後期の土器や石器が広範囲にわたって出土し，大規模な集落跡の可能性がある。熊の山遺跡周辺では，当遺跡から約1km南下した東谷田川と西谷田川に挟まれた台地の中央部に前野遺跡〈2〉，さらに500m南にタカドロ遺跡〈22〉，一町田遺跡〈23〉が確認されている。タカドロ遺跡と一町田遺跡からは中期から後期にかけての遺物が出土しており，小貝川左岸の台地と東谷田川，西谷田川に挟まれた台地では縄文時代中期から人々の生活が営まれていたと考えられる。

弥生時代の遺跡は，谷田部地区には2か所確認されているが，熊の山遺跡周辺にはない。



第１図　周辺遺跡位置図

表1　熊の山遺跡周辺遺跡一覧表

番号	遺跡名	県遺跡番号	時代 旧石	縄文	弥生	古墳	奈平	鎌室	江戸
◎	熊の山遺跡					○	○	○	○
1	塊松貝塚	2098		○					
2	前野遺跡	2100		○					
3	山田遺跡	2101		○					
4	高山遺跡	2103			○				
5	和田台遺跡	2104				○			
6	薬師遺跡	2105				○			
7	榎内遺跡	2106				○			
8	谷田部城跡	2110						○	
9	関の台古墳群	2112				○			
10	面の井古墳群	2113				○			
11	高山古墳群	2114				○			
12	下河原崎古墳群	2115				○			
13	羽成古墳群	2116				○			
14	道心塚古墳群	2117				○			
15	台町古墳群	2118				○			
16	榎内古墳群	2119				○			
17	島名熊の山古墳群	2120				○			
18	ツバタ遺跡	2906				○			
19	台成井遺跡	2910		○					
20	福田前遺跡	2911		○					
21	福田坪池の台遺跡	2912		○					
22	タカドロ遺跡	2914		○					
23	一町田遺跡	2915		○					
24	真瀬新田谷津遺跡	2916		○					
25	刈間遺跡	2917				○			
26	関の台遺跡	2919				○			
27	高田遺跡	2920				○			
28	水源遺跡	5838				○			
29	柳橋遺跡	5839				○			
30	神田遺跡	5841	○	○	○	○	○	○	○
31	根崎遺跡		○	○		○	○	○	
32	西栗山遺跡		○	○		○			
33	三度山遺跡			○		○			
34	古屋敷遺跡			○		○		○	○

古墳時代の遺跡は，下横場遺跡，面の井古墳群〈10〉，関の台古墳群〈9〉，下河原崎古墳群〈12〉などの中小の古墳群が数多く確認されている。古墳は大半が径7～25mの円墳である。熊の山遺跡周辺では，当遺跡のすぐ北側に島名熊の山古墳群〈17〉，約1km北に関の台古墳群と関の台遺跡〈26〉がある。当遺跡の南東約500mには薬師遺跡〈6〉，南東約1.5kmには榎内遺跡〈7〉がある。いずれの遺跡も東谷田と西谷田川に挟まれた台地上に位置している。また，東谷田川左岸の台地上には，東南東約1kmに水堀遺跡〈28〉，南東約1.5kmに柳橋遺跡〈29〉がある。特に，島名熊の山古墳群は，当遺跡のすぐ北に位置しており，径7～12m，高さ0.5～1.2mの円墳が11基群在している。

平安時代は，『和名類聚抄』によれば，谷田部地区は河内郡八部郷といい，仁徳天皇の妃，八田若郎女のため八田部を置いた所と言われる。また，島名も『和名類聚抄』にある「嶋名郷」に比定されている。

奈良・平安時代の遺跡はこれまで確認されていなかったが，平成7年度，茨城県教育財団の調査により，熊の山遺跡の他に，当遺跡から北東約3kmの神田遺跡〈30〉，約3.5km南の西栗山遺跡〈32〉，根崎遺跡〈31〉にこの

時代の遺構が存在することが明らかになった。平安時代末には刈間，谷田部，小野崎などに開発領主が出現したという言い伝えもあり，今後の調査の成果が期待できる。

12世紀後半，常陸西南部をおおう広大な常安保は南野牧とともに村田荘の一部であったが，南野牧の分離とともに村田荘そのものになり，12世紀末にはさらに下妻荘，田中荘を分出し，八条院領として伝領された。谷田部地区の大部分は田中荘域に入る。常安保の開発領主は平直幹と考えられ，下妻荘，村田荘の下司職は下妻広幹に，田中荘の下司職は多気義幹に伝えられたと推測されている。しかし，鎌倉幕府の成立後，八田知家の入部により義幹は没落し，田中荘は小田氏の支配下に入る。霜月騒動（1285年）により，一時北条得宗家の手に移るが，室町時代になり，また小田氏の手に戻る。当時，小田氏配下の土豪に小野崎の荒井氏，刈間の野中瀬氏，島名・面野井の平井手氏がいたと伝えられる。

中世以降として確認された遺跡は城館跡がほとんどであるが，熊の山遺跡周辺では北北東へ約2kmの位置に平井手氏の居城と伝えられる面野井城跡が確認されており，当遺跡との関連も考えられる。

参考文献

・大山年次，蜂須紀夫　『茨城県　地学のガイド』　コロナ社　1977年

・蜂須紀夫，大森昌衛　『茨城の地質をめぐって』　築地書館　1979年9月

註

・谷田部の歴史編さん委員会　『谷田部の歴史』　1975年9月参考文献

・茨城県史編さん会　『茨城県史　中世編』　茨城県　1976年3月

・池邊彌　『和名類聚抄郡郷里駅名考證』　吉川公文館　1981年2月

・竹内理三　『角川日本地名大辞典　8茨城県』　角川書店　1973年12月

・中山信名　『新編常陸国誌』　嵩書房　復刻版　1964年11月

・鬼澤大海　『常陸旧地考』　文政十二年三月（複製）嵩書房

・江原忠昭　『増補　茨城の地名』　耕人社　1976年1月

・茨城県教育財団　「研究学園都市計画桜柴崎土地区画整理事業地内埋蔵文化財調査報告書（Ⅰ）」
『茨城県教育財団文化財調査報告第54集』　1989年9月

・茨城県教育財団　「研究学園都市計画桜柴崎土地区画整理事業地内埋蔵文化財調査報告書（Ⅱ）」
『茨城県教育財団文化財調査報告第63集』　1991年3月

・茨城県教育財団　「研究学園都市計画桜柴崎土地区画整理事業地内埋蔵文化財調査報告書（Ⅲ）」
『茨城県教育財団文化財調査報告第72集』　1992年3月

・茨城県教育財団　「研究学園都市計画桜柴崎土地区画整理事業地内埋蔵文化財調査報告書（Ⅳ）」
『茨城県教育財団文化財調査報告第93集』　1994年9月

・茨城県教育委員会『茨城県遺跡地図』2版　1990年3月

第3章　調査の成果

第1節　遺跡の概要

調査区は，便宜上1～11区に分けられている（第3図）。平成7年度の調査区は1～4区，平成8年度の調査区は5～8区，平成9年度の調査区は2～11区である（2～6・8区は数年度にわたり調査した）。2区の東部の一部は遺構が確認されず，遺物も出土しなかった。4区の一部と8区の一部及び10区については遺構確認調査のみを実施した。平成9年度に調査した総面積は33,421㎡である。その内，今回報告するのは，15,270㎡分についてである。現況は畑地で，主に芝畑として利用されていた。今回の調査の結果，古墳時代，奈良・平安時代の集落跡であることが確認できた。遺構は，竪穴住居跡242軒（古墳時代115軒，奈良・平安時代124軒，時期不明3軒），掘立柱建物跡19棟，土坑93基，地下式壙7基，井戸跡3基，溝14条，道路状遺構4条及び不明遺構3基を確認した。

遺物は，遺物収納箱（60×40×20cm）に279箱出土している。遺物の大部分は，古墳時代から奈良・平安時代にかけての土師器，須恵器（坏，椀，高坏，甕，壺，甑など）である。その他の遺物として，管状土錘，支脚，紡錘車，砥石，腰帯具，石製模造品，鉄鏃，刀子，鎌，古銭などが出土している。

第2節　基本層序

調査区内（6区　L14d7区）にテストピットを掘り，基本土層を観察した（第2図）。遺構は，第2層上面で確認できた。

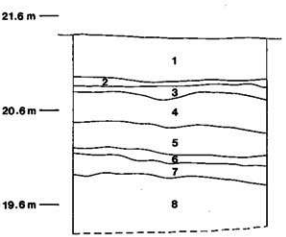
第1層は，40～50cmの厚さの耕作土層で，暗褐色をしている。

第2層は，5～10cmの厚さで，褐色をしたソフトローム層への漸移層である。

第3層は，15cmほどの厚さで，明褐色をしたソフトローム層である。

第4層は，30cmほどの厚さで，明褐色をしたハードローム層である。

第5層は，30cmほどの厚さで，暗褐色の粘土混じりの層である。

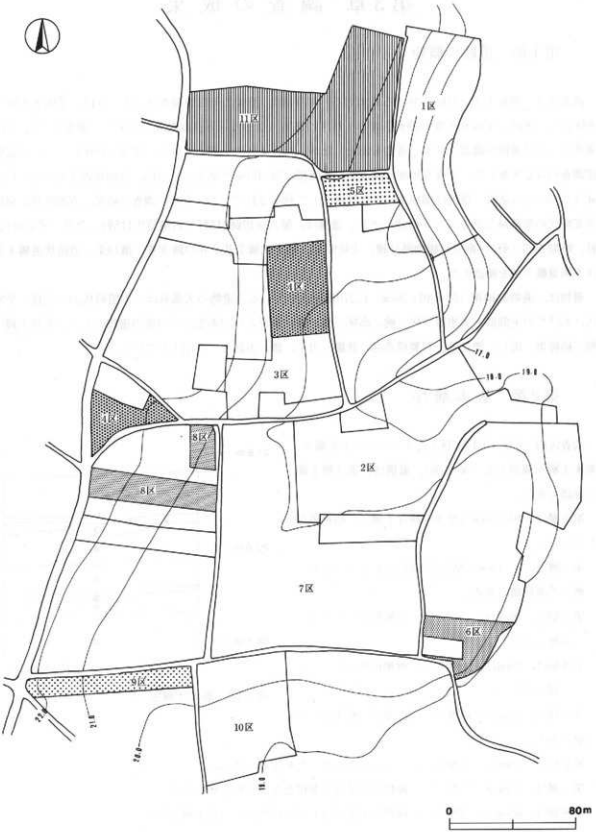


第2図　基本土層図

第6層は，10cmほどの厚さで，にぶい黄橙色をした粘土層である。

第7層は，20cmほどの厚さで，砂粒を少量含む黄橙色をした粘土層である。

第8層は，60cmほどの厚さで，砂粒を大量に含む明黄橙色をした粘土層である。



第３図　熊の山遺跡調査区設定図

第3節　遺構と遺物

1　4区の遺構と遺物

(1)　竪穴住居跡

①　古墳時代

第401号住居跡（第4図）

位置　調査4区の東部，I11f3区。

重複関係　中央部から東側が，第22号溝に掘り込まれている。

規模と平面形　第22号溝に掘り込まれているため，平面形は確認できなかった。確認できたのは長軸4.76m，短軸（1.88）mである。

長軸方向　N－4°－W

壁　覆土が薄く，西部だけが確認された。壁高は2㎝である。

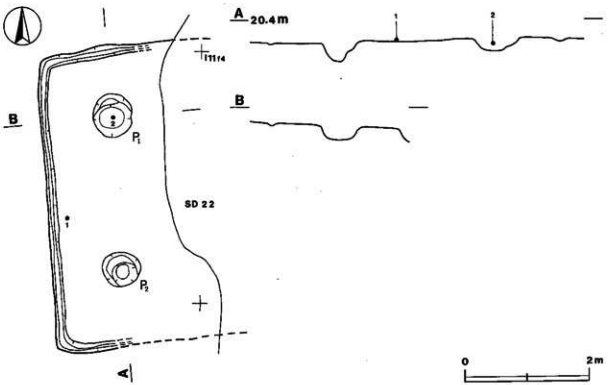
壁溝　確認した壁下すべてに巡っている。上幅10～15㎝，下幅5～7㎝，深さ5～7㎝で，断面形はU字形である。

床　ほぼ平坦である。

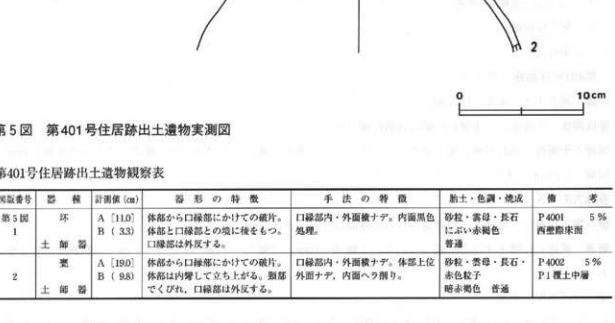
ピット　2か所（P1・P2）。P1・P2は径55～65㎝の円形，深さ23～35㎝であり，北西・南西コーナーに寄った位置で確認されている。規模と配置からいずれも主柱穴と考えられる。

遺物　土師器片6点が出土している。第5図1の土師器坏は西壁際の床面から，2の土師器甕はP1の覆土中層から出土している。

所見　本跡は出土土器が少なく，時期を限定することができないが，古墳時代後期と考えられる。



第4図　第401号住居跡実測図



第５図　第401号住居跡出土遺物実測図

第401号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器　種	計測値（cm）	器　形　の　特　徴	手　法　の　特　徴	胎土・色調・焼成	備　　考
第５図 1	坏 土　師　器	A［11.0］ B（3.3）	体部から口縁部にかけての破片。体部と口縁部との境に稜をもつ。口縁部は外反する。	口縁部内・外面横ナデ。内面黒色処理。	砂粒・雲母・長石にぶい赤褐色 普通	P4001　5％ 西壁際床面
2	甕 土　師　器	A［19.0］ B（9.8）	体部から口縁部にかけての破片。体部は内彎して立ち上がる。頂部でくびれ，口縁部は外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部上位外面ナデ，内面ヘラ削り。	砂粒・雲母・長石・赤色粒子 暗赤褐色　普通	P4002　5％ P1覆土中層

第407号住居跡（第６・７図）

位置　調査４区の東部，J11g4区。

重複関係　第387号住居跡と重複している。第387号住居跡は，平成10年度に調査している。

規模と平面形　長軸6.20m，短軸（6.18）mの方形と推定される。西壁は調査区域外に延びている。

主軸方向　N－6°－W

壁　壁高は10～42cmで，外傾して立ち上がる。

壁溝　全周していると考えられる。上幅10～19cm，下幅６～10cm，深さ５～９cmで，断面形はU字形をしている。

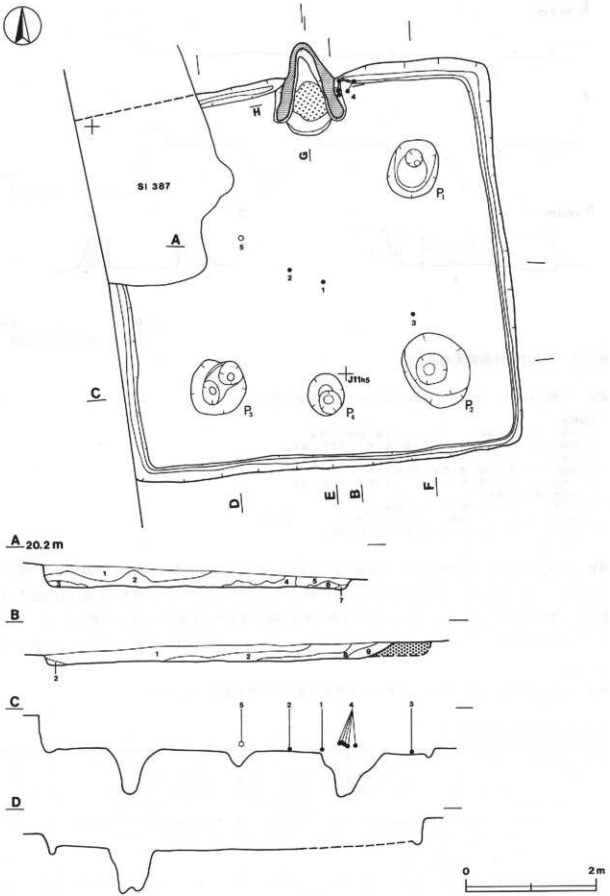
床　ほぼ平坦である。

竈　北壁中央部を壁外に50cmほど掘り込み，多量の山砂を含んだ砂質粘土で構築されている。規模は，焚口部から煙道部まで146cm，両袖部幅110cmである。火床部は，床面を６cm掘りくぼめており，赤変硬化している。天井部は確認できなかった。袖部は良好に遺存しており，内側は火熱を受けて赤変硬化している。煙道は，火床面から緩やかに立ち上がる。

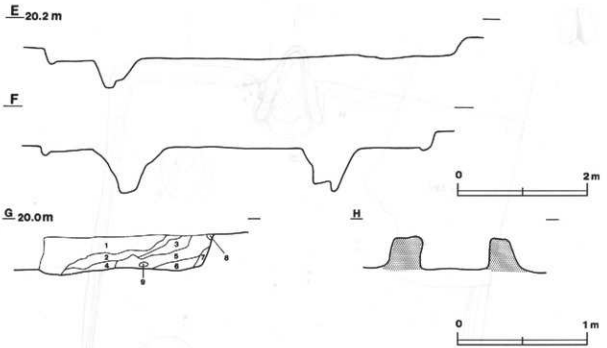
竈土層解説

1　暗　褐　色　砂質粘土粒子中量，炭化物・炭化粒子・焼土粒子微量
2　暗赤褐色　焼土粒子中量，砂質粘土粒子少量，焼土小ブロック微量
3　暗　褐　色　砂質粘土粒子中量，焼土粒子少量
4　黒　褐　色　炭化物・炭化粒子少量，焼土粒子・砂質粘土粒子微量
5　暗赤灰色　焼土粒子中量，炭化粒子・砂質粘土粒子少量，焼土小ブロック微量
6　暗赤褐色　焼土粒子少量，焼土中・小ブロック・炭化物・炭化粒子微量
7　暗　褐　色　砂質粘土粒子少量
8　極暗赤褐色　焼土粒子中量
9　暗赤褐色　焼土粒子多量

ピット　４か所（P1～P4）。P1～P3は径85～100cmの円形で，深さ72～77cmであり，各コーナーに寄った位置で確認されている。規模と配置から判断して主柱穴と考えられる。南壁際にあるP4は径57cmの円形で，深さ43cmである。位置的に出入り口施設に伴うピットと考えられる。



第６図　第407号住居跡実測図（１）



第７図　第407号住居跡実測図（２）

覆土　９層からなる。不規則な堆積状況から，人為堆積と考えられる。

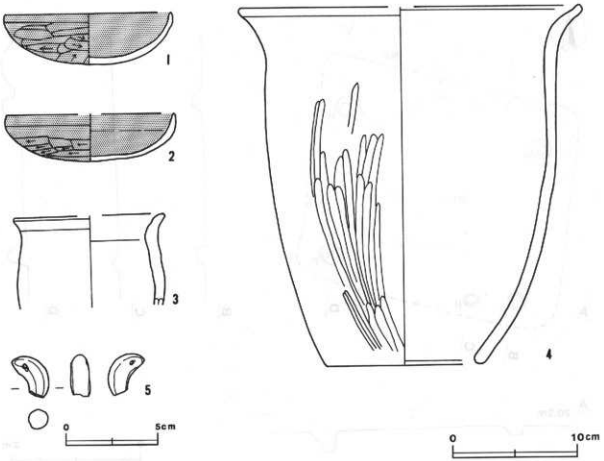
土層解説
1　暗褐色　ローム粒子中量，ローム中ブロック少量，炭化粒子微量
2　黒褐色　ローム中・小ブロック・粒子少量，焼土粒子・炭化粒子微量
3　黒褐色　ローム小ブロック中量，ローム大ブロック少量，焼土粒子・炭化粒子微量
4　暗褐色　ローム粒子中量，焼土粒子・炭化粒子少量
5　黒褐色　ローム粒子少量，焼土小ブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
6　黒褐色　炭化粒子微量
7　黒褐色　ローム粒子少量，粘土中ブロック微量
8　暗褐色　ローム中ブロック多量，ローム粒子中量，焼土小ブロック・粒子微量
9　褐　色　ローム粒子多量，炭化物・炭化粒子・焼土粒子微量

遺物　土師器片956点，須恵器片17点，土製品１点（勾玉），鉄滓１点，灰釉陶器片１点，陶器片１点，礫１点が出土している。第８図１・２の土師器坏は中央部床面から出土している。３の土師器小形甕は中央部やや南東寄りの覆土下層から出土している。４の土師器甑は竈東袖脇の床面から土圧でつぶれた状態で出土している。５の勾玉は中央部からやや北西寄りの覆土下層から出土している。灰釉陶器片・陶器片は耕作による混入と考えられる。

所見　本跡の時期は，出土土器から判断して６世紀後葉から７世紀前葉と考えられる。

第407号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器　種	計測値（cm）	器　形　の　特　徴	手　法　の　特　徴	胎土・色調・焼成	備　考
第８図 1	坏 土　師　器	A　13.4 B　4.1	口縁部一部欠損。丸底。体部は内彎して立ち上がる。口縁部は直立する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面ヘラ削り，内面ナデ。内・外面黒色処理。	砂粒・長石・赤色粒子にぶい橙色 普通	P 4012　80% 中央部床面
2	坏 土　師　器	A［13.5］ B　4.2	底部から口縁部にかけての破片。丸底。体部は内彎して立ち上がり，口縁部との境に弱い稜をもつ。口縁部は直立する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面ヘラ削り，内面ナデ。内・外面黒色処理。	砂粒・長石・赤色粒子にぶい橙色 普通	P 4013　50% 中央部床面
3	小　形　甕 土　師　器	A［12.0］ B（7.2）	体部から口縁部にかけての破片。体部は内彎して立ち上がり，口縁部は外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面ナデ。	砂粒・雲母・長石・赤色粒子 にぶい黄橙色　普通	P 4015　5% 中央部やや南東寄り覆土下層



第８図　第407号住居跡出土遺物実測図

図版番号	器　種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備　考
第８図 4	甕 土師器	A [27.8] B 28.3 C 12.6	無底式。体部はわずかに内弾して立ち上がり，口縁部は外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面ヘラ磨き，内面ナデ。	砂粒・雲母・長石 にぶい橙色 普通	P4016　90% PL39 竈東袖脇床面

図版番号	種　別	計測値				出土地点	備　考
		長さ(cm)	幅(cm)	孔径(cm)	重量(g)		
第８図５	土製勾玉	(2.2)	2.0	0.2	(3.62)	中央部やや北西寄り覆土下層	DP4001　PL39

第416号住居跡（第９図）

位置　調査４区の西部，J11b5区。

規模と平面形　本跡は覆土が薄く，床面がほぼ露出した状態で確認され，竈を含む北東部は撹乱のため確認できなかった。規模と平面形は，床質から長軸［4.20］m，短軸［3.60］mの長方形と推定される。

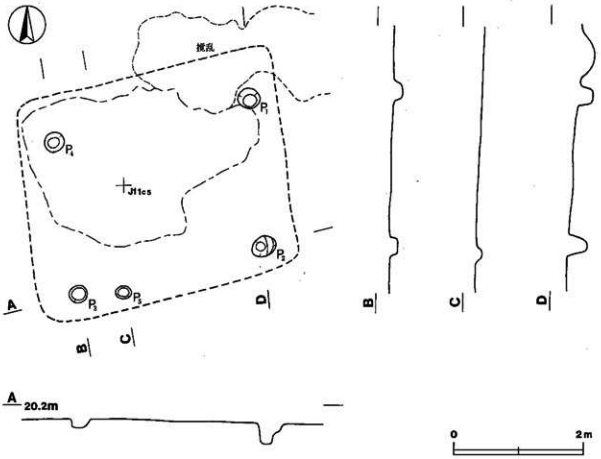
長軸方向　N－77°－E

床　ほぼ平坦で，中央部分から北側にかけて踏み固められている。

ピット　５か所（P1～P5）。P1～P4は径28～35cmの円形で，深さは12～32cmであり，各コーナーに寄った位置で確認されている。規模と配置から主柱穴と考えられる。南壁中央部からやや西寄りに位置するP5は径23cmの円形で，深さ10cmである。位置的に出入り口施設に伴うピットと考えられる。

遺物　土師器片31点，撹乱による混入と考えられる須恵器片７点が出土している。

所見　細片のみで時期を限定することはできないが，土師器の様相等から古墳時代後期と考えられる。



第９図　第416号住居跡実測図

第417号住居跡（第10図）

位置　調査４区の東部，I11e7区。

重複関係　本跡が第453号土坑を掘り込んでいる。

規模と平面形　本跡は覆土が薄く，床面がほぼ露出した状態で確認された。北コーナー部は調査区域外のため確認できなかったが，規模と平面形は，床質から長軸［3.90］m，短軸［3.50］mの長方形と推定される。

主軸方向　N－16°－E

壁　北東・北西壁の一部が確認できた。壁高は３㎝である。

床　ほぼ平坦で，中央の一部分が踏み固められている。

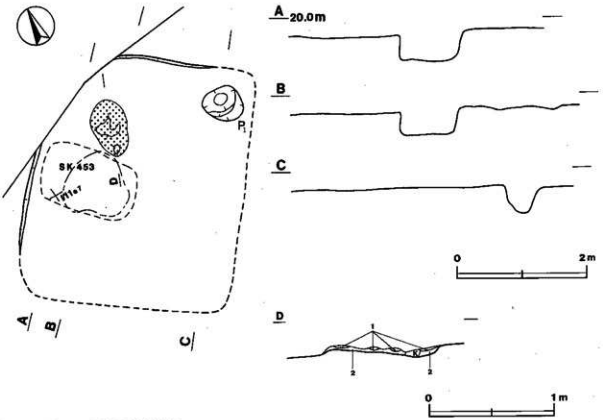
ピット　１か所。P1は東コーナー部で確認され，径55㎝の円形で，深さは47㎝である。性格は不明である。

炉　中央部からやや北寄りに位置し，長径90㎝，短径54㎝の楕円形を呈する地床炉である。火床面は凹凸で，赤変している。

炉土層解説
1　赤褐色　焼土粒子多量
2　暗赤褐色　ローム粒子・炭化粒子中量，焼土粒子少量

遺物　土師器片20点，陶器片１点が出土している。陶器片は耕作による混入と考えられる。

所見　本跡の時期は，出土土器や住居跡の形態等から判断して５世紀と考えられる。



第10図　第417号住居跡実測図

第418号住居跡（第11図）

位置　調査４区の東部，I11j4区。

重複関係　本跡は中央部から東壁にかけて第22号溝に掘り込まれ，さらに，中央部を第１号道路状遺構によって掘り込まれている。

規模と平面形　長軸5.21m，短軸［5.10］mの方形と推定される。

長軸方向　N－90°－W

壁　壁高は41cmで，外傾して立ち上がる。

壁溝　確認した壁下に巡っている。上幅10～13cm，下幅約６cm，深さ６cmで，断面形はU字形である。

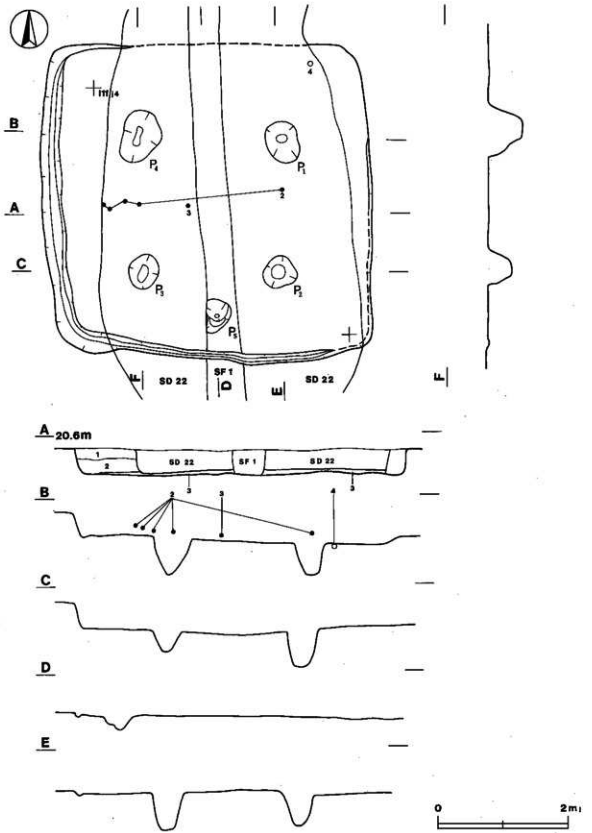
床　ほぼ平坦である。

ピット　５か所（P1～P5）。P1は長径68cm，短径50cmの楕円形で，深さ50cmである。P2・P3は径50cm前後の円形で，深さ38～64cmである。P4は長径75cm，短径58cmの楕円形で，深さ65cmである。方形に配置されており，規模と配置からいずれも主柱穴と考えられる。南壁際に位置するP5は径40cm前後の円形で，深さ23cmである。位置的に出入り口施設に伴うピットと思われる。

覆土　３層からなる。一部分しか残存していないが，自然堆積である。

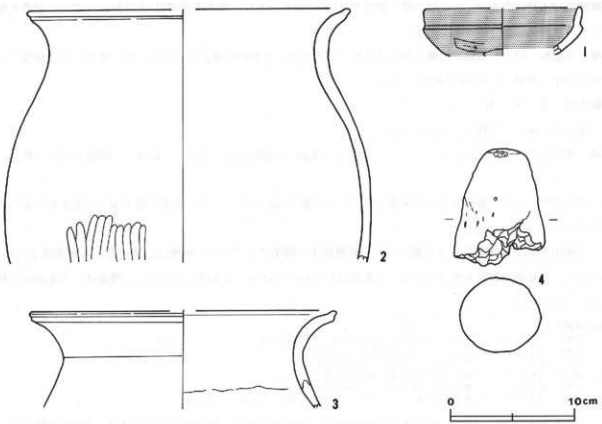
土層解説
1　極暗褐色　ローム粒子少量，焼土粒子微量
2　黒 褐 色　ローム粒子・炭化粒子少量，炭化物微量
3　暗 褐 色　ローム粒子中量，ローム大・中ブロック少量

遺物　土師器片426点，須恵器片15点，土製品１点（支脚），陶器片２点が出土している。第12図１の土師器坏は覆土中から，２の土師器甕は西部の覆土下層から，３の土師器甕は中央部の覆土下層から出土している。４の支脚は北東コーナー部の床面から出土している。陶器片は耕作による混入と考えられる。



第11図　第418号住居跡実測図

所見　本跡の時期は，出土土器から判断して７世紀後半と考えられる。



第12図　第418号住居跡出土遺物実測図

第418号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第12図 1	坏 土師器	A〔12.4〕 B（3.7）	体部から口縁部にかけての破片。体部は外傾して立ち上がり，口縁部との境に明瞭な稜をもつ。口縁部はわずかに外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面ヘラ削り。体部内面ナデ。内・外面黒色処理。	砂粒・長石・赤色粒子 にぶい橙色 普通	P 4035 15% 覆土中
2	甕 土師器	A〔25.8〕 B（20.0）	体部から口縁部にかけての破片。体部は内彎して立ち上がる。口縁部は外反し，口唇部は上方につまみ上げられている。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面ヘラ磨き。	砂粒・雲母・長石 にぶい橙色 普通	P 4036 10% 西部覆土下層
3	甕 土師器	A〔24.4〕 B（7.7）	頸部から口縁部にかけての破片。口縁部は外反し，口唇部は上方につまみ上げられている。	口縁部内・外面横ナデ。頸部に輪積み痕。	砂粒・雲母・長石・赤色粒子 にぶい黄橙色 普通	P 4037 5% 中央部覆土下層

図版番号	種別	計測値 長さ(cm)	径(cm)	重量(g)	出土地点	備考
第12図4	土製支脚	（9.3）	6.0	(280.0)	北東コーナー部床面	D P 4002　P L 39

第911号住居跡（第13図）

位置　調査４区の南西部，L8a8区。

重複関係　本跡は北西コーナー部の壁を第913号住居に掘り込まれ，南西部を第912号住居に，さらに南部を第５号道路状遺構に掘り込まれている。

規模と平面形　第５号道路状遺構に掘り込まれているため，平面形は確認できなかった。確認できた規模は，長軸4.60m，短軸（3.20）mの範囲である。

主軸方向　N－10°－W

壁　壁高は14cmで，外傾して立ち上がる。

壁溝　確認した壁下すべてに巡っている。上幅12～18cm，下幅約６cm，深さ５～10cmで，断面形はU字形である。

床　ほぼ平坦である。竈前面から中央部にかけてよく踏み固められている。北部に焼土塊が，北東部に炭化物がみられる。

竈　北壁中央部を壁外に65cmほど掘り込み，砂質粘土で構築されている。規模は，焚口部から煙道部まで105cmである。右袖部は撹乱を受けている。火床部はわずかにくぼみ，赤変硬化している。煙道は，火床面から緩やかに立ち上がる。

竈土層解説
1　暗褐色　炭化物・焼土小ブロック・焼土粒子・炭化粒子多量，ローム粒子中量，ローム小ブロック少量
2　赤褐色　焼土中ブロック・焼土小ブロック・焼土粒子・炭化粒子多量
3　褐　色　焼土小ブロック・粒子多量，ローム粒子・炭化粒子中量
4　褐　色　砂粒多量，ローム粒子・焼土粒子中量，炭化粒子少量
5　赤褐色　焼土小ブロック・焼土粒子・砂粒多量，ローム粒子中量，ローム小ブロック少量
6　褐　色　焼土小ブロック・焼土粒子多量，ローム小ブロック・ローム粒子・炭化粒子・砂粒中量

ピット　６か所（P1～P6）。P1・P3・P4は径52～62cmの円形で，深さ67～74cmである。P2は長径60cm，短径40cmの楕円形で，深さ72cmである。各コーナー寄りに確認されており，規模と配置から主柱穴と考えられる。P5は長径53cm，短径32cmの楕円形で，深さ44cm，P6は径33cmの円形で，深さ21cmである。竈両袖脇に位置していることから，性格は不明であるが，竈施設に伴う柱穴である可能性が考えられる。

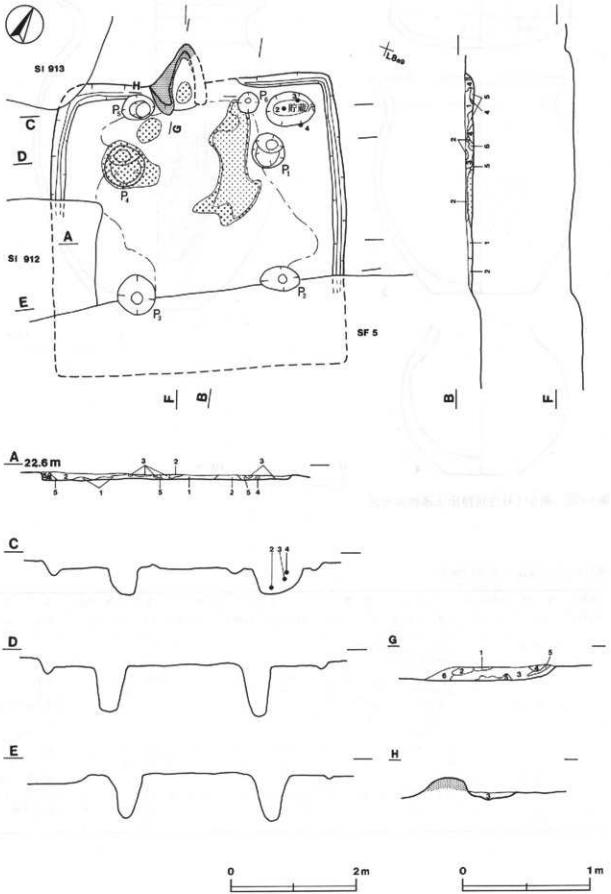
貯蔵穴　北東コーナー部で確認され，長径78cm，短径56cmの楕円形で，深さ42cmである。

覆土　６層からなる。各層にロームブロックが含まれる状況から，人為堆積と考えられる。

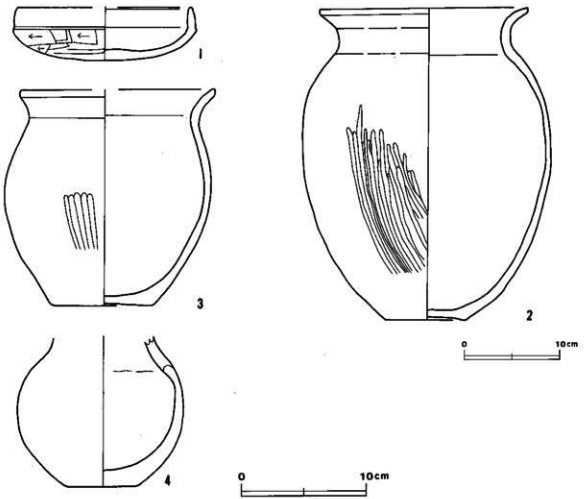
土層解説
1　褐　色　ローム粒子多量，ローム小ブロック・炭化物中量，焼土粒子・炭化粒子少量
2　褐　色　ローム小ブロック・粒子多量，焼土粒子・炭化粒子少量
3　暗褐色　ローム粒子・炭化粒子中量，ローム中ブロック・焼土粒子少量
4　褐　色　ローム小ブロック・粒子中量，焼土小ブロック・焼土粒子・炭化粒子少量
5　明褐色　ローム中ブロック多量，ローム小ブロック・粒子中量，焼土粒子少量
6　褐　色　ローム粒子多量，ローム小ブロック・炭化粒子中量

遺物　土師器片216点，灰釉陶器片１点，礫２点が出土している。第14図１の土師器坏は覆土中から出土している。２・３の土師器甕は，貯蔵穴の覆土中層からそれぞれ逆位・横位の状態で出土している。４の土師器小形甕は，貯蔵穴南側の覆土上層から出土している。灰釉陶器片は耕作による混入と考えられる。

所見　床面に焼土塊や炭化物がみられることから，本跡は焼失家屋と考えられる。本跡の時期は，出土土器から判断して６世紀後葉から７世紀前葉と考えられる。



第13図　第911号住居跡実測図



第14図　第911号住居跡出土遺物実測図

第911号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第14図 1	坏 土師器	A [13.8] B 4.1	底部から口縁部にかけての破片。丸底。体部は外傾して立ち上がり，口縁部との境に明瞭な稜をもつ。口縁部はほぼ垂直に立ち上がる	口縁部内・外面横ナデ。体部外面ヘラ削り，内面ナデ。	砂粒・雲母・長石・赤色粒子 橙色 普通	P4038　55% 覆土中
2	甕 土師器	A 22.0 B 32.8 C 8.5	底部から体部にかけて一部欠損。体部は内彎して立ち上がり，中位に最大径をもつ。頸部でくびれ，口縁部は外反する。口唇部は上方につまみあげられている。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面ヘラ磨き，内面ナデ。	砂粒・長石 にぶい橙色 普通	P4040　80% PL39 貯蔵穴覆土中層
3	甕 土師器	A [15.5] B 17.0 C 8.0	体部，口縁部一部欠損。体部は内彎して立ち上がり，頸部でくびれ，口縁部は外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面ヘラ磨き，内面ナデ。	砂粒・雲母・石英 にぶい褐色 普通	P4041　75% PL39 貯蔵穴覆土中層
4	小形甕 土師器	B (11.8) C 5.4	口縁部欠損。平底。体部は内彎して立ち上がる。	体部外面内面ナデ。体部上位に輪積み痕。	砂粒・長石・石英・赤色粒子　にぶい褐色 普通	P4039　80% 貯蔵穴南側覆土上層

第913号住居跡（第15・16図）

位置　調査４区の南西部，K8j7区。

重複関係　本跡が第914号住居跡と第915号住居跡を掘り込んでいる。

規模と平面形　長軸5.74m，短軸［5.30］mの方形と推定される。

主軸方向　N－3°－E

壁　壁高は20～28cmで，外傾して立ち上がる。

壁溝　確認した壁下すべてに巡っている。上幅14cm，下幅10cm前後，深さ６cmである。断面形はU字形である。

床　ほぼ平坦である。竈前面から出入り口ピットにかけてよく踏み固められている。

竈　北壁中央部を壁外に25cmほど掘り込み，砂質粘土で構築されている。規模は，焚口部から煙道部まで132cmで，両袖部幅138cmである。火床部は床面から８cmほどくぼめられ，赤変硬化している。火床面からは赤く焼けた土製の支脚が出土している。煙道は，火床面から緩やかに立ち上がる。

竈土層解説

1	にぶい黄橙色	粘土ブロック多量，炭化粒子中量，焼土粒子少量
2	明　褐　色	ローム小ブロック・粒子多量，炭化粒子中量，焼土粒子少量
3	明　褐　色	焼土大・中・小ブロック多量，炭化粒子中量，粘土ブロック・炭化物少量
4	褐　色	ローム中ブロック多量，ローム小ブロック中量，焼土粒子少量
5	褐　色	ローム中・小ブロック多量，焼土小ブロック中量，焼土中ブロック・粒子少量
6	褐　色	ローム粒子多量，ローム中ブロック・粒子中量
7	明赤褐色	焼土大・中ブロック多量
8	褐　色	焼土粒子多量，焼土小ブロック・粒子中量，ローム小ブロック少量
9	褐　色	砂粒多量
10	暗赤褐色	焼土中・小ブロック多量，ローム小ブロック・砂粒中量，ローム粒子少量
11	にぶい黄橙色	焼土小ブロック多量，ローム小ブロック・焼土中ブロック・炭化粒子・砂粒中量
12	褐　色	砂粒多量
13	褐　色	ローム大ブロック多量

ピット　８か所（P1～P8）。P1～P4は径50cm前後の円形で，深さ62～73cmであり，各コーナーに寄った位置で確認されている。規模と配置から主柱穴と考えられる。P5は径30cmの円形で，深さ40cmである。南壁際に位置することから，出入り口施設に伴うピットと考えられる。P6・P7は径35cm前後の円形で，深さ64cmである。補助柱穴と考えられる。P8は性格は不明である。

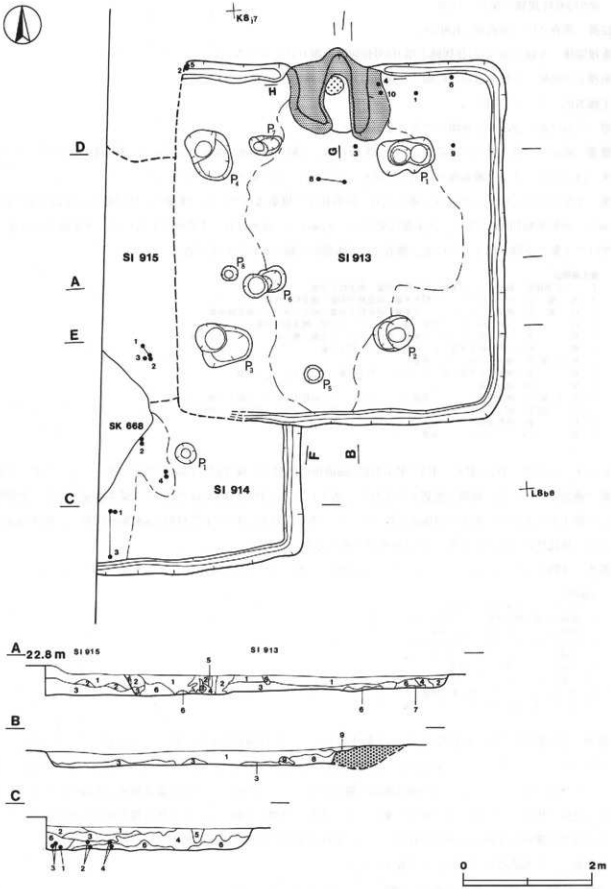
覆土　９層からなる。ロームブロックの含有がかなり多くみられることから，人為堆積と考えられる。

土層解説

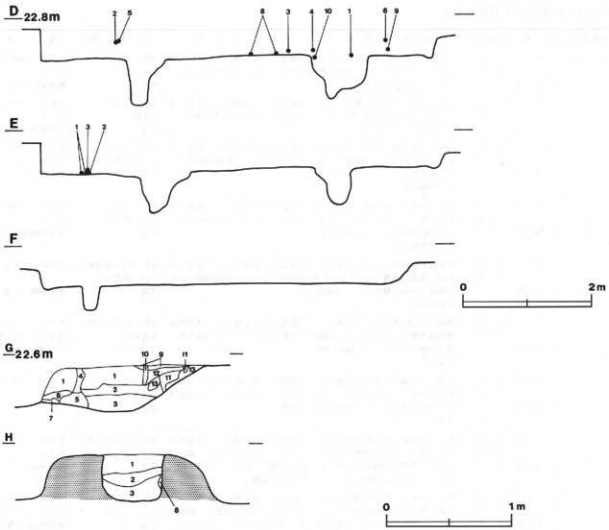
1	褐　色	ローム中ブロック中量
2	暗褐色	焼土粒子中量，ローム粒子少量
3	明褐色	ローム大・中ブロック中量
4	暗褐色	焼土粒子多量，ローム粒子少量
5	明褐色	ローム中・小ブロック・粒子多量
6	明褐色	ローム大ブロック多量
7	明褐色	ローム大・中・小ブロック中量
8	褐　色	粘土ブロック・焼土粒子中量
9	褐　色	焼土粒子中量，粘土ブロック少量

遺物　土師器片957点，須恵器片９点，土製支脚片１点，灰釉陶器片２点，礫２点が出土している。図示した土器はすべて土師器である。第17図１の坏は竈東側の床面から逆位で，２・５の坏は北壁際の覆土上層から重なった状態で出土している。３の坏は竈前の覆土下層から，４の坏と10の鉢は竈東袖脇の床面からそれぞれ正位・逆位で出土している。６の坏は北東コーナー部寄りの覆土上層から，７の坏は覆土中から出土している。８の高坏は竈前の床面から逆位の状態で，９の高坏は東壁際北部の覆土下層から正位の状態で出土している。須恵器片，灰釉陶器片は耕作による混入と考えられる。

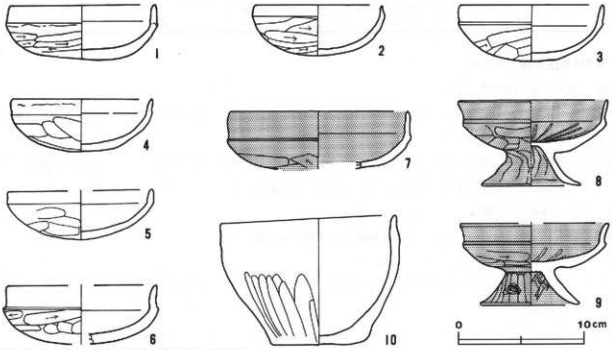
所見　本跡の時期は，出土土器から判断して７世紀前半と考えられる。



第15図　第913・914・915号住居跡実測図（1）



第16図　第913・914・915号住居跡実測図（2）



第17図　第913号住居跡出土遺物実測図

第913号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第17図 1	坏 土師器	A 11.7 B 4.3	完形。丸底。体部は内弾して立ち上がり，口縁部との境に明瞭な稜をもつ。口縁部は直立する。	口縁部内・外面横ナデ。底部・体部外面ヘラ削り。体部内面ナデ。	砂粒・長石 にぶい橙色 普通	P4044 100% P L 40 竈東側の床面
2	坏 土師器	A 10.3 B 3.9	完形。丸底。体部は内弾して立ち上がり，口縁部との境に稜をもつ。口縁部はほぼ直立する。	口縁部内・外面横ナデ。底部・体部外面ヘラ削り。体部内面ナデ。	砂粒・雲母 明赤褐色 普通	P4045 100% P L 40 北壁際覆土上層
3	坏 土師器	A 11.4 B 4.4	口縁部一部欠損。丸底。体部は内弾して立ち上がり，口縁部との境に明瞭な稜をもつ。口縁部はわずかに外傾する。	口縁部内・外面横ナデ。底部・体部外面ヘラ削り。体部内面ナデ。	砂粒・長石 にぶい黄橙色 普通	P4046 98% P L 40 竈前覆土下層
4	坏 土師器	A 11.4 B 4.1	体部・口縁部一部欠損。丸底。体部は内弾して立ち上がり，口縁部との 境に稜をもつ。口縁部はわずかに外傾する。	口縁部内・外面横ナデ。底部・体部外面ヘラ削り。体部内面ナデ。	砂粒・雲母 にぶい橙色 普通	P4047 90% P L 40 竈東袖脇覆土中
5	坏 土師器	A [11.4] B 3.8	底部から口縁部にかけての破片。丸底。体部は内弾して立ち上がり，口縁部との境に稜をもつ。口縁部は直立する。	口縁部内・外面横ナデ。底部・体部外面ヘラ削り。体部内面ヘラナデ。	砂粒・長石・赤色粒子 にぶい黄橙色 普通	P4048 45% 北壁際覆土上層
6	坏 土師器	A [11.8] B (4.6)	体部から口縁部にかけての破片。体部は内弾して立ち上がり，口縁部との境に稜をもつ。口縁部は直立する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面ヘラ削り後ヘラナデ，内面ナデ。	砂粒・雲母・長石・赤色粒子 にぶい橙色 普通	P4049 35% 北東コーナー寄りの覆土上層
7	坏 土師器	A 14.2 B (4.5)	体部から口縁部にかけての破片。体部は内弾して立ち上がり，口縁部との境に稜をもつ。口縁部は直立する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面ヘラ削り，内面ナデ。内・外面黒色処理。	砂粒・雲母 にぶい褐色 普通	P4050 50% 覆土中
8	高坏 土師器	A 12.0 B 6.8 D 7.8	脚部，口縁部一部欠損。脚部はラッパ状に開く。坏部は内弾して立ち上がり，体部と口縁部との境に稜をもつ。口縁部は外傾する。	口縁部内・外面横ナデ。坏部外面ヘラ削り，内面ヘラ磨き。脚部外面ヘラ削り，内面ヘラナデ。内・外面黒色処理。	砂粒・雲母・赤色粒子 にぶい褐色 普通	P4060 70% P L 40 竈前床面
9	高坏 土師器	A [11.6] B 6.4 D 7.5	体部・口縁部一部欠損。脚部はラッパ状に開く。坏部は内弾して立ち上がり，体部と口縁部との境に稜をもつ。口縁部外傾する	口縁部内・外面横ナデ。坏部外面ヘラ削り，内面ヘラ磨き。脚部外面ヘラ削り，内面ヘラナデ。内・外面黒色処理。	砂粒・雲母・赤色粒子 にぶい赤褐色 普通	P4051 60% P L 40 東壁際北部覆土下層
10	鉢 土師器	A 13.0 B 10.2 C 7.2	完形。平底。体部は緩やかに内弾して立ち上がる。口縁部はほぼ直立する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面ヘラ撫り，内面横ナデ。	砂粒 にぶい橙色 普通	P4052 100% P L 40 竈東袖脇床面

第914号住居跡（第15図）

位置　調査４区の南西部，L8a6区。

重複関係　本跡は，中央部より北側を第913号住居と第915号住居に掘り込まれている。さらに，西部の一部を第668号土坑に掘り込まれている。

規模と平面形　西側が調査区域外に延び，中央部より北側が住居に掘り込まれているため，平面形は確認できなかった。確認できたのは東西（3.26）m，南北［2.60］mの範囲である。

壁　壁高は32cmで，外傾して立ち上がっている。

壁溝　確認した壁下に巡っている。上幅15cm前後，下幅６cm前後である。

床　平坦で，中央部が踏み固められている。

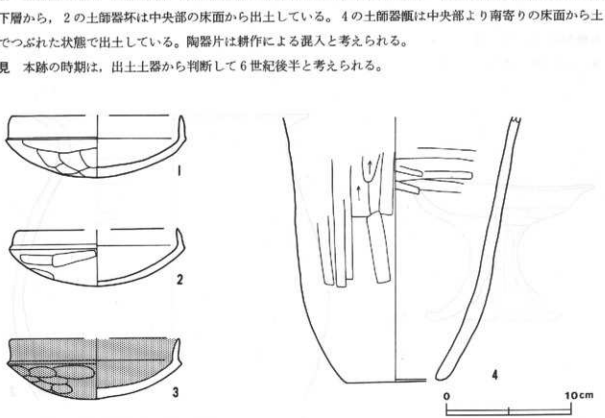
ピット　１か所。P1は径32cmの円形で，深さ69cmである。南東コーナー部寄りに位置していることから主柱穴と考えられる。

覆土　６層からなる。ロームブロックの含有がかなり多くみられることから，人為堆積と考えられる。

土層解説
1　暗褐色　ローム中ブロック・ローム粒子・炭化物中量
2　暗褐色　ローム中ブロック・ローム粒子・炭化物中量，ローム小ブロック・焼土粒子少量
3　暗褐色　炭化材多量，ローム中ブロック・炭化物中量，ローム小ブロック少量
4　褐　色　ローム粒子多量，ローム中ブロック中量，ローム大ブロック・ローム小ブロック・炭化物・炭化粒子少量
5　暗褐色　ローム粒子多量，ローム中・小ブロック中量，炭化物・焼土粒子少量
6　褐　色　ローム中ブロック・粒子多量，ローム小ブロック中量

遺物　土師器片84点，土製支脚片１点，陶器片１点が出土している。第18図１・３の土師器坏は南壁付近の覆土下層から，２の土師器坏は中央部の床面から出土している。４の土師器甑は中央部より南寄りの床面から土圧でつぶれた状態で出土している。陶器片は耕作による混入と考えられる。

所見　本跡の時期は，出土土器から判断して６世紀後半と考えられる。



第18図　第914号住居跡出土遺物実測図

第914号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器　種	計測値（cm）	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備　考
第18図 1	坏 土師器	A［13.7］ B　4.8	底部から口縁部にかけての破片。丸底。体部は内彎して立ち上がり，口縁部との境に明瞭な稜をもつ。口縁部は直立する。	口縁部内・外面横ナデ。底部・体部外面ヘラ削り。体部内面ナデ。	砂粒・長石・赤色粒子にぶい赤褐色 普通	P 4054　50% 南壁付近覆土下層
2	坏 土師器	A［12.8］ B　4.5	底部から口縁部にかけての破片。丸底。体部は内彎して立ち上がり，口縁部との境に稜をもつ。口縁部はやや内傾する。	口縁部内・外面横ナデ。底部・体部外面ヘラ削り。体部内面ナデ。	砂粒・雲母・長石・赤色粒子 明赤褐色 普通	P 4055　25% 中央部床面
3	坏 土師器	A［13.7］ B　4.8	底部から口縁部にかけての破片。丸底。体部は内彎して立ち上がり，口縁部との境に明瞭な稜をもつ。口縁部はわずかに外傾する	口縁部内・外面横ナデ。底部・体部外面ヘラ削り。体部内面横ナデ。内・外面黒色処理。	砂粒・長石 にぶい褐色 普通	P 4056　45% 南壁付近覆土下層
4	甑 土師器	B［21.3］ C　7.8	口縁部欠損。無底式。体部は外傾して立ち上がる。	体部外面最位のヘラ削り，内面ヘラ削り。	砂粒・長石 にぶい褐色 普通	P 4057　70% P L.39 中央部から南寄りの床面

第915号住居跡（第15・16図）

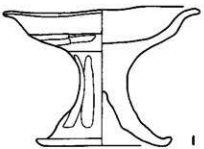
位置　調査４区の南西部，K8j6区。

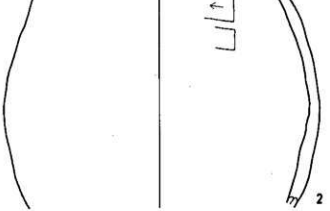
重複関係　本跡が第914号住居跡を掘り込み，本跡の東壁を第913号住居，南壁を第668号土坑が掘り込んでいる。

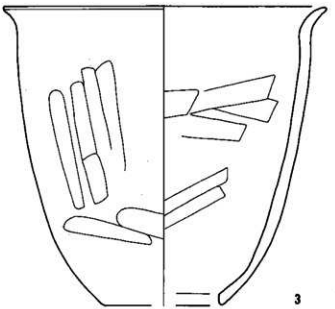
規模と平面形　住居跡の西半分が調査区域外に延びているため，平面形は確認できなかった。確認できたのは，南北［3.85］m，東西［1.16］mの範囲である。

主軸方向　N－2°－E

床　ほぼ平坦である。







0　10cm

第19図　第915号住居跡出土遺物実測図

竈　袖の一部だけ確認できた。他は調査区域外に延びている。

覆土　3層からなる。自然堆積である。

土層解説
1　褐　色　ローム粒子中量，焼土粒子少量
2　褐　色　ローム粒子多量
3　褐　色　ローム粒子多量，ローム中ブロック中量，焼土粒子少量

遺物　土師器片18点が出土している。第19図1の土師器高坏，2の土師器甕，3の土師器甑は南東コーナー部の床面から土圧でつぶれた状態で出土している。

所見　本跡の時期は，出土土器から判断して6世紀後半と考えられる。

第915号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器　種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備　考
第19図 1	高　坏 土師器	A 15.9 B 10.8 D 9.3	脚部，坏部一部欠損。脚部はラッパ状に開く。坏部は内彎気味に立ち上がり，口縁部は大きく外反する。	口縁部内・外面横ナデ。脚部から坏部外面ヘラ削り。裾部内・外面横ナデ。	砂粒・長石・赤色粒子によい赤褐色 普通	P4058　85% P L41 南東コーナー部床面
2	甕 土師器	A 21.8 B (22.8)	底部欠損。体部は内彎して立ち上がり，中位に最大径をもつ。頸部でくびれ，口縁部は外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面ナデ，内面ヘラ削り。	砂粒・長石・石英にぶい赤褐色 普通	P4059　50% P L41　南東コーナー部床面
3	甑 土師器	A 25.8 B 23.7 C [9.4]	底部，口縁部一部欠損。無底式。体部は外傾して立ち上がり，口縁部は軽く外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部内・外面ヘラ削り。	砂粒・長石・石英・赤色粒子 にぶい黄橙色　普通	P4053　70% P L41　南東コーナー部床面

第916号住居跡（第20図）

位置　調査4区の南西部，K8g7区。

重複関係　本跡は第43号溝に掘り込まれている。

規模と平面形　確認できたのは，長軸（4.30）m，短軸（3.22）mの範囲である。大部分が調査区域外に延びているため，平面形は確認できなかった。

壁　壁高は36cmで，垂直に立ち上がっている。

壁溝　確認した壁下すべてに巡っている。上幅13cm前後，下幅5cm前後である。

床　平坦で，よく踏み固められている。

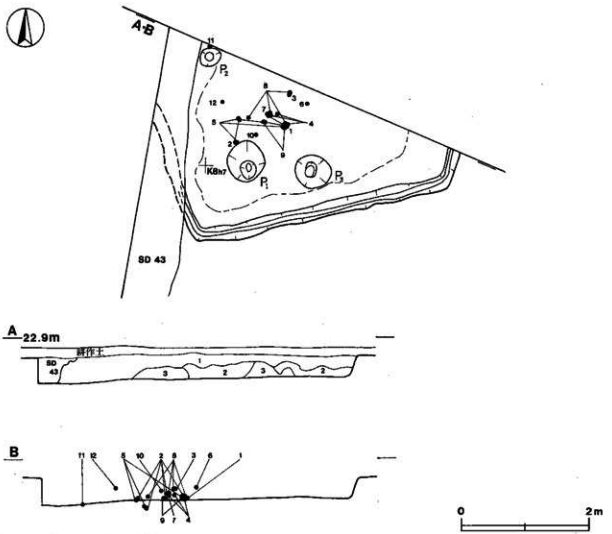
ピット　3か所（P1～P3）。P1は径58cmの円形で，深さ74cmである。P2は径30cmの円形で，深さ47cmである。コーナー寄りに確認されていることから主柱穴と考えられる。P3は径56cmで，深さ38cmである。南壁中央部寄りに位置していることから，出入り口施設に伴うピットと考えられる。

覆土　3層からなる。1・2層はロームブロックを多く含んでいることから，人為堆積と考えられる。3層は砂を多量に含んでいることから，竈からの流れと考えられる。

土層解説
1　褐　色　ローム小ブロック・ローム粒子多量，ローム中ブロック中量，焼土粒子・炭化粒子少量
2　褐　色　ローム粒子多量，ローム大ブロック・炭化粒子中量，焼土粒子少量
3　褐　色　山砂多量

遺物　土師器片310点，須恵器片1点，礫2点が出土している。第21～23図1から9は土師器甕である。1・2・4・5・7～9は中央部の覆土下層から集中して，土圧でつぶされた状態で出土している。3・6は中央部の覆土中層から横位・逆位の状態でそれぞれ出土している。10の土師器甑は中央部の覆土下層から逆位の状態で，11の土師器甑は中央部やや西寄りの床面から出土している。12の須恵器提瓶は覆土上層から正位の状態で出土している。

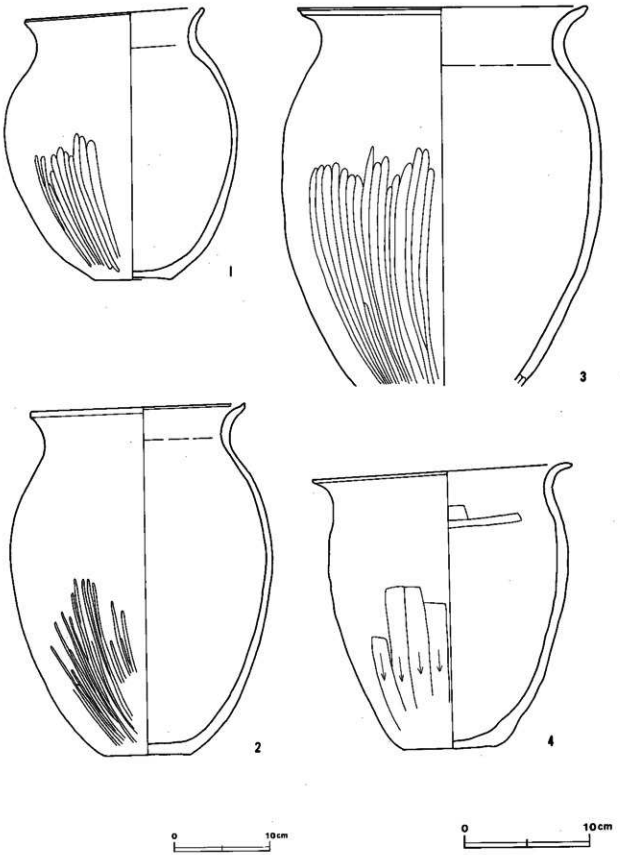
所見　本跡の時期は，出土土器から判断して7世紀前半と考えられる。



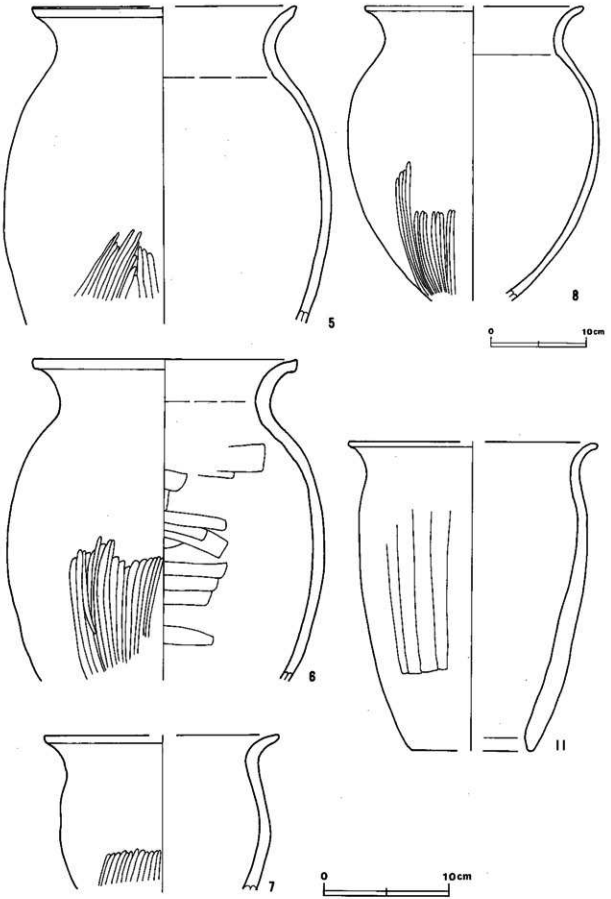
第20図　第916号住居跡実測図

第916号住居跡出土遺物観察表

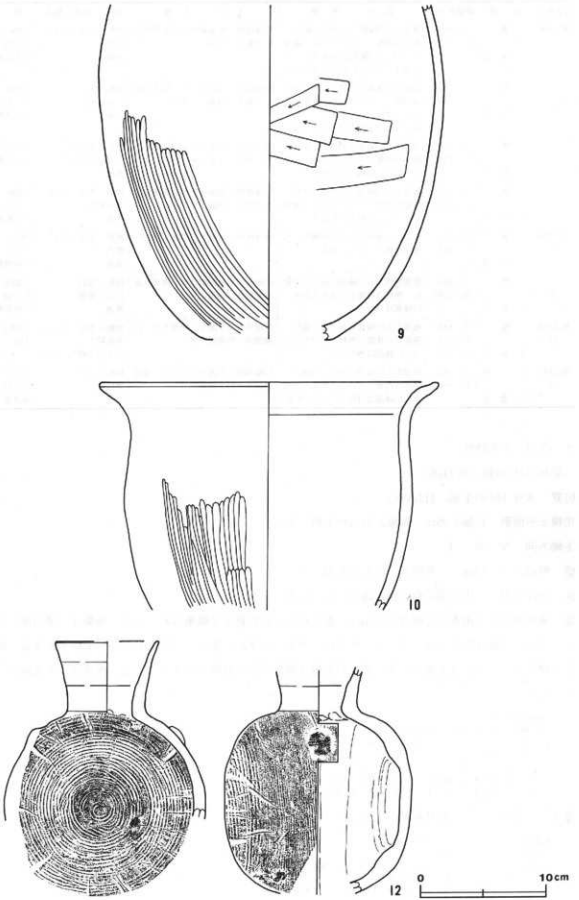
図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第21図 1	甕 土師器	A 21.3 B 32.5 C 9.2	口縁部一部欠損。平底。体部は内彎して立ち上がり，中位に最大径をもつ。頸部でくびれ，口縁部は外反する。口唇部は上方につまみ上げられている。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面ヘラ磨き，内面ナデ。	砂粒・雲母・長石・赤色粒子 にぶい褐色 普通	P4061　95% PL41 中央部覆土下層
2	甕 土師器	A 22.5 B 36.3 C 9.2	体部一部欠損。平底。体部は内彎して立ち上がる。頸部でくびれ，口縁部は外反する。口唇部は上方につまみ上げられている。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面ヘラ磨き，内面ナデ。	砂粒・雲母・長石・赤色粒子 にぶい赤褐色 普通	P4062　85% PL41 中央部覆土下層
3	甕 土師器	A 23.0 B (29.8)	底部欠損。体部は内彎して立ち上がる。頸部でくびれ，口縁部は外反する。口唇部は上方につまみ上げられている。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面ヘラ磨き，内面ナデ。	砂粒・雲母・長石 にぶい黄橙色 普通	P4063　80% PL41 中央部覆土中層
4	甕 土師器	A 20.8 B 22.3 C 8.0	体部，口縁部一部欠損。平底。体部は内彎して立ち上がる。頸部でくびれ，口縁部は外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面ヘラ削り，内面ヘラナデ。	砂粒・長石 にぶい橙色 普通	P4064　85% PL42 中央部覆土下層



第21図　第916号住居跡出土遺物実測図（1）



第22図　第916号住居跡出土遺物実測図（2）



第23図　第916号住居跡出土遺物実測図（3）

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第22図 5	甕 土師器	A [21.0] B (25.1)	体部から口縁部にかけての破片。体部は内彎して立ち上がる。頸部でくびれ。口縁部は外反する。口唇部は上方につまみ上げられている。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面ヘラ磨き，内面ナデ。	砂粒・雲母・長石 橙色 普通	P4065 50% P L42 中央部覆土下層
6	甕 土師器	A 21.0 B (25.4)	底部から体部にかけて欠損。体部は内彎して立ち上がる。頸部でくびれ。口縁部は外反する。口唇部は上方につまみ上げられている。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面ヘラ磨き，内面ヘラナデ。	砂粒・長石 にぶい褐色 普通	P4066 45% P L42 中央部覆土中層
7	甕 土師器	A [18.6] B (12.4)	体部から口縁部にかけての破片。体部は内彎して立ち上がる。頸部でくびれ。口縁部は外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面ヘラ磨き，内面ナデ。	砂粒・雲母・長石 にぶい黄橙色 普通	P4067 25% 中央部覆土下層
8	甕 土師器	A [22.6] B (30.6)	体部から口縁部にかけての破片。体部は内彎して立ち上がる。頸部でくびれ。口縁部は外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面ヘラ磨き，内面ナデ。	砂粒・雲母・長石 明赤褐色 普通	P4068 25% P L42 中央部覆土下層
第23図 9	甕 土師器	B (26.5) C [10.0]	底部から体部にかけての破片。体部は内彎して立ち上がる。	体部外面ヘラ磨き，内面ヘラ削り。	砂粒・雲母・長石 橙色 普通	P4069 50% P L42 中央部覆土下層
10	甕 土師器	A 26.8 B (17.9)	体部中位から口縁部にかけての破片。体部は内彎して立ち上がり，口縁部は外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面ヘラ磨き，内面ナデ。	砂粒・長石 にぶい橙色 普通	P4070 30% P L42 中央部覆土下層
第22図 11	甕 土師器	A [19.5] B 24.5 C [9.6]	底部から口縁部にかけての破片。無底式。体部は外横して立ち上がり，口縁部は外反する。	体部外面ヘラ削り，内面ナデ。口縁部内・外面横ナデ。	砂粒・雲母・長石・赤色粒子 にぶい黄橙色　普通	P4071 15% 床面
第23図 12	提瓶 須恵器	A [8.2] B (20.0)	体部から口縁部にかけての破片。体部は内彎して立ち上がる。頸部から口縁部は外横して立ち上がる。	口縁部内・外面ロクロナデ。体部外面カキ目，内面ナデ。	砂粒・長石 黄灰色 普通	P4072 40% P L43 南部覆土中層

② 奈良・平安時代

第405号住居跡（第24図）

位置 調査4区の東部，J11e0区。

規模と平面形 長軸3.05m，短軸2.94mの方形である。

主軸方向 N－98°－E

壁 壁高は5～11cmで，外傾して立ち上がる。

床 ほぼ平坦で，中央部が特に踏み固められている。

竈 東壁中央やや南寄りを壁外に60cmほど掘り込み，砂質粘土で構築されている。規模は，焚口部から煙道部まで70cm，両袖部幅約65cmである。火床部は，床面をわずかに掘りくぼめており，焼土粒子が多量に検出され赤変硬化している。火床面から赤く焼けた石製支脚が立位の状態で出土している。煙道は，火床面から緩やかに立ち上がる。

竈土層解説

1 黒褐色 粘土粒子中量，焼土粒子・炭化粒子少量
2 黒褐色 粘土小ブロック・焼土粒子少量
3 黒褐色 粘土小ブロック中量，焼土粒子少量
4 褐色 ローム大ブロック・焼土粒子中量
5 暗赤褐色 焼土粒子・粘土粒子多量，炭化粒子微量
6 暗赤灰色 焼土粒子・炭化粒子・粘土粒子少量，焼土小ブロック微量

覆土 9層からなり，自然堆積である。

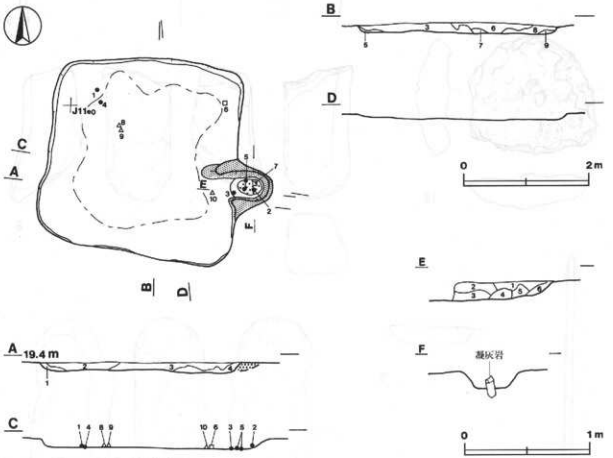
土層解説

1 暗褐色 ローム粒子中量
2 暗褐色 ローム大ブロック・砂の塊少量，炭化粒子微量
3 暗褐色 ローム粒子少量，焼土粒子微量
4 暗褐色 ローム粒子少量，炭化物・炭化粒子・焼土粒子微量
5 黒褐色 ローム粒子中量，焼土粒子・炭化粒子微量
6 黒褐色 ローム小ブロック少量，焼土粒子・炭化粒子微量

7　黒褐色　ローム小ブロック微量
8　暗褐色　ローム中ブロック少量，炭化物・炭化粒子・焼土粒子微量
9　暗褐色　ローム小ブロック・ローム粒子中量

遺物　土師器片223点，須恵器片18点，砥石１点，石製支脚１点，鉄製品２点（鉄鎌・刀子），鉄滓１点，礫10点が出土している。第25図１の土師器高台付坏，４の土師器高台付椀は北西コーナー付近の床面から正位・横位の状態で出土している。２の土師器高台付坏は竈の火床面から正位の状態で出土し，内面は火熱を受け赤変している。３の土師器高台付坏，５の土師器甕は竈の覆土下層から出土している。６の砥石は北東コーナー部の床面から出土している。７の砥石転用の石製支脚は，竈の火床面から立位の状態で出土している。８の鉄鎌，９の刀子は中央部の床面から出土している。10の椀状滓は竈前面の覆土下層から出土している。

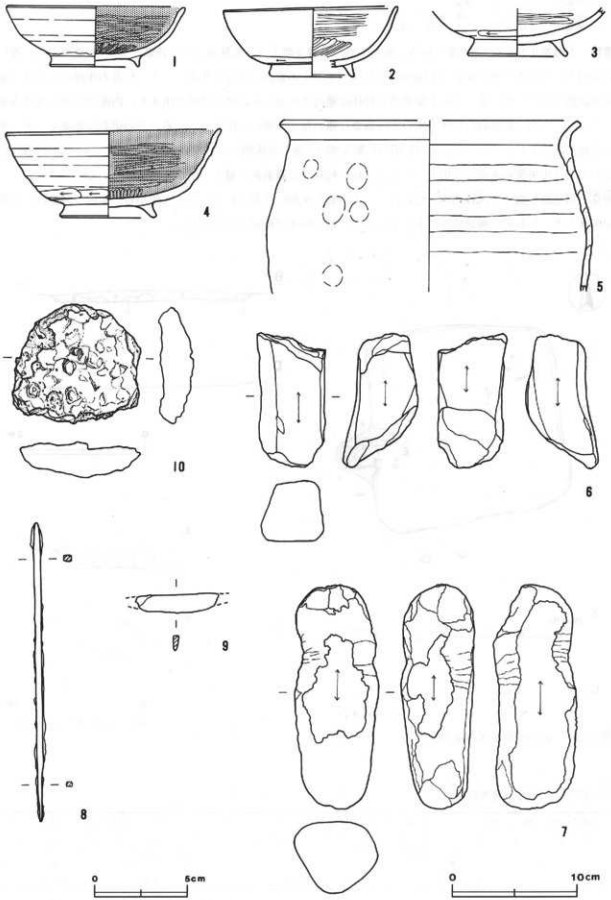
所見　須恵器が細片で流れ込みと思われることや竈が東側に付設されていること等から，本跡の時期は，10世紀前葉と考えられる。椀状滓が出土しているが，鍛冶炉等は確認されていない。



第24図　第405号住居跡実測図

第405号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第25図 1	高台付坏 土師器	A 14.3 B 4.8 D 7.2 E 0.8	完形。高台は短く「ハ」の字状に開く。体部は内彎して立ち上がる。	口縁部・体部外面ロクロナデ，内面ヘラ磨き。底部回転ヘラ削り後ナデ。高台貼り付け後ナデ。内面黒色処理。	砂粒・雲母・長石・赤色粒子 にぶい褐色 普通	P 4005　100% P L 43 北西コーナー付近床面



第25図　第405号住居跡出土遺物実測図

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第25図 2	高台付坏 土師器	A 13.8 B 5.7 D 6.6 E 1.1	高台部・口縁部一部欠損。高台は「ハ」の字状に開く。体部は内彎して立ち上がる。	口縁部・体部外面横ナデ，内面ヘラ磨き。底部回転ヘラ削り後ナデ。高台貼り付け後ナデ。	砂粒・雲母・長石によい橙色 普通	P4006 90% P L 43 竈火床面
3	高台付坏 土師器	B (3.8) D 7.8 E 1.3	高台から体部にかけての破片。高台は「ハ」の字状に開く。体部は内彎して立ち上がる。	体部内面ヘラ磨き。底部回転ヘラ削り後ナデ。高台貼り付け後ナデ。	砂粒・雲母 によい橙色 普通	P4007 60% 覆土下層
4	高台付椀 土師器	A 16.9 B 7.0 D 7.2 E 1.2	口縁部一部欠損。高台「ハ」の字状に開く。体部は内彎して立ち上がる。	口縁部・体部外面ロクロナデ，内面ヘラ磨き。底部回転ヘラ削り後ナデ。高台貼り付け後ナデ。内面黒色処理。	砂粒・雲母・長石 によい黄褐色 普通	P4008 95% P L 43 北西コーナー付近床面
5	甕 土師器	A [23.5] B (13.5)	体部から口縁部にかけての破片。体部は内彎して立ち上がりる。頸部はくびれ，口縁部は外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面指頭痕，内面輪積み痕。	砂粒・雲母・長石・赤色粒子 によい黄橙色　普通	P4009 10% 覆土下層

図版番号	種別	計測値 長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(mm)	重量(g)	石質	出土地点	備考
第25図6	砥石	(10.6)	5.6	6.0	(250.0)	安山岩	北東コーナー部床面	Q4001　P L 43
7	支脚	17.8	6.6	5.7	920.0	凝灰岩	竈火床面	Q4002　P L 43
8	鉄鏃	15.9	0.4	0.3	10.0	−	中央部床面	M4001　P L 43
9	刀子	(4.4)	0.9	0.3	(3.54)	−	中央部床面	M4002
10	棒状滓	(9.1)	9.6	2.8	(380.0)	−	竈前面の覆土下層	M4003　P L 43

第406号住居跡（第26図）

位置　調査4区の東部，J11f8区。

規模と平面形　長軸3.50m，短軸2.96mの長方形である。

主軸方向　N−23°−E

壁　壁高は2〜8cmで，外傾して立ち上がる。

床　ほぼ平坦で，貯蔵穴から竈前面にかけての中央部に高まりが見られ，よく踏み固められている。

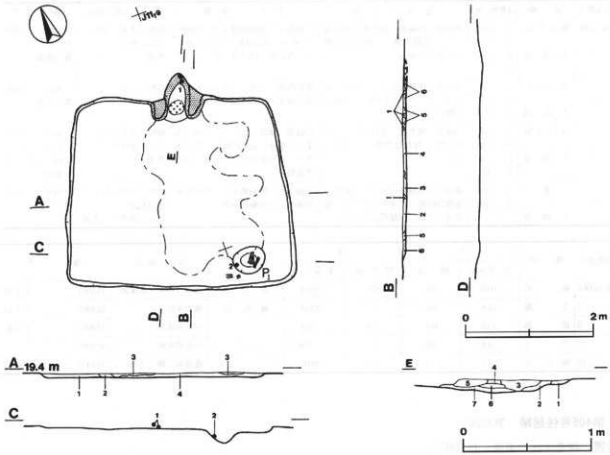
竈　北壁中央を壁外に40cmほど掘り込み，多量の砂を含んだ砂質粘土で構築されている。規模は，焚口部から煙道部まで78cm，両袖部幅83cmである。火床部は，床面をわずかに掘りくぼめており，赤変硬化している。袖部は良好に遺存しており，竈東袖内壁から中央部にかけて特に赤変硬化している。煙道は，火床面から緩やかに立ち上がる。

竈土層解説
1　極暗褐色　ローム粒子・焼土粒子少量
2　黒褐色　焼土小ブロック・焼土粒子・炭化粒子少量，焼土中ブロック微量
3　暗赤褐色　焼土粒子中量，焼土小ブロック・焼土小ブロック・砂質粘土小ブロック・炭化粒子少量
4　にぶい赤褐色　焼土粒子多量，焼土小ブロック少量，焼土中ブロック微量
5　黒褐色　焼土小ブロック・砂質粘土小ブロック・焼土粒子・炭化粒子少量
6　にぶい赤褐色　焼土粒子多量
7　黒色　炭化粒子・砂質粘土粒子中量，焼土粒子微量

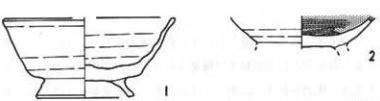
ピット　1か所。P1は南東コーナー部で確認され，長径53cm，短径40cmの楕円形で，深さ22cmである。覆土中から多量の炭化材が出土している。

覆土　6層からなる。ブロック状の堆積をしていることから，人為堆積と考えられる。

土層解説
1　褐色　ローム粒子多量，焼土粒子・炭化粒子微量
2　褐色　ローム粒子中量，炭化粒子微量
3　暗褐色　炭化粒子中量，焼土粒子微量
4　褐色　ローム粒子中量，炭化粒子微量
5　暗褐色　ローム粒子中量，焼土粒子・炭化粒子微量
6　暗褐色　ローム粒子少量，焼土粒子・炭化粒子微量



第26図　第406号住居跡実測図



第27図　第406号住居跡出土遺物実測図

遺物　土師器片69点，須恵器片７点，不明鉄製品１点（細片），炭化材が出土している。第27図１の土師器高台付坏は竈煙道部の底面から，２の土師器高台付坏はP1の覆土中層からそれぞれ出土している。

所見　本跡の時期は，出土土器から判断して９世紀後葉と考えられる。

第406号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第27図 1	高台付坏 土師器	A [13.4] B 6.2 D 7.6 E 1.5	体部・口縁部一部欠損。高台は「ハ」の字状に開く。体部は内彎して立ち上がる。口縁部はわずかに外反する。	口縁部，体部内・外面ロクロナデ。底部回転ヘラ削り。高台貼り付け後ナデ。	砂粒・雲母・長石 にぶい橙色 普通	P4010　70% PL43 竈煙道部底面
2	高台付坏 土師器	B (2.3)	底部から体部にかけての破片。平底。体部は内彎して立ち上がる。	体部外面ロクロナデ，内面ヘラ磨き。底部回転ヘラ切り後ヘラナデ。内面黒色処理。	砂粒・雲母・長石 橙色 普通	P4011　30% P1覆土中層

第408号住居跡（第28図）

位置　調査4区の東部，J11b9区。

重複関係　本跡は第23号溝に掘り込まれている。

規模と平面形　長軸3.55m，短軸3.10mの長方形である。

主軸方向　N－106°－E

壁　壁高は4～10cmで，外傾して立ち上がる。

床　ほぼ平坦で，中央付近から竈にかけてよく踏み固められている。

竈　東壁中央やや南寄りを壁外に42cmほど掘り込み，，砂質粘土で構築されている。規模は，焚口部から煙道部まで60cm，両袖部幅85cmである。火床部は，床面を4cm掘りくぼめており，赤変硬化している。天井部は崩落しており，第1・2層には粘土粒子やブロックが多く含まれてることから崩落土と考えられる。袖部は南側のみ遺存しており，内壁は赤変硬化している。煙道は，火床面から緩やかに立ち上がる。

竈土層解説
1　黒　褐　色　粘土粒子中量，焼土粒子少量
2　にぶい褐色　粘土大ブロック多量
3　暗赤褐色　粘土大ブロック・炭化粒子少量，焼土小ブロック微量
4　暗赤褐色　粘土中ブロック・焼土粒子少量，炭化粒子微量
5　暗赤褐色　焼土粒子多量，焼土中ブロック中量，炭化粒子微量

貯蔵穴　西壁際の中央やや南寄りに確認され，径65cmの円形で，深さ34cmである。

覆土　7層からなる。1層は壁からの流れ込みであるが，2～7層はブロック状の堆積をしていることから，人為堆積と考えられる。

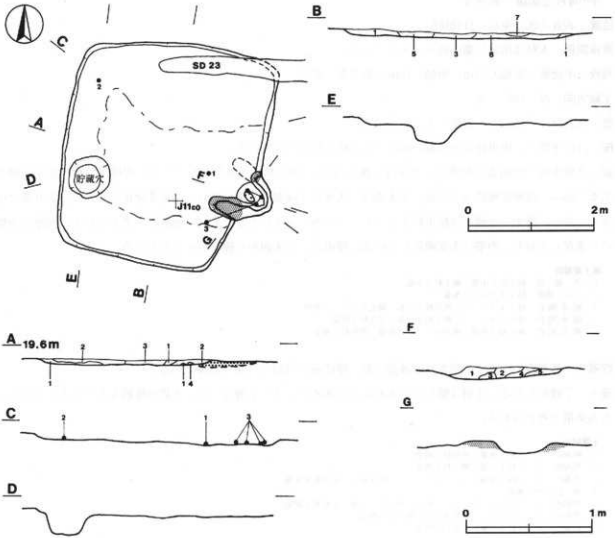
土層解説
1　暗褐色　ローム粒子多量，炭化粒子微量
2　黒褐色　ローム粒子中量，焼土粒子微量
3　黒褐色　ローム粒子中量，ローム中ブロック・焼土粒子・炭化粒子少量
4　褐　色　砂粒多量
5　黒褐色　ローム中ブロック・ローム粒子・焼土粒子少量，炭化粒子微量
6　黒褐色　ローム大ブロック・粒子中量，焼土粒子微量
7　暗褐色　ローム粒子少量，炭化粒子微量

遺物　土師器片69点，須恵器片6点，礫5点が出土している。第29図1の土師器坏は竈前の床面から正位の状態で，2の土師器皿は北西コーナー部の覆土下層から出土している。3の土師器甕は，竈の底面から出土した破片と竈南側の床面から出土した破片が接合したものである。

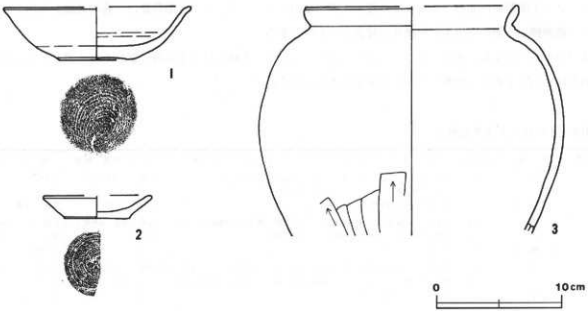
所見　須恵器の出土量は極めて少なく，細片であることから，本跡に伴う須恵器は無いものと思われる。本跡の時期は，出土土器から判断して10世紀前葉と考えられる。

第408号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第29図 1	坏 土師器	A [14.7] B 4.1 C 6.0	体部・口縁部一部欠損。平底。体部は内彎気味に立ち上がり，口縁部はわずかに外反する。	口縁部，体部内・外面ロクロナデ。底部回転糸切り。	砂粒・雲母・長石・赤色粒子 橙色　普通	P4017　60% P L44 竈前の床面
2	皿 土師器	A [8.4] B 1.8 C 5.2	底部から口縁部にかけての破片。平底。体部から口縁部は外傾して立ち上がる。	口縁部，体部内・外面ロクロナデ。底部回転糸切り。	砂粒・雲母・赤色粒子 橙色 普通	P4018　30% 北西コーナー部覆土下層
3	甕 土師器	A [16.6] B (18.0)	体部から口縁部にかけての破片。体部は内彎して立ち上がる。頸部は「く」の字状にくびれ，口縁部は外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面縦方向のヘラ削り，内面ヘラナデ。	砂粒・長石 にぶい橙色 普通	P4019　30% P L44 竈底面



第28図　第408号住居跡実測図



第29図　第408号住居跡出土遺物実測図

第409号住居跡（第30図）

位置　調査４区の東部，J11a8区。

重複関係　本跡が第411号住居跡の南部を掘り込んでいる。本跡は北西コーナー部を第260号土坑に掘り込まれている。

規模と平面形　長軸3.02m，短軸2.58mの不整長方形である。

主軸方向　N－106°－E

壁　壁高は８～12cmで，外傾して立ち上がる。

床　ほぼ平坦で，中央付近がよく踏み固められている。中央部に炭化材がみられる。

竈　東壁中央部を壁外に37cmほど掘り込み，砂質粘土で構築されている。規模は，焚口部から煙道部まで97cm，両袖部幅92cmである。火床部は，床面を６cm程掘りくぼめており，赤変硬化している。天井部は崩落しており，第１層には粘土粒子が多量に含まれていることから崩落土と考えられる。袖部の補強材として内側には雲母片岩が使用されている。煙道は，火床面から緩やかに立ち上がる。

竈土層解説
1　黒　褐　色　粘土粒子・焼土粒子多量
2　赤　黒　色　炭化粒子中量，焼土粒子・粘土粒子少量，炭化物微量
3　極暗赤褐色　焼土粒子・粘土粒子少量，焼土大ブロック微量
4　黒　褐　色　炭化粒子中量，焼土粒子少量，焼土中ブロック・粘土粒子微量

貯蔵穴　南西コーナー部で確認され，径62cmの円形で，深さ39cmである。

貯蔵穴土層解説
1　黒褐色　ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量
2　黒褐色　ローム粒子少量，炭化粒子微量
3　黒褐色　ローム粒子・炭化粒子微量
4　黒褐色　ローム粒子少量，ローム大ブロック微量

覆土　３層からなる。焼土粒子や炭化粒子を含んでいることから，人為堆積と考えられる。

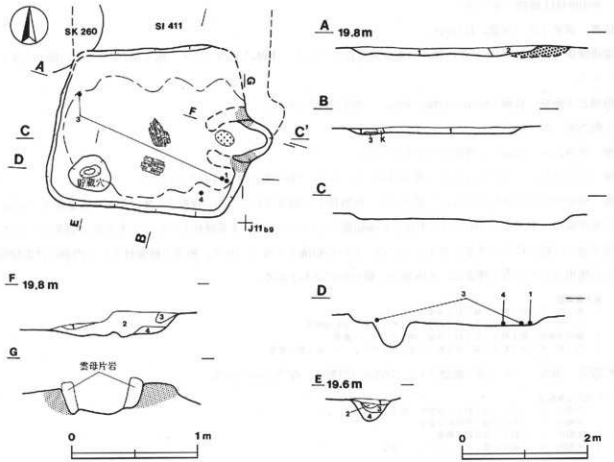
土層解説
1　暗褐色　ローム粒子中量，ローム小ブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
2　黒　色　焼土粒子・炭化粒子微量
3　黒褐色　炭化粒子中量，焼土粒子少量，焼土中ブロック微量

遺物　土師器片226点，須恵器片12点，砥石１点，礫６点が出土している。第31図１の土師器坏は竈南側の覆土下層から出土している。２の土師器高台付坏は竈北袖の上から出土している。３の土師器高台付坏は竈南側と西壁際の覆土下層から出土した破片が接合したものである。４の土師器皿は南東コーナー部の床面から正位の状態で出土している。５の砥石は覆土中から出土している。須恵器片は流れ込みと考えられる。

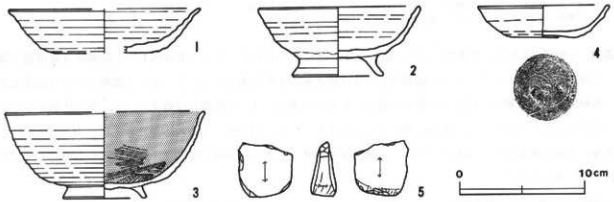
所見　床面に炭化材がみられることから，焼失家屋と考えられる。本跡の時期は，出土土器から判断して10世紀中葉と考えられる。

第409号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器　種	計測値（cm）	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備　考
第31図 1	坏 土師器	A［15.2］ B　3.4 C［7.8］	底部から口縁部にかけての破片。平底。体部は外傾して立ち上がり，口縁部はわずかに外反する。	口縁部から体部内・外面ロクロナデ。底部回転ヘラ削り後ナデ。	砂粒・雲母・赤色粒子に多い　黄橙色 普通	P4020　30% 竈南側覆土下層
2	高台付坏 土師器	A　12.7 B　5.5 D　7.0 E　1.7	体部・口縁部一部欠損。高台は「ハ」の字状に開く。体部から口縁部は内彎して立ち上がる。	口縁部から体部内・外面ロクロナデ。底部回転ヘラ切り後ナデ。高台貼り付け後ナデ。	砂粒・長石・赤色粒子 橙色 普通	P4021　75% P L44 竈北袖上
3	高台付坏 土師器	A［15.6］ B　6.8 D　6.4 E　1.0	体部・口縁部一部欠損。高台は「ハ」の字状に開く。体部は内彎して立ち上がる。口縁部はわずかに外反する。	口縁部から体部外面ロクロナデ。内面ヘラ磨き。底部回転ヘラ切り後ナデ。高台貼り付け後ナデ。内面黒色処理。	砂粒・雲母・赤色粒子に多い　黄橙色 普通	P4022　50% P L44 覆土下層



第30図　第409号住居跡実測図



第31図　第409号住居跡出土遺物実測図

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第31図 4	皿 土師器	A 10.2 B 2.6 C 5.2	完形。平底。体部から口縁部は内彎気味に立ち上がる。	口縁部から体部内・外面ロクロナデ。底部回転糸切り。	砂粒・雲母・長石にぶい橙色 普通	P.4023　100% P L 44　南東コーナー部床面

図版番号	種別	計測値				石質	出土地点	備考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)			
第31図5	砥石	(4.3)	4.3	2.0	(30)	砂岩	覆土中	Q.4003　P L 44

第410号住居跡（第32図）

位置　調査４区の東部，J11j9区。

規模と平面形　覆土が薄く床質から規模等を判断した。長軸［3.30］m，短軸［2.70］mの長方形と推定される。

主軸方向　N－90°－E

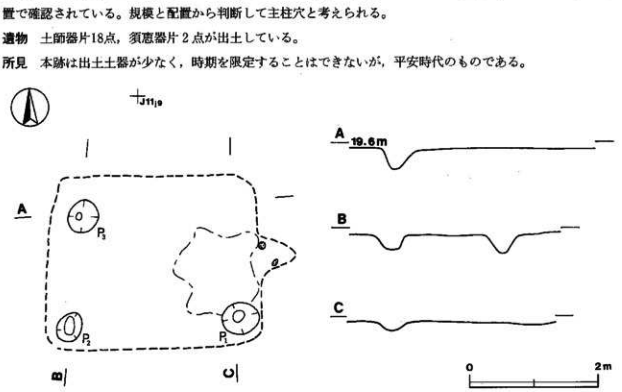
床　ほぼ平坦で，竈付近がよく踏み固められている。

竈　床面の東部に煙道部と思われる部分がわずかに遺存しており，焼土も確認できた。

ピット　３か所（P1～P3）。P1～P3は径43～56cmの円形で，深さ14～33cmであり，各コーナーに寄った位置で確認されている。規模と配置から判断して主柱穴と考えられる。

遺物　土師器片18点，須恵器片２点が出土している。

所見　本跡は出土土器が少なく，時期を限定することはできないが，平安時代のものである。



第32図　第410号住居跡実測図

第411号住居跡（第33図）

位置　調査４区の東部，J11a8区。

重複関係　南半部が第409号住居に，西部が第260号土坑に掘り込まれている。

規模と平面形　覆土が薄く床質から規模等を判断した。長軸［3.20］m，短軸［3.07］mの方形と推定される。

主軸方向　N－95°－E

床　凹凸があり，中央部から北部にかけて硬化している。北壁付近に焼土塊がみられる。

竈　東壁の中央やや南寄り構築されている。遺存状況が悪く規模は確認できなかった。袖部に補強材として緑母片岩が使用されている。

竈土層解説
1　黒褐色　粘土粒子中量，焼土粒子・炭化粒子少量

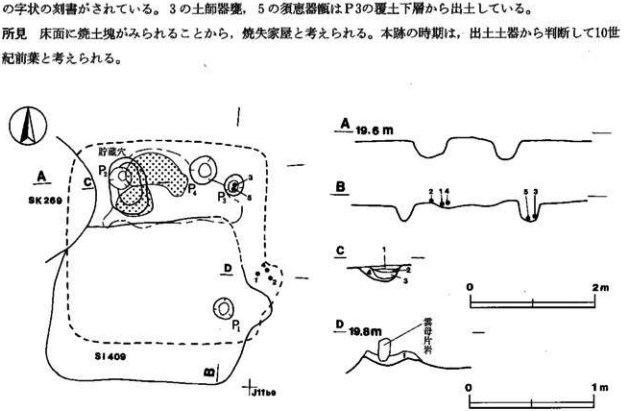
ピット　４か所（P1～P4）。P1～P3は径30～35cmの円形で，深さ25～34cmであり，各コーナーに寄った位置で確認されている。規模と配置から判断して主柱穴と考えられる。P4は径45cmで，深さ33cmである。性格は不明である。

貯蔵穴　北西コーナーで確認された。長軸90cm，短軸67cmの楕円形で，深さ28cmである。

貯蔵穴土層解説
1　黒褐色　ローム粒子・炭化粒子少量，ローム小ブロック・焼土粒子微量
2　黒褐色　炭化粒子多量，ローム粒子・焼土粒子少量
3　黒褐色　炭化粒子多量，ローム粒子少量，焼土粒子微量
4　褐　色　ローム粒子多量，炭化粒子微量

遺物　土師器片42点，須恵器片１点が出土している。第34図１の土師器高台付坏は竈確認面から，２の皿は東壁の床面からそれぞれ横位の状態で出土している。４の小形鉢は竈確認面から逆位の状態で出土し，外面に「サ」の字状の刻書がされている。３の土師器甕，５の須恵器甑はP3の覆土下層から出土している。

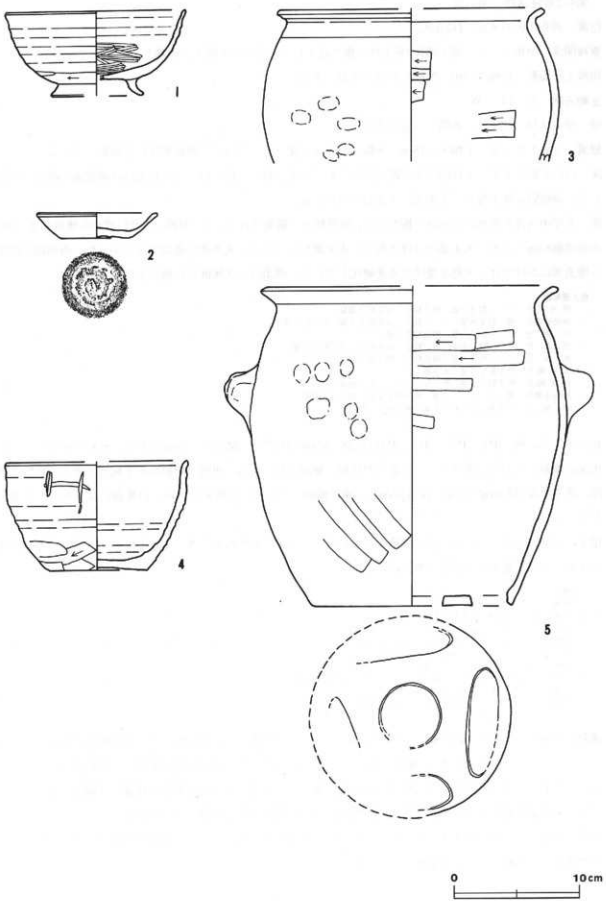
所見　床面に焼土塊がみられることから，焼失家屋と考えられる。本跡の時期は，出土土器から判断して10世紀前葉と考えられる。



第33図　第411号住居跡実測図

第411号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第34図 1	高台付坏 土師器	A 14.2 B 6.6 D [7.1] E 1.4	高台部・口縁部一部欠損。高台は「ハ」の字状に開く。体部から口縁部は内彎して立ち上がる。	口縁部・体部外面ロクロナデ，内面ヘラ磨き。底部回転ヘラ削り後ナデ。高台貼り付け後ナデ。	砂粒・雲母・赤色粒子 橙色 普通	P 4024　80% P L 44 竈確認面
2	皿 土師器	A 9.6 B 2.0 C 5.4	完形。平底。体部から口縁部は外傾して立ち上がる。	口縁部から体部内・外面ロクロナデ。底部回転ヘラ切り。	砂粒・雲母・長石・赤色粒子 橙色　普通	P 4025　100% P L 44 東壁床面
3	甕 土師器	A [21.2] B (12.0)	体部から口縁部にかけての破片。体部は内彎して立ち上がる。頸部は「く」の字状にくびれ，口縁部は外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面指頭痕，内面ヘラナデ。	砂粒・雲母・長石・赤色粒子 にぶい褐色 普通	P 4027　10% P 3 覆土下層
4	小鉢 土師器	A [14.3] B 8.6 C 7.8	体部・口縁部一部欠損。平底。体部は内彎気味に立ち上がり，口縁部はわずかに外反する。	口縁部，体部内・外面ロクロナデ。底部回転ヘラ削り後ナデ。体部外面上位に「サ」の字状の刻書。	砂粒・雲母・長石・パミス にぶい黄褐色　普通	P 4026　70% P L 44 竈確認面
5	甑 須恵器	A [22.6] B 25.3 C 15.8	底部から口縁部にかけての破片。多孔式。体部は内彎して立ち上がる。頸部でくびれ，口縁部は外反する。体部上位に把手が付く。	口縁部内・外面ロクロナデ。体部外面上位に指頭痕，下位はヘラ削り後ナデ。体部内面ヘラナデ。	砂粒・雲母・長石 にぶい黄橙色 普通	P 4028　30% P L 45 P 3 覆土下層



第34図　第411号住居跡出土遺物実測図

第412号住居跡（第35図）

位置　調査4区の東部，I12j1区。

重複関係　南東コーナー部が第269号土坑に掘り込まれているが，床面までは達していない。

規模と平面形　長軸3.35m，短軸3.21mの方形である。

主軸方向　N－14°－W

壁　壁高は18～40cmで，外傾して立ち上がる。

壁溝　全周している。上幅8～15cm，下幅4～8cm，深さ6～12cmで，断面形はU字形をしている。

床　ほぼ平坦である。全体的によく踏み固められている。特に，出入口ピット付近には硬化面の高まりが見られる。南壁際に焼土塊が，北東部に炭化材がみられる。

竈　北壁中央部を壁外に37cmほど掘り込み，砂質粘土で構築されている。規模は，焚口部から煙道部まで96cm，両袖部幅83cmである。火床部はほぼ平坦で，赤変硬化している。天井部は確認できなかった。西袖部の内壁から煙道部にかけては，火熱を受けて赤変硬化している。煙道は，火床面から緩やかに立ち上がる。

竈土層解説
1　暗赤褐色　ローム粒子少量，焼土粒子・炭化粒子微量
2　極暗赤褐色　焼土粒子中量，ローム粒子・炭化粒子少量，粘土粒子微量
3　暗　褐　色　ローム粒子中量，焼土粒子少量
4　黒　褐　色　ローム粒子中量，焼土粒子・炭化粒子・粘土粒子少量
5　暗　褐　色　ローム粒子多量，炭化粒子・粘土粒子少量
6　暗赤褐色　焼土粒子中量，灰少量
7　暗赤褐色　炭化粒子少量，焼土小ブロック・粒子微量
8　極暗赤褐色　焼土小ブロック中量，焼土粒子少量，炭化粒子微量
9　暗　褐　色　灰多量，炭化粒子中量，焼土粒子少量

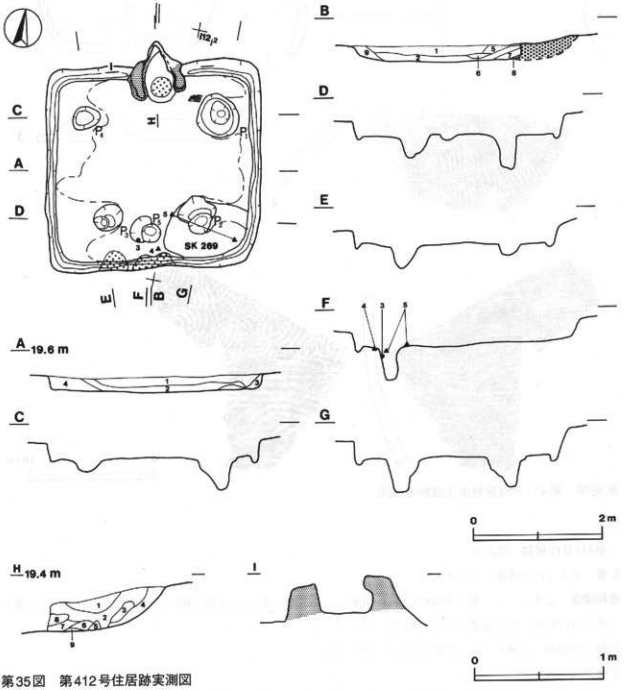
ピット　5か所（P1～P5）。P1～P4は径38～65cmの円形で，深さ21～55cmである。それぞれのピットが中央部に傾斜しており，各コーナーに寄った位置で確認されている。規模と配置から主柱穴と考えられる。南壁際にあるP5は径30cmの円形，深さ57cmで，南に傾斜している。位置的に出入り口施設に伴うピットと考えられる。

覆土　9層からなり，レンズ状の堆積をしていることから，自然堆積と考えられる。7・8層には砂粒や灰が含まれており，竈からの流れと考えられる。

土層解説
1　暗褐色　ローム粒子中量，ローム中ブロック少量，炭化粒子微量
2　黒褐色　ローム粒子・炭化粒子少量
3　褐　色　ローム粒子中量，ローム中ブロック少量
4　暗褐色　ローム粒子多量，焼土粒子・炭化粒子微量
5　褐　色　ローム小ブロック少量，炭化粒子微量
6　暗褐色　焼土粒子多量，炭化粒子微量
7　暗褐色　砂粒中量，焼土粒子少量，焼土中ブロック・炭化粒子微量
8　黒褐色　灰・炭化粒子多量，焼土粒子少量
9　黒褐色　焼土小ブロック・焼土粒子・炭化粒子微量

遺物　土師器片174点，須恵器片7点が出土している。第36図1の土師器甕，2の須恵器坏は覆土中から出土している。3の須恵器蓋はP5の覆土上層から出土している。4の土師器甕の体部片は南壁中央部の床面から出土しており，外面に縦位の平行叩きと区画文が施されている。5の須恵器甕の体部片は覆土下層から出土しており，外面に横位の平行叩きが施され，内面には同心円状の当て具痕が認められる。

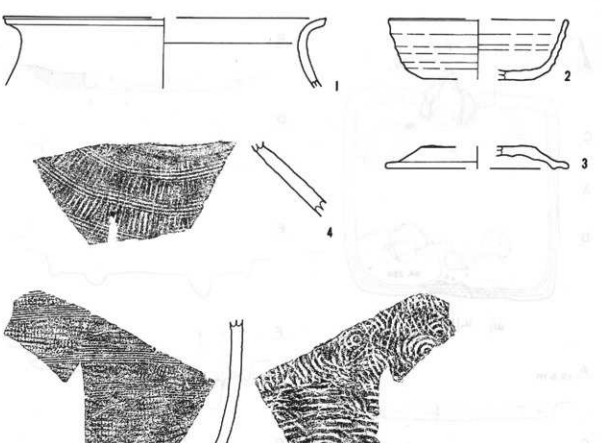
所見　床面に炭化材と焼土塊がみられることから，焼失家屋と考えられる。本跡の時期は，出土土器と住居跡の形状等から判断して8世紀前葉と考えられる。



第35図　第412号住居跡実測図

第412号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第36図 1	甕 土師器	A [25.8] B (5.6)	頸部から口縁部にかけての破片。頸部はくびれ、口縁部は外反する。	口縁部内・外面横ナデ。	砂粒・雲母・長石 褐色 普通	P 4029 5% 覆土中
2	坏 須恵器	A [14.1] B 4.8 C [8.6]	底部から口縁部にかけての破片。平底。体部から口縁部は外傾して立ち上がる。	口縁部から体部内・外面ロクロナデ。底部回転ヘラ削り後ナデ。	砂粒・長石 灰色 普通	P 4030 20% 覆土中
3	壺 須恵器	A [14.6] B (1.8)	天井部・口縁部片。天井部は笠形状を呈する。口縁部内面に短いかえりが付く。	口縁部内・外面ロクロナデ。天井部 回転ヘラ削り後ナデ。	砂粒・雲母・長石 灰黄褐色 普通	P 4031 20% P 5 覆土上層



第36図　第412号住居跡出土遺物実測図

第415号住居跡（第37図）

位置　調査4区の東部，I11e9区。

重複関係　北東コーナー部が第268号土坑，南東コーナー部が第273号土坑に掘り込まれている。さらに，第16号掘立柱建物跡に竈煙道部と床面を掘り込まれている。

規模と平面形　長軸3.51m，短軸3.47mの方形である。

主軸方向　N－0°

壁　覆土が薄く，西部と南部・東部の一部で確認されるのみである。壁高は約4cmである。

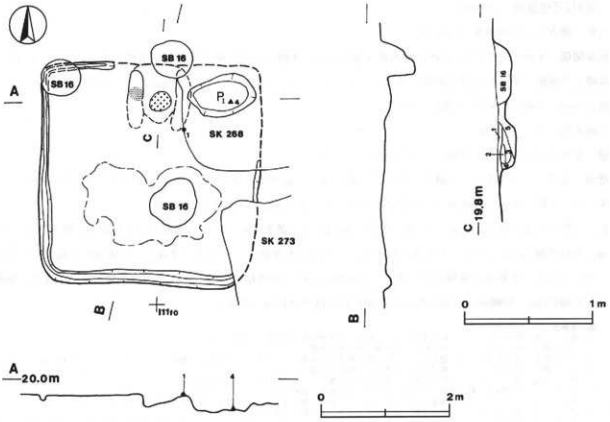
壁溝　確認した壁下すべてに巡っている。上幅10～18cm，下幅7cm，深さ8cmで，断面形はU字形をしている。

床　中央部分にやや高まりが見られ，よく踏み固められている。

竈　北壁中央部に，砂質粘土で構築されている。遺存状況は悪く，煙道部は第16号掘立柱建物跡に掘り込まれている。火床部は床面を16cmほど掘りくぼめており，赤変硬化している。

竈土層解説

1　暗赤褐色　焼土粒子中量，ローム粒子・粘土小ブロック微量
2　褐　色　ローム粒子多量
3　黒 褐 色　ローム粒子・焼土粒子少量，焼土小ブロック微量
4　暗赤褐色　砂粒少量，焼土粒子微量
5　暗赤褐色　粘土中ブロック・焼土粒子中量，焼土小ブロック少量，焼土大ブロック微量

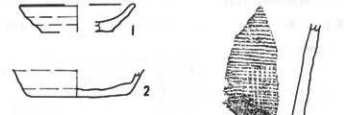


第37図　第415号住居跡実測図

ピット　1か所。P1は第268号土坑の底面で確認された。規模は長径107cm，短径64cmの楕円形で，深さは床面から30cmである。覆土に焼土粒子や炭化粒子が含まれていることから，灰溜ではないかと考えられる。

遺物　土師器片43点，須恵器片6点，陶器片1点が出土している。第38図1の土師器皿は確認面から，2・3の須恵器坏は覆土中から，それぞれ出土している。4の須恵器甕体部片はP1の底面から出土しており，外面に横位の平行叩きが施されている。陶器片は耕作による混入と考えられる。

所見　本跡の時期は，出土土器から判断して8世紀中葉と考えられる。



第38図　第415号住居跡出土遺物実測図

第415号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第38図 1	皿 土師器	A［9.0］ B 2.2 C［5.6］	底部から口縁部にかけての破片。平底。体部は外傾して立ち上がる。	口縁部から体部内・外面ロクロナデ。底部回転糸切り。	砂粒・赤色粒子 橙色 普通	P 4032 確認面 30%
2	坏 須恵器	B（2.2） C 8.2	底部から体部にかけての破片。平底。体部は外傾して立ち上がる。	体部内・外面ロクロナデ。底部回転ヘラ切り後ヘラナデ。	砂粒・雲母・長石 灰黄色 普通	P 4033 覆土中 40%
3	坏 須恵器	B（3.1） C［8.2］	底部から体部にかけての破片。平底。体部は外傾して立ち上がる。	体部内・外面ロクロナデ。体部下端ヘラ削り。底部一定方向のヘラナデ。	砂粒・雲母 灰色 普通	P 4034 覆土中 10%

第912号住居跡（第39図）

位置　調査４区の南西部，L8b7区。

重複関係　本跡が第911号住居跡の南西部を掘り込み，本跡の南部が第５号道路状遺構に掘り込まれている。

規模と平面形　第５号道路状遺構に掘り込まれているため，平面形は確認できなかった。確認できたのは，長軸4.56m，短軸（2.80）mの範囲である。

主軸方向　N－12°－W

壁　壁高は30cm前後で，外傾して立ち上がっている。

壁溝　北西コーナー部分のみ確認できた。上幅22cm，下幅８cm，深さ12cmである。断面形はU字形である。

床　ほぼ平坦である。竈前面から中央部にかけてよく踏み固められている。

竈　北壁中央部を壁外に148cmほど掘り込み，砂質粘土で構築されている。規模は，焚口部から煙道部まで194cm，両袖部幅140cmである。火床部はわずかにくぼみ，赤変硬化している。煙道は，火床面から緩やかに立ち上がる。なお，東袖部の東側には，北壁から床面にかけて砂質粘土を貼り付けた棚状遺構が確認できた。規模は，長軸160cm，短軸80cmの長方形で，床面からの高さは10cmである。

竈土層解説
1　褐　色　焼土小ブロック・粒子多量，ローム粒子・炭化物中量，炭化粒子少量
2　にぶい橙色　焼土小ブロック・焼土粒子・灰多量，炭化粒子中量
3　暗赤褐色　焼土中ブロック・焼土小ブロック・焼土粒子・灰多量，ローム粒子・炭化粒子中量，ローム小ブロック・炭化物少量
4　にぶい橙色　焼土小ブロック・焼土粒子・灰多量，炭化粒子中量
5　褐　色　焼土小ブロック・粒子多量，炭化粒子・灰中量，ローム小ブロック・粒子少量
6　明　褐　色　焼土粒子・焼土多量，焼土小ブロック・炭化粒子・砂粒中量，ローム粒子少量
7　褐　色　ローム中ブロック多量，ローム大ブロック・砂粒・粘土中量，ローム粒子・焼土小ブロック・焼土粒子少量
8　褐　色　焼土小ブロック・粒子多量，焼土中ブロック・炭化粒子・砂粒中量
9　赤　褐　色　焼土中ブロック・小ブロック・粒子多量，灰中量
10　褐　色　砂粒多量，ローム粒子・焼土中ブロック・焼土小ブロック中量，ローム小ブロック少量
11　暗　褐　色　ローム小ブロック・粒子多量，焼土粒子・炭化粒子中量，焼土小ブロック少量

ピット　６か所（P1～P6）。P1～P4は径48～90cmの円形で，深さ39～66cmであり，各コーナーに寄った位置で確認されている。規模と配置から主柱穴と考えられる。P5・P6は径30cm前後の円形で，深さ55～62cmである。竈両袖脇に位置していることから，性格は不明であるが，竈施設に伴う柱穴である可能性が考えられる。

覆土　６層からなる。ブロック状の堆積状況から，人為堆積と考えられる。

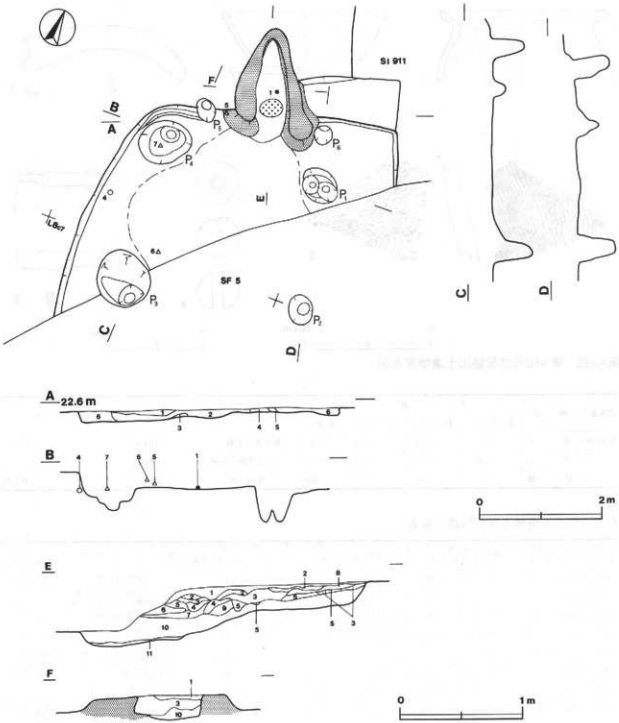
土層解説
1　褐　色　ローム小ブロック・粒子中量，炭化物・炭化粒子・焼土粒子少量
2　褐　色　ローム小ブロック・粒子多量，ローム中ブロック中量，焼土粒子少量
3　暗褐色　ローム小ブロック・粒子中量，炭化物・炭化粒子・焼土粒子少量
4　暗褐色　ローム粒子・炭化物・炭化粒子中量，焼土粒子少量
5　明褐色　ローム中ブロック・粒子多量，ローム小ブロック・炭化粒子中量，焼土小ブロック・粒子少量
6　明褐色　ローム中ブロック・粒子多量，ローム小ブロック・炭化粒子・焼土粒子少量

遺物　土師器片324点，須恵器片93点，土製品１点（土玉），鉄製品３点（刀子２，鎌１），礫１点が出土している。第40図１の土師器小形甕は竈内から，２の須恵器坏は覆土中から出土している。３は須恵器甕体部片で，外面には斜位の平行叩きが施され，内面に同心円状の当て具痕が見られる。４の土玉は西壁際の床面から出土している。５の刀子は竈西袖部の下層から，６の刀子はP3北側の覆土中層から，７の鎌はP4の覆土上層から出土している。

所見　本跡の時期は，出土土器から判断して９世紀中葉と考えられる。

第912号住居跡出土遺物観察表

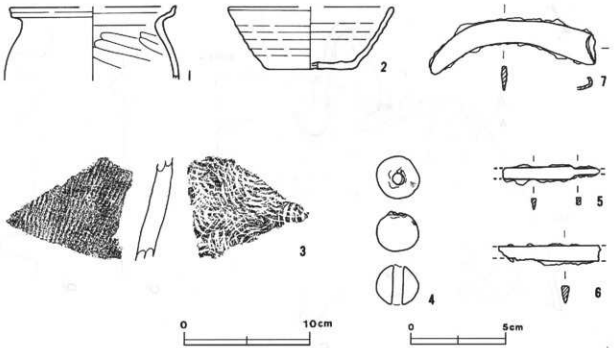
図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第40図 1	小形甕 土師器	A（13.1） B（5.7）	体部から口縁部にかけての破片。体部は内彎して立ち上がる。頸部でくびれ，口縁部は外反する。LJ 唇部は上方につまみ上げられている。	口縁部内・外面横ナデ。体部内面ナデ。	砂粒・雲母・長石 にぶい褐色 普通	P4043 竈内 10%



第39図　第912号住居跡実測図

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第40図2	坏 須恵器	A [13.0] B 4.9 C [6.6]	底部から口縁部にかけての破片。平底。体部から口縁部は外傾して立ち上がる。	体部内・外面ロクロナデ。底部回転ヘラ切り後ナデ。	砂粒・長石・石英 灰色 普通	P 4042　30% 覆土中

図版番号	種別	計測値 径(cm)	長さ(cm)	孔径(cm)	重量(g)	出土地点	備考
第40図4	土玉	2.2	2.1	0.6	8.55	西壁際床面	D P 4003　P L 45



第40図　第912号住居跡出土遺物実測図

図版番号	種別	計測値 長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)	出土地点	備考	
第40図5	刀子	(7.7)	0.9	0.4	(6.35)	竈西袖部下層	M4004	PL45
6	刀子	(5.4)	0.8	0.4	(6.75)	P3北側覆土中層	M4006	
7	鉄鏃	13.0	1.9	0.3	30.0	P4覆土上層	M4005	PL45

表2　熊の山遺跡4区住居跡一覧表

住居跡番号	位置	主軸方向(長軸)	平面形	規模(m)(長軸×短軸)	壁高(cm)	床面	内部施設 横溝	主柱穴	炉入口ピット	ピット	炉・竈	貯蔵穴	覆土	出土遺物	備考 新旧関係(古→新)
401	I11i3	N-4°-W	不明	4.76×(1.88)	2	平坦	一部	2	－	－	－	－	－	土師器(坏・甕)	本跡→SD22
403	J11e0	N-98°-E	方形	3.05×2.94	5~11	平坦	－	－	－	－	竈	－	自然	土師器(高台付坏・甕)，鉄鏃，刀子，石製支脚	
406	J11f8	N-23°-E	長方形	3.50×2.96	2~8	平坦	－	－	－	1	竈	－	人為	土師器(高台付坏)	
407	J11g4	N-8°-W	方形	6.20×(6.18)	10~42	平坦	全周	3	1	－	竈	－	人為	土師器(坏・甕・甑)，勾玉	本跡→SI387
408	J11b9	N-106°-E	長方形	3.55×3.10	4~10	平坦	－	－	－	－	竈	1	人為	土師器(坏・皿・甕)	本跡→SD23
409	J11a8	N-106°-E	不整長方形	3.02×2.58	8~12	平坦	－	－	－	－	竈	1	人為	土師器(坏・皿・高台付坏)，紡石	SI411→本跡→SK260
410	J11j0	N-90°-E	[長方形]	[3.30]×[2.70]	－	平坦	－	3	－	－	竈	－	－	土師器片，須恵器片	
411	J11a8	N-95°-E	[方形]	[3.20]×[3.07]	－	凹凸	－	3	－	1	竈	1	－	土師器(皿・高台付坏・甕・鉢・小形鉢)	本跡→SI409→SK260
412	I12j1	N-14°-W	方形	3.35×3.21	18~40	平坦	全周	4	1	－	竈	－	自然	土師器(甕)，須恵器(坏・蓋・甕)	本跡→SK269
415	I11e9	N-0°	方形	3.51×3.47	4	中央凸	一部	－	－	1	竈	－	－	土師器(皿)，須恵器(坏・甕)	本跡→SK268・273，SI416
416	J11b5	N-77°-E	[長方形]	[4.20]×[3.60]	－	平坦	－	4	1	－	－	－	－	土師器片	
417	I11e7	N-16°-E	[長方形]	[3.90]×[3.50]	3	平坦	－	－	－	1	炉	－	－	土師器片	SK453→本跡
418	I11j4	N-93°-W	方形	5.21×[5.16]	41	平坦	一部	4	1	－	－	－	自然	土師器(坏・甕)，土製支脚	本跡→SD22→SP1
911	L8a8	N-13°-W	不明	4.60×(3.20)	14	平坦	一部	4	－	2	竈	1	人為	土師器(坏・甕)	本跡→SI912・913→SP8
912	L8b7	N-12°-W	不明	4.56×(2.80)	30	平坦	一部	4	－	2	竈	－	人為	土師器(甕)，須恵器(坏)，鎌，刀子	SI911→本跡→SP5
913	K8j7	N-3°-E	[方形]	5.74×[5.30]	20~28	平坦	一部	4	1	3	竈	－	人為	土師器(坏・高坏・鉢)	SI914→SI915→本跡
914	L8a6	－	不明	(3.26)×[2.60]	32	平坦	一部	1	－	－	－	－	人為	土師器(坏・甑)	本跡→SI915→SI913，SK668
915	K8j6	N-2°-E	不明	[3.85]×[1.16]	－	平坦	－	－	－	－	－	－	自然	土師器(高坏・甕・甑)	SI914→本跡→SI913，SK668
916	K8g7	－	不明	(4.30)×(3.22)	36	平坦	一部	2	1	－	－	－	人為	土師器(甕)	本跡→SD43

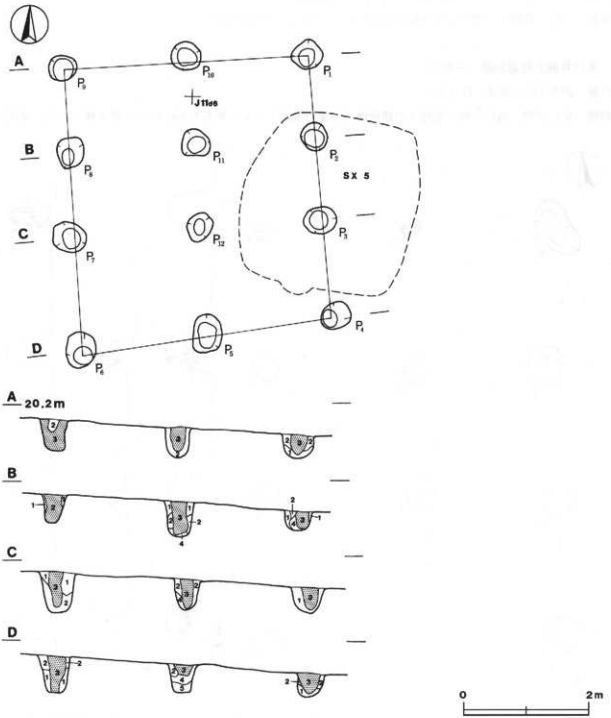
(2) 掘立柱建物跡

第10号掘立柱建物跡（第41図）

位置　調査４区の西部，J11d6区。

重複関係　東部で第５号不明遺構と重複するが，遺存状態が悪く新旧関係は確認できなかった。

規模　梁行２間，桁行３間の総柱式の建物跡で，梁行長4.00m，桁行長4.20mの南北棟である。梁間は2.00m，桁間は1.20m～1.90mである。柱穴の掘り方は，平面形が長径0.50～0.70m，短径0.40～0.60mの円形や楕円形で，深さは40～70cmである。



第41図　第10号掘立柱建物跡実測図

桁行方向　N－3°－W

柱穴覆土　第3層が柱の抜き取り痕である。その他の層はロームブロックが多く含まれ，硬く締まっていることから，埋土と考えられる。

P1～P12土層解説（各柱穴共通）
1　明褐色　ローム中ブロック中量，ローム小ブロック少量
2　暗褐色　ローム小ブロック・粒子中量，ローム中ブロック少量
3　極暗褐色　ローム粒子中量，ローム小ブロック少量
4　暗褐色　ローム中・小ブロック中量，ローム粒子少量
5　極暗褐色　ローム中ブロック・小ブロック・粒子少量

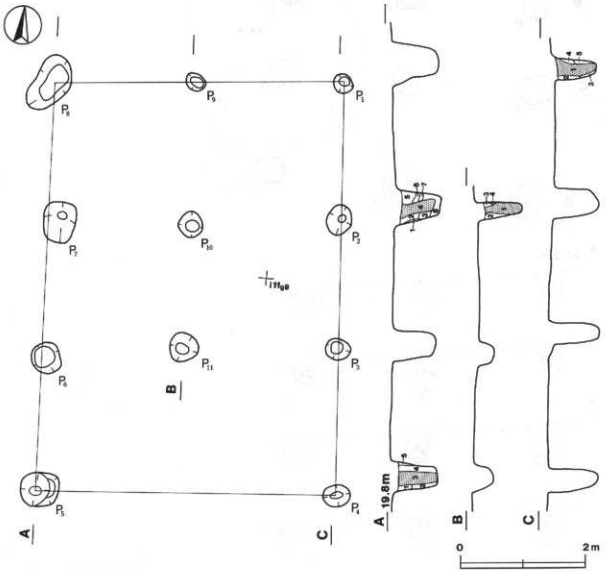
遺物　P2の埋土中から，土師器甕の体部細片4点が出土している。

所見　本跡の時期は，判断できる遺物が出土していないため不明である。

第11号掘立柱建物跡（第42図）

位置　調査4区の北部，I11g8区。

規模　梁行2間，桁行3間の総柱式の建物跡で，梁行長約4.50m，桁行長約6.60mの南北棟である。梁間は



第42図　第11号掘立柱建物跡実測図

2.30m，桁間は2.10～2.40mである。柱穴の掘り方は，平面形が長軸（径）0.45～0.70m，短軸（径）0.40～0.60mの長方形や隅丸長方形，円形で，深さは30～80cmである。

桁行方向　N－3°－W

柱穴覆土　P1・P9の第1層，P5の第3層及びP7の第4層が柱の抜き取り痕である。その他の層は埋土で突き固められている。

P1土層解説
1　暗褐色　ローム粒子少量，ローム大ブロック微量
2　暗褐色　ローム粒子微量
3　暗褐色　ローム粒子少量
4　褐　色　ローム粒子多量
5　黒褐色　ローム粒子少量

P5土層解説
1　黒褐色　ローム粒子少量
2　黒褐色　ローム粒子微量
3　黒褐色　ローム中ブロック・粒子微量
4　黒褐色　ローム粒子少量，ローム小ブロック微量
5　褐　色　ローム粒子多量

P7土層解説
1　褐　色　ローム粒子多量
2　暗褐色　ローム粒子中量
3　褐　色　ローム粒子多量
4　黒褐色　ローム小ブロック・粒子微量
5　黒褐色　ローム粒子中量，ローム小ブロック少量
6　黒褐色　ローム粒子中量
7　黒褐色　ローム粒子中量，ローム小ブロック微量
8　暗褐色　ローム粒子中量

P9土層解説
1　暗褐色　ローム粒子中量
2　褐　色　ローム粒子多量，焼土粒子微量
3　暗褐色　ローム粒子多量，焼土粒子微量
4　褐　色　ローム粒子多量

遺物　土師器片88点及び須恵器片1点が，P6を除く柱穴の埋土及び抜き取り痕から出土している。いずれも細片で，流れ込んだものと考えられる。

所見　本跡の時期は，判断できる遺物が出土していないため不明である。

第16号掘立柱建物跡（第43図）

位置　調査4区の西部，I11e0区。

重複関係　西部で第415号住居跡を掘り込み，東部を第268・273号土坑に掘り込まれている。北部は調査区域外へ延びている。

規模　確認できたのは南北1間，東西2間で，南北約2.50m，東西約3.70mである。柱間は東西1.80～2.20m，南北2.10～2.40mである。柱穴の掘り方は，平面形が径0.40～0.70mの円形で，深さは43～91cmである。

南北方向　N－3°－W

柱穴覆土　いずれの層も突き固められた状況から，埋土と考えられる。柱痕や抜き取り痕は確認されなかった。

P1土層解説
1　褐　色　ローム粒子多量

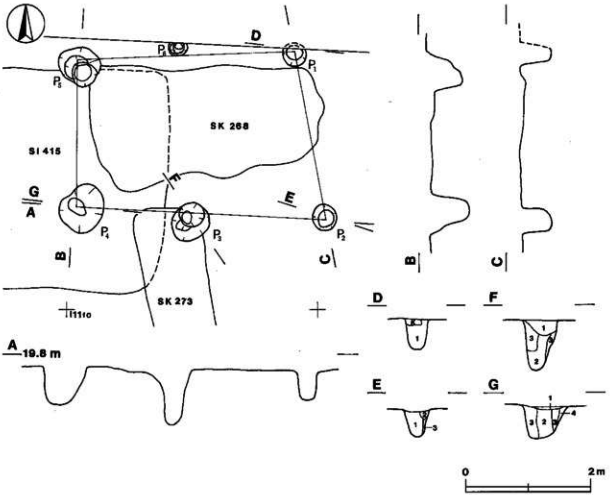
P2土層解説
1　暗褐色　ローム粒子中量
2　褐　色　ローム粒子中量
3　褐　色　ローム粒子多量

P3土層解説
1　褐　色　ローム粒子中量，ローム大ブロック少量
2　暗褐色　ローム粒子多量，ローム小ブロック少量
3　褐　色　ローム粒子多量

P4土層解説
1　灰褐色　ローム粒子中量，焼土粒子少量
2　黒褐色　ローム粒子中量
3　暗褐色　ローム小ブロック・粒子中量
4　暗褐色　ローム粒子中量，ローム中ブロック微量

遺物　出土していない。

所見　時期は，遺物が出土していないため不明である。重複する第415号住居跡が8世紀後半であることから，それ以降と考えられる。



第43図　第16号掘立柱建物跡実測図

第44図　第21号溝土層実測図

(3) 溝

第21号溝（第44・58図）

位置　調査区の中央部，J11b6区～J11b9区。

規模と形状　上幅1.50m，下幅1.10m，深さは最深部で20cmで，断面は浅い「U」字形である。長さは16.00mで直線的に延び，東端部付近で南側に膨らんでいる。

方向　N－85°－E

覆土　4層からなる。レンズ状に堆積していることから，自然堆積と考えられる。

土層解説
1　黒褐色　ローム粒子少量，ローム小ブロック・焼土粒子微量
2　暗褐色　ローム粒子多量，ローム小ブロック微量
3　暗褐色　ローム粒子微量
4　暗褐色　ローム粒子中量

遺物　土師器細片7点及び須恵器細片2点が覆土中から出土しているが，流れ込んだものと考えられる。

所見　本跡の時期は，判断できる遺物が出土していないため不明である。

第22号溝（第45・58図）

位置　調査区の北西部，I11e3区～J11a5区。

重複関係　第401・418号住居跡を掘り込み，第1号道路に掘り込まれている。

規模と形状　上幅3.00m～5.00m，下幅1.60～3.00m，深さは最深部で45cmで，断面は浅い「U」字形である。長さは23.50mで，直線的に延びている。

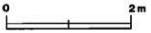
方向　N－0°

覆土　5層からなる。レンズ状に堆積していることから，自然堆積と考えられる。

土層解説
1　黒 褐 色　ローム中ブロック・小ブロック・粒子少量，ローム大ブロック・焼土粒子・炭化物微量
2　極暗褐色　ローム粒子多量，ローム中・小ブロック中量，ローム大ブロック少量
3　暗 褐 色　ローム粒子多量，ローム中・小ブロック少量，ローム大ブロック微量
4　黒 褐 色　ローム粒子少量，ローム中・小ブロック微量
5　褐　　色　ローム粒子多量，ローム大ブロック少量

遺物　出土していない。

所見　本跡の時期は，遺物が出土していないため不明である。7世紀後半に位置づけられる第418号住居跡を掘り込んでいることから，それ以降である。



第45図　第22号溝土層実測図

第23号溝（第46・58図）

位置　調査区の東部，J11b0区～J12b2区。

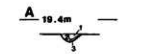
重複関係　西部で第408号住居跡を掘り込み，東部で第15号地下式壙に掘り込まれている。

規模と形状　上幅0.60m，下幅0.20m，深さは最深部で15cmで，断面は浅い「U」字形である。長さは10.00mで，直線的に延びている。

方向　N－88°－E

覆土　3層からなる。レンズ状に堆積していることから，自然堆積と考えられる。

土層解説
1　暗褐色　ローム粒子中量
2　黒褐色　ローム粒子少量，焼土粒子微量
3　暗褐色　ローム粒子少量



第46図　第23号溝土層実測図

遺物　出土していない。

所見　本跡の時期は，遺物が出土していないため不明であるが，10世紀前半に位置づけられる第408号住居跡を掘り込んでいることから，それ以降で，中世遺構と思われる第15号地下式壙に掘り込まれていることから，それ以前である。

第43号溝（第47・59図）

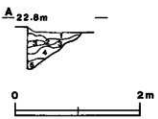
位置　調査区の南西部，K8g6～K8j6区。

重複関係　第916号住居跡を掘り込んでいる。

規模と形状　調査区域外へ延びているため，確認できたのは上幅最大0.95m，深さ70cm，長さ約10.5mで，直線的に延びている。下端は確認できなかった。壁面は外傾して立ち上がる。

方向　N－13°－E

覆土　5層からなる。ローム**ブロック**を多量に含むことから，人為堆積と考えられる。



土層解説
1　暗褐色　ローム大ブロック・中ブロック・粒子中量
2　暗褐色　ローム粒子多量，ローム中ブロック少量
3　褐　色　ローム粒子多量，ローム大・中ブロック中量，焼土粒子少量
4　暗褐色　ローム中ブロック・ローム小ブロック・焼土粒子中量，ローム粒子・炭化材少量
5　褐　色　ローム中ブロック・粒子多量

第47図　第43号溝土層実測図

遺物　出土していない。

所見　本跡の時期は，遺物が出土していないため不明であるが，7世紀前半に位置づけられる第916号住居跡を掘り込んでいることから，それ以降である。また，比較的浅く，道路に沿って延びていることから区画溝や根切り溝の類と考えられる。

第44号溝（第48・59図）

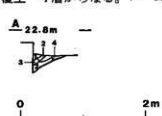
位置　調査区の南西部，L8b6～L8d6区。

重複関係　第660号土坑を掘り込んでいる。

規模と形状　調査区域外へ延びているため，確認できたのは上幅最大0.75m，深さ35cm，長さ約8.5mで，直線的に延びている。下端は確認できなかった。壁面は外傾して立ち上がる。

方向　N－7°－E

覆土　4層からなる。ローム大ブロックが多量に含まれていることから，人為堆積と考えられる。



土層解説
1　暗褐色　ローム粒子多量，ローム中ブロック中量
2　暗褐色　ローム粒子多量，ローム中ブロック中量，ローム大ブロック少量
3　褐　色　ローム粒子多量，ローム小ブロック中量
4　明褐色　ローム大・中ブロック多量，炭化粒子少量

第48図　第44号溝土層実測図

遺物　出土していない。

所見　本跡の時期は，判断できる遺物が出土していないため不明である。掘り込みが比較的浅く，道路に沿って延びていることから，区画溝や根切り溝の類と考えられる。

(4)　地下式壙

第14号地下式壙（第49図）

位置　調査4区の北東部，I11f9区。

主軸方向　N－4°－W

規模と形状　竪坑の上面は長軸1.00m，短軸0.80m，底面は長軸0.90m，短軸0.70mの，長軸が主軸と平行な不整長方形である。主室は天井部が崩落しており，長径2.10m，短径1.50mの不整楕円形の遺構として確認された。底面は長軸1.70m，短軸1.10mの，長軸が主軸と直行する不整長方形である。深さは竪坑，主室ともに

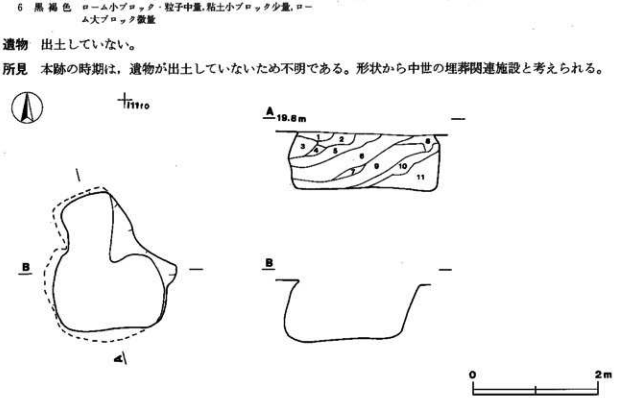
100cmである。底面は平坦で，壁は竪坑，主室ともほぼ垂直に立ち上がる。

覆土　11層からなり，竪坑から流れ込んだものと考えられる。

土層解説
1　黒 褐 色　ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量
2　黒 褐 色　ローム小ブロック・粒子少量，焼土粒子・炭化粒子微量
3　極暗褐色　ローム粒子中量，ローム大ブロック・炭化物・焼土大ブロック微量
4　黒 褐 色　ローム粒子少量，焼土粒子・炭化粒子微量
5　黒 褐 色　ローム小ブロック・粒子少量，焼土小ブロック・焼土粒子・粘土小ブロック微量
6　黒 褐 色　ローム小ブロック・粒子中量，粘土小ブロック少量，ローム大ブロック微量
7　暗 褐 色　ローム小ブロック多量，ローム粒子中量，焼土小ブロック微量
8　暗 褐 色　ローム粒子多量，ローム小ブロック微量
9　黒 褐 色　ローム小ブロック多量，ローム中ブロック・粒子中量，焼土中ブロック微量
10　褐　　色　ローム大ブロック・粒子多量，粘土小ブロック微量
11　黒 褐 色　ローム小ブロック・粒子中量，粘土小ブロック微量

遺物　出土していない。

所見　本跡の時期は，遺物が出土していないため不明である。形状から中世の埋葬関連施設と考えられる。



第49図　第14号地下式壙実測図

第15号地下式壙（第50図）

位置　調査４区の東部，J12b2区。

重複関係　第23号溝を掘り込んでいる。

主軸方向　N－7°－W

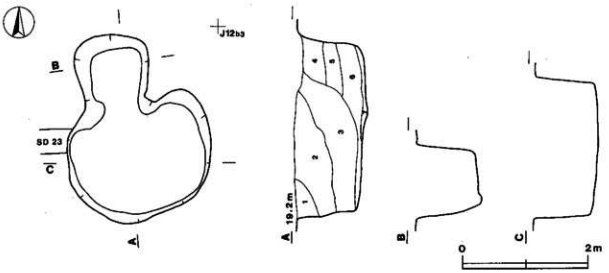
規模と形状　竪坑の上面は，長軸1.20m，短軸1.15mの不整方形，底面は一辺0.80mの方形で，深さは110cmである。主室の天井部は崩落しており，長径2.35m，短径1.60mの不整楕円形の遺構として確認された。底面は長径2.10m，短径1.70mの，長軸が主軸と直行する不整楕円形である。深さは確認面から115cmで，竪坑に比べて約５cmほど低くなっている。底面は平坦で，壁は竪坑，主室ともほぼ垂直に立ち上がる。

覆土　土層の状況から，１～３層は一度埋まった土を掘り起こした後，自然堆積したものと思われる。４～７層は竪坑から流れ込んだ層で，自然堆積と考えられる。

土層解説
1　黒　褐　色　ローム粒子少量，ローム大ブロック・粘土粒子微量
2　にぶい黄褐色　粘土小ブロック・粒子多量，粘土中ブロック中量
3　黒　　色　黒色土小ブロック少量，ローム中ブロック・炭化粒子微量
4　黒　褐　色　ローム粒子少量，ローム大ブロック・粘土粒子微量
5　黒　褐　色　ローム小ブロック・粒子中量，ローム大ブロック少量
6　黒　褐　色　ローム大ブロック・粒子中量
7　黒　褐　色　ローム中ブロック少量，ローム粒子微量

遺物　土師器片66点及び須恵器片４点が覆土中から出土している。遺物はいずれも細片で，流れ込みと考えられる。

所見　本跡の時期は，判断できるような遺物が出土していないため不明である。形状から中世の埋葬関連施設と考えられる。



第50図　第15号地下式壙実測図

(5)　道路状遺構

第１号道路状遺構（第51・58図）

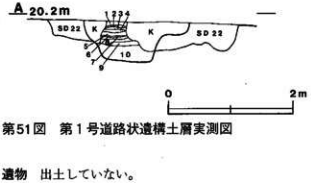
位置　調査区の北西部，I11f5区～J11c4区。

重複関係　第418号住居跡及び第22号溝を掘り込んでいる。

規模と形状　幅0.40m，長さ31.50mで，深さは最深部で40cmの溝の覆土が踏み固められている。

方向　N－2°－E，N－88°－W。調査区域の西側境界付近で直角に曲がり，一方は北に向かって調査区域内で確認面と同じ高さになって確認できなくなり，他方は西に向かい調査区域外へ延びている。

覆土　10層からなる。踏み固められた覆土が部分的に確認できる。第１～７層が道路の痕跡である。



第51図　第１号道路状遺構土層実測図

土層解説
1　灰褐色　ローム粒子微量
2　灰褐色　ローム大ブロック・ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量
3　暗褐色　ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量
4　暗褐色　ローム粒子・炭化粒子微量
5　暗褐色　ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量
6　暗褐色　ローム粒子少量，焼土粒子・炭化粒子微量
7　暗褐色　ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量
8　暗褐色　ローム粒子・炭化粒子微量
9　暗褐色　ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量
10　褐　色　ローム大ブロック多量

遺物　出土していない。

所見　本跡の時期は，遺物が出土していないため不明である。７世紀後半に位置づけられる第418号住居跡を掘り込んでいることから，それ以降である。

(6) 土坑

第264号土坑（火葬施設）（第52図）

位置　調査4区の北部，I11g6区。

規模と形状　吸気坑と燃焼坑から構成されている。吸気坑は長径1.80m，短径0.80mの不整長楕円形で，深さは10cmである。燃焼坑は長径0.90m，短径0.35mの長楕円形で，深さは20cmである。吸気坑から燃焼坑に向かって緩い傾斜で低くなる。燃焼坑の天井部は崩落していて，底面は火熱を受けて赤変硬化している。壁はともに緩やかに外傾して立ち上がる。

底面　凸凹である。

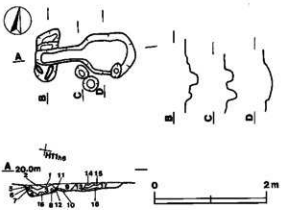
長径方向　主軸方向N－74°－E　（吸気坑）N－74°－E，（燃焼坑）N－16°－W

ピット　本跡の壁部に1か所，南側に近接して並んだ2か所のピットが確認された。いずれも径約25cmの円形で，深さは9～20cmである。性格は不明であるが，本跡と関連があるものと考えられる。

覆土　18層からなり，ローム**ブロック**が相当量含まれていることから，人為堆積と考えられる。第1～3・6・12層からは骨片，骨粉が出土している。

土層解説

1	赤褐色	焼土粒子多量
2	黒色	炭化物中量，焼土粒子微量
3	赤黒色	ローム粒子多量，焼土粒子中量，炭化物少量
4	暗褐色	ローム粒子・炭化粒子中量，ローム中ブロック・炭化物少量，焼土粒子微量
5	黒色	炭化粒子多量，焼土粒子少量
6	暗褐色	ローム粒子・炭化粒子少量，焼土粒子微量
7	暗褐色	ローム粒子中量，焼土粒子・炭化粒子少量
8	黒色	炭化粒子多量，炭化物中量，焼土粒子少量
9	暗褐色	ローム粒子中量，ローム小ブロック・炭化粒子少量
10	暗赤褐色	炭化粒子中量，焼土粒子少量
11	赤褐色	焼土粒子多量，炭化粒子中量
12	極暗赤褐色	炭化粒子多量，炭化物中量，焼土粒子少量
13	黒褐色	ローム粒子少量
14	極暗褐色	ローム粒子少量
15	褐色	ローム大ブロック多量，ローム粒子少量
16	暗褐色	ローム小ブロック・粒子少量
17	黒褐色	ローム小ブロック・粒子少量，ローム大ブロック微量
18	極暗褐色	ローム小ブロック・粒子少量



第52図　第264号土坑実測図

遺物　燃焼坑から骨片や骨粉が出土している。土器は出土していない。

所見　本跡の時期は，判断できる遺物が出土していないため明確ではないが，遺構の形態から中世と考えられる。また，出土している骨片が細片であることや遺構の形状から，火葬施設と考えられる。

第266号土坑（第53図）

位置　調査4区の北部，I11j8区。

重複関係　第261号土坑に掘り込まれている。

主軸方向　N－75°－E

規模と形状　上端は径2.40mの不整円形で，下端は長径2.75m，短径2.35mの不整楕円形である。深さは220cmである。壁はほぼ垂直に立ち上がる。

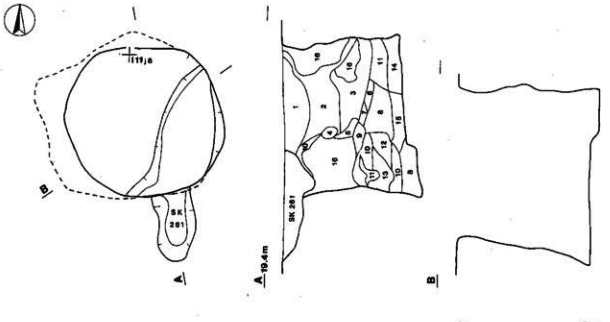
底面　平坦で，西部が15cmほど低くなっている。

覆土　各層ともロームブロックや粘土ブロックが比較的多く含まれることから，人為堆積と考えられる。

土層解説
1 黒褐色 粘土粒子中量，ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量
2 黒褐色 粘土小ブロック・粘土粒子中量，焼土小ブロック・炭化粒子微量
3 黒褐色 砂粒中量，粘土小ブロック少量，ローム粒子・炭化粒子微量
4 暗褐色 粘土大ブロック中量，ローム粒子少量
5 黒褐色 粘土中ブロック中量，粘土粒子少量
6 黒褐色 粘土粒子多量，粘土中ブロック少量
7 暗褐色 砂粒多量，粘土小ブロック中量
8 黒褐色 粘土小ブロック・砂粒中量
9 黒色 粘土粒子微量
10 黒色 ローム小ブロック・ローム粒子・粘土粒子少量
11 桃暗褐色 粘土中ブロック・粘土小ブロック中量
12 暗褐色 ローム中ブロック中量
13 暗褐色 ローム中ブロック中量，粘土小ブロック少量
14 黒褐色 ローム粒子多量，ローム小ブロック中量，ローム中ブロック少量
15 黒褐色 ローム小ブロック少量
16 褐色 ローム小ブロック多量

遺物 土師器片12点及び須恵器片2点が覆土中から出土している。いずれも細片で，流れ込みと考えられる。

所見 本跡の時期は，判断できる遺物が出土していないため不明である。規模から地下式壙の可能性があるが，形状が整っておらず，竪坑と主室が確認できないことから土坑とした。



第53図 第266号土坑実測図

第269号土坑（第54図）

位置 調査4区の東部，I12j2区。

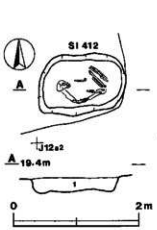
重複関係 第412号住居跡を掘り込んでいる。

規模と形状 長径2.80m，短径1.80mの不整楕円形で，深さは20cmである。

底面 平坦である。

長径方向 N－88°－E

覆土 単一層で，人為堆積である。



第54図 第269号土坑実測図

土層解説
1 黒褐色 ローム粒子少量

遺物 膝を抱え込み，北を向いて横向き姿勢の一体分の人骨が埋葬されていた。土師器片15点が出土しているが，いずれも細片で流れ込みと考えられる。

所見 本跡は墓壙で，時期は8世紀に位置づけられる第412号住居跡を掘り込んでいることから，それ以降である。

第287号土坑（火葬施設）（第55図）

位置　調査4区の北部，I11f6区。

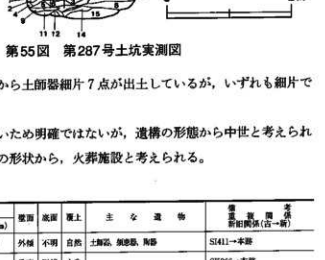
規模と形状　吸気坑と燃焼坑から構成されている。吸気坑は長径1.30m，短径1.00mの楕円形で，深さは30cmである。燃焼坑は長径1.00m，短径0.45mの楕円形で，深さは40cmである。吸気坑から燃焼坑に向かって緩やに傾斜して低くなる。燃焼坑は天井部が崩落し，底面は火熱を受けて赤変硬化している。壁はともに緩やかに外傾して立ち上がる。

底面　凸凹である。

主軸方向　N－12°－W　（吸気坑）N－12°－W，（燃焼坑）N－78°－E

覆土　15層からなる。ローム ブロックが比較的多く含まれていることから，人為的堆積と考えられる。第6・9・10・11層から骨片，骨粉が出土している。第9層からは多量の炭化材が出土している。

土層解説
1　暗　褐　色　ローム粒子多量，ローム小ブロック中量
2　暗 赤 褐 色　焼土粒子多量，ローム粒子中量
3　暗　褐　色　ローム粒子中量
4　褐　　色　ローム粒子多量，焼土粒子・炭化粒子微量
5　暗　褐　色　ローム粒子多量，焼土粒子微量
6　褐　　色　炭化粒子微量，焼土粒子微量
7　暗　褐　色　ローム粒子多量，ローム小ブロック中量
8　暗　褐　色　ローム粒子多量，ローム中ブロック少量
9　暗 赤 褐 色　炭化物多量，炭化粒子多量，焼土粒子少量
10　極暗赤褐色　焼土粒子中量，炭化粒子少量
11　暗 赤 褐 色　焼土粒子多量，炭化粒子少量
12　明 赤 褐 色　焼土粒子多量
13　極 暗 褐 色　ローム粒子・焼土粒子・炭化物・炭化粒子少量
14　褐　　色　ローム粒子中量
15　黒　褐　色　ローム大ブロック少量



第55図　第287号土坑実測図

遺物　燃焼坑から骨片，骨粉が出土している。覆土中から土師器細片7点が出土しているが，いずれも細片で流れ込みと考えられる。

所見　本跡の時期は，判断できる遺物は出土していないため明確ではないが，遺構の形態から中世と考えられる。また，出土している骨片が細片であることや遺構の形状から，火葬施設と考えられる。

表3　熊の山遺跡4区土坑一覧表

土坑番号	位置	長径方向（長軸方向）	平面形	規模 長径(軸)×短径(軸)（m）	規模 深さ（cm）	壁面	底面	覆土	主な遺物	備考 重複関係 所属関係（古→新）
260	J11a8	N－0°	方形	2.10 × 2.00	(180)	外傾	不明	自然	土師器、須恵器、陶器	SI411→本跡
261	J11j8	N－5°－W	長方形	(1.30) × (0.80)	140	垂直	平坦	人為		SK266→本跡
262	J11a0	N－20°－E	楕円形	0.95 × 0.75	30	外傾	平坦	自然	陶器	
263	J11a9	N－6°－W	長方形	4.40 × 0.95	30	垂直	平坦	自然		
264	J11g5	N－74°－E	不定形	1.80 × 0.80	30	外傾	凸凹	人為		
266	I11j8	N－75°－E	不整円形	2.55 × 2.55	220	垂直	平坦	人為	土師器、須恵器	本跡→SK261
268	J11e0	N－90°	不整長方形	3.75 × 1.00	10	外傾	平坦	自然		SI415・SB16→本跡
269	J11j2	N－85°－E	不整楕円形	2.80 × 1.90	20	外傾	平坦	人為	土師器、人骨	SI412→本跡
273	I11f0	N－10°－E	長方形	3.80 × 1.00	20	外傾	平坦	人為		SI415・SB16→本跡
275	I12c1	N－12°－W	方形	1.60 × 1.25	50	垂直	平坦	自然	土師器	本跡→SK276
276	I12e1	N－10°－W	方形	2.60 × 1.00	40	垂直	平坦	自然	土師器	SK275→本跡
277	I12e1	N－8°－W	長方形	1.30 × 0.90	60	垂直	平坦	自然		
281	J12b2	N－6°－W	不整楕円形	3.00 × 2.30	115	垂直	平坦	人為	土師器、須恵器	SD23→本跡
287	I11f6	N－12°－W	不定形	1.30 × 1.00	30	外傾	凸凹	人為	土師器、人骨	
288	I11g4	N－45°－E	不整楕円形	1.20 × 0.95	100	垂直	凸凹	自然	土師器10点	SD22→本跡

土坑番号	位置	長径方向（長軸方向）	平面形	規模 長径(軸)×短径(軸)（m）	規模 深さ（cm）	壁面	底面	覆土	主な遺物	備考 重複関係 新旧関係（古→新）
372	I11g5	N－28°－E	不定形	1.95 × 0.80	40	外傾	凸凹	自然		SK271→本跡
373	I12f2	N－40°－W	不整楕円形	0.90 × 0.70	20	外傾	凸凹	自然		
374	I12e1	N－47°－E	楕円形	1.30 × 0.70	50	外傾	皿状	自然	土師器	
377	I12e2	N－95°－E	不整楕円形	1.45 × 0.90	135	外傾	平坦	不明	土師器1	
380A	I12h1	N－45°－E	楕円形	1.25 × 0.90	40	外傾	平坦	自然		
380B	I12h2	N－5°－E	楕円形	1.40 × 1.45	30	外傾	平坦	自然		
381	I12h1	N－45°－W	不整楕円形	1.10 × 0.75	90	外傾	凸凹	自然		
382	I12h1	N－45°－W	不定形	2.25 × 1.15	60	外傾	凸凹	自然		
385	I11f7	N－85°－W	不整楕円形	1.20 × 1.00	45	外傾	平坦	自然		
386	I11f7	－	円形	0.80 × 0.80	30	外傾	平坦	自然		
387	I11f7	N－80°－E	楕円形	0.55 × 0.45	30	外傾	平坦	自然		
388	I11h0	N－23°－W	不整楕円形	1.10 × 0.70	65	外傾	平坦	自然		
389	J11j0	N－15°－W	長方形	0.75 × 0.50	20	垂直	平坦	自然	土師器	
390	J12a1	N－45°－W	楕円形	1.05 × 0.75	55	外傾	凸凹	自然		
391	J12a1	N－40°－E	不整楕円形	1.10 × 0.75	55	外傾	凸凹	自然		
453	H12i4	N－40°－E	方形	0.60 × 0.50	40	垂直	平坦	自然		SI417→本跡
660	L8c6	N－13°－E	長方形	1.60 × 0.70	30	垂直	平坦	自然		本跡→SD44
668	L8a6	－	不明	(4.60)×(1.20)	110	外傾	平坦	自然		SI914→SI915→本跡

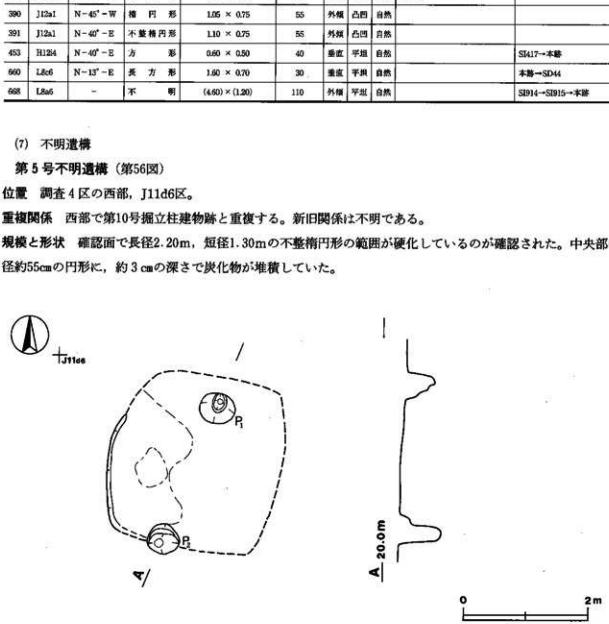
(7) 不明遺構

第5号不明遺構（第56図）

位置 調査4区の西部，J11d6区。

重複関係 西部で第10号掘立柱建物跡と重複する。新旧関係は不明である。

規模と形状 確認面で長径2.20m，短径1.30mの不整楕円形の範囲が硬化しているのが確認された。中央部は径約55cmの円形に，約3cmの深さで炭化物が堆積していた。



第56図 第5号不明遺構実測図

長径方向　N－5°－E

ピット　2か所（P1，P2）。P1は北壁寄りに，P2は南壁中央部に位置する。性格は不明である。

遺物　確認面から土師器片約30点が採集されている。

所見　本跡は，住居跡の可能性があるものの，採集された土器が古墳時代から平安時代まであり，いずれも細片であることから，時期や性格は不明である。

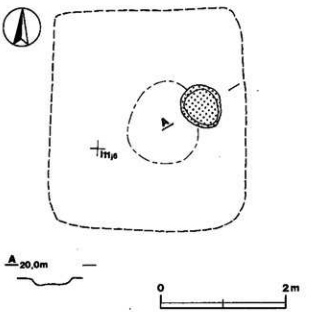
第6号不明遺構（第57図）

位置　調査4区の西部，I11i6区。

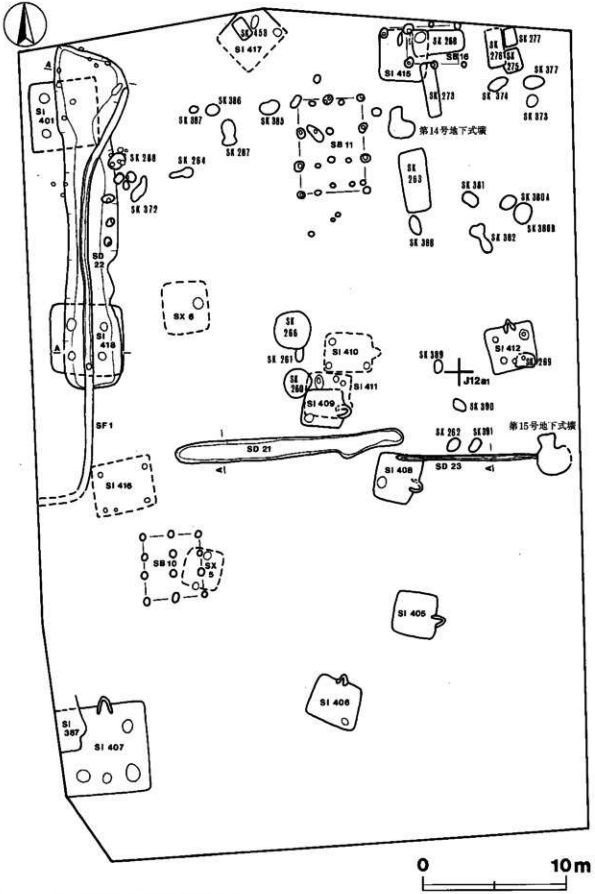
規模と形状　径1.40mの円形に硬化面が確認され，北東部は径70cmの円形に，約10cmの深さで焼土が堆積していた。

遺物　遺構及び周囲から，土師器片約80点及び須恵器片11点が採集されている。いずれも細片である。

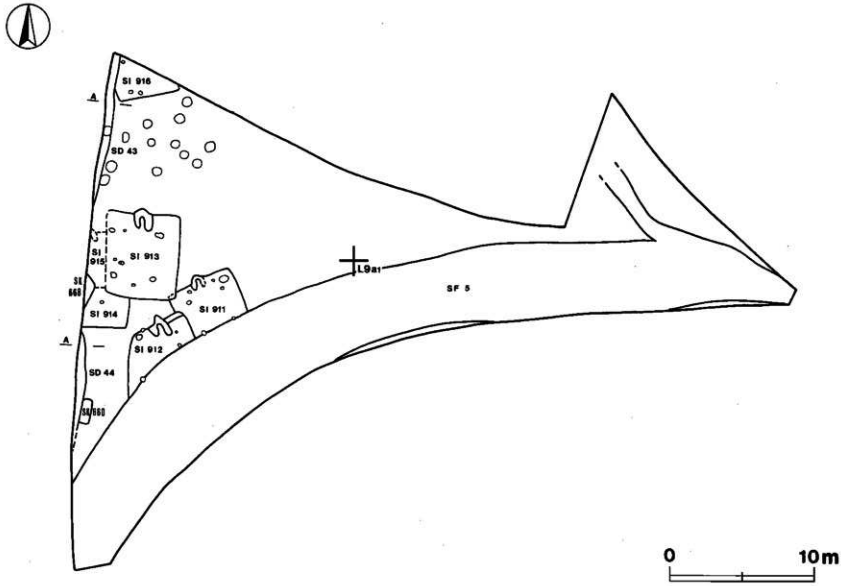
所見　本跡は，硬化面や焼土が確認できることから，住居跡の可能性がある。時期は採集した土師器細片から，9世紀頃と考えられる。



第57図　第6号不明遺構実測図



第58図　熊の山遺跡４区遺構全体図（１）



第59図　熊の山遺跡４区遺構全体図（２）

2　5区の遺構と遺物

(1) 竪穴住居跡

① 古墳時代

第726号住居跡（第60・61図）

位置　調査5区の北部，H12f3区。

重複関係　本跡は，東部を第730号住居に，中央部から南東部にかけて第729号住居に，南西コーナー部を第728号住居に掘り込まれている。

規模と平面形　長軸5.46m，短軸（4.80）mの長方形と推定される。

長軸方向　N－20°－W

壁　北壁・西壁の一部だけ確認できた。壁高は10cm前後で，外傾して立ち上がる。

床　ほぼ平坦で，全体的に踏み固められている。

ピット　3か所（P1～P3）。南西・北西コーナー寄りに位置するP1・P2は径25～35cmの円形で，深さは32～37cmである。規模と配置から主柱穴と考えられる。北壁際にあるP3は径30cmの円形で，深さは29cmである。性格は不明である。

炉　中央部やや北寄りに位置し，径45cmの円形で，床面を10cmほど掘りくぼめた地床炉である。火床面は，わずかに赤変している。

炉土層解説
1　暗　褐　色　炭化粒子中量，ローム粒子・焼土粒子少量
2　暗赤褐色　焼土粒子・炭化粒子中量，ローム粒子少量
3　赤　褐　色　焼土粒子多量，焼土中・小ブロック中量，ローム粒子・炭化粒子少量
4　暗赤褐色　焼土中・小ブロック・粒子多量
5　極暗赤褐色　ローム粒子・焼土粒子中量，焼土小ブロック・炭化粒子少量
6　暗赤褐色　ローム粒子・焼土小ブロック・焼土粒子中量，炭化粒子少量
7　暗赤褐色　ローム粒子・焼土粒子中量，ローム中ブロック・炭化粒子少量

覆土　3層からなる。ブロック状の堆積状況から，人為堆積と考えられる。

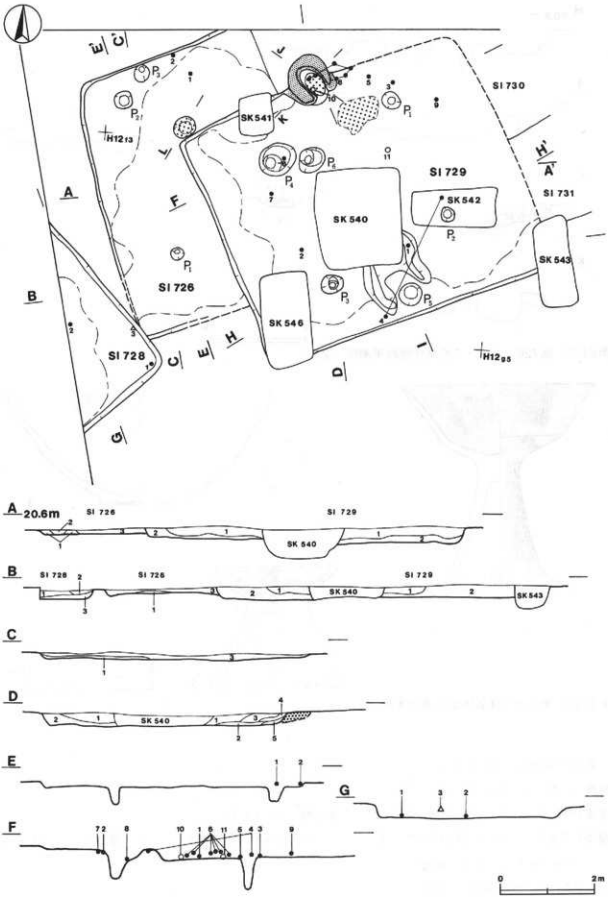
土層解説
1　暗褐色　ローム粒子中量，炭化粒子少量
2　黒褐色　炭化粒子中量，ローム中ブロック・ローム粒子・焼土粒子少量
3　暗褐色　ローム小ブロック・炭化粒子中量，ローム粒子少量

遺物　土師器片81点，陶器片1点が出土している。第62図1の土師器高坏は横位で，2の土師器器台は逆位で，北壁際の床面からそれぞれ出土している。3の土師器甕は覆土中から出土している。陶器片は耕作による混入と考えられる。

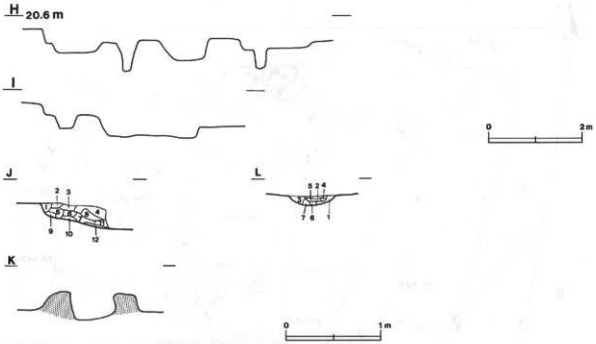
所見　本跡の時期は，出土土器から判断して5世紀前葉と考えられる。

第726号住居跡出土遺物観察表

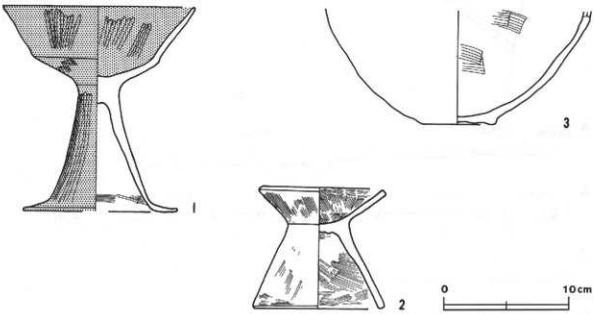
図版番号	器種	計測値（cm）	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第62図 1	高坏 土師器	A 15.3 B 16.2 D [12.3]	坏部・裾部一部欠損。脚部はラッパ状に開く。坏部は内彎気味に立ち上がり，口縁部に至る。坏部外面下位に稜をもつ。	口縁部内・外面横ナデ。坏部内・外面，脚部外面ヘラ磨き。脚部内面，裾部内・外面ハケ目調整後ナデ。内・外面赤彩。	砂粒・長石・赤色粒子 にぶい赤褐色 普通	P5210　60% P L 46 北壁際床面
2	鉢状器台 土師器	A 9.8 B 9.7 D 10.7	脚部・器受部一部欠損。脚部は「八」の字状に開く。器受部は外傾して立ち上がる。	器受部内・外面ハケ目調整後ナデ。脚部内・外面ハケ目調整後ナデ。	砂粒 にぶい黄橙色 普通	P5211　75% P L 46 北壁際床面
3	甕 土師器	B（9.0） C 5.7	底部から体部にかけての破片。底部は突出した平底。体部は内彎して立ち上がる。	体部外面ナデ。内面ハケ目調整。	砂粒・赤色粒子 橙色 普通	P5212　5% 覆土中



第60図　第726・728・729号住居跡実測図（1）



第61図　第726・728・729号住居跡実測図（2）



第62図　第726号住居跡出土遺物実測図

第728号住居跡（第60・61図）

位置　調査5区の北部，H12g3区。

重複関係　本跡が第726号住居跡の南西コーナー部を掘り込んでいる。

規模と平面形　大部分が調査区域外に延びているため，平面形は確認できなかった。確認できたのは，南北(3.50)m，東西（2.10)mの範囲である。

壁　壁高は20～28cm前後で，外傾して立ち上がる。

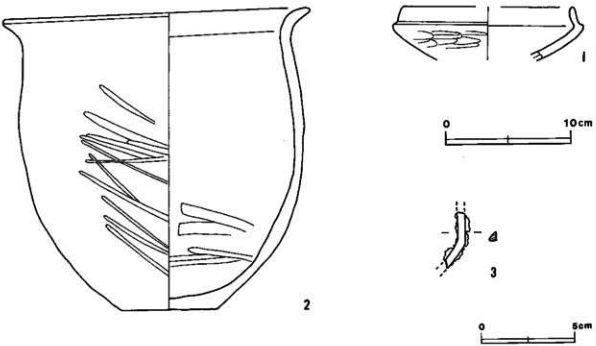
床　ほぼ平坦で，全体的に踏み固められている。

覆土　3層からなる。各層ともローム ブロックを含んでいることから，人為堆積であると考えられる。

土層解説
1　褐　色　ローム小ブロック・粒子中量，炭化粒子少量
2　褐　色　ローム小ブロック・ローム粒子・炭化粒子中量，ローム中ブロック少量
3　褐　色　ローム粒子中量，ローム小ブロック・炭化粒子少量

遺物　土師器片11点，不明鉄製品1点が出土している。第63図1の土師器坏は，南東コーナー部の床面から横位の状態で出土している。2の土師器甕は，中央部の床面から土圧でつぶれた状態で出土している。3の不明鉄製品は南東コーナー部の覆土中層から出土している。

所見　本跡の時期は，出土土器から判断して6世紀後葉から7世紀前葉と考えられる。



第63図　第728号住居跡出土遺物実測図

第728号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第63図 1	坏 土師器	A [13.6] B (4.2)	底部から口縁部にかけての破片。丸底。体部は内彎気味に立ち上がり，口縁部との境をもつ。口縁部は内傾する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面磨き状のヘラナデ，内面横ナデ。	砂粒・雲母・赤色粒子にぶい褐色 普通	P5213　15% 南東コーナー部床面
2	甕 土師器	A 24.2 B 23.9 C 7.5	体部一部欠損。平底。体部は内彎して立ち上がる。頸部でくびれ，口縁部は外反する。	口縁部・体部外面横ナデ。体部外面磨き状のヘラナデ，内面ヘラ削り後ナデ。	砂粒・長石 にぶい橙色 普通	P5214　90% P L 46 中央部床面

図版番号	種別	計測値				出土地点	備考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(cm)		
第63図 3	鉄　釘	(2.9)	0.4	0.4	(2.05)	南東コーナー部覆土中層	M5023

第729号住居跡（第60・61図）

位置　調査5区の北部，H12f4区。

重複関係　本跡が，第726号住居跡の南東部，第730号住居跡の南西部，第731号住居跡の西部を掘り込んでいる。本跡は，中央部を第540・542号土坑に，北壁を第541号土坑に，南東コーナー部を第543号土坑に，南西コーナー部を第546号土坑に掘り込まれている。

規模と平面形　長軸［5.50］m，短軸5.32mの方形と推定される。

主軸方向　N－26°－W

壁　壁高は25cmで，外傾して立ち上がる。

床　ほぼ平坦である。

竈　北壁中央部を壁外に53cmほど掘り込み，砂質粘土で構築されている。規模は，焚口部から煙道部まで100cm，両袖部幅107cmである。火床部はわずかにくぼみ，赤変硬化している。煙道は，火床面から外傾して立ち上がる。

竈土層解説

1	暗赤褐色	砂粒・粘土粒子中量，焼土小ブロック・焼土粒子・炭化粒子少量
2	暗褐色	砂粒中量，ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子・粘土粒子少量
3	暗褐色	砂粒・粘土粒子中量，ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量
4	暗赤褐色	炭化粒子・砂粒中量，ローム粒子・焼土小ブロック・焼土粒子・粘土粒子少量
5	暗赤褐色	砂粒中量，ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子・粘土粒子少量
6	にぶい赤褐色	ローム粒子・炭化粒子・粘土粒子中量，焼土中ブロック・焼土小ブロック・焼土粒子・砂粒少量
7	暗赤褐色	焼土粒子・炭化粒子・砂粒中量，ローム粒子少量
8	にぶい赤褐色	焼土中ブロック・焼土小ブロック・焼土粒子・砂粒中量，ローム粒子・炭化粒子・粘土粒子少量
9	暗赤褐色	炭化粒子・砂粒中量，ローム粒子・焼土粒子少量
10	にぶい赤褐色	ローム粒子・炭化粒子中量，焼土粒子・砂粒少量
11	暗褐色	焼土中ブロック・粒子多量，焼土小ブロック・炭化粒子・砂粒中量，ローム粒子少量
12	暗赤褐色	焼土粒子・砂粒中量，ローム粒子・焼土中ブロック・炭化粒子少量

ピット　6か所（P1～P6）。P1～P3は径30cm前後の円形で，深さ48～70cmである。P4は長径80cm，短径65cmの楕円形で，深さ68cmである。各コーナー寄りの位置で確認されており，規模と配置からいずれも主柱穴と考えられる。南壁際にあるP5は，径45cmの円形で，深さ30cmである。位置的に出入り口施設に伴うピットと考えられる。P4の東側にあるP6は，径50cm前後の円形で，深さ52cmである。性格は不明である。

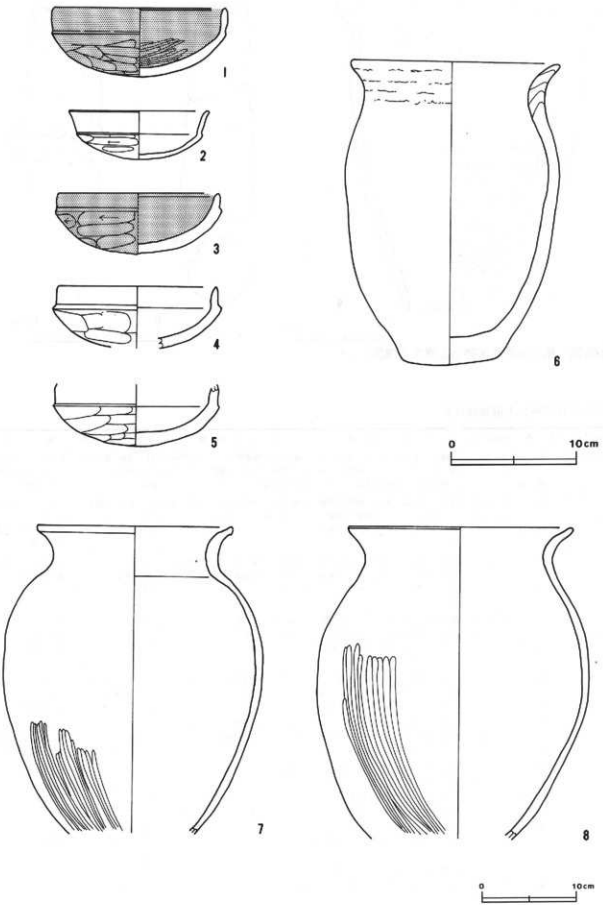
覆土　5層からなる。レンズ状の堆積状況から，自然堆積と考えられる。3～5層は竈からの流れである。

土層解説

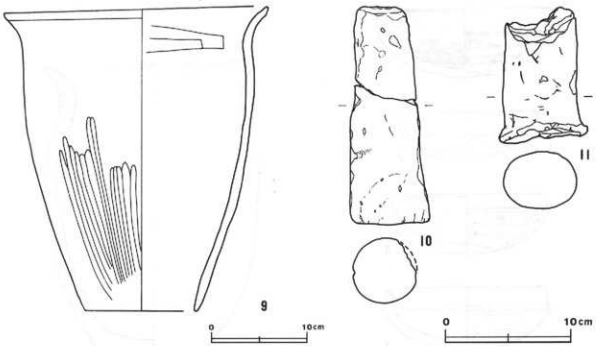
1	黒褐色	ローム小ブロック・炭化粒子中量，ローム粒子・焼土粒子少量
2	極暗褐色	炭化粒子中量，ローム大ブロック・ローム中ブロック・ローム粒子・焼土粒子・炭化物少量
3	褐色	ローム小ブロック中量，ローム粒子多量，炭化粒子・粘土粒子少量
4	暗褐色	ローム粒子中量，炭化粒子・砂粒・粘土粒子少量
5	黒褐色	粘土粒子中量，ローム粒子・炭化粒子・砂粒少量

遺物　土師器片818点，土製支脚2点，鉄滓1点，礫2点，炭化材が出土している。図示した土器はすべて土師器である。第64図1の坏は中央部南寄りの床面から，2の坏は中央部やや西寄りの床面から，3・5の坏は竈東側の床面から，いずれも正位の状態で出土している。4の坏は，南壁際の覆土下層とP2北側の覆土下層から出土した破片が接合したものである。6の甕は，竈東袖脇の中層と竈の火床面から出土した破片が接合したものである。7の甕は中央部やや北西寄りの床面から，8の甕はP4の覆土上層からともに土圧でつぶれた状態で出土している。9の甑は，東壁際の覆土下層から出土している。10・11の支脚は，竈の火床と中央部床面から，それぞれ出土している。

所見　本跡の時期は，出土土器から判断して7世紀前葉と考えられる。



第64図　第729号住居跡出土遺物実測図（1）



第65図　第729号住居跡出土遺物実測図（2）

第729号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第64図 1	坏 土師器	A 13.6 B 5.3	口縁部一部欠損。丸底。体部は内彎して立ち上がり，口縁部との境に稜をもつ。口縁部は直立する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面ヘラ削り，内面ヘラ磨き。内・外面黒色処理。	砂粒・雲母・赤色粒子 にぶい橙色 普通	P5215　90% P L 47　中央部南寄りの床面
2	坏 土師器	A 11.0 B 3.9	体部一部欠損。丸底。体部は内彎して立ち上がり，口縁部との境に稜をもつ。口縁部はわずかに外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面ヘラ削り後ナデ，内面ナデ。	砂粒・雲母・赤色粒子 橙色 普通	P5217　80% P L 47 中央部やや西寄りの床面
3	坏 土師器	A 12.8 B 4.8	体部・口縁部一部欠損。丸底。体部は内彎して立ち上がり，口縁部との境に稜をもつ。口縁部はほぼ直立する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面ヘラ削り，内面横ナデ。内・外面黒色処理。	砂粒・雲母・パミス にぶい褐色 普通	P5218　70% 竈東側床面
4	坏 土師器	A 12.8 B（4.8）	底部から口縁部にかけて一部欠損。丸底。体部は内彎して立ち上がり，口縁部との境に稜をもつ。口縁部は直立する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面ヘラ削り，内面ナデ。	砂粒・長石 にぶい橙色 普通	P5219　70% P L 47 南壁際覆土下層
5	坏 土師器	B（4.9）	口縁部一部欠損。丸底。体部は内彎して立ち上がり，口縁部との境に稜をもつ。口縁部は直立する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面ヘラ削り，内面ナデ。	砂粒・長石・赤色粒子 にぶい黄橙色 普通	P5216　85% P L 47 竈東側床面
6	甕 土師器	A 16.7 B 24.1 C 7.8	体部・口縁部一部欠損。平底。体部は内彎気味に立ち上がる。頸部でくびれ，口縁部は外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部内・外面ナデ。頸部に輪積み痕。	砂粒・雲母・長石・ 赤色粒子 橙色　普通	P5220　70% P L 47　竈東袖脇 中層，竈火床面
7	甕 土師器	A 20.0 B（31.8）	底部から口縁部にかけて一部欠損。体部は内彎して立ち上がる。頸部でくびれ，口縁部は外反する。口唇部は上方につまみ上げられている。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面下位ヘラ磨き，内面ナデ。	砂粒・雲母・長石 にぶい黄橙色 普通	P5221　70% P L 47 中央部やや北西寄り床面
8	甕 土師器	A 23.0 B（32.5）	底部から口縁部にかけて一部欠損。体部は内彎して立ち上がり，中位に最大径をもつ。頸部でくびれ，口縁部は外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面ヘラ磨き，内面ナデ。	砂粒・雲母・長石 にぶい黄褐色 普通	P5222　60% P L 48 P 4 覆土上層
第65図 9	甑 土師器	A 27.4 B 31.8 C 11.6	体部一部欠損。無底式。体部は内彎気味に立ち上がり，口縁部は外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面ヘラ磨き，内面ヘラナデ。	砂粒・長石 にぶい橙色 普通	P5223　95% P L 48 東壁際覆土下層

図版番号	種　別	計測値 長さ(cm)	径(cm)	重量(g)	出土地点	備考
第65図10	土製支脚	17.2	5.2	(700.3)	竈火床面	D P 5008　P L 47
11	土製支脚	(10.7)	4.6	(330.2)	中央部床面	D P 5009　P L 47

第730号住居跡（第66図）

位置　調査５区の北部，H12e4区。

重複関係　本跡が，第726号住居跡の東部を，第731号住居跡の中央部から北側を掘り込んでいる。本跡は，南西部を第729号住居に，南東コーナー部を第544号土坑に，南西コーナー部を第540号土坑に掘り込まれている。

規模と平面形　北半分は調査区域外に延びているため，平面形は確認できなかった。確認できたのは，長軸（5.60）m，短軸（4.65）mである。

長軸方向　N－28°－W

壁　南壁の一部だけ確認できた。壁高は16cm前後で，垂直に立ち上がる。

壁溝　南壁下に巡っている。上幅10cm，下幅４cm，深さ６cmである。断面形はU字形である。

床　ほぼ平坦で，全体的に踏み固められている。出入り口ピットＰ３の北側は高まりになっている。

ピット　３か所（Ｐ１～Ｐ３）。南東・南西コーナー寄りに位置するＰ１・Ｐ２は径28～40cmの円形で，深さは64～66cmである。規模と配置から主柱穴と考えられる。南壁近くにあるＰ３は径30cmの円形で，深さは28cmである。位置的に出入り口施設に伴うピットと考えられる。

覆土　５層からなる。レンズ状の堆積状況から，自然堆積と考えられる。

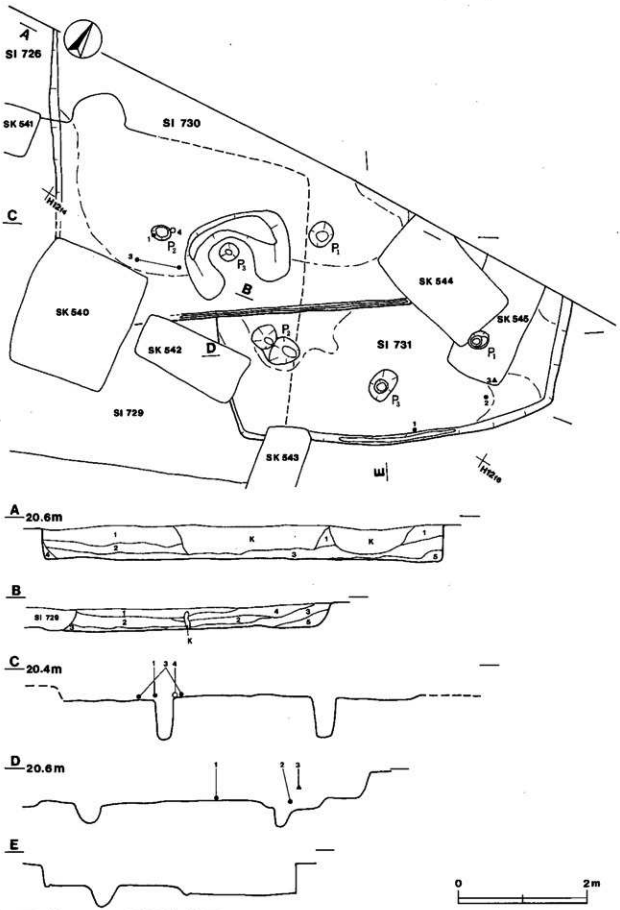
土層解説
1　暗褐色　ローム粒子・炭化粒子中量，焼土粒子少量
2　褐　色　ローム粒子中量，炭化粒子少量
3　暗褐色　ローム小ブロック・炭化粒子中量，ローム粒子少量
4　暗褐色　ローム中ブロック・ローム小ブロック・炭化粒子中量，ローム粒子少量
5　暗褐色　ローム粒子・炭化粒子中量，ローム小ブロック・焼土粒子少量

遺物　土師器片641点，土製品１点（土玉），鉄滓１点，礫２点が出土している。第67図１の土師器坏，３の土師器甕は南西部の床面から出土している。２の土師器坏は覆土中から出土している。４の土玉は南西部の床面から出土している。

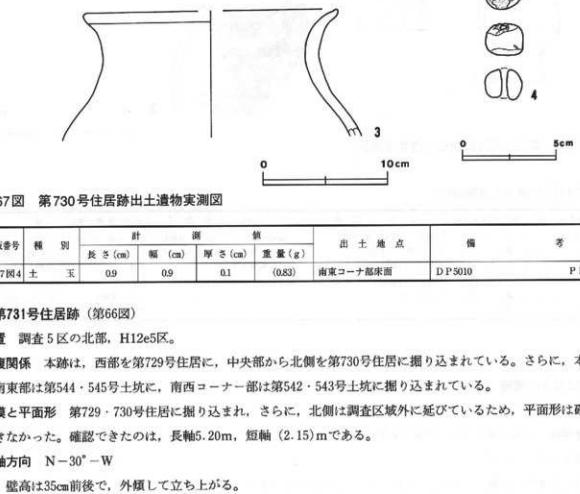
所見　本跡の時期は，出土土器から判断して６世紀後半と考えられる。

第730号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第67図1	坏 土師器	A［14.6］ B（4.1）	底部から口縁部にかけての破片。体部は内彎して立ち上がり，口縁部との境に稜をもつ。口縁部は内傾する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面ヘラ削り，内面ナデ。	砂粒・雲母・長石・赤色粒子 にぶい黄橙色　普通	P 5224　30% 南西部床面
2	坏 土師器	A［13.6］ B（3.1）	体部から口縁部にかけての破片。体部は内彎して立ち上がり，口縁部との境に明瞭な稜をもつ。口縁部はほぼ直立する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面ヘラ削り，内面横ナデ。内・外面黒色処理。	砂粒・長石・赤色粒子 にぶい橙色 普通	P 5225　10% 覆土中
3	甕 土師器	A［20.4］ B（10.0）	体部から口縁部にかけての破片。体部は内彎して立ち上がる。胴部でくびれ，口縁部は外反する。口唇部はわずかに上方につまみ上げられている。	口縁部内・外面横ナデ。体部内・外面ナデ。	砂粒・雲母・長石 にぶい橙色 普通	P 5226　10% 南西部床面



第66図　第730・731号住居跡実測図



第67図　第730号住居跡出土遺物実測図

図版番号	種　別	計　測　値				出土地点	備　考
		長さ(cm)	幅 (cm)	厚さ(cm)	重量(g)		
第67図4	土　玉	0.9	0.9	0.1	(0.83)	南東コーナ部床面	DP5010　PL46

第731号住居跡（第66図）

位置　調査5区の北部，H12e5区。

重複関係　本跡は，西部を第729号住居に，中央部から北側を第730号住居に掘り込まれている。さらに，本跡の南東部は第544・545号土坑に，南西コーナー部は第542・543号土坑に掘り込まれている。

規模と平面形　第729・730号住居に掘り込まれ，さらに，北側は調査区域外に延びているため，平面形は確認できなかった。確認できたのは，長軸5.20m，短軸（2.15）mである。

長軸方向　N－30°－W

壁　壁高は35cm前後で，外傾して立ち上がる。

壁溝　南壁下の一部に巡っている。上幅9cm，下幅7cm，深さ5cmである。断面形はU字形である。

床　ほぼ平坦で，中央部に硬化面が見られる。

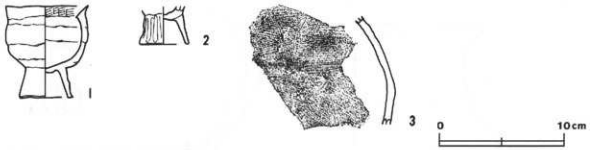
ピット　3か所（P1～P3）。南東コーナー寄りに位置するP1は径32cmの円形で，深さは32cmである。南西コーナー寄りに位置するP2は長径52cm，短径42cmの瓢箪形で，深さは28cmである。規模と配置から主柱穴と考えられる。南壁際にあるP3は長径52cm，短径36cmの楕円形で，深さは34cmである。位置的に出入り口施設に伴うピットと考えられる。

覆土　5層からなる。各層ともローム ブロックを含んでいるが，レンズ状に堆積していることから，自然堆積と考えられる。

土層解説
1　暗褐色　ローム中ブロック・ローム小ブロック・ローム粒子・炭化粒子中量
2　黒褐色　炭化粒子多量，ローム小ブロック中量，ローム粒子少量
3　褐　色　ローム中・小ブロック・粒子中量，炭化粒子少量
4　黒褐色　ローム小ブロック・炭化粒子中量，ローム粒子少量
5　暗褐色　ローム小ブロック・炭化粒子中量，ローム中ブロック・粒子少量

遺物　土師器片84点，礫1点が出土している。第68図1のミニチュア土器は南壁中央部の覆土下層から横位の状態で，2のミニチュア土器は南壁やや東寄りの床面から正位の状態で，それぞれ出土している。3の土師器甕体部片は南東コーナー部の覆土中層から出土し，外面にハケ目が施されている。

所見　本跡の時期は，出土土器から判断して4世紀後葉から5世紀前葉と考えられる。台付甕のミニチュア土器が2点出土していることから，何らかの祭祀行為が行われた可能性が考えられる。



第68図　第731号住居跡出土遺物実測図

第731号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第68図 1	ミニチュア 台付甕 土師器	A 6.7 B 7.2 D 4.1	口縁部一部欠損。脚部は「ハ」の字状に開く。体部は内彎して立ち上がり，口縁部は外反する。	口縁部外面ナデ，内面ハケ目整形。体部内・外面，脚部内・外面ナデ。体部に輪積み痕。	砂粒・石英・赤色粒子 にぶい橙色 普通	P5227 95% PL46 南壁中央部覆土下層
2	ミニチュア 台付甕 土師器	B (3.0) D 4.0	体部から口縁部欠損。脚部は「ハ」の字状に開く。	脚部外面ヘラ磨き，内面ナデ。	砂粒 にぶい黄橙色 普通	P5228 30% PL46 南壁中央部やや東寄り床面

第732号住居跡（第70・71図）

位置　調査5区の北部，H12i5区。

重複関係　本跡は第738号住居跡の東部を掘り込んでいる。本跡の北壁を第739号住居に，西部を第740号住居に掘り込まれている。

規模と平面形　長軸［4.70］m，短軸［3.80］mの長方形と推定される。

主軸方向　N－28°－W

壁　壁高は16cm前後で，外傾して立ち上がる。

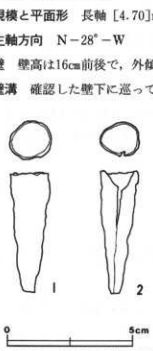
壁溝　確認した壁下に巡っている。上幅15cm，下幅4～6cm，深さ6cmである。断面形はU字形である。

床　ほぼ平坦で，全体的によく踏み固められている。

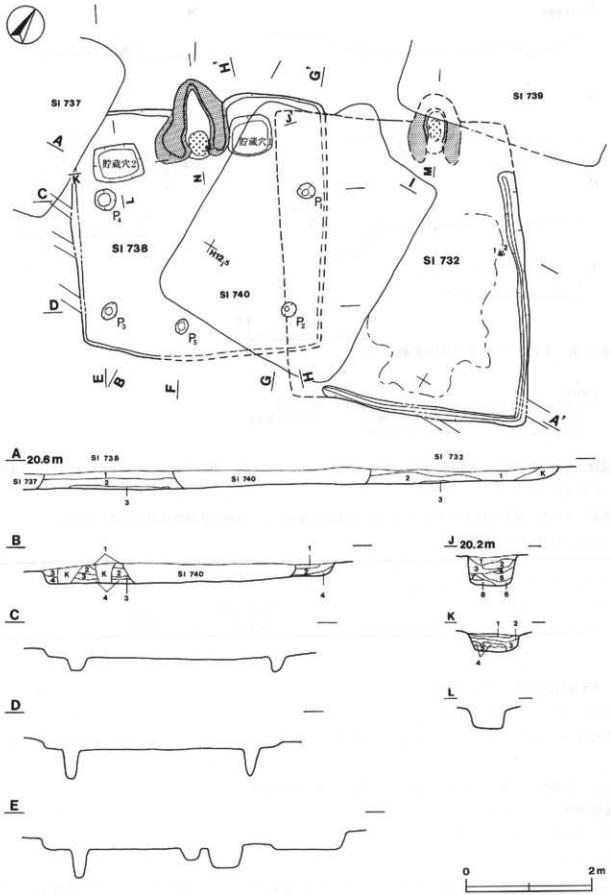
竈　北壁中央部に砂質粘土で構築されている。煙道部は，第739号住居に掘り込まれ，残存しない。規模は両袖部幅約86cmである。火床部は床面と同レベルで，皿状を呈している。天井部は確認できなかった。

竈土層解説
1　暗赤褐色　砂粒中量，ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子・粘土粒子少量
2　暗赤褐色　焼土小ブロック・粒子多量，焼土中ブロック・炭化粒子中量，ローム粒子・粘土粒子・砂粒少量
3　暗赤灰褐色　粘土粒子中量，ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子・砂粒少量
4　暗赤褐色　ローム粒子・焼土小ブロック・焼土粒子・炭化粒子・粘土粒子・砂粒中量
5　暗赤褐色　ローム粒子・粘土粒子・砂粒中量，焼土粒子・炭化粒子少量

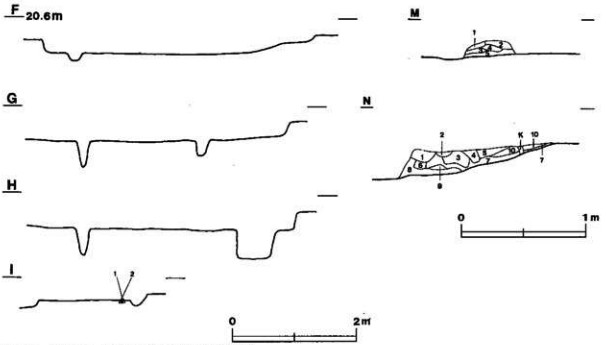
覆土　3層からなる。各層ともロームブロックを含んでいるが，レンズ状に堆積していることから，自然堆積と考えられる。



第69図　第732号住居跡出土遺物実測図



第70図　第732・738号住居跡実測図（1）



第71図　第732・738号住居跡実測図（2）

土層解説
1　暗褐色　ローム粒子中量，ローム小ブロック少量，焼土粒子・炭化物微量
2　褐　色　ローム粒子中量，ローム小ブロック・焼土小ブロック少量，炭化物微量
3　暗褐色　ローム小ブロック・粒子少量，焼土粒子微量

遺物　土師器片129点，鉄製品2点（石突），礫1点が出土している。第69図1・2の石突は北東壁付近の床面から出土している。

所見　土師器は細片で図示できなかったが，土師器の様相から，本跡は古墳時代後期と考えられる。

第732号住居跡出土遺物観察表

図版番号	種　別	計測値				出土地点	備　考	
		長さ(cm)	幅 (cm)	厚さ(cm)	重量(g)			
第69図1	鉄製石突	4.7	1.6	0.1	9.15	北東壁付近床面	M5024	PL48
2	鉄製石突	4.9	1.5	0.1	9.05	北東壁付近	M5025	PL48

第738号住居跡（第70・71図）

位置　調査5区の北部，H12i4区。

重複関係　本跡は，西コーナー部を第737号住居に，東壁を第732号住居に，さらに東部を第740号住居に掘り込まれている。

規模と平面形　長軸［4.10］m，短軸［4.00］mの方形と推定される。

主軸方向　N－36°－W

壁　壁高は15～20cmで，外傾して立ち上がる。

床　ほぼ平坦である。

竈　北壁中央部を壁外に43cmほど掘り込み，砂質粘土で構築されている。規模は，焚口部から煙道部まで127cm，両袖部幅120cmである。火床部はわずかにくぼみ，皿状を呈している。煙道は，火床面から緩やかに立ち

上がる。

竈土層解説
1 暗赤褐色 炭化粒子・粘土粒子中量，ローム粒子・焼土中ブロック・焼土小ブロック・焼土粒子・砂粒少量
2 暗赤褐色 焼土小ブロック・焼土粒子・炭化粒子・粘土粒子中量，ローム粒子・焼土中ブロック少量
3 暗赤褐色 焼土小ブロック・焼土粒子・炭化粒子・粘土粒子中量，ローム粒子・焼土中ブロック・炭化物少量
4 暗赤褐色 焼土小ブロック・粘土粒子・砂粒中量，ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量
5 にぶい赤褐色 焼土小ブロック・焼土粒子・粘土粒子・砂粒中量，ローム粒子・炭化粒子少量
6 暗赤褐色 焼土小ブロック・焼土粒子・粘土粒子多量，砂粒・炭化粒子中量，ローム粒子・焼土大ブロック少量
7 暗赤褐色 焼土粒子多量，焼土中ブロック・焼土小ブロック・粘土粒子・炭化粒子中量，ローム粒子・炭化物少量
8 赤褐色 焼土中・小ブロック・粒子多量，焼土大ブロック・粘土粒子・砂粒中量
9 極暗赤褐色 焼土粒子・粘土粒子中量，ローム粒子・焼土小ブロック・炭化粒子・砂粒少量
10 暗赤褐色 粘土粒子多量，焼土中ブロック・焼土粒子・炭化粒子・砂粒中量，ローム粒子・炭化物少量

ピット　5か所（P1～P5）。P1～P4は径25cm前後の円形で，深さ21～45cmであり，各コーナーに寄った位置で確認されている。規模と配置から主柱穴と考えられる。南壁際にあるP5は径21cmの円形で，深さ14cmである。位置的に出入り口施設に伴うピットと考えられる。

貯蔵穴　2か所。貯蔵穴1は竈の東側に位置し，長軸70cm，短軸65cmの方形で，深さ45cmである。貯蔵穴2は竈の西側に位置し，長軸75cm，短軸58cmの長方形で，深さ32cmである。両者から粘土塊が出土している。

貯蔵穴1土層解説
1 褐色 ローム小ブロック多量，ローム大ブロック・ローム中ブロック・炭化粒子中量，ローム粒子・焼土小ブロック少量
2 暗褐色 ローム小ブロック多量，ローム中ブロック・炭化粒子中量，ローム大ブロック・ローム粒子・焼土中ブロック・焼土粒子少量
3 褐色 ローム大ブロック・ローム中ブロック・ローム小ブロック・炭化粒子中量，ローム粒子・焼土小ブロック・炭化物・焼土粒子少量
4 褐色 ローム小ブロック多量，ローム大ブロック・ローム中ブロック・焼土中ブロック・炭化粒子中量，ローム粒子・炭化物少量
5 黒褐色 ローム小ブロック多量，ローム中ブロック・焼土中ブロック・焼土小ブロック・炭化物・炭化粒子中量，ローム粒子少量
6 黒褐色 焼土粒子中量，ローム中ブロック・ローム粒子・焼土小ブロック・炭化物少量
7 黒褐色 ローム小ブロック・炭化物中量，ローム粒子少量
8 暗褐色 ローム中ブロック・ローム粒子・炭化粒子少量

貯蔵穴2土層解説
1 褐色 ローム粒子少量，焼土小ブロック・焼土粒子・炭化物・炭化粒子微量
2 褐色 ローム粒子・焼土小ブロック少量，焼土粒子・炭化物・炭化粒子微量
3 褐色 焼土小ブロック・粒子少量，ローム小ブロック・粒子微量
4 にぶい黄色 粘土塊
5 褐色 ローム小ブロック中量，粘土粒子少量

覆土　4層からなる。レンズ状の堆積状況から，自然堆積と考えられる。

土層解説
1 暗褐色 ローム粒子中量，ローム小ブロック少量，焼土粒子・炭化物微量
2 褐色 ローム粒子中量，ローム小ブロック・焼土粒子少量，炭化物微量
3 褐色 ローム小ブロック・粒子少量，炭化粒子微量
4 暗赤褐色 焼土粒子中量，ローム粒子少量，炭化粒子微量

遺物　土師器片75点，鉄滓1点，陶器片2点，礫1点が出土している。陶器片は耕作による混入と考えられる。

所見　細片のみで時期を限定することはできないが，土師器の様相から，本跡は古墳時代後期と考えられる。

第739号住居跡（第72図）

位置　調査5区の北部，H12h5区。

重複関係　本跡が，第732号住居跡の北東コーナー部と第741B号住居跡の南西コーナー部を掘り込んでいる。本跡は，中央部を第549号土坑に掘り込まれている。

規模と平面形　長軸3.54m，短軸3.44mの方形である。

主軸方向　N－12°－W

壁　壁高は6～8cmで，外傾して立ち上がる。

床　ほぼ平坦で，竈前面から中央部にかけてよく踏み固められている。

竈　北壁中央部を壁外に32cmほど掘り込み，砂質粘土で構築されている。攪乱のため遺存状態は悪い。規模は，焚口部から煙道部まで100cm，両袖部幅82cmである。火床部は床面をわずかに掘りくぼめ，赤変している。煙

道は，火床面から緩やかに立ち上がる。

竈土層解説

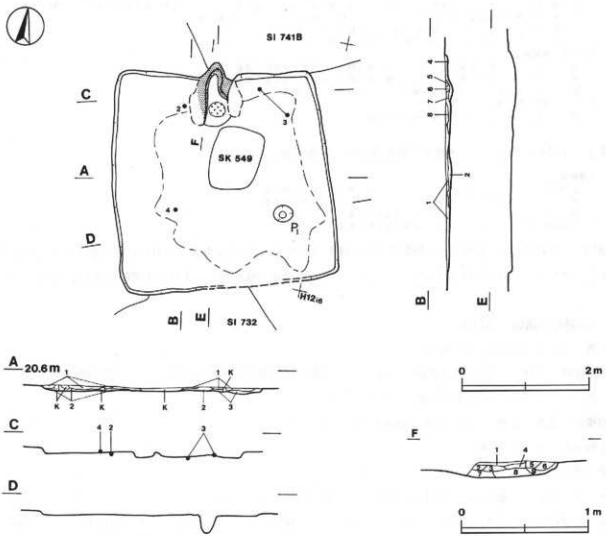
1　にぶい赤褐色　焼土小ブロック・粘土粒子中量，ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子・砂粒少量
2　暗赤褐色　焼土中ブロック・焼土小ブロック・焼土粒子・炭化粒子中量，ローム粒子・粘土粒子・砂粒少量
3　褐　色　ローム粒子中量，焼土小ブロック・炭化物・焼土粒子・炭化粒子・砂粒少量
4　黒褐色　焼土中ブロック・焼土小ブロック・炭化粒子中量，ローム粒子・焼土大ブロック・焼土粒子・粘土粒子少量
5　暗褐色　ローム粒子・焼土中ブロック・焼土粒子・炭化物・炭化粒子・粘土粒子少量
6　暗赤褐色　焼土小ブロック・焼土粒子・炭化粒子・粘土粒子中量，ローム粒子・焼土中ブロック・砂粒少量
7　褐　色　ローム粒子・粘土粒子中量，炭化粒子少量
8　暗褐色　炭化粒子・粘土粒子中量，ローム粒子・焼土粒子少量
9　褐　色　ローム粒子中量，炭化粒子・粘土粒子・砂粒少量

ピット　1か所。南東コーナー寄りに位置するP1は，径25cmの円形で，深さ28cmである。性格は不明である。

覆土　8層からなる。ブロック状の堆積状況から，人為堆積と考えられる。5～8層は粘土粒子を含んでいることから，竈からの流れと考えられる。

土層解説

1　褐　色　ローム粒子中量，ローム小ブロック・炭化粒子少量
2　褐　色　ローム粒子中量，ローム小ブロック・炭化粒子少量。しまりは弱い。
3　黒褐色　ローム中ブロック少量，ローム粒子・炭化粒子少量
4　黒褐色　炭化物中量，ローム粒子・焼土粒子少量
5　暗赤褐色　焼土小ブロック・粘土粒子中量，ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量
6　暗赤褐色　焼土中ブロック・炭化粒子・粘土粒子中量，ローム小ブロック・ローム粒子・焼土粒子少量

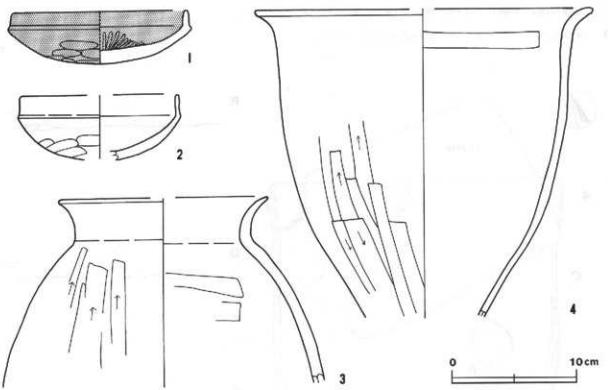


第72図　第739号住居跡実測図

7　赤褐色　ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子・粘土粒子中量
8　褐　　色　ローム粒子中量，ローム粒子・炭化粒子・粘土粒子少量

遺物　土師器片95点が出土している。第73図1の土師器坏は覆土中から，2の土師器坏は竈西側の床面から出土している。3の土師器甕は竈東側の床面から，4の土師器甑は中央部やや西寄りの覆土下層から出土している。

所見　本跡の時期は，出土土器から判断して7世紀前半と考えられる。



第73図　第739号住居跡出土遺物実測図

第739号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第73図 1	坏 土師器	A 13.3 B 4.1	体部・口縁部一部欠損。丸底。体部は内湾気味に立ち上がり，口縁部との境に明瞭な稜をもつ。口縁部は直立する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面ヘラ削り後ナデ，内面ヘラ磨き。内・外面黒色処理。	砂粒・雲母・長石・赤色粒子 にぶい褐色 普通	P5232　80% P L 48 覆土中
2	坏 土師器	A〔12.6〕 B（5.1）	底部から口縁部にかけての破片。丸底。体部は内湾して立ち上がり，口縁部との境に稜をもつ。口縁部は直立する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面ヘラ削り後ナデ，内面ナデ。	砂粒・雲母 にぶい橙色 普通	P5233　30% 竈西側床面
3	甕 土師器	A〔16.8〕 B（14.8）	体部から口縁部にかけての破片。体部は内湾して立ち上がる。頸部でくびれ，口縁部は外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面ヘラ削り，内面ヘラナデ。	砂粒 にぶい橙色 普通	P5234　20% 竈東側床面
4	甑 土師器	A〔26.8〕 B（24.5）	体部から口縁部にかけての破片。無底式。体部は内湾気味に立ち上がり，口縁部は外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面ヘラ削り，内面ヘラナデ。	砂粒・雲母・赤色粒子 にぶい橙色　普通	P5235　40% P L 48　中央部やや西寄り覆土下層

第741B号住居跡（第74図）

位置　調査５区の北部，H12g5区。

重複関係　本跡は，北部を第741A号住居に，南西コーナー部を第739号住居に掘り込まれている。

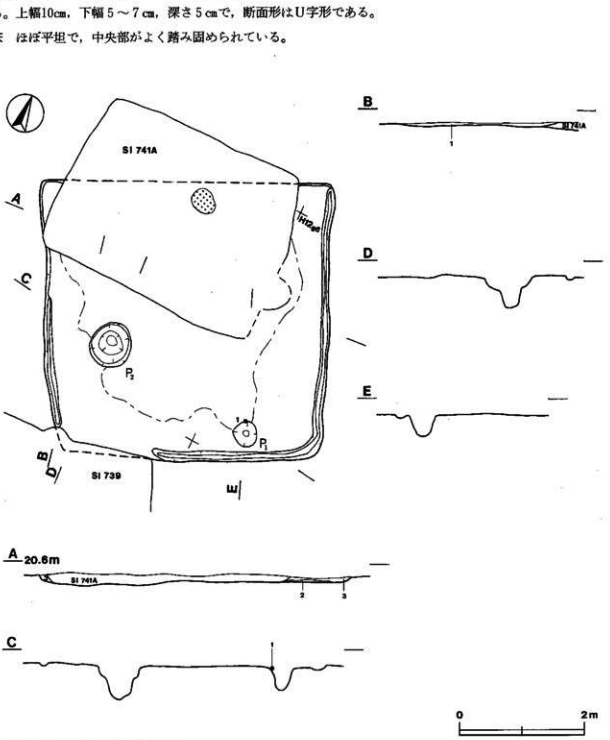
規模と平面形　長軸4.55m，短軸4.30mの方形である。

主軸方向　N－25°－W

壁　壁高は２～12cmで，外傾して立ち上がる。

壁溝　西壁下の北側と第739・741A号住居跡に掘り込まれた部分は確認できなかったが，それ以外は巡っている。上幅10cm，下幅５～７cm，深さ５cmで，断面形はU字形である。

床　ほぼ平坦で，中央部がよく踏み固められている。



第74図　第741B号住居跡実測図

竈　第741A号住居跡に掘り込まれているため，火床部の一部だけが確認できた。火床部はわずかに赤変している。

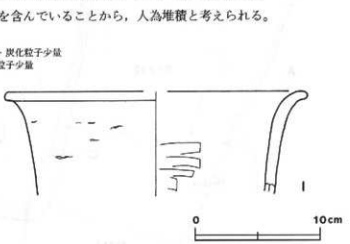
ピット　2か所。南東壁際にあるP1は径40cmの円形で，深さ38cmである。性格は不明である。南西寄りにあるP2は径70cmの円形で，深さ50cmである。位置的に出入り口施設に伴うピットと考えられる。

覆土　3層からなる。各層ともローム ブロックを含んでいることから，人為堆積と考えられる。

土層解説
1　暗褐色　ローム小ブロック中量，ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量
2　褐　色　ローム中・小ブロック中量，ローム粒子・焼土粒子少量
3　暗褐色　ローム小ブロック中量，ローム粒子少量

遺物　土師器片9点が出土している。第75図1の土師器甑は南東コーナー部の床面から出土している。

所見　出土土器が少なく時期を限定することはできないが，住居跡の形態等から判断して古墳時代後期と考えられる。



第75図　第741B号住居跡出土遺物実測図

第741B号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器　種	計測値 (cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備　考
第75図 1	甑 土師器	A 〔23.5〕 B (8.2)	体部から口縁部にかけての破片。体部は外傾して立ち上がり，口縁部は外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部内面ヘラナデ。	砂粒・雲母・赤色粒子によい黄橙色 普通	P5242　5% 南東コーナー部 床面

第742号住居跡（第77図）

位置　調査5区の北部，H12e7区。

重複関係　本跡は南部を第743号住居に，東部を第750号住居に，中央部やや北側を第571号土坑に掘り込まれている。

規模と平面形　中央部から北側が調査区域外で，南部・東部を第743・750号住居に掘り込まれているため，平面形は確認できなかった。確認できたのは，長軸（3.25）m，短軸（3.03）mの範囲である。

長軸方向　N－23°－W

壁　壁高は12cmで，外傾して立ち上がる。

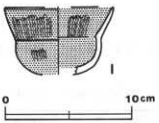
床　ほぼ平坦で，中央部がよく踏み固められている。

覆土　2層からなる。レンズ状の堆積状況から，自然堆積と考えられる。

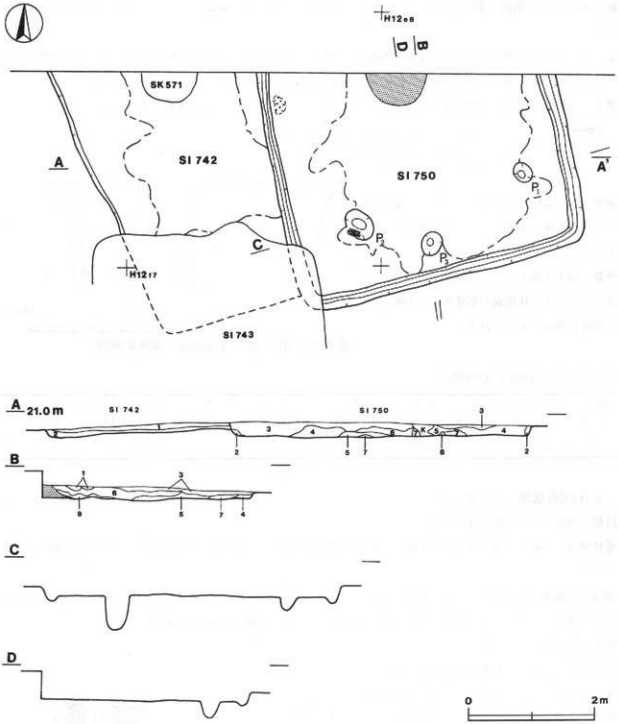
土層解説
1　黒褐色　炭化粒子中量，ローム大・中・小ブロック・粒子少量
2　褐　色　ローム粒子中量，ローム大ブロック・ローム中ブロック・炭化粒子少量

遺物　土師器片28点が出土している。第76図1の土師器坩は覆土中から出土している。

所見　本跡の時期は，土師器から判断して古墳時代前期と考えられる。



第76図　第742号住居跡出土遺物実測図



第77図　第742・750号住居跡実測図

第742号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第76図 1	坩 土師器	A［8.6］ B（5.2）	体部から口縁部にかけての破片。体部は球状を呈する。口縁部は外反する。	口縁部内・外面ヘラ磨き。体部内・外面ヘラ磨き。内・外面赤彩。	砂粒 暗赤色 普通	P5287　20% PL48 覆土中

第744号住居跡（第78・79図）

位置　調査５区の北部，H12h7区。

重複関係　本跡は北壁の一部を第743号住居に掘り込まれている。

規模と平面形　長軸7.66m，短軸7.23mの方形である。

主軸方向　N－60°－E

壁　壁高は６～12cmで，外傾して立ち上がる。

床　ほぼ平坦で，全体的によく踏み固められている。中央部に焼土塊がみられる。

竈　北壁と東壁の２か所で確認されている。第１竈は，北壁中央部を壁外に38cmほど掘り込み，砂質粘土で構築されている。袖部や火床部は残存せず，わずかに粘土と焼土が確認できた。煙道は，緩やかに立ち上がる。第２竈は，東壁中央部やや北寄りの部分を壁外に35cmほど掘り込み，砂質粘土で構築されている。規模は，焚口部から煙道部まで140cm，両袖部幅110cmである。火床部は皿状を呈し，赤変している。煙道は，火床面から垂直に立ち上がる。竈の覆土や付設位置，遺存状態から見て，第１竈から第２竈に作り替えが行われたものと思われる。

第１竈土層解説
1　赤　褐　色　焼土粒子・粘土粒子多量，焼土中ブロック・焼土小ブロック・炭化粒子・砂粒中量
2　にぶい赤褐色　粘土粒子多量，砂粒中量，ローム粒子・焼土小ブロック・焼土粒子・炭化粒子少量
3　暗　褐　色　焼土小ブロック・焼土粒子・粘土粒子多量，焼土中ブロック・炭化粒子・砂粒中量
4　赤　褐　色　粘土粒子多量，焼土中ブロック・焼土小ブロック・焼土粒子・炭化粒子・砂粒中量，ローム粒子少量

第２竈土層解説
1　暗 赤 褐 色　炭化粒子多量，砂粒中量，ローム粒子・焼土小ブロック・焼土粒子・粘土粒子少量
2　暗 赤 褐 色　焼土粒子・炭化粒子中量，ローム粒子・焼土中ブロック・焼土小ブロック・粘土粒子少量
3　暗 赤 褐 色　炭化粒子・砂粒中量，ローム粒子・焼土中ブロック・焼土粒子少量
4　赤　褐　色　焼土粒子・炭化粒子中量，ローム粒子・焼土中ブロック・焼土小ブロック・粘土粒子・砂粒少量

ピット　５か所（P1～P5）。P1～P4は，径58～80cmの円形で，深さ64～80cmであり，各コーナーに寄った位置で確認されている。規模と配置から主柱穴と考えられる。南壁際にあるP5は，長径80cm，短径64cmの楕円形で，深さ35cmである。位置的に出入り口施設に伴うピットと考えられる。

貯蔵穴　第２竈の北側から確認された。長軸95cm，短軸73cmの隅丸長方形で，深さ52cmである。

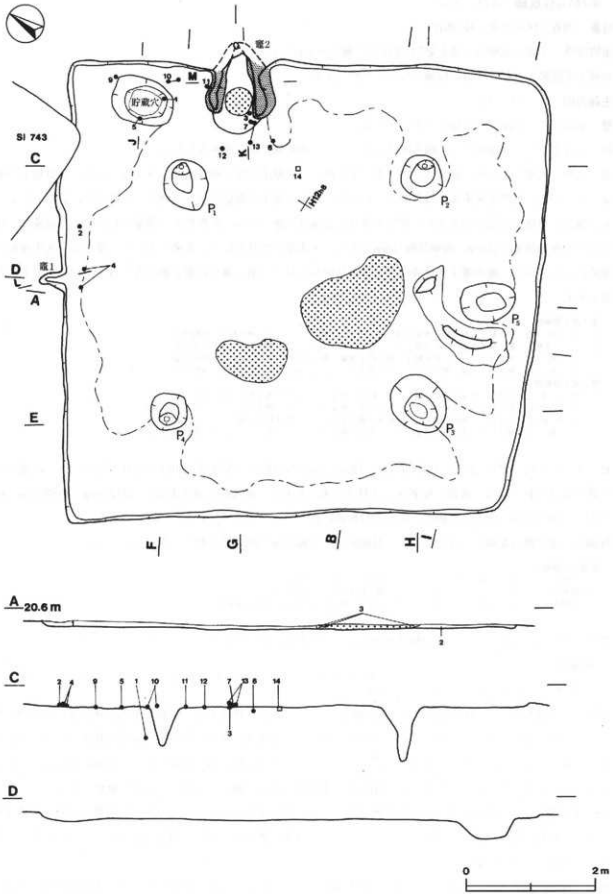
貯蔵穴土層解説
1　暗褐色　ローム粒子少量，ローム小ブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
2　暗褐色　ローム粒子少量，ローム小ブロック・焼土粒子微量，炭化物極微量
3　暗褐色　ローム粒子少量，ローム小ブロック・炭化粒子微量，炭化物・焼土粒子極微量

覆土　３層からなる。レンズ状の堆積状況から，自然堆積と考えられる。

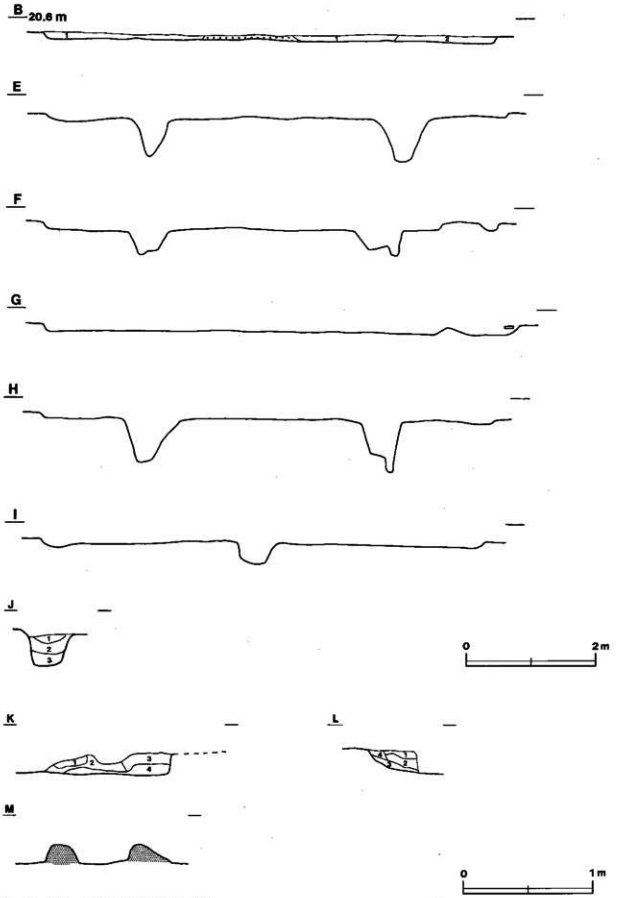
土層解説
1　褐　色　ローム小ブロック中量，ローム粒子・焼土粒子少量
2　暗 褐 色　ローム粒子中量，ローム小ブロック少量
3　暗赤褐色　焼土粒子多量，ローム粒子・焼土小ブロック少量

遺物　土師器片716点，須恵器片５点，石製模造品１点（勾玉），鉄滓１点，陶器片１点，礫２点，炭化材が出土している。第80・81図１～13はすべて土師器である。１の坏は貯蔵穴の底面から正位の状態で，５の坏は貯蔵穴の覆土上層から，それぞれ出土している。２・４の坏は北壁際の覆土下層から，３の坏は第２竈内から出土している。６・７の甕，12の鉢，13の甑は第２竈前面の覆土下層から土圧でつぶれた状態で出土している。８の甕は覆土中から出土している。９の甕は北コーナー部の床面から出土している。10の甕，11の小形甕は第２竈の北袖脇の覆土下層から出土している。14の勾玉は第２竈前面の覆土下層から出土している。陶器片は耕作による混入と考えられる。

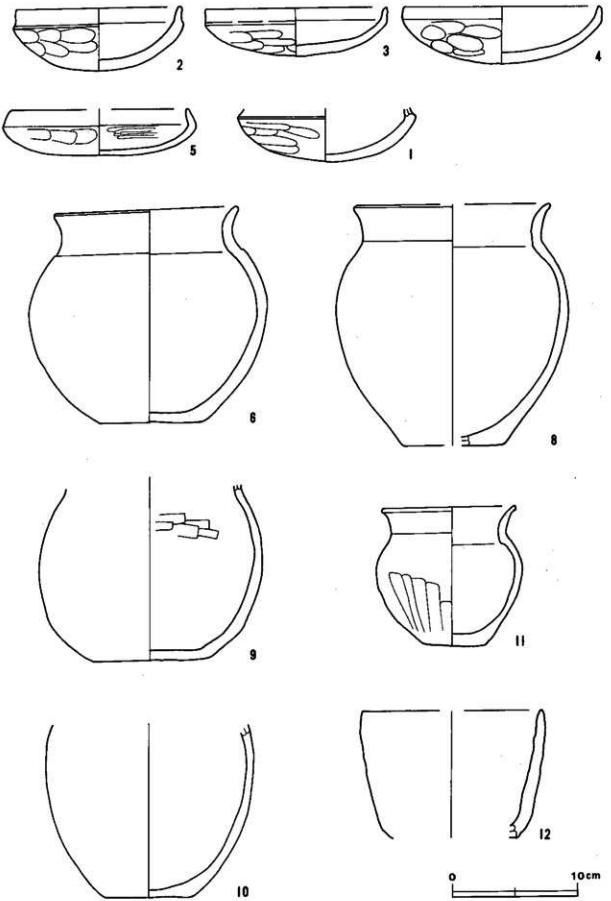
所見　床面に焼土塊がみられることから，焼失家屋と考えられる。本跡の時期は，出土土器や住居跡の形態等から判断して７世紀前葉と考えられる。



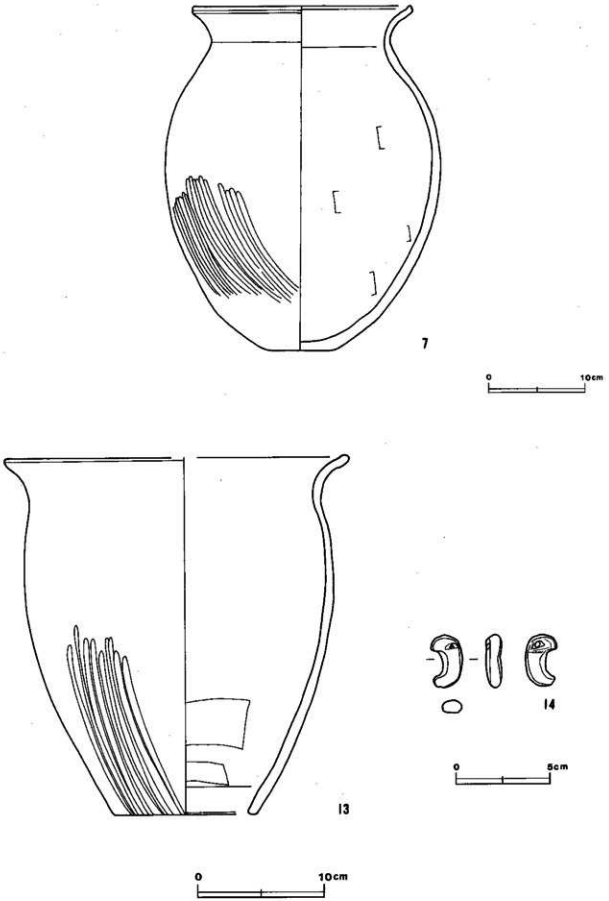
第78図　第744号住居跡実測図（1）



第79図　第744号住居跡実測図（2）



第80図　第744号住居跡出土遺物実測図（1）



第81図　第744号住居跡出土遺物実測図（2）

第744号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第80図 1	坏 土師器	B (4.3)	口縁部欠損。丸底。体部は内弯して立ち上がり，口縁部との境に稜をもつ。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面ヘラ削り，内面ナデ。	砂粒・雲母・長石・赤色粒子 にぶい橙色 普通	P5244 95% P L 49 貯蔵穴底面
2	坏 土師器	A 13.0 B 4.8	体部・口縁部一部欠損。丸底。体部は内弯して立ち上がり，口縁部との境に明瞭な稜をもつ。口縁部はほぼ直立する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面ヘラ削り，内面横ナデ。	砂粒・雲母・長石 にぶい褐色 普通	P5245 80% P L 49 北壁際覆土下層
3	坏 土師器	A 14.4 B 3.7	体部・口縁部一部欠損。丸底。体部は内弯して立ち上がり，口縁部との境に稜をもつ。口縁部は直立する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面ヘラ削り，内面ナデ。	砂粒・長石・赤色粒子 にぶい橙色 普通	P5246 80% P L 49 第2竈内
4	坏 土師器	A 15.5 B 4.5	体部・口縁部一部欠損。丸底。体部は内弯して立ち上がり，口縁部との境にわずかに稜をもつ。口縁部は直立する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面ヘラ削り，内面ナデ。	砂粒・赤色粒子 にぶい褐色 普通	P5247 80% P L 49 北壁際覆土下層
5	坏 土師器	A [13.9] B 3.6	体部・口縁部一部欠損。丸底。体部は内弯して立ち上がり，口縁部との境に稜をもつ。口縁部は内傾する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面ヘラ削り，内面ヘラ磨き。	砂粒・石英・赤色粒子 にぶい橙色 普通	P5248 60% 貯蔵穴覆土上層
6	甕 土師器	A 14.8 B 17.0 C 8.0	体部・口縁部一部欠損。平底。体部は内弯して立ち上がる。頸部でくびれ。口縁部は外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部内・外面ナデ。	砂粒・雲母・長石・赤色粒子 にぶい橙色 普通	P5250 90% P L 49 第2竈前面覆土下層
第81図 7	甕 土師器	A 22.4 B 35.9 C 6.0	体部・口縁部一部欠損。平底。体部は内弯して立ち上がり，中位に最大径をもつ。頸部でくびれ。口縁部は外反する。口唇部は上方につまみ上げられている。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面ヘラ磨き，内面ヘラナデ。	砂粒・雲母・長石 にぶい橙色 普通	P5251 70% P L 50 第2竈前面覆土下層
第80図 8	甕 土師器	A [15.6] B 19.1 C [7.9]	底部から口縁部にかけての破片。平底。体部は内弯して立ち上がる。頸部でくびれ，口縁部は外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部内・外面ナデ。	砂粒・雲母・長石・赤色粒子 赤褐色 普通	P5252 40% P L 50 覆土中
9	甕 土師器	B (13.7) C 8.8	体部から口縁部にかけて欠損。平底。体部は内弯して立ち上がる。	体部外面ナデ，内面ヘラナデ。	砂粒・長石・赤色粒子 褐色 普通	P5253 60% P L 49 北コーナー部床面
10	甕 土師器	B (13.6) C 6.9	体部から口縁部にかけて欠損。平底。体部は内弯して立ち上がる。	体部内・外面ナデ。	砂粒・長石 にぶい赤褐色 普通	P5254 30% P L 49 第2竈北袖脇覆土下層
11	小形甕 土師器	A 10.4 B 11.0 C 4.6	体部・口縁部一部欠損。平底。体部は内弯して立ち上がる。頸部でくびれ。口縁部は外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面ヘラ削り，内面ナデ。	砂粒・長石・赤色粒子 橙色 普通	P5249 90% P L 49 第2竈北袖脇覆土下層
12	鉢 土師器	A [14.2] B 10.0	体部から口縁部にかけての破片。体部は外傾しながら口縁部に至る。	口縁部内・外面横ナデ。	砂粒 にぶい橙色 普通	P5255 35% 第2竈前面覆土下層
第81図 13	瓶 土師器	A [26.6] B 28.3 C 11.2	体部・口縁部一部欠損。単孔式。体部は内傾気味に立ち上がり，口縁部は外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面ヘラ磨き，内面ヘラ削り後ナデ。	砂粒・長石・石英 にぶい黄橙色 普通	P5256 70% P L 50 第2竈前面覆土下層

図版番号	種別	計測値 長さ(cm)	幅(cm)	孔径(cm)	重量(g)	石質	出土地点	備考
第81図14	勾玉	2.8	1.7	0.2	4.90	蛇紋岩	第2竈前袖覆土下層	Q5014 P L 50

第746号住居跡（第82図）

位置　調査5区の北部，H13e1区。

重複関係　本跡は西部を第745号住居に掘り込まれている。

規模と平面形　中央部より北側が調査区域外に延びているため，平面形は不明である。確認できたのは，長軸

6.30m，短軸（2.13）mの範囲である。

長軸方向　N－5°－W

壁　壁高は6cmで，外傾して立ち上がる。

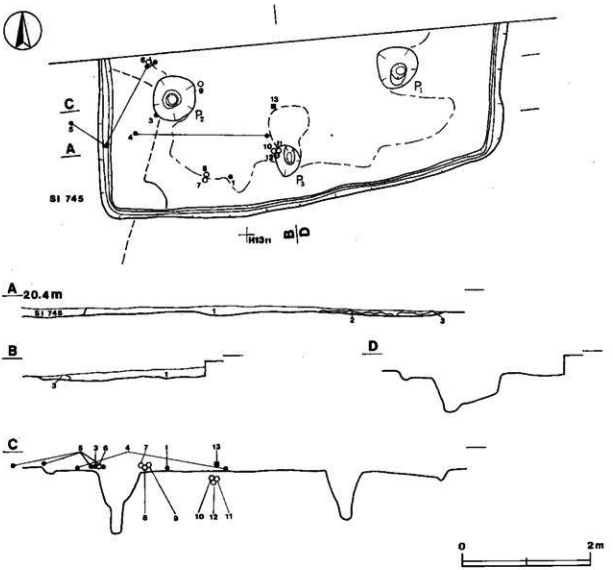
壁溝　確認した壁下すべてに巡っている。上幅10～15cm，下幅4～8cm，深さ3～6cmで，断面形はU字形である。

床　ほぼ平坦で，出入り口ピットから中央部かけてよく踏み固められている。

ピット　3か所（P1～P3）。南東・南西コーナー寄りに位置するP1・P2は径65cm前後の円形で，深さ75～100cmである。規模と配置から主柱穴と考えられる。南壁際にあるP3は径58cmの円形で，深さ62cmである。位置的に出入り口施設に伴うピットと考えられる。

覆土　3層からなる。レンズ状の堆積状況から，自然堆積と考えられる。

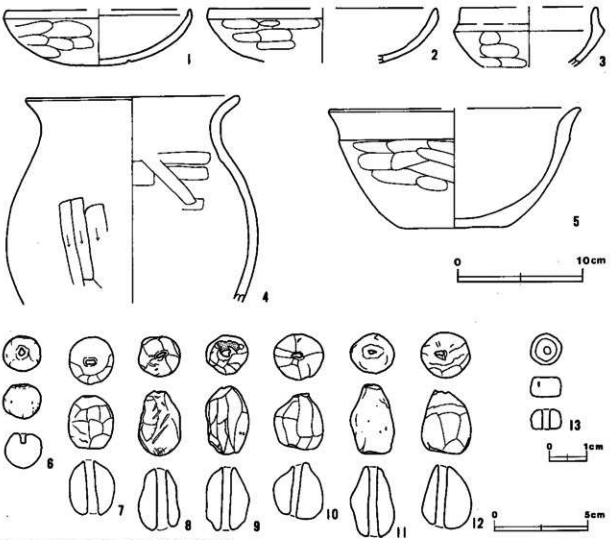
土層解説
1　褐　色　ローム粒子・炭化粒子中量，ローム小ブロック・炭化物少量
2　褐　色　ローム小ブロック中量，炭化粒子少量
3　褐　色　ローム小ブロック・粒子中量



第82図　第746号住居跡実測図

遺物　土師器片231点，須恵器片１点，土製品７点（土玉１点，土錘６点），ガラス玉１点，陶器片１点，磁器片１点，礫２点が出土している。第83図１の土師器坏は南壁際の床面から，２の土師器坏は覆土中からそれぞれ出土している。３の土師器坏は西部の覆土下層から出土している。４の土師器甕は西壁際の覆土下層から出土している。５の土師器鉢は，西壁際覆土下層から出土した破片と第745号住居跡から出土した破片が接合したものである。６の土玉，９の土錘は西部の覆土下層から，７の土錘は南壁際の覆土中層から，８の土錘は南壁際の覆土下層から出土している。10～12の土錘は南部の床面からまとまって出土している。13のガラス玉は中央部やや南寄りの覆土下層から出土している。陶器片と磁器片は耕作による混入と考えられる。

所見　本跡の時期は，出土土器から判断して７世紀前葉と考えられる。



第83図　第746号住居跡出土遺物実測図

第746号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第83図 1	坏 土師器	A [14.8] B 4.4	底部から口縁部にかけての破片。丸底。体部は内彎して立ち上がり，口縁部は直立する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面ヘラ削り後ヘラナデ，内面ナデ。	砂粒・赤色粒子 にぶい橙色 普通	P5260 40% 南壁際床面
2	坏 土師器	A [18.0] B (4.3)	体部から口縁部にかけての破片。体部は内彎して立ち上がり，口縁部は直立する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面ヘラ削り，内面ナデ。	砂粒・雲母・赤色粒子 橙色 普通	P5261 20% 覆土中

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第83図 3	坏 土師器	A [10.8] B (4.7)	体部から口縁部にかけての破片。体部は内彎して立ち上がり，口縁部との境に稜をもつ。口縁部は直立する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面ヘラ削り，内面ナデ。	砂粒 にぶい黄橙色 普通	P5258 20% 西壁覆土下層
4	甕 土師器	A 16.8 B (16.3)	体部から口縁部にかけての破片。体部は内彎して立ち上がる。頸部でくびれ，口縁部は外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面ヘラ削り，内面ヘラナデ。	砂粒・雲母・長石 にぶい橙色 普通	P5262 20% P L50 西壁際覆土下層
5	鉢 土師器	A [20.1] B 9.5 C 9.0	体部・口縁部一部欠損。丸底。体部は内彎して立ち上がり，口縁部との境に弱い稜をもつ。口縁部は外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面ヘラ削り，内面ナデ。	砂粒・雲母 にぶい橙色 普通	P5259 50% P L50 西壁際覆土下層

図版番号	種別	計測値 径(cm)	長さ(cm)	孔径(cm)	重量(g)	出土地点	備考
第83図 6	土玉	2.0	1.9	0.2	5.65	西部覆土下層	D P5013 P L51
7	土錘	2.4	2.8	0.5	20.0	南壁際覆土中層	D P5012 P L51
8	土錘	3.3	3.4	0.5	10.0	南壁際覆土下層	D P5014 P L51
9	土錘	3.1	2.7	0.5	20.0	西部覆土下層	D P5015 P L51
10	土錘	3.6	2.0	0.5	20.0	南部床面	D P5016 P L51
11	土錘	3.3	2.8	0.5	20.0	南部床面	D P5017 P L51
12	土錘	3.6	2.4	0.6	20.0	南部床面	D P5018 P L51
13	ガラス玉	0.8	0.5	0.2	0.74	中央部やや南寄り覆土下層	紺色 P L51

第748号住居跡（第84図）

位置　調査5区の北部，H13h2区。

規模と平面形　中央部から南側は調査区外になっているため，平面形は確認できなかった。確認できたのは，長軸6.10m，短軸（3.50）mの範囲である。

主軸方向　N－23°－W

壁　壁高は8㎝で，外傾して立ち上がる。

壁溝　北壁下から西壁下にかけて巡っている。上幅18㎝，下幅8㎝，深さ7㎝前後で，断面形はU字形である。

床　ほぼ平坦で，竈前面から中央部にかけてよく踏み固められている。

竈　北壁中央部を壁外に38㎝ほど掘り込み，砂質粘土で構築されている。規模は，焚口部から煙道部まで140㎝，両袖部幅110㎝である。火床部は，床面を約8㎝掘りくぼめており，赤変硬化している。天井部は崩落しており，2・3層が粘土粒子を多量に含むことから，天井部の崩落土と考えられる。袖部の内壁は火熱を受け赤変している。煙道は，火床面から緩やかに立ち上がる。

竈土層解説

1　にぶい赤褐色　ローム粒子多量，焼土中ブロック・焼土小ブロック・焼土粒子・炭化粒子少量
2　にぶい赤褐色　粘土粒子多量，焼土小ブロック・焼土粒子・炭化粒子・砂粒中量
3　にぶい橙色　粘土粒子多量，焼土粒子・砂粒中量，ローム粒子・焼土小ブロック・炭化粒子少量
4　赤褐色　焼土粒子多量，焼土中ブロック・焼土小ブロック・砂粒中量
5　赤褐色　焼土小ブロック・焼土粒子・炭化粒子中量，ローム粒子・粘土粒子・砂粒少量
6　暗赤褐色　焼土粒子・炭化粒子中量，ローム粒子・焼土中ブロック・焼土小ブロック・炭化物少量
7　暗赤褐色　焼土粒子多量，焼土中ブロック・炭化物・粘土粒子中量，ローム粒子・炭化粒子・砂粒少量
8　赤褐色　焼土粒子多量，焼土中ブロック・焼土小ブロック・炭化粒子中量，ローム粒子・焼土大ブロック・炭化物少量
9　暗赤褐色　焼土小ブロック・粒子多量，炭化粒子中量，ローム粒子・炭化物少量

ピット　2か所（P1・P2）。P1は径35㎝の円形で，深さ27㎝である。P2は径30㎝の円形で，深さ38㎝であり，北東・北西コーナーに寄った位置で確認されている。規模と配置から主柱穴と考えられる。

貯蔵穴　竈東側に確認された。長軸100cm，短軸80cmの隅丸長方形で，深さ43cmである。

貯蔵穴土層解説
1　暗 褐 色　粘土粒子少量，ローム小ブロック・ローム粒子・焼土小ブロック・焼土粒子微量
2　暗 褐 色　ローム粒子少量，焼土小ブロック・粒子微量
3　褐　　色　ローム小ブロック・粒子少量
4　極暗褐色　ローム粒子中量，焼土粒子微量
5　褐　　色　ローム小ブロック粒子中量，ローム粒子少量，焼土小ブロック微量

覆土　6層からなる。1～4層は，ブロック状の堆積状況から，人為堆積と考えられる。5・6層は竈からの流れである。

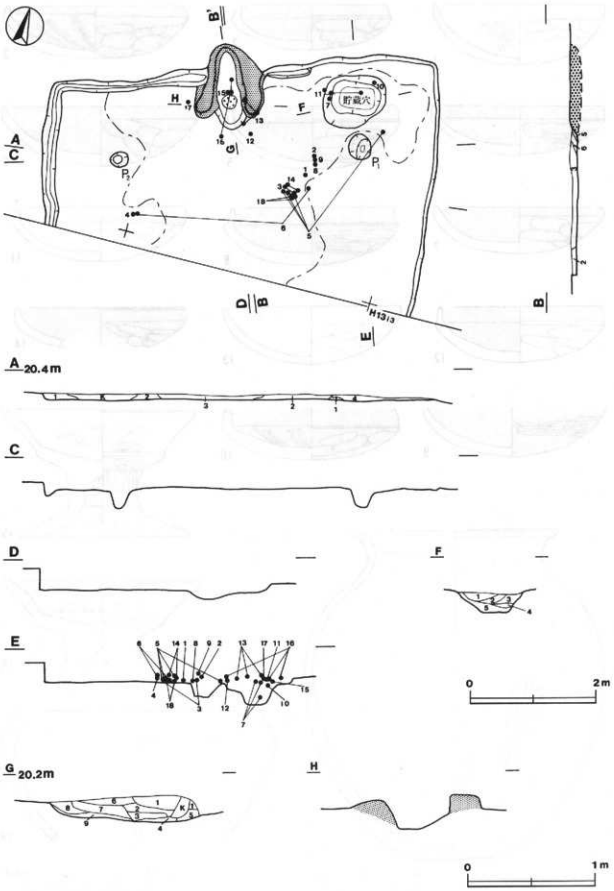
土層解説
1　明 褐 色　ローム粒子多量，ローム小ブロック中量，ローム中ブロック・炭化粒子少量
2　褐　　色　ローム粒子・炭化粒子中量，焼土小ブロック少量
3　褐　　色　ローム粒子中量，ローム中ブロック・ローム小ブロック・炭化粒子少量
4　暗 褐 色　炭化粒子多量，ローム小ブロック・粒子少量
5　にぶい赤褐色　ローム粒子・焼土粒子中量，焼土小ブロック・砂粒少量
6　褐　　色　ローム粒子中量，焼土小ブロック・焼土粒子・炭化粒子・粘土粒子・砂粒少量

遺物　土師器片144点，陶器片1点，礫1点が出土している。図示したものはすべて土師器である。第85図1・3・5・6の坏は正位の状態で，北東部の床面から出土している。2・9の坏は逆位で，8の坏は正位で，北東部の床面から重ねられた状態で出土している。4の坏は西部の覆土下層から出土している。7・10の坏は貯蔵穴内から，11の坏は竈東側の床面から，12の坏は竈前面の床面から，いずれも逆位の状態で出土している。13の坏，15・16の高坏は竈内から出土している。14の坏は北東部の覆土下層から出土している。17の甕は竈西袖部脇の床面から土圧でつぶれた状態で，18の鉢は北東部の床面から逆位の状態で出土している。陶器片は耕作による混入と考えられる。

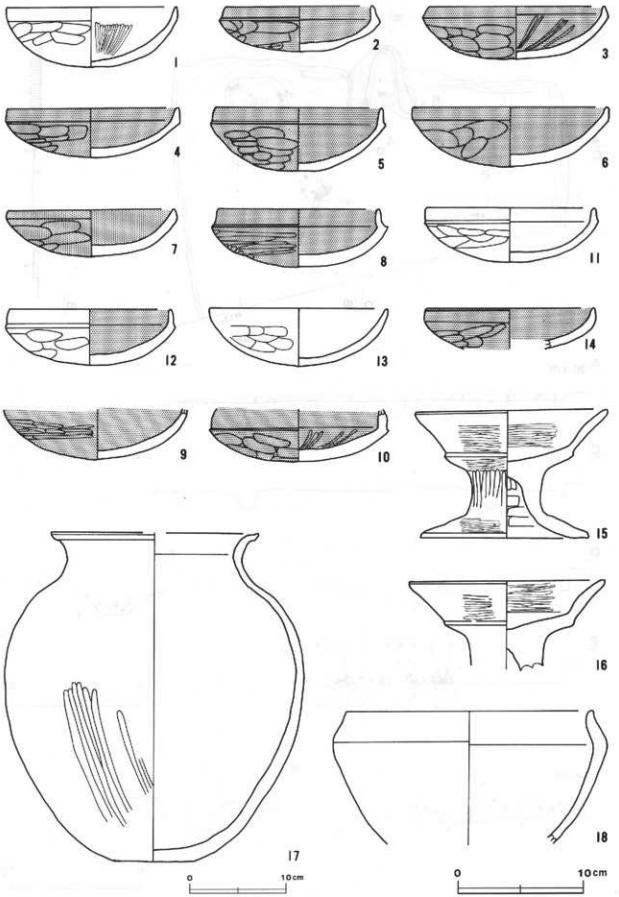
所見　本跡の時期は，出土土器から判断して6世紀後葉から7世紀前葉と考えられる。

第748号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第85図 1	坏 土師器	A 13.7 B 4.8	口縁部一部欠損。丸底。体部は内彎して立ち上がる。口縁部は直立する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面ヘラ削り後ナデ。内面ヘラ磨き。	砂粒・雲母・長石・赤色粒子 にぶい橙色　普通	P5265　98% PL51 北東部床面
2	坏 土師器	A 11.6 B 3.5	口縁部一部欠損。丸底。体部は内彎して立ち上がり，口縁部との境に稜をもつ。口縁部は内傾する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面ヘラ削り，内面ナデ。内・外面黒色処理。	砂粒・雲母 にぶい橙色 普通	P5266　99% PL51 北東部床面
3	坏 土師器	A 14.0 B 4.1	体部・口縁部一部欠損。丸底。体部は内彎して立ち上がり，口縁部との境に稜をもつ。口縁部は直立する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面ヘラ削り，内面横ナデ後ヘラナデ。内・外面黒色処理。	砂粒・雲母 にぶい橙色 普通	P5267　95% PL51 北東部床面
4	坏 土師器	A 13.5 B 3.9	口縁部一部欠損。丸底。体部は内彎して立ち上がり，口縁部との境に稜をもつ。口縁部は直立する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面ヘラ削り，内面横ナデ。内・外面黒色処理。	砂粒・雲母 にぶい橙色 普通	P5268　95% PL51 西部覆土下層
5	坏 土師器	A 13.2 B 5.0	口縁部一部欠損。丸底。体部は内彎して立ち上がり，口縁部との境に稜をもつ。口縁部は直立する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面ヘラ削り，内面横ナデ。内・外面黒色処理。	砂粒・雲母 にぶい橙色 普通	P5269　95% PL51 北東部床面
6	坏 土師器	A 15.4 B 4.7	口縁部一部欠損。丸底。体部は内彎して立ち上がる。口縁部は直立する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面ヘラ削り，内面横ナデ。内・外面黒色処理。	砂粒・雲母・長石・赤色粒子 にぶい橙色　普通	P5270　96% PL51 北東部床面
7	坏 土師器	A 13.2 B 3.6	体部・口縁部一部欠損。丸底。体部は内彎して立ち上がり，口縁部との境に弱い稜をもつ。口縁部は直立する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面ヘラ削り，内面横ナデ。内・外面黒色処理。	砂粒・雲母・赤色粒子 にぶい橙色 普通	P5271　96% PL51 貯蔵穴内
8	坏 土師器	A 12.8 B 4.4	口縁部一部欠損。丸底。体部は内彎して立ち上がり，口縁部との境に明瞭な稜をもつ。口縁部は直立する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面ヘラ削り後ヘラナデ，内面横ナデ。内・外面黒色処理。	砂粒・雲母・赤色粒子 にぶい褐色 普通	P5272　90% PL52 北東部床面



第84図　第748号住居跡実測図



第85図　第748号住居跡出土遺物実測図

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第85図 9	坏 土師器	B (4.0)	口縁部欠損。丸底。体部は内弱して立ち上がる。	体部外面ヘラ削り後ヘラ磨き，内面横ナデ。内・外面黒色処理。	砂粒 にぶい褐色 普通	P5273 80% 北東部床面
10	坏 土師器	B (4.2)	口縁部一部欠損。丸底。体部は内弱して立ち上がり，口縁部との境に稜をもつ。口縁部は直立する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面ヘラ削り後ナデ，内面横ナデ後ヘラナデ。内・外面黒色処理。	砂粒・雲母・長石 にぶい橙色 普通	P5274 90% P L52 貯蔵穴内
11	坏 土師器	A 13.4 B 4.3	体部・口縁部一部欠損。丸底。体部は内弱して立ち上がり，口縁部との境に稜をもつ。口縁部は直立する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面ヘラ削り，内面ナデ。	砂粒・雲母 にぶい黄橙色 普通	P5275 85% 竈東側床面
12	坏 土師器	A 12.8 B 4.4	底部から口縁部にかけて一部欠損。丸底。体部は内弱して立ち上がり，口縁部との境に稜をもつ。口縁部は直立する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面ヘラ削り，内面横ナデ。内面黒色処理。	砂粒・雲母 にぶい褐色 普通	P5276 75% P L52 竈前面床面
13	坏 土師器	A 14.2 B 4.6	体部・口縁部一部欠損。丸底。体部は内弱して立ち上がり，口縁部に至る。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面ヘラ削り，内面ヘラ磨き。	砂粒・雲母 暗赤褐色 普通	P5277 60% 竈内
14	坏 土師器	A 13.4 B (3.2)	体部から口縁部にかけての破片。体部は内弱して立ち上がり，口縁部との境に稜をもつ。口縁部は直立する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面ヘラ削り。内面ナデ。内・外面黒色処理。	砂粒・雲母 にぶい褐色 普通	P5278 45% 北東部覆土下層
15	高坏 土師器	A 15.2 B 10.3 D [13.3]	裾部及び坏部・口縁部一部欠損。脚部はラッパ状に開く。坏部は外傾して立ち上がり，口縁部に至る。坏部外面下位に稜をもつ。	口縁部内・外面横ナデ。坏部内・外面ヘラ磨き。脚部外面ヘラ磨き，内面ヘラ削り。裾部外面ヘラ磨き，内面横ナデ。	砂粒・雲母 にぶい橙色 普通	P5279 60% P L52 竈内
16	高坏 土師器	A 15.4 B′ (7.1)	脚部から口縁部にかけての破片。坏部は外傾して立ち上がり，口縁部に至る。坏部外面下位に稜をもつ。	口縁部内・外面横ナデ。坏部内・外面ヘラ磨き。脚部ヘラナデ。	砂粒・雲母 橙色 普通	P5280 45% P L52 竈内
17	甕 土師器	A [21.4] B 34.2 C 8.2	体部・口縁部一部欠損。平底。体部は内弱して立ち上がる。体部中位に最大径をもつ。胴部でくびれ，口縁部は外反する。口唇部は上方につまみ上げられている。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面ヘラ磨き，内面ナデ。	砂粒・雲母・長石 にぶい褐色 普通	P5281 55% P L52 竈西袖脇床面
18	鉢 土師器	A 19.4 B (10.5)	底部・体部一部欠損。体部は外傾して立ち上がり，口縁部は内傾する。	口縁部内・外面横ナデ。体部内・外面ナデ。	砂粒・雲母・赤色粒子 橙色 普通	P5282 55% P L52 北東部床面

第750号住居跡（第77図）

位置　調査5区の北部，H12e8区。

重複関係　本跡が第742号住居跡の西壁を掘り込み，本跡の南西コーナー部を第743号住居に掘り込まれている。

規模と平面形　中央部より北側が調査区域外のため，平面形は確認できなかった。確認できたのは，長軸4.61m，短軸（3.78）mである。

長軸方向　N－10°－W

壁　壁高は14～16cmで，外傾して立ち上がる。

壁溝　確認した壁下すべてに巡っている。上幅14～18cm，下幅6cm，深さ6cm前後で，断面形はU字形である。

床　ほぼ平坦で，出入り口ピットから中央部にかけてよく踏み固められている。西壁付近に焼土塊が，南西コーナー部に炭化材が，中央部よりやや北側に粘土塊がみられる。

ピット　3か所（P1～P3）。P1は径25cm前後の円形で，深さ20cmである。P2は長径53cm，短径38cmの楕円形で，深さ55cmであり，それぞれ南東・南西に寄った位置で確認されている。規模と配置から主柱穴と考えられる。南壁際にあるP3は径35cmの円形で，深さ28cmである。位置的に出入り口施設に伴うピットと考えられる。

覆土　9層からなる。ブロック状の堆積状況から，人為堆積と考えられる。

土層解説
1　暗褐色　炭化粒子中量，ローム小ブロック・ローム粒子・焼土粒子少量
2　褐　色　ローム粒子中量，ローム中ブロック・炭化粒子少量
3　暗褐色　ローム小ブロック・粒子中量，焼土粒子・炭化粒子少量
4　暗褐色　ローム小ブロック・ローム粒子・炭化粒子中量，ローム中ブロック・焼土粒子少量
5　褐　色　ローム粒子・炭化粒子中量，ローム小ブロック・焼土粒子少量
6　褐　色　ローム中・小ブロック・粒子中量，炭化粒子少量
7　黒褐色　炭化粒子中量，ローム粒子少量
8　褐　色　ローム粒子中量，炭化粒子少量
9　黒褐色　粘土粒子・砂粒中量，ローム粒子・炭化粒子少量

遺物　土師器片211点，陶器片1点，炭化材が出土している。陶器片は耕作による混入と考えられる。

所見　床面に炭化材や焼土塊がみられることから，焼失家屋と考えられる。遺物が細片で時期は限定できないが，出土土器から判断して古墳時代後期と考えられる。

② 奈良・平安時代

第736号住居跡（第87図）

位置　調査5区の北部，H12i3区。

重複関係　本跡は東部を第737号住居に掘り込まれ，さらに，第548号土坑に掘り込まれている。

規模と平面形　中央部から西側は調査区域外に延びているため，平面形は確認できなかった。確認できたのは，長軸［4.30］m，短軸［1.42］mの範囲である。

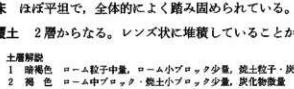
長軸方向　N－4°－W

壁　壁高は26cm前後で，外傾して立ち上がる。

床　ほぼ平坦で，全体的によく踏み固められている。

覆土　2層からなる。レンズ状に堆積していることから，自然堆積と考えられる。

土層解説
1　暗褐色　ローム粒子中量，ローム小ブロック少量，焼土粒子・炭化物微量
2　褐　色　ローム中ブロック・焼土小ブロック少量，炭化物微量



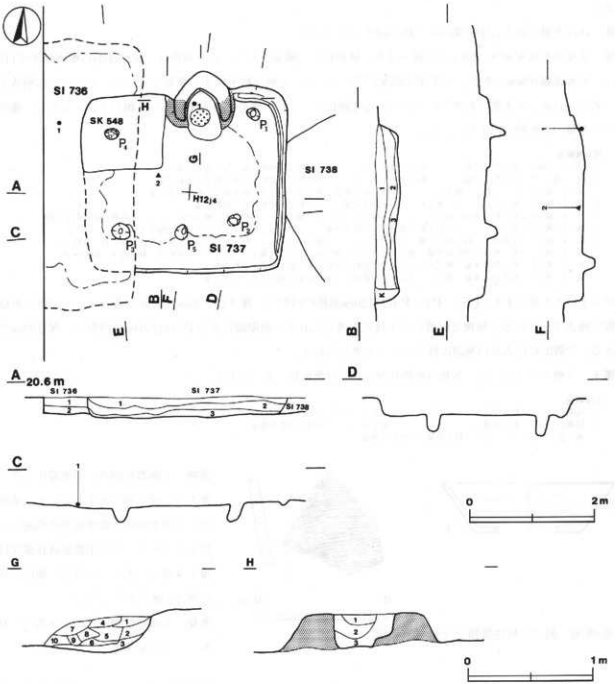
第86図　第736号住居跡出土遺物実測図

遺物　土師器片125点，須恵器片16点，陶器片2点が出土している。第86図1の須恵器盤は，北東部の床面から逆位の状態で出土している。陶器片は混入したものと考えられる。

所見　本跡の時期は，出土土器から判断して8世紀中葉と考えられる。

第736号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器　種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備　考
第86図 1	盤 須恵器	B（2.3） E（0.8）	底部から体部にかけての破片。高台剥離。体部は直線的に外傾する。	体部内・外面ロクロナデ。底部回転ヘラ削り。	砂粒・雲母・石英 灰黄褐色 普通	P5229　15% 北東部床面



第87図　第736・737号住居跡実測図

第737号住居跡（第87図）

位置　調査5区の北部，H12i3区。

重複関係　本跡が第736号住居跡の東部と第738号住居跡の北西コーナー部を掘り込んでいる。本跡は北西部を第548号土坑に掘り込まれている。

規模と平面形　長軸3.17m，短軸2.95mの方形である。

主軸方向　N－0°

壁　壁高は33cm前後で，外傾して立ち上がる。

壁溝　北東コーナーから東壁にかけて巡っている。上幅12cm，下幅8cm，深さ5cmである。断面形はU字形で

ある。

床　ほぼ平坦である。中央部がよく踏み固められている。

竈　北壁中央部を壁外に30cmほど掘り込み，砂質粘土で構築されている。規模は，焚口部から煙道部まで110cm，両袖部幅108cmである。天井部は崩落しており，5・6層は粘土粒子を多量に含んでいることから崩落土と考えられる。火床部はわずかにくぼみ，赤変硬化している。煙道は，火床面から外傾して立ち上がる。竈内から多量の炭化物が出土している。

竈土層解説

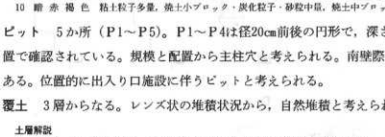
1　にぶい赤褐色　粘土粒子多量，ローム粒子・焼土小ブロック・炭化粒子・砂粒中量，焼土粒子少量
2　赤　褐　色　焼土粒子中量，ローム粒子・焼土小ブロック・炭化物・炭化粒子・粘土粒子・砂粒少量
3　暗 赤 褐 色　ローム粒子・焼土小ブロック・焼土粒子中量，焼土大ブロック・炭化粒子・粘土粒子少量
4　暗 赤 褐 色　焼土小ブロック・焼土粒子・粘土粒子中量，ローム粒子・炭化粒子・砂粒少量
5　暗 赤 褐 色　粘土粒子多量，焼土大ブロック・焼土小ブロック・焼土粒子・砂粒中量，焼土中ブロック・炭化物・炭化粒子少量
6　暗 赤 褐 色　焼土中ブロック・粘土粒子多量，焼土粒子中量，ローム粒子・焼土大ブロック・炭化粒子少量
7　暗 赤 褐 色　炭化粒子・粘土粒子中量，ローム小ブロック・焼土中ブロック・焼土小ブロック・焼土粒子・炭化物・砂粒少量
8　暗 赤 褐 色　焼土粒子・炭化物多量，焼土大ブロック・焼土中ブロック・焼土小ブロック・炭化粒子・粘土粒子・砂粒中量
9　暗 赤 褐 色　焼土粒子多量，焼土中ブロック・炭化物・炭化粒子・粘土粒子・砂粒中量
10　暗 赤 褐 色　粘土粒子多量，焼土小ブロック・炭化粒子・砂粒中量，焼土中ブロック少量

ピット　5か所（P1～P5）。P1～P4は径20cm前後の円形で，深さ23～33cmであり，各コーナーに寄った位置で確認されている。規模と配置から主柱穴と考えられる。南壁際にあるP5は径21cmの円形で，深さ22cmである。位置的に出入り口施設に伴うピットと考えられる。

覆土　3層からなる。レンズ状の堆積状況から，自然堆積と考えられる。

土層解説

1　暗褐色　ローム粒子中量，ローム中ブロック・焼土小ブロック少量，炭化物微量
2　暗褐色　ローム粒子中量，ローム中ブロック・焼土小ブロック少量，炭化物微量
3　褐　色　ローム小ブロック・粒子少量，炭化粒子微量



第88図　第737号住居跡出土遺物実測図

遺物　土師器片29点，須恵器片5点，礫1点，炭化物が出土している。第88図1の須恵器坏は竈煙道部の底面から出土している。2の須恵器鉢体部片は覆土下層から出土し，外面に横位の平行叩きが施されている。

所見　本跡の時期は，出土土器から判断して8世紀後葉と考えられる。

第737号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器　種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備　考
第88図 1	坏 須恵器	A［13.6］ B 39 C［8.3］	底部から口縁部にかけての破片。平底。体部から口縁部は外傾して立ち上がる。	口縁部，体部内・外面ロクロナデ。底部一定方向のヘラ削り。	砂粒・雲母・石英 黄灰色 普通	P5230 10% 竈煙道部底面

第740号住居跡（第89図）

位置　調査5区の北部，H12i5区。

重複関係　本跡が第732号住居跡の西部と第738号住居跡の東部を掘り込んでいる。

規模と平面形　長軸3.90m，短軸3.20mの長方形とである。

主軸方向　N－0°

壁　壁高は15cm前後で，外傾して立ち上がる。

床　ほぼ平坦で，竈前面から中央部にかけてよく踏み固められている。

竈　北壁中央部を壁外に50cmほど掘り込み，砂質粘土で構築されている。規模は，焚口部から煙道部まで125cm，両袖部幅103cmである。第９層は砂粒を多量に含むことから天井部の崩落土と考えられる。火床部は床面をわずかに掘りくぼめ，赤変している。煙道は，火床面から緩やかに立ち上がる。

竈土層解説
1　暗　褐　色　炭化粒子中量，ローム小ブロック・ローム粒子・焼土粒子・炭化物・粘土粒子・砂粒少量
2　褐　　色　ローム小ブロック・ローム粒子・粘土粒子中量，焼土小ブロック・焼土粒子・炭化物・砂粒少量
3　赤　褐　色　焼土中・小ブロック・粒子多量，焼土大ブロック中量，ローム粒子・炭化粒子・粘土粒子・砂粒少量
4　暗 赤 褐 色　ローム粒子・焼土小ブロック・焼土粒子・炭化粒子・粘土粒子中量，砂粒少量
5　にぶい赤褐色　粘土粒子多量，焼土小ブロック・焼土粒子・炭化粒子・砂粒中量
6　暗 赤 褐 色　焼土中・小ブロック・粒子多量，砂粒中量，ローム粒子・炭化物少量
7　にぶい赤褐色　粘土粒子多量，焼土中ブロック・焼土小ブロック・焼土粒子・砂粒中量，炭化粒子少量
8　暗 赤 褐 色　焼土粒子多量，ローム粒子・焼土小ブロック・粘土粒子・砂粒中量，炭化粒子少量
9　にぶい赤褐色　粘土粒子・砂粒多量，ローム粒子・炭化粒子中量，焼土小ブロック・焼土粒子少量
10　暗　褐　色　焼土小ブロック・炭化粒子・粘土粒子・砂粒中量，ローム粒子・焼土粒子少量
11　暗 赤 褐 色　炭化物・炭化粒子・焼土粒子・粘土粒子中量，ローム粒子・焼土中ブロック・焼土小ブロック・砂粒少量
12　にぶい褐色　粘土粒子多量，砂粒中量，ローム粒子・焼土小ブロック・焼土粒子・炭化粒子少量
13　にぶい赤褐色　ローム粒子・炭化粒子中量，焼土粒子少量
14　暗 赤 褐 色　ローム小ブロック・焼土粒子・炭化粒子中量，ローム粒子・焼土小ブロック少量
15　暗 赤 褐 色　焼土小ブロック・焼土粒子・粘土粒子・炭化粒子中量，ローム粒子・焼土大ブロック・砂粒少量

覆土　３層からなる。レンズ状の堆積状況から，自然堆積と考えられる。

土層解説
1　暗褐色　ローム粒子中量，ローム小ブロック少量，焼土粒子・炭化粒子微量
2　褐　色　ローム粒子中量，ローム中ブロック・焼土小ブロック少量，炭化物微量
3　褐　色　ローム小ブロック・粒子少量，炭化粒子微量

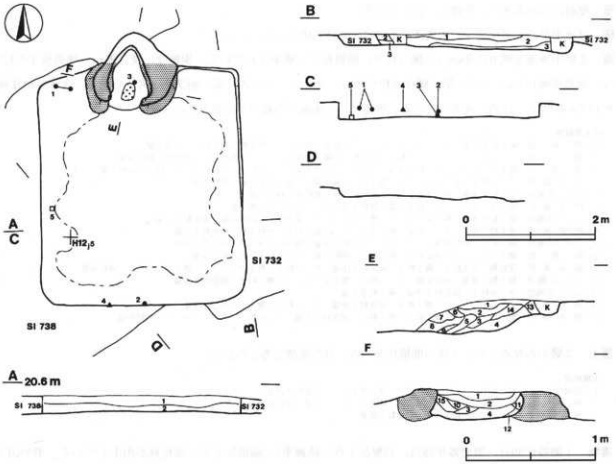
遺物　土師器片89点，須恵器片28点，石製品１点（紡錘車），陶器片１点，炭化材が出土している。第90図１の須恵器坏は竈西側の覆土中層から，２の須恵器坏は南壁際中央部の覆土下層から逆位の状態で，それぞれ出土している。３の須恵器盤は竈内から出土している。４の須恵器甕体部片は南壁際の覆土下層から出土し，外面には斜位の平行叩きが施されている。５の紡錘車は西壁際中央部の床面から出土している。陶器片は耕作による混入と考えられる。

所見　本跡の時期は，出土土器から判断して８世紀後葉と考えられる。

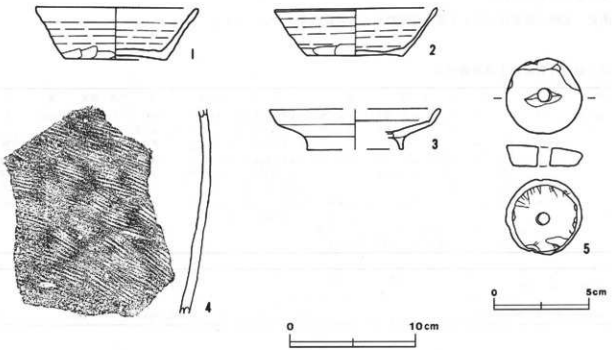
第740号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第90図 1	坏 須恵器	A 12.8 B 4.1 C 8.1	体部・口縁部一部欠損。平底。体部から口縁部は外傾して立ち上がる。	口縁部から体部内・外面ロクロナデ。体部下端手持ちヘラ削り。底部一定方向のヘラ削り。	砂粒・雲母・長石 青灰色 普通	P5236　95% PL53 竈西側覆土中層
2	坏 須恵器	A 13.0 B 3.9 C 7.7	体部・口縁部一部欠損。平底。体部から口縁部は外傾して立ち上がる。	口縁部，体部内・外面ロクロナデ。体部下端手持ちヘラ削り。底部一定方向のヘラ削り。	砂粒・雲母・長石 黄灰色 普通	P5237　80% PL53　南壁際 中央部覆土下層
3	盤 須恵器	A [13.4] B 3.2 D [7.6] E 1.1	高台から口縁部にかけての破片。高台は「八」の字状に開く。体部は直線的に外傾し，口縁部との境に稜をもつ。口縁部は外反する。	口縁部から体部内・外面ロクロナデ。高台貼り付け後ナデ。	砂粒・長石 青灰色 普通	P5238　20% 竈内

図版番号	種別	計測値 径(cm)	厚さ(cm)	孔径(cm)	重量(g)	石質	出土地点	備考
第90図5	紡錘車	4.0	1.1	0.7	20.0	滑石	西壁際中央床面	Q5013　PL53



第89図　第740号住居跡実測図



第90図　第740号住居跡出土遺物実測図

第741A号住居跡（第91図）

位置　調査５区の北部，H12g5区。

重複関係　本跡が第741B号住居跡の北部を掘り込んでいる。

規模と平面形　長軸3.66m，短軸2.70mの長方形である。

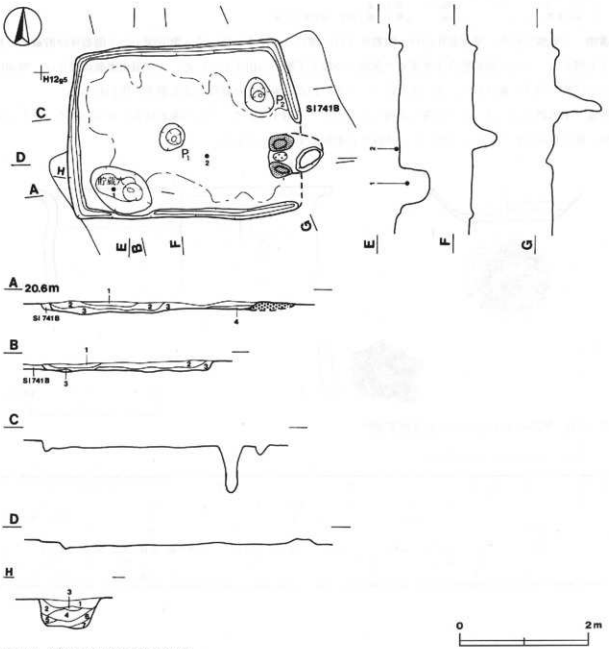
主軸方向　N－90°－E

壁　壁高は14～16cmで，外傾して立ち上がる。

壁溝　ほぼ全周している。規模は，上幅12cm，下幅６cm，深さ５～12cmで，断面形はU字形である。

床　ほぼ平坦で，竈前面から中央部にかけてよく踏み固められている。

竈　東壁中央部やや南寄りを壁外に45cmほど掘り込み，砂質粘土で構築している。撹乱を多く受けているため袖部や煙道部の遺存状態は悪い。火床部は皿状をしている。覆土の堆積状況は確認できなかった。



第91図　第741A号住居跡実測図

ピット　2か所。中央部にあるP1は長径57cm，短径40cmの楕円形で，深さ76cmである。竈北側にあるP2は径45cmの円形で，深さ41cmである。いずれも性格は不明である。

貯蔵穴　1か所。南西コーナー部で確認された。長径102cm，短径65cmの楕円形で，深さ45cmである。

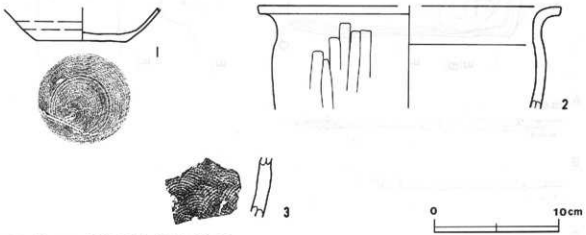
貯蔵穴土層解説
1　褐　色　ローム粒子・炭化粒子中量，ローム小ブロック少量
2　暗褐色　炭化粒子中量，ローム小ブロック・粒子少量
3　褐　色　ローム粒子中量，ローム小ブロック・炭化粒子少量
4　暗褐色　炭化粒子中量，ローム中・小ブロック・粒子少量
5　黒褐色　炭化粒子中量，ローム粒子少量
6　黒褐色　炭化粒子中量，ローム小ブロック・粒子少量
7　褐　色　ローム小ブロック・粒子中量，ローム中ブロック・炭化粒子少量

覆土　4層からなる。レンズ状の堆積状況から，自然堆積と考えられる。

土層解説
1　暗 褐 色　ローム粒子・焼土粒子少量
2　極暗褐色　ローム粒子・焼土粒子少量
3　褐　　色　ローム小ブロック中量，ローム粒子少量
4　暗 褐 色　ローム小ブロック中量，ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量

遺物　土師器片85点，須恵器片13点，陶器片3点，礫11点が出土している。第92図1の土師器坏は貯蔵穴の覆土上層から，2の土師器甕は中央部やや南寄りの覆土下層から出土している。3の須恵器甕体部片は，外面に同心円状の叩きが施されている。流れ込みとおもわれる。陶器片は耕作による混入と思われる。

所見　須恵器片は，ほとんどが覆土上層からの出土で，細片であることから流れ込みとおもわれる。また，東壁に竈が付設されていること等から，本跡は10世紀前半と考えられる。



第92図　第741A号住居跡出土遺物実測図

第741A号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器　種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備　考
第92図 1	坏 土師器	B（2.6） C　7.3	底部から体部にかけての破片。平底。体部は外傾して立ち上がる。	体部内・外面ロクロナデ。底部回転糸切り。	砂粒・雲母・赤色粒子 橙色 普通	P5240　25% 貯蔵穴覆土上層
2	甕 土師器	A［24.2］ B（8.1）	体部から口縁部にかけての破片。頸部でくびれ，口縁部は外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面ヘラ削り，内面ナデ。	砂粒・雲母・長石 にぶい褐色 普通	P5241　5% 中央やや南寄り 覆土下層

第743号住居跡（第93図）

位置　調査５区の北部，H12f7区。

重複関係　本跡が第742号住居跡の南部と第744号住居跡の北壁の一部，第750号住居跡の南西コーナー部を掘り込んでいる。

規模と平面形　長軸4.86m，短軸3.75mの長方形である。

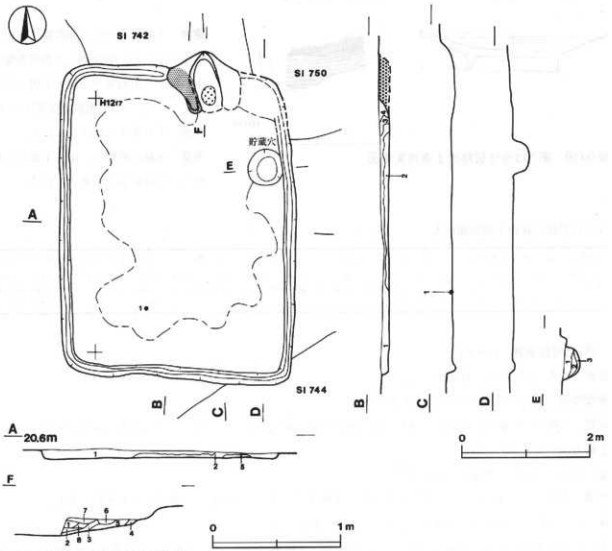
主軸方向　N－6°－W

壁　壁高は６～13cmで，外傾して立ち上がる。

壁溝　全周している。上幅12～16cm，下幅５～８cm，深さ６cm前後で，断面形はU字形である。

床　ほぼ平坦で，竈前面から中央部にかけてよく踏み固められている。

竈　北壁中央部やや東寄りを壁外に26cmほど掘り込み，砂質粘土で構築されている。規模は，焚口部から煙道部まで96cm，両袖部幅約90cmである。火床部は床面を約５cm掘りくぼめており，赤変硬化している。煙道は，火床面から外傾して立ち上がる。



第93図　第743号住居跡実測図

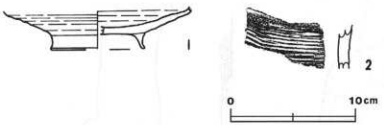
竈土層解説
1　にぶい黄橙色　粘土粒子多量，焼土中ブロック・焼土小ブロック・焼土粒子・炭化粒子・砂粒少量
2　にぶい黄橙色　粘土粒子多量，焼土粒子・炭化粒子・砂粒中量，焼土小ブロック・ローム粒子少量
3　暗赤褐色　粘土粒子多量，焼土小ブロック・焼土粒子・炭化粒子中量，砂粒少量
4　赤　褐　色　焼土中・小ブロック・粒子多量，焼土大ブロック中量，炭化物少量
5　暗赤褐色　焼土小ブロック多量，焼土中ブロック・炭化粒子・粘土粒子中量，ローム粒子・砂粒少量
6　にぶい黄橙色　粘土粒子多量，砂粒中量，焼土小ブロック・焼土粒子・炭化粒子少量
7　暗赤褐色　焼土粒子・炭化粒子・粘土粒子中量，焼土中・小ブロック少量
8　極暗赤褐色　炭化粒子中量，ローム粒子・焼土小ブロック・焼土粒子・粘土粒子少量

貯蔵穴　1か所。東壁際中央部やや北寄りで確認された。径56cmの円形で，深さ25cmである。

貯蔵穴土層解説
1　黒　褐　色　ローム中ブロック・炭化粒子中量，ローム小ブロック・粒子少量
2　暗　褐　色　ローム中ブロック・炭化粒子中量，ローム大・小ブロック・粒子少量
3　にぶい褐色　ローム粒子多量，ローム小ブロック中量，炭化粒子少量

覆土　5層からなる。各層ともロームブロックを含んでいることから，人為堆積と考えられる。

土層解説
1　褐　色　ローム粒子多量，ローム中ブロック・ローム小ブロック・焼土粒子少量
2　暗褐色　ローム小ブロック中量，ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量
3　褐　色　ローム粒子多量，焼土小ブロック中量，ローム小ブロック・焼土粒子少量
4　褐　色　ローム小ブロック・ローム粒子・焼土粒子多量，焼土小ブロック・炭化粒子少量
5　暗褐色　ローム粒子中量，ローム小ブロック・焼土粒子・炭化粒子少量



第94図　第743号住居跡出土遺物実測図

遺物　土師器片89点，須恵器片27点が出土している。第94図1の須恵器盤は中央部やや南西寄りの覆土下層から出土している。2の須恵器甕体部片には，外面に平行叩きが施されている。

所見　本跡の時期は，出土土器から判断して9世紀前半と考えられる。

第743号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器　種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備　考
第94図 1	盤 須恵器	B（3.3） D（7.6） E　1.3	底部から体部にかけての破片。高台は「八」の字状に開く。体部は外傾して立ち上がる。	体部内・外面ロクロナデ。底部回転ヘラ削り。高台貼り付け後ナデ。	砂粒・雲母・長石 灰褐色 普通	P5243　20% 中央部やや南西寄り覆土下層

第745号住居跡（第95図）

位置　調査5区の北部，H12e0区。

重複関係　本跡が第746号住居跡の西部を掘り込んでいる。

規模と平面形　長軸［3.70］m，短軸（3.60）mの方形と推定される。北壁の一部は調査区域外に延びている。

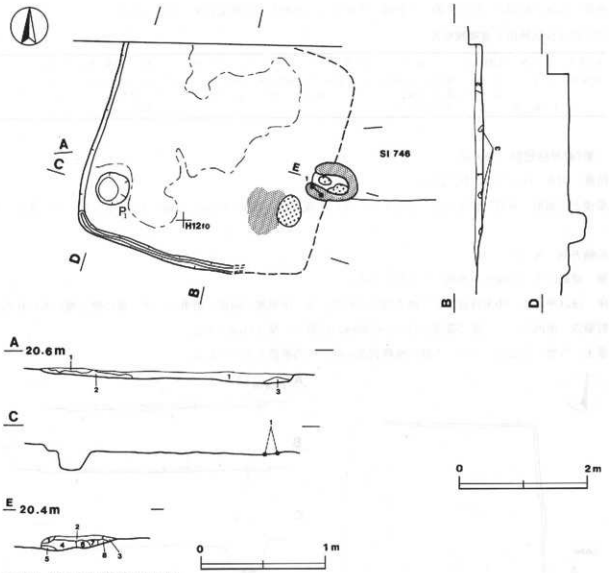
主軸方向　N－106°－E

壁　壁高は10cmで，外傾して立ち上がる。

壁溝　南壁下の一部に巡っている。上幅10cm，下幅4cm，深さ4cm前後で，断面形はU字形である。

床　ほぼ平坦で，中央部から西壁にかけてよく踏み固められている。

竈　東壁中央部を壁外に45cmほど掘り込み，砂質粘土で構築されている。規模は，焚口部から煙道部まで85cm，両袖部幅60cmである。火床部は床面を約5cm掘りくぼめており，赤変硬化している。煙道は，火床面から外傾して立ち上がる。



第95図　第745号住居跡実測図

竈土層解説

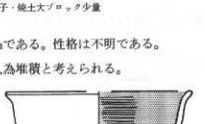
1　黒　褐　色　粘土粒子多量，炭化粒子中量，ローム粒子・焼土粒子・砂粒少量
2　極暗赤褐色　炭化粒子中量，ローム粒子・焼土小ブロック・焼土粒子・粘土粒子・砂粒少量
3　暗　赤　褐　色　焼土粒子・炭化粒子中量，ローム粒子・焼土小ブロック少量
4　暗　赤　褐　色　焼土粒子・炭化粒子中量，焼土小ブロック・粘土粒子・砂粒少量
5　暗　赤　褐　色　炭化粒子中量，ローム粒子・焼土粒子・粘土粒子・砂粒少量
6　暗　赤　褐　色　焼土小ブロック・粒子多量，焼土中ブロック・炭化粒子・粘土粒子中量，砂粒中量
7　にぶい赤褐色　焼土粒子多量，焼土中ブロック・焼土小ブロック・炭化粒子中量，ローム粒子・焼土大ブロック少量
8　暗　赤　灰　色　炭化粒子多量，焼土小ブロック・粒子中量，ローム粒子少量

ピット　1か所。南西コーナー部で確認された。径51cmの円形で，深さ30cmである。性格は不明である。

覆土　3層からなる。各層ともローム ブロックを含んでいることから，人為堆積と考えられる。

土層解説

1　暗褐色　ローム大ブロック・ローム小ブロック・ローム粒子・炭化粒子少量
2　褐　色　ローム粒子中量，ローム大ブロック・ローム小ブロック・炭化粒子少量
3　褐　色　ローム粒子中量，ローム中ブロック・ローム小ブロック・炭化粒子少量



第96図　第745号住居跡出土遺物実測図

遺物　土師器片263点，須恵器片15点が出土している。第96図1の土師器坏は，竈内から出土している。須恵器片は細片で，流れ込みと思われる。

所見　本跡の時期は，出土土器や住居跡の形態等から判断して10世紀前葉と考えられる。

第745号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第96図 1	坏 土師器	A [14.6] B (5.0)	体部から口縁部にかけての破片。体部は内彎して立ち上がり，口縁部は外反する。	口縁部・体部外面横ナデ。体部内面ヘラ磨き。内面黒色処理。	砂粒・雲母・赤色粒子によい黄褐色 普通	P.5257 覆内　20%

第747号住居跡（第97図）

位置　調査５区の北部，H13g1区。

規模と平面形　東壁は攪乱を受け残存していない。規模は，長軸3.66m，短軸［3.20］mの長方形と推定される。

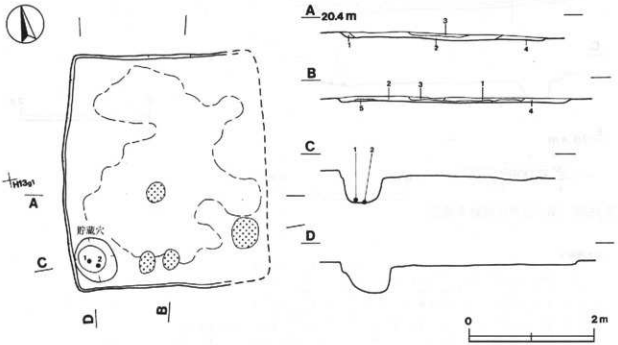
長軸方向　N－11°－E

壁　壁高は５～12cmで，外傾して立ち上がる。

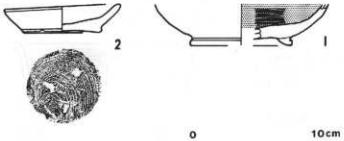
床　ほぼ平坦で，中央付近がよく踏み固められている。中央部，南部，南東コーナー部に焼土塊がみられる。

貯蔵穴　南西コーナー部で確認された。径63cmの円形で，深さ41cmである。

覆土　５層からなる。ブロック状の堆積状況から，人為堆積と考えられる。



第97図　第747号住居跡実測図



土層解説

1	褐色	ローム粒子・炭化粒子中量
2	黒褐色	炭化粒子中量，ローム粒子・焼土粒子・炭化物少量
3	暗赤褐色	焼土小ブロック・炭化粒子中量，ローム粒子・焼土粒子少量
4	黒褐色	炭化粒子中量，ローム小ブロック・ローム粒子・焼土粒子少量
5	にぶい赤褐色	焼土小ブロック中量，ローム小ブロック・ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量

第98図　第747号住居跡出土遺物実測図

遺物　土師器片75点，須恵器片5点，陶器片1点，礫2点が出土している。第98図1の土師器高台付坏と2の土師器皿は，ともに貯蔵穴の底面から出土している。須恵器片は細片で，流れ込みと思われる。

所見　床面に焼土塊がみられることから，焼失家屋と考えられる。本跡の時期は，出土土器から判断して10世紀前半と考えられる。

第747号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第98図 1	高台付坏 土師器	B (3.3) D [8.0] E 0.7	高台部から体部にかけての破片。高台は短く「ハ」の字状に開く。平底。体部は内彎気味に立ち上がる。	体部外面ナデ。体部内面ヘラ磨き。底部回転ヘラ削り後ナデ。高台貼り付け後ナデ。内面黒色処理。	砂粒・雲母・長石にぶい橙色 普通	P5263 20% 貯蔵穴底面
2	皿 土師器	A 9.3 B 2.3 C 7.3	口縁部一部欠損。平底。体部から口縁部は外傾して立ち上がる。	口縁部，体部内・外面ロクロナデ。底部回転糸切り。	砂粒・雲母・赤色粒子浅黄橙色 普通	P5264 80% PL53 貯蔵穴底面

③　時期不明

第749号住居跡（第99図）

位置　調査5区の北部，H12h0区。

規模と平面形　本跡は覆土が薄く，床面がほぼ露出した状態で確認された。南西コーナー部は調査区外のため確認できなかったが，規模と平面形は床質等から長軸［3.70］m，短軸［3.50］mの方形と推定される。

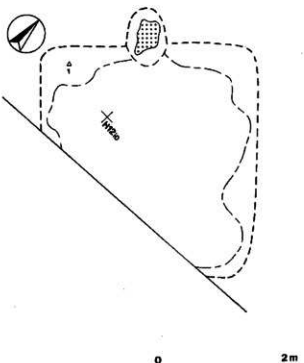
主軸方向　N－45°－W

床　竈前面から中央部にかけてよく踏み固められている。

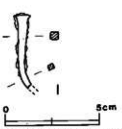
竈　北壁中央部と推定される位置に赤変部が確認された。竈の火床部の痕跡と考えられる。

遺物　土師器片1点，鉄製品1点（釘）が出土している。第100図1の釘は北西コーナー部から出土している。

所見　本跡は覆土が薄く壁，覆土の堆積状況が確認できなかった。時期は，判断できる出土遺物がないため不明である。



第99図　第749号住居跡実測図



第100図　第749号住居跡出土遺物実測図

第749号住居跡出土遺物観察表

図版番号	種別	計測値 長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)	出土地点	備考
第100図1	鉄 釘	(4.0)	0.4	0.4	(2.64)	北西コーナー部	M5026

表4 熊の山遺跡5区住居跡一覧表

住居跡番号	位置	主軸方向(長軸)	平面形	規模(長軸×短軸)	壁高(cm)	床面	内部施設 壁溝	主柱穴	炉 ピット	炉・竈	貯蔵穴	覆土	出土遺物	備考 新旧関係(古→新)
726	H12f3	N-20°-W	[長方形]	5.46 ×(4.80)	10	平坦	−	2	−	1	炉	−	人為	土師器(高坏・台台・壺)	本跡→SI730・726→SI729
728	H12e3	−	不 明	(3.50)×(2.10)	25	平坦	−	−	−	−	−	−	人為	土師器(坏・壺)	SI726→本跡
729	H12f4	N-26°-W	[方 形]	[5.50]× 5.32	25	平坦	−	4	1	1	竈	−	自然	土師器(坏・壺)、土製土錘	SI726・728→SI729→本跡→SK540→545
730	H12e4	N-26°-W	不 明	(5.60)×(4.65)	16	平坦	一部	2	1	−	−	−	自然	土師器(坏・壺)	SI726・729→本跡→SI729→SK540・544
731	H12e5	N-30°-W	不 明	5.20 ×(2.15)	35	平坦	一部	2	1	−	−	−	自然	土師器(ミニチュア土器・壺)	本跡→SI730→SI729→SK542→545
732	H12f5	N-28°-W	[長方形]	[4.70]×[3.80]	16	平坦	一部	−	−	−	竈	−	自然	土師器片、石臼	本跡→SI730→SI740
736	H12f3	N-4°-W	不 明	[4.30]×[1.42]	26	平坦	−	−	−	−	−	−	自然	土師器片、須恵器(盤)	本跡→SI737→SK548
737	H12f3	N-6°	方 形	3.17 × 2.95	33	平坦	一部	4	1	−	竈	−	自然	土師器片、須恵器(坏・鉢)	SI738→SI736→本跡→SK548
738	H12f4	N-36°-W	[方 形]	[4.10]×[4.00]	15~20	平坦	−	4	1	−	竈	2	自然	土師器片、鉄滓	本跡→SI737→SI740
739	H12h5	N-12°-W	方 形	3.54 × 3.44	6~8	平坦	−	−	−	1	竈	−	人為	土師器(坏・甕)	SI732・741B→本跡→SK549
740	H12f5	N-6°	長方形	3.90 × 3.20	15	平坦	−	−	−	−	竈	−	自然	土師器片、須恵器(坏・盤)、石製品(紡錘車)	SI732・738→本跡
741A	H12g5	N-92°-E	長方形	3.66 × 2.70	14~16	平坦	全周	−	−	2	竈	1	自然	土師器(坏・壺)、須恵器片	SI741B→本跡
741B	H12g5	N-28°-W	方 形	4.55 × 4.30	2~12	平坦	一部	−	1	1	竈	−	人為	土師器(甕)	本跡→SI739→SI741A
742	H12e7	N-23°-W	不 明	(3.25)×(3.03)	12	平坦	−	−	−	−	−	−	自然	土師器(坏・壺)	本跡→SI750→SI743
743	H12f7	N- 6°-W	長方形	4.86 × 3.75	6~13	平坦	全周	−	−	−	竈	1	人為	土師器片、須恵器(盤・壺)	SI742→SI744・750→本跡
744	H12h7	N-60°-E	方 形	7.66 × 7.23	6~12	平坦	−	4	1	−	竈	1	自然	土師器(坏・甕・鉢)、石製紡錘品(勾玉)	本跡→SI743
745	H12e0	N-166°-E	[方 形]	[3.70]×(3.60)	10	平坦	一部	−	−	1	竈	−	人為	土師器(坏)、須恵器片	SI746→本跡
746	H13e1	N- 5°-W	不 明	6.30 ×(2.13)	6	平坦	一部	2	1	−	−	−	自然	土師器(坏・甕)、土玉、土錘、ガラス玉	本跡→SI745
747	H13g1	N-11°-E	[長方形]	3.66 ×[3.20]	5~12	平坦	−	−	−	−	−	1	人為	土師器(高台付坏・皿)	
748	H13h2	N-22°-W	不 明	6.10 ×(3.90)	8	平坦	一部	2	−	−	竈	1	人為	土師器(坏・高坏・壺)	
749	H12h0	N-42°-W	[方 形]	[3.70]×[3.50]	−	平坦	−	−	−	−	竈	−	−	土師器片、釘	
750	H12e8	N-10°-W	[方 形]	4.61 ×(3.78)	14~16	平坦	一部	2	1	−	−	−	人為	土師器(坏)	SI742→本跡→SI743

(2) 土坑

表5 熊の山遺跡5区土坑一覧表

土坑番号	位置	長径方向(長軸方向)	平面形	規模 長径(軸)×短径(軸)(m)	深さ(cm)	壁面	底面	覆土	主な遺物	備考 重複関係 新旧関係(古→新)
540	H12f4	N- 7°-W	長 方 形	2.06 × 1.75	44	外傾	凸凹	人為		SI729→本跡
541	H12e3	N- 8°-W	長 方 形	0.82 × 0.74	54	外傾	平坦	人為		SI729→本跡
542	H12f4	N-86°-E	長 方 形	1.72 × 0.83	10	緩斜	平坦	−		SI731→本跡
543	H12f5	N-11°-W	長 方 形	1.86 × 0.73	−	−	−	人為		SI731→本跡
544	H12e5	N-75°-W	長 方 形	[1.97]× 1.17	52	外傾	平坦	人為		SI731→本跡
545	H12e5	N- 6°-W	長 方 形	[1.84]× 0.94	35	外傾	平坦	人為		SI731→本跡
546	H12f3	N-10°-W	長 方 形	1.94 × 1.02	22	外傾	平坦	人為	土師器片	SI729→本跡
547	H12e2	N-90°-W	楕 円 形	0.87 × 0.35	23	緩斜	重状	人為	土師器(坏)、須恵器片	
548	H12j3	N-84°-E	長 方 形	1.32 × 1.18	15	垂直	平坦	−		SI736→SI737→本跡
549	H12h5	N- 1°-E	長 方 形	0.98 × 0.79	32	外傾	平坦	人為	土師器片	SI739→本跡
571	H13e7	N-83°-W	楕 円 形	0.96 ×(0.44)	24	緩斜	重状	−		SI742→本跡
572	H12f4	N-81°-E	正 方 形	0.56 × 0.54	48	外傾	平坦	−		

(3) 遺構外出土遺物

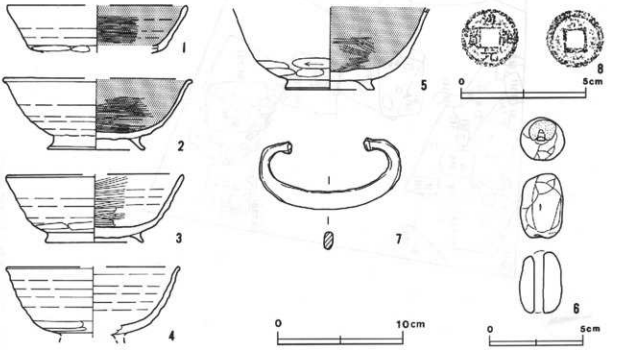
5区遺構外出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第101図 1	高台付坏 土師器	A [14.2] B (3.7)	体部から口縁部にかけての破片。体部から口縁部は外極して立ち上がる。	口縁部・体部外面ロクロナデ。体部内面ヘラ磨き。体部下端手持ちヘラ削り。内面黒色処理。	砂粒・雲母・パミス 灰褐色 普通	P5283 20% SI－750付近表採
2	高台付坏 土師器	A [15.1] B 5.6 D 7.8 E 1.1	体部・口縁部一部欠損。高台は「ハ」の字状に開く。体部は内彎して立ち上がり，口縁部はわずかに外反する。	口縁部・体部外面ロクロナデ。体部内面ヘラ磨き。底部回転ヘラ削り後ナデ。高台貼り付け後ナデ。内面黒色処理。	砂粒・雲母 にぶい橙色 普通	P5208 60% PL53 SI－726付近表採
3	高台付坏 土師器	A [14.0] B 5.4 D 7.8 E 0.8	高台部から口縁部にかけて破片。高台は短く「ハ」の字状に開く。体部から口縁部は内彎して立ち上がる。	口縁部・体部外面ロクロナデ。体部内面ヘラ磨き。体部下端手持ちヘラ削り。底部回転ヘラ削り後ナデ。高台貼り付け後ナデ。	砂粒・雲母・赤色粒子 にぶい黄褐色 普通	P5209 40% SI－726付近表採
4	高台付坏 土師器	A [13.6] B (5.5)	体部から口縁部にかけての破片。体部は内彎して立ち上がり，口縁部は外反する。	口縁部，体部内・外面ロクロナデ。	砂粒・雲母・長石 にぶい橙色 普通	P5284 15% SI－750付近表採
5	高台付坏 土師器	B (6.5) D 7.0 E 0.8	高台部から体部にかけての破片。高台は短く「ハ」の字状に開く。体部は内彎して立ち上がる。	体部外面ロクロナデ，内面ヘラ磨き。体部下端手持ちヘラ削り。底部回転ヘラ削り後ナデ。高台貼り付け後ナデ。内面黒色処理。	砂粒・雲母 にぶい橙色 普通	P5285 20% SI－750付近表採

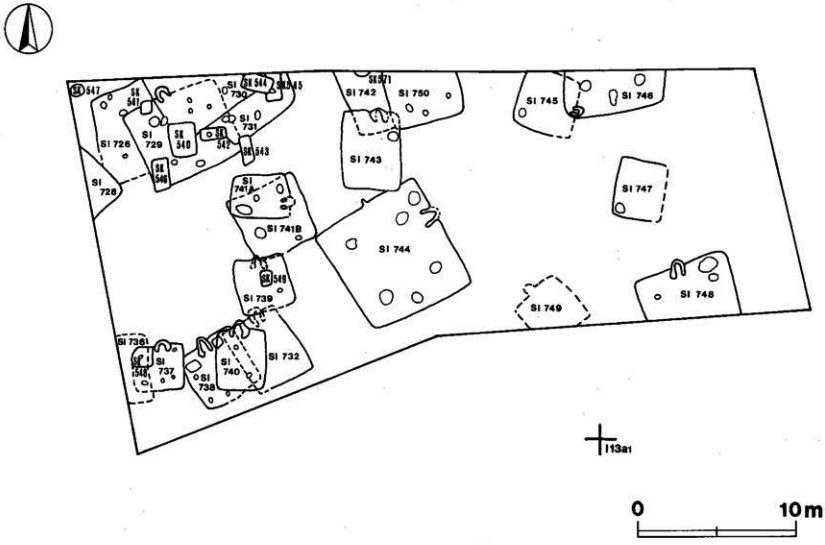
図版番号	種別	計測値 径(cm)	長さ(cm)	孔径(cm)	重量(g)	出土地点	備考
第101図6	土錘	2.2	3.4	0.5	20.0	SI－745付近表採	DP5019 PL53

図版番号	種別	計測値 長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)	出土地点	備考
第101図7	引手金具	11.4	5.8	0.3	90.0	SI－750付近表採	M5027 銅製

図版番号	銭名	初鋳年(西暦)	鋳造地名	出土地点	備考
第101図8	淳熙元寶	1174	北宋	SI－726付近表採	M5022 PL53



第101図 遺構外出土遺物実測図



第102図　熊の山遺跡５区遺構全体図

3　6区の遺構と遺物

(1) 竪穴住居跡

① 奈良・平安時代

第662号住居跡（第103図）

位置　調査6区の南部，O13c7区。

重複関係　中央部から南西部を第663号住居に掘り込まれている。

規模と平面形　長軸3.60m，短軸3.40mの方形である。

主軸方向　N－0°

壁　壁高は44cmで，垂直に立ち上がる。

壁溝　北西コーナー部の壁下と東壁下に巡っている。上幅10cm，下幅5cm，深さ6cmで，断面形はU字形である。

床　ほぼ平坦である。

竈　北壁中央部を壁外に45cmほど掘り込み，砂質粘土で構築されている。規模は，焚口部から煙道部まで144cm，両袖部幅124cmである。火床部は，床面から14cmほど掘りくぼめられ，赤変硬化している。煙道は，火床面から垂直に立ち上がる。

竈土層解説
1　褐　色　ローム小ブロック・粒子少量，粘土粒子微量
2　暗 褐 色　ローム小ブロック・粒子少量，粘土粒子・炭化材微量
3　黒 褐 色　焼土小ブロック少量，焼土粒子・粘土粒子微量
4　暗赤褐色　焼土小ブロック・粒子多量，炭中量，粘土粒子微量
5　褐　色　ローム粒子中量，粘土粒子少量
6　暗 褐 色　焼土粒子・炭化材・粘土粒子微量
7　新 褐 色　焼土小ブロック・粘土粒子微量
8　暗 褐 色　焼土粒子・粘土粒子少量
9　暗赤褐色　焼土粒子多量，焼土小ブロック中量，粘土粒子微量
10　暗赤褐色　焼土小ブロック中量，焼土粒子少量，粘土粒子微量
11　黒 褐 色　ローム小ブロック・ローム粒子・焼土粒子少量，粘土粒子微量

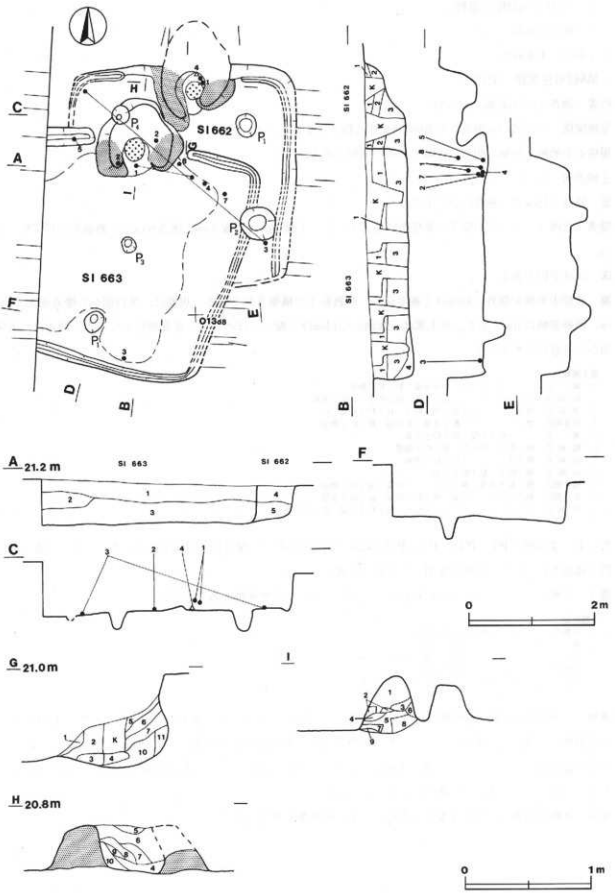
ピット　4か所（P1～P4）。P1～P4は径28～50cmの円形で，深さ19～31cmであり，各コーナーに寄った位置で確認されている。規模と配置から主柱穴と考えられる。

覆土　5層からなる。レンズ状に堆積していることから，自然堆積と考えられる。

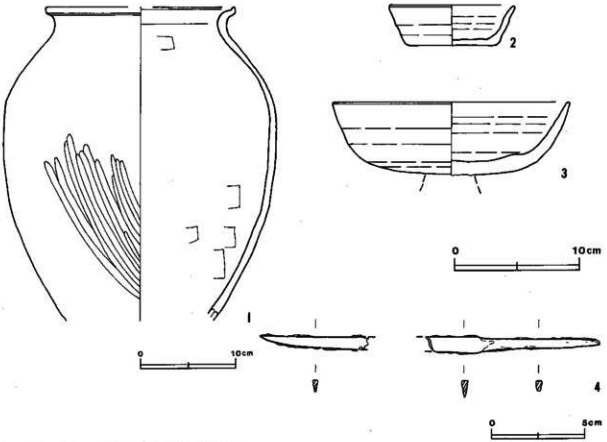
土層解説
1　暗褐色　ローム粒子少量，焼土粒子微量
2　褐　色　ローム小ブロック・粒子中量
3　暗褐色　ローム小ブロック・粒子中量，焼土粒子少量
4　暗褐色　ローム小ブロック・粒子少量
5　褐　色　ローム粒子多量，ローム中・小ブロック中量

遺物　土師器片102点，須恵器片26点，鉄製品1点（刀子），鉄滓2点，礫1点が出土している。第104図1の土師器甕は，竈内から出土している。2の須恵器坏は，竈前面の覆土下層から逆位の状態で出土している。3の須恵器高坏は，北西コーナー部の床面から出土した破片と南東コーナー部の床面から出土した破片が接合したものである。4の刀子は，竈内から出土している。

所見　本跡の時期は，出土土器から判断して8世紀後葉と考えられる。



第103図　第662・663号住居跡実測図



第104図　第662号住居跡出土遺物実測図

第662号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第104図 1	甕 土師器	A [19.8] B (34.1)	体部から口縁部にかけての破片。体部は内彎して立ち上がる。頸部でくびれ。口縁部は外反する。LI類部は上方につまみ上げられている。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面ヘラ磨き，内面ヘラナデ。	砂粒・雲母・長石・赤色粒子 にぶい赤褐色 普通	P6003 20% PL54 竈内
2	坏 須恵器	A 10.2 B 3.4 C 7.0	体部・口縁部一部欠損。平底。体部から口縁部は外傾して立ち上がる。	口縁部～体部内・外面ロクロナデ。底部ヘラ削り。	砂粒・雲母・長石 黄灰色 普通	P6002 60% 竈前面覆土下層
3	高坏 須恵器	A 19.1 B (6.0)	脚部欠損。坏部は内彎して立ち上がり，口縁部にいたる。	口縁部，体部内・外面ロクロナデ。	砂粒・雲母・長石 灰黄褐色 普通	P6001 50% PL54 北西コーナー部床面

図版番号	種別	計測値 長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)	出土地点	備考
第104図4	刀子	(18.3)	0.9	0.4	(10.0)	竈内	M6001 PL54

第663号住居跡（第103図）

位置　調査6区の南部，O13c7区。

重複関係　本跡が第662号住居跡の中央部から南西部を掘り込んでいる。

規模と平面形　西部が調査区域外になっているが，規模は，長軸3.70m，短軸（3.50）mの方形と推定される。

主軸方向　N－16°－E

壁　壁高は59cmで，垂直に立ち上がる。

壁溝　確認した壁下に巡っている。上幅14cm，下幅5cm，深さ6cmである。断面形はU字形である。

床　ほぼ平坦である。竈前面から入り口ピットにかけてよく踏み固められている。

竈　北壁中央部を壁外に53cmほど掘り込み，砂質粘土で構築されている。規模は，焚口部から煙道部まで120cm，両袖部幅122cmである。火床部は，床面から6cmほど掘りくぼめられ，皿状を呈している。煙道は，上部に撹乱を受けているが，火床面から外傾して立ち上がる。

竈土層解説
1　暗 褐 色　粘土粒子少量，焼土小ブロック・炭化材微量
2　灰 褐 色　焼土粒子・粘土粒子中量
3　暗 褐 色　焼土粒子・粘土粒子微量
4　暗赤褐色　焼土粒子多量，粘土粒子中量
5　黒 褐 色　焼土小ブロック・粒子少量，粘土粒子微量
6　暗 褐 色　焼土小ブロック中量，粘土粒子少量
7　暗赤褐色　焼土小ブロック・粒子中量，粘土粒子少量
8　暗赤褐色　焼土小ブロック・焼土粒子・粘土粒子少量
9　暗赤褐色　焼土粒子・粘土粒子微量

ピット　P1は南壁際に位置する。径30cm前後の円形で，深さ37cmである。位置的に出入り口施設に伴うピットと考えられる。

覆土　4層からなる。レンズ状に堆積していることから，自然堆積と考えられる。

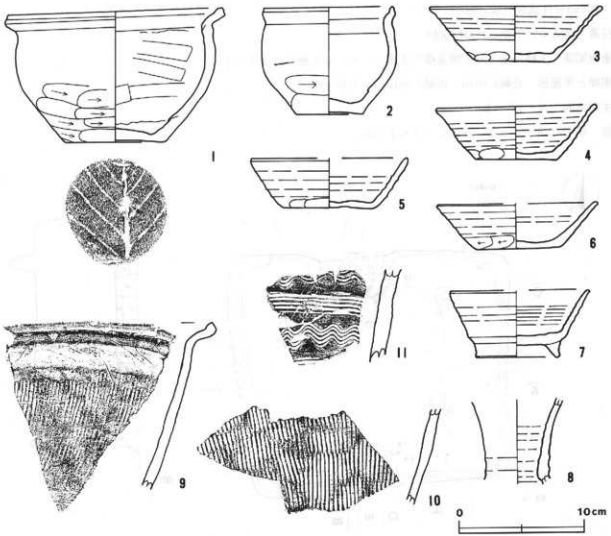
土層解説
1　暗褐色　ローム粒子中量，粘土粒子少量，焼土粒子微量
2　黒褐色　ローム小ブロック中量，ローム粒子少量
3　暗褐色　ローム小ブロック・粒子少量
4　黒褐色　ローム小ブロック・粒子中量，ローム中ブロック少量

遺物　土師器片226点，須恵器片122点，灰釉陶器片1点，礫1点が出土している。第105図1の土師器甕は，竈東側の覆土下層から出土した破片と竈西側の床面から出土した破片が接合したものである。2の土師器小形甕は，竈西袖部から出土している。3の須恵器坏は，南壁際の床面から横位の状態で出土している。4の須恵器坏と7の須恵器高台付坏は竈東側の覆土下層から，5の須恵器坏は竈西側の覆土下層から出土している。6の須恵器坏は，覆土中から出土している。8の須恵器は長頸瓶の頸部片で，竈の上部から出土している。9は須恵器甕の体部から口縁部にかけての破片，10は須恵器甕の体部片で，それぞれ外面に縦位の平行叩きが施されている。11は須恵器鉢体部から頸部にかけての破片で，外面に櫛歯状工具による波状文と区画文が施されている。9～11はいずれも覆土中からの出土である。

所見　本跡の時期は，出土土器から判断して9世紀中葉と考えられる。

第663号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第105図 1	甕 土師器	A 17.4 B 10.5 C 8.0	体部・口縁部一部欠損。平底。体部は内弾して立ち上がる。頸部でくびれ，口縁部は外反する。口唇部は上方につまみ上げられている。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面ヘラ削り，内面ヘラナデ。底部木葉痕。体部上位・下位に輪積み痕。	砂粒・雲母・長石・赤色粒子 赤褐色 普通	P6010　80% PL54 竈東側覆土下層
2	小形甕 土師器	A 10.3 B 8.5 C 5.3	体部・口縁部一部欠損。平底。体部は内弾して立ち上がる。頸部でくびれ，口縁部は外傾する。口唇部は上方につまみ上げられている。	口縁部内・外面横ナデ。体部内・外面ナデ。	砂粒・雲母・長石 にぶい褐色 普通	P6009　60% PL54 竈西袖部
3	坏 須恵器	A 13.6 B 4.4 C 6.0	体部・口縁部一部欠損。平底。体部は外傾して立ち上がり，口縁部はわずかに外反する。	口縁部～体部内・外面ロクロナデ。体部下端ヘラ削り。底部一定方向のヘラ削り。	砂粒・雲母・長石 明褐灰色 普通	P6004　90% 南壁際床面



第105図　第663号住居跡出土遺物実測図

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第105図 4	坏 須恵器	A 12.6 B 4.4 C 6.4	体部・口縁部一部欠損。平底。体部は外傾して立ち上がり，口縁部はわずかに外反する。	口縁部～体部内・外面ロクロナデ。体部下端ヘラ削り。底部回転ヘラ切り後ヘラナデ。	砂粒・雲母・長石 灰オリーブ色 普通	P6005　80% PL54 竈東側覆土下層
5	坏 須恵器	A [12.4] B 3.9 C 7.2	体部・口縁部一部欠損。平底。体部から口縁部は外傾して立ち上がる。	口縁部～体部内・外面ロクロナデ。体部下端ヘラ削り。底部回転ヘラ切り後ヘラナデ。	砂粒・雲母・長石 にぶい黄褐色 普通	P6006　50% 竈西側覆土下層
6	坏 須恵器	A [12.9] B 3.5 C 6.7	体部・口縁部一部欠損。平底。体部から口縁部は外傾して立ち上がる。	口縁部～体部内・外面ロクロナデ。体部下端ヘラ削り。底部ヘラ削り。	砂粒・雲母・長石 褐灰色 普通	P6007　60% 覆土中
7	高台付坏 須恵器	A [11.2] B 5.3 D 6.6 E 1.2	体部・口縁部一部欠損。高台はほぼ垂下する。体部から口縁部は外傾して立ち上がる。	口縁部，体部内・外面ロクロナデ。底部回転ヘラ削りの後，高台貼り付け。	砂粒・雲母・長石 灰色 普通	P6008　40% PL54 竈東側覆土下層
8	長頸瓶 須恵器	B (6.8)	頸部片。頸部は外傾して立ち上がる。	頸部内・外面ロクロナデ。自然釉。	砂粒・長石 釉灰オリーブ色 普通	P6031　5% PL54 竈上部

第665号住居跡（第106図）

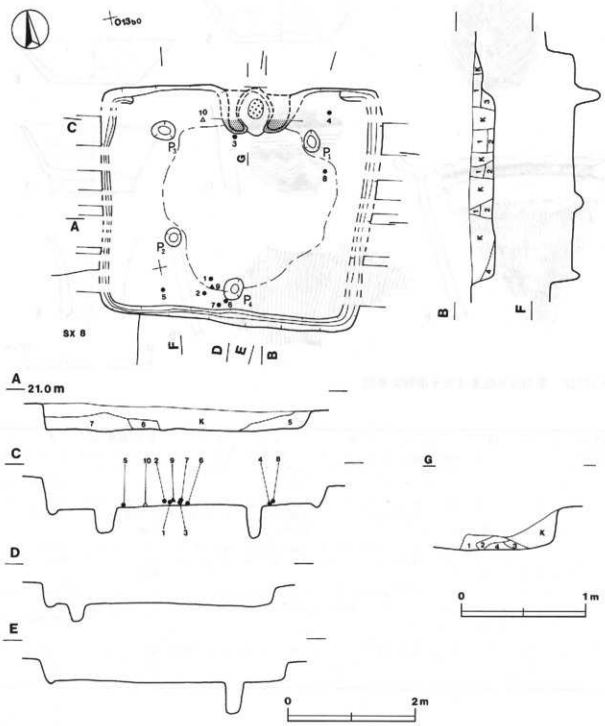
位置　調査６区の南部，O13b0区。

重複関係　本跡が第８号不明遺構の北東コーナー部を掘り込んでいる。

規模と平面形　長軸4.90m，短軸3.66mの長方形である。

主軸方向　N－15°－E

壁　壁高は28～50cmで，外傾して立ち上がる。



第106図　第665号住居跡実測図

壁溝　北壁下を除いて，巡っている。規模は，上幅約15cm，下幅5～10cm，深さ6～10cmで，断面形はU字形である。

床　ほぼ平坦である。竈前面から中央部にかけてよく踏み固められている。

竈　北壁中央部に砂質粘土で構築されている。煙道部は撹乱を受けており，確認できなかった。規模は，焚口部から煙道部まで約80cmと推定される。両袖部幅は130cmである。火床部は，床面からわずかに掘りくぼめられ，皿状を呈している。

竈土層解説

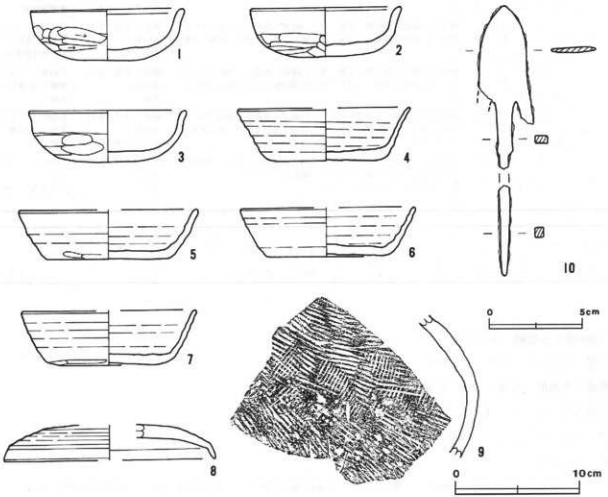
1　灰　褐　色　粘土粒子中量，焼土粒子微量
2　灰　褐　色　焼土粒子・粘土粒子中量，焼土小ブロック微量
3　にぶい赤褐色　灰多量，焼土中・小ブロック少量
4　暗 赤 褐 色　焼土粒子多量，焼土小ブロック少量

ピット　4か所（P1～P4）。P1～P3は径30cm前後の円形で，深さ17～52cmであり，各コーナーに寄った位置で確認されている。規模と配置から主柱穴と考えられる。南壁際にあるP4は径34cmの円形で，深さ29cmである。位置的に出入り口施設に伴うピットと考えられる。

覆土　7層からなる。各層ともローム ブロックを含んでいることから，人為堆積と考えられる。

土層解説

1　黒褐色　ローム小ブロック・粒子中量
2　黒褐色　ローム小ブロック・粒子中量，炭化材微量
3　黒褐色　ローム小ブロック・粒子少量，焼土粒子・粘土粒子微量
4　暗褐色　ローム中ブロック・粒子少量
5　暗褐色　ローム小ブロック・粒子中量
6　暗褐色　ローム中ブロック中量，ローム粒子少量
7　黒褐色　ローム小ブロック少量，ローム粒子微量



第107図　第665号住居跡出土遺物実測図

遺物　土師器片225点，須恵器片49点，鉄製品１点（鉄鏃）が出土している。第107図１・２の土師器坏は南壁中央部付近の覆土下層から正位の状態で，３の土師器坏は竈西袖脇の覆土下層から出土している。４の須恵器坏は竈東側の床面から正位の状態で，５の須恵器坏は南西コーナー部付近の床面から横位の状態で出土している。６・７の須恵器坏は，南壁中央部付近の床面と覆土下層からそれぞれ出土している。８の須恵器蓋は，北東部の覆土下層から出土している。９は須恵器甕の体部片で，南部の覆土下層から出土している。外面上位には格子目の叩きが，下位には斜位の平行叩きが施されている。10の鉄鏃は，竈西側床面から出土している。

所見　本跡の時期は，出土土器から判断して８世紀前葉と考えられる。

第 665 号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値（cm）	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第107図 1	坏 土師器	A 12.2 B 4.0	口縁部一部欠損。丸底。体部は内彎して立ち上がり，口縁部はわずかに外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面ヘラ削り，内面横ナデ。	砂粒・雲母・長石・赤色粒子 にぶい橙色　普通	P6011　98% P L 55　南壁中央部付近覆土下層
2	坏 土師器	A 12.0 B 3.8	体部・口縁部一部欠損。丸底。体部は内彎して立ち上がり，口縁部はわずかに外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面ヘラ削り，内面横ナデ。	砂粒・雲母・赤色粒子 にぶい橙色 普通	P6012　75% 南壁中央部付近覆土下層
3	坏 土師器	A 12.7 B 4.1	体部・口縁部一部欠損。丸底。体部は内彎して立ち上がり，口縁部はわずかに外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面ヘラ削り，内面横ナデ。	砂粒・赤色粒子 にぶい橙色 普通	P6013　60% P L 55　竈西袖脇覆土下層
4	坏 須恵器	A [13.9] B 4.2 C 7.8	体部・口縁部一部欠損。平底。体部から口縁部は外傾して立ち上がる。	口縁部～体部内・外面ロクロナデ。底部回転ヘラ切り後ヘラナデ。	砂粒・雲母・長石・赤色粒子 暗灰黄色　普通	P6014　65% P L 55 竈東側床面
5	坏 須恵器	A [14.2] B 3.9 C 9.8	体部・口縁部一部欠損。平底。体部から口縁部は外傾して立ち上がる。	口縁部～体部内・外面ロクロナデ。体部下端ヘラ削り。底部ヘラ削り。	砂粒・雲母・長石 黄灰色 普通	P6015　60% P L 55　南西コーナー部付近床面
6	坏 須恵器	A [14.1] B 3.9 C 9.8	体部・口縁部一部欠損。平底。体部から口縁部は外傾して立ち上がる。	口縁部～体部内・外面ロクロナデ。底部回転ヘラ切り後ヘラナデ。	砂粒・雲母・長石 黄灰色 普通	P6016　50% 南壁中央部付近床面
7	坏 須恵器	A [13.8] B 4.3 C 7.8	底部から口縁部にかけての破片。平底。体部から口縁部は外傾して立ち上がる。	口縁部～体部内・外面ロクロナデ。体部下端ヘラ削り。底部回転ヘラ切り。	砂粒・雲母・長石・赤色粒子 黄灰色　普通	P6017　40% 南壁中央部覆土下層
8	蓋 須恵器	A [16.8] B (2.8)	天井部から口縁部にかけての破片。天井部は平坦で，外周部はなだらかに下降する。口縁部は短い返りがつく。	天井部回転ヘラ削り。外周部・口縁部ロクロナデ。	砂粒・雲母・長石 黄灰色 普通	P6018　25% P L 55 北東部覆土下層

図版番号	種別	計測値 長さ（cm）	幅（cm）	厚さ（cm）	重量（g）	出土地点	備考
第107図10	鉄鏃	[14.4]	3.1	0.5	(20.0)	竈西側床面	M6002　P L 56

第666号住居跡（第108図）

位置　調査６区の南部，O13d9区。

規模と平面形　長軸3.22m，短軸3.10mの方形である。

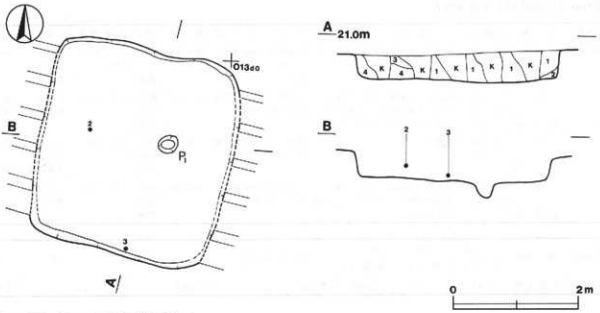
長軸方向　N－15°－E

壁　壁高は32～38cmで，外傾して立ち上がる。

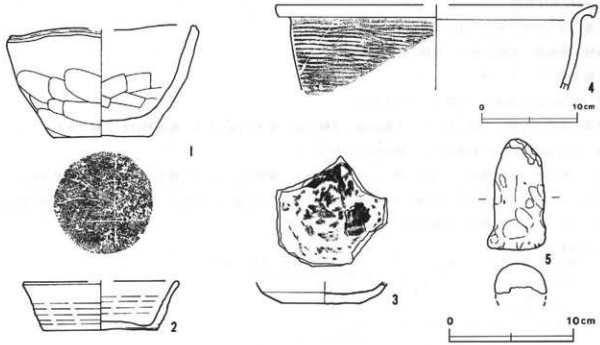
床　ほぼ平坦である。

ピット　P1は，中央部やや東側に位置する。径30cm前後の円形で，深さ24cmである。性格は不明である。

覆土　４層からなる。レンズ状に堆積していることから，自然堆積と考えられる。



第108図　第666号住居跡実測図



第109図　第666号住居跡出土遺物実測図

土層解説
1　黒褐色　ローム粒子少量
2　暗褐色　ローム小ブロック中量
3　黒褐色　ローム中ブロック中量，ローム粒子少量
4　黒褐色　ローム小ブロック中量，ローム中ブロック・粒子少量

遺物　土師器片212点，須恵器片41点，土製品1点（支脚），鉄滓1点が出土している。第109図1の土師器鉢は，覆土中から出土している。2の須恵器坏は，西部の覆土中層から出土している。3の須恵器坏は南壁際の覆土下層から出土しており，底部内面には漆が薄く付着している。貯蔵用ではなく，一時的に使用されたものと考えられる。4の須恵器鉢と5の支脚は，覆土中から出土している。

所見　本跡では竈が確認されなかった。時期は，出土土器から判断して8世紀中葉と考えられる。

第666号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第109図 1	鉢 土師器	A [15.7] B 8.7 C 8.0	体部・口縁部一部欠損。平底。体部から口縁部は外傾して立ち上がる。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面ヘラ削り，内面ヘラナデ。底部木葉痕。	砂粒・長石・赤色粒子にぶい赤褐色 普通	P6021 50% PL56 覆土中
2	坏 須恵器	A [12.4] B 3.8 C [9.0]	底部から口縁部にかけての破片。平底。体部は外傾して立ち上がり，口縁部はわずかに外反する。	口縁部～体部内・外面ロクロナデ。底部回転ヘラ切り。	砂粒・雲母・長石 灰色 普通	P6020 40% 西部の覆土中層
3	坏 須恵器	B (1.8) C 6.3	底部片。平底。	底部一定方向のヘラ削り。底部内面に漆付着。	砂粒・雲母・長石 黄灰色 普通	P6019 25% PL56 南壁際覆土下層
4	鉢 須恵器	A [33.8] B (8.8)	体部から口縁部にかけての破片。体部は外傾して立ち上がり，口縁部は外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面横位の平行叩き。	砂粒・雲母・長石 褐灰色 普通	P6022 5% 覆土中

図版番号	種別	計測値 長さ(cm)	径(cm)	重量(g)	出土地点	備考
第109図5	土製支脚	(8.7)	(4.8)	(110.0)	覆土中	DP6001 PL56

第667号住居跡（第110図）

位置　調査6区の南部，O13e0区。

規模と平面形　長軸4.88m，短軸4.22mの長方形である。

主軸方向　N－2°－W

壁　壁高は20～28cmで，外傾して立ち上がる。

壁溝　南壁下を除いて巡っている。上幅12cm，下幅5cm，深さ4cmである。断面形はU字形である。

床　ほぼ平坦である。全体的によく踏み固められている。

竈　北壁の中央部を壁外に45cmほど掘り込み，砂質粘土で構築されている。撹乱を受け，遺存状況は悪い。規模は，焚口部から煙道部まで95cm，両袖部幅100cmである。火床部は，床面からわずかに掘りくぼめられ，皿状を呈している。煙道は，火床面から外傾して立ち上がる。

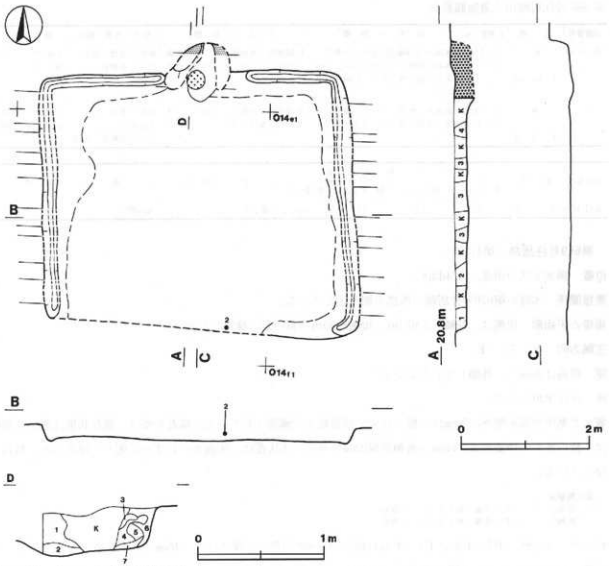
竈土層解説
1　暗褐色　焼土小ブロック少量，ローム小ブロック・焼土粒子・炭化材・粘土粒子微量
2　明赤褐色　ローム小ブロック・焼土小ブロック・焼土粒子少量，粘土粒子微量
3　暗赤褐色　ローム小ブロック少量，粘土粒子微量
4　灰褐色　粘土粒子多量
5　黒褐色　粘土粒子少量，ローム小ブロック・焼土粒子微量
6　暗褐色　ローム粒子中量，焼土粒子・粘土粒子微量
7　灰褐色　ローム小ブロック・焼土小ブロック・粘土粒子微量

覆土　4層からなる。耕作による撹乱を受けている。不規則な堆積状況から人為堆積と考えられる。

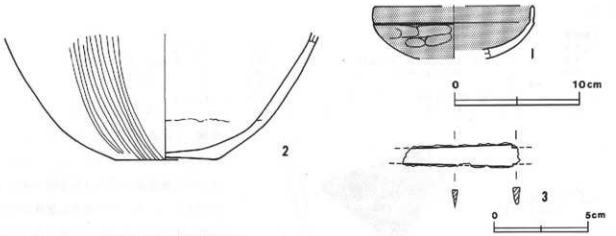
土層解説
1　暗褐色　焼土粒子・炭化粒子微量
2　暗褐色　焼土粒子・炭化粒子・粘土粒子微量
3　褐色　ローム粒子・焼土粒子微量
4　褐色　ローム小ブロック・焼土粒子微量

遺物　土師器片179点，須恵器片11点，鉄製品1点（刀子）が出土している。第111図1の土師器坏は，覆土中から出土している。2の土師器甕は，南壁際の覆土中層から出土している。3の刀子は，覆土中からの出土である。

所見　本跡の時期は，出土土器から判断して7世紀と考えられる。



第110図　第667号住居跡実測図



第111図　第667号住居跡出土遺物実測図

第667号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第111図 1	坏 土師器	A [12.6] B (4.1)	体部から口縁部にかけての破片。体部は内弯して立ち上がり，口縁部との境に稜をもつ。口縁部は直立する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面ヘラ削り，内面ナデ。内・外面黒色処理。	砂粒・雲母・長石 にぶい赤褐色 普通	P6023 15% 覆土中
2	甕 土師器	B (9.9) C 8.0	底部から体部にかけての破片。平底。体部は外傾して立ち上がる。	体部外面ヘラ磨き，内面ナデ。体部下位に輪積み痕。	砂粒・雲母・長石・赤色粒子 にぶい赤褐色 普通	P6024 10% 南壁際覆土中層

図版番号	種別	計測値 長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)	出土地点	備考
第111図3	刀子	(6.3)	1.2	0.4	(6.0)	覆土中	M6003

第669号住居跡（第113図）

位置　調査6区の南部，O14d3区。

重複関係　本跡が第670号住居跡の西部を掘り込んでいる。

規模と平面形　規模は，長軸［3.65］m，短軸3.30mの長方形と推定される。

主軸方向　N－5°－E

壁　壁高は20cmで，外傾して立ち上がる。

床　ほぼ平坦である。

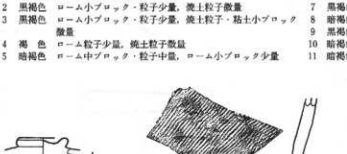
竈　北壁中央部を壁外に50cmほど掘り込み，砂質粘土で構築されている。撹乱を受け，遺存状態は悪い。規模は，焚口部から煙道部まで80cm，両袖部幅92cmである。火床部は，床面からわずかに掘りくぼめられ，皿状を呈している。

竈土層解説
1　黒褐色　ローム粒子中量，焼土小ブロック微量
2　暗褐色　ローム粒子中量，焼土小ブロック微量

ピット　4か所（P1～P4）。P1～P4は径20～28cmの円形で，深さは25～46cmである。各コーナーに寄った位置で確認されている。規模と配置から主柱穴と考えられる。

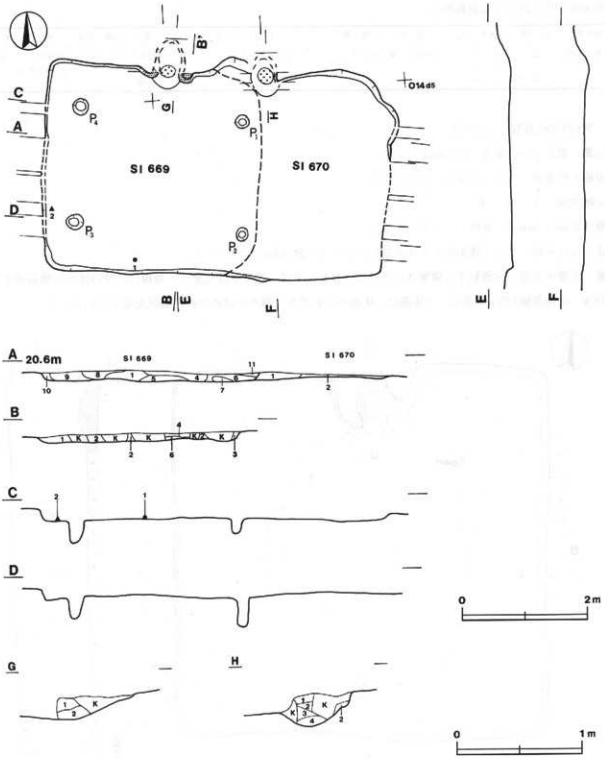
覆土　11層からなる。耕作による撹乱を受けている。ブロック状に堆積していることから，人為堆積と考えられる。

土層解説
1　黒褐色　ローム小ブロック・粒子少量
2　黒褐色　ローム小ブロック・粒子少量，焼土粒子微量
3　黒褐色　ローム小ブロック・粒子少量，焼土粒子・粘土小ブロック微量
4　褐　色　ローム粒子少量，焼土粒子微量
5　暗褐色　ローム中ブロック・粒子中量，ローム小ブロック少量
6　暗褐色　ローム粒子多量，ローム小ブロック中量
7　黒褐色　ローム粒子・焼土粒子・粘土粒子微量
8　暗褐色　ローム小ブロック・粒子中量
9　黒褐色　ローム小ブロック・粒子少量
10　暗褐色　ローム粒子多量，ローム小ブロック中量
11　暗褐色　ローム小ブロック中量，ローム粒子少量



第112図　第669号住居跡出土遺物実測図

遺物　土師器片150点，須恵器片21点，不明鉄製品1点が出土している。第112図1の須恵器蓋つまみは南壁際の床面から出土している。2の須恵器甕体部片は西部の床面から出土し，外面に斜位の平行叩きが施されている。



第113図　第669・670号住居跡実測図

所見　遺物が細片で時期を限定することはできないが，須恵器片がみられることや住居跡の形態等から，8世紀と考えられる。

第669号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第112図 1	壺 須恵器	B (1.7) F 3.8 G 0.6	つまみ部分。環状を呈する。	つまみロクロナデ。	砂粒・雲母・長石 灰黄色 普通	P6025 5% 南壁際床面

第671号住居跡（第114図）

位置　調査6区の南部，O14d6区。

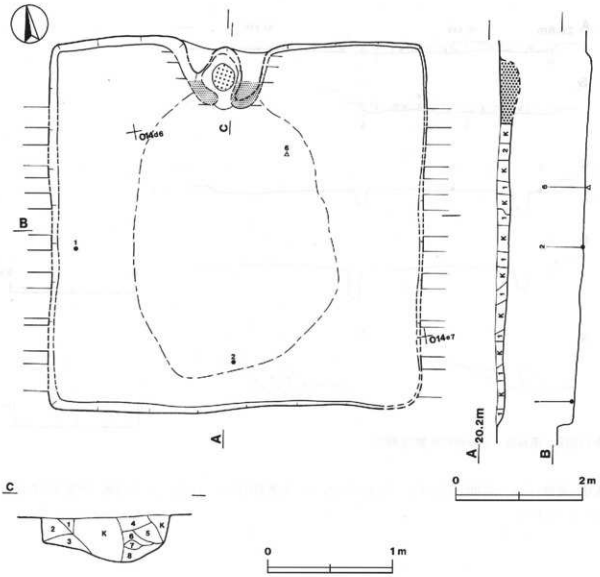
規模と平面形　一辺が5.98mの方形である。

主軸方向　N－14°－E

壁　壁高は25cmで，外傾して立ち上がる。

床　ほぼ平坦である。竈前面から中央部にかけてよく踏み固められている。

竈　北壁中央部に砂質粘土で構築されている。攪乱を受け，遺存状況は悪い。規模は，焚口部から煙道部まで68cm，両袖部幅125cmである。火床部は，床面からわずかに掘りくぼめられ，皿状を呈している。



第114図　第671号住居跡実測図

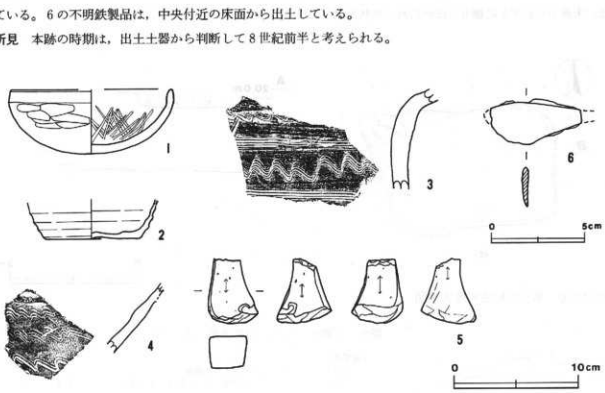
竈土層解説
1　黒 褐 色　焼土小ブロック・粘土粒子少量
2　黒 褐 色　炭化材・粘土粒子少量，焼土小ブロック微量
3　暗 褐 色　粘土粒子中量，ローム小ブロック・粒子少量
4　暗 褐 色　粘土粒子少量，ローム粒子・焼土粒子微量
5　暗赤褐色　焼土小ブロック中量，粘土粒子少量，ローム粒子微量
6　暗赤褐色　焼土粒子中量，炭化材・焼土小ブロック・粘土粒子少量
7　暗 褐 色　ローム粒子・焼土粒子少量，粘土粒子微量
8　暗赤褐色　ローム粒子・焼土小ブロック・焼土粒子・粘土粒子少量

覆土　2層からなる。耕作による撹乱が激しいため，堆積状況は不明である。

土層解説
1　黒褐色　ローム小ブロック少量，ローム粒子微量
2　黒褐色　粘土粒子少量，ローム粒子微量

遺物　土師器片186点，須恵器片56点，石製品1点（砥石），不明鉄製品1点，鉄滓2点，礫1点が出土している。第115図1の土師器坏は西壁際の床面から，2の須恵器坏は南壁寄りの床面から正位の状態で，それぞれ出土している。3・4は須恵器鉢の体部から頸部にかけての破片で，覆土中から出土している。3の外面には櫛歯状工具による波状文と区画文が，4の外面には櫛描波状文が施されている。5の砥石は覆土中から出土している。6の不明鉄製品は，中央付近の床面から出土している。

所見　本跡の時期は，出土土器から判断して8世紀前半と考えられる。



第115図　第671号住居跡出土遺物実測図

第671号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第115図 1	坏 土師器	A [12.8] B 5.0	底部から口縁部にかけての破片。丸底。体部は内彎して立ち上がり，口縁部との境に弱い稜をもつ。口縁部は直立する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面ヘラ削り，内面ヘラ磨き。	砂粒・雲母・赤色粒子にぶい褐色 普通	P6026 45% 西壁際床面
2	坏 須恵器	B (3.0) C 7.6	口縁部欠損。平底。体部は外傾して立ち上がる。	体部内・外面ロクロナデ。底部回転ヘラ切り後ヘラナデ。	砂粒・雲母 黄灰色 普通	P6027 60% 南壁寄り床面

図版番号	種別	計測値				石質	出土地点	備考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)			
第115図5	砥石	(5.1)	4.1	4.5	(80.0)	凝灰岩	覆土中	Q6001 PL56
6	不明鉄製品	(4.9)	2.2	0.3	(7.85)	−	中央付近床面	M6005

第672号住居跡（第116図）

位置　調査6区の南部，O14f5区。

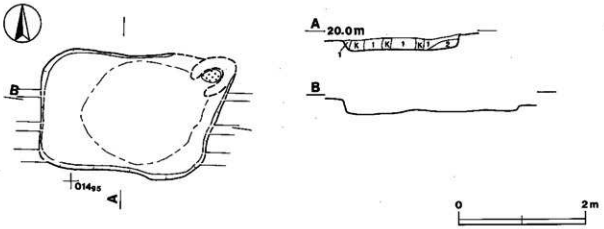
規模と平面形　長軸3.00m，短軸1.90mの不整長方形である。

主軸方向　N−63°−E

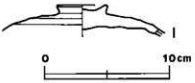
壁　壁高は8～25cmで，外傾して立ち上がる。

床　ほぼ平坦である。竈前面から中央部にかけてよく踏み固められている。

竈　北東コーナー部に砂質粘土で構築されている。耕作による撹乱を受け，火床部のみ遺存している。火床部は，床面からわずかに掘りくぼめられ，皿状を呈している。



第116図　第672号住居跡実測図



第117図　第672号住居跡出土遺物実測図

覆土　2層からなる。自然堆積と考えられる。

土層解説
1　暗褐色　ローム粒子少量，焼土粒子微量
2　暗褐色　ローム小ブロック中量，ローム粒子少量，焼土小ブロック微量

遺物　土師器片59点，須恵器片7点，鉄片1点が出土している。第117図1の須恵器蓋は，覆土中からの出土である。

所見　遺物が細片で時期を限定することはできないが，出土土器や住居跡の形態等から，8世紀代と考えられる。

第672号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第117図1	蓋	B (2.5)	口縁部欠損。環状のつまみが付く。	天井部外面上半回転ヘラ削り，下半・内面ロクロナデ。	砂粒・雲母・長石・赤色粒子	P6028 70%
	須恵器	F 3.8	天井部はドーム状である。		灰色　普通	PL56
		G 0.6				覆土中

第686号住居跡（第118図）

位置　調査6区の南部，O14h3区。

規模と平面形　北部以外は調査区域外になっているため，平面形は確認できなかった。確認できたのは，東西（2.75）m，南北（0.60）mの範囲である。

主軸方向　N－0°

壁　壁高は25cmで，外傾して立ち上がる。

床　ほぼ平坦である。竈前面がよく踏み固められている。

竈　北壁中央部やや東寄りを壁外に33cmほど掘り込み，砂質粘土で構築されている。規模は，焚口部から煙道部まで70cm，両袖部幅75cmである。火床部は，床面からわずかに掘りくぼめられ，赤変硬化している。煙道は，火床面から緩やかに立ち上がる。

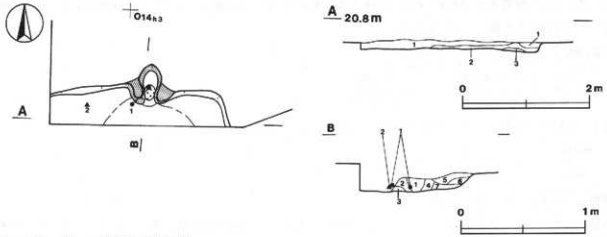
竈土層解説
1　黒　褐　色　ローム小ブロック少量，ローム粒子・焼土粒子微量
2　暗赤褐色　焼土小ブロック中量，ローム粒子・粘土粒子少量
3　黒　褐　色　灰中量，焼土粒子少量
4　暗　褐　色　焼土小ブロック少量，ローム粒子・粘土粒子微量
5　暗赤褐色　ローム粒子・焼土小ブロック・粘土粒子中量
6　暗赤褐色　焼土小ブロック・粘土粒子中量，ローム粒子微量
7　暗赤褐色　ローム粒子中量，粘土小ブロック少量，粘土粒子微量

覆土　3層からなる。ブロック状に堆積していることから，人為堆積と考えられる。

土層解説
1　黒褐色　ローム粒子中量，ローム小ブロック少量
2　黒褐色　ローム粒子・粘土粒子少量，焼土小ブロック微量
3　暗褐色　ローム小ブロック・粒子中量

遺物　土師器片1点，須恵器片3点が出土している。第119図1の須恵器坏は，竈前面の覆土下層から出土した破片と竈内から出土した破片が接合したものである。2の須恵器甕の体部片は，覆土下層から出土した。外面に斜位の平行叩きが施されている。

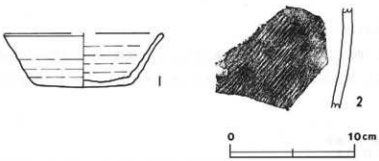
所見　遺物は少量であるが，本跡の時期は，出土土器から判断して8世紀後葉と考えられる。



第118図　第686号住居跡実測図

第686号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第119図 1	坏 須恵器	A [12.7] B 4.7 C 7.7	底部から口縁部にかけての破片。平底。体部から口縁部は外傾して立ち上がる。	口縁部～体部内・外面ロクロナデ。底部回転ヘラ切り後，一定方向のヘラナデ。	砂粒・長石 褐灰色 普通	P6029 30% PL56 甕前面覆土下層



第119図　第686号住居跡出土遺物実測図

② 時期不明

第670号住居跡（第113図）

位置　調査6区の南部，O14d4区。

重複関係　西部は第669号住居に掘り込まれている。

規模と平面形　西部は第669号住居跡に掘り込まれ，東部は覆土が薄かったので，床質から規模等を判断した。長軸3.30m，短軸（1.85）mで長方形と推定される。

主軸方向　N－10°－E

壁　北壁と北東コーナー部に確認された。壁高は10cmで，外傾して立ち上がる。

床　ほぼ平坦である。

竈　北壁中央部を壁外に35cmほど掘り込み，砂質粘土で構築されている。撹乱を受け，遺存状態は悪い。規模は，焚口部から煙道部まで68cmである。火床部は，床面からわずかに掘りくぼめられ，皿状を呈している。煙道は，火床面から外傾して立ち上がる。

竈土層解説
1　暗赤褐色　焼土小ブロック・粘土粒子少量
2　暗赤褐色　粘土粒子中量，焼土小ブロック，炭化材微量
3　暗赤褐色　粘土粒子中量，焼土小ブロック・炭化材少量
4　灰褐色　粘土粒子多量，焼土小ブロック・炭化材少量

覆土　2層からなる。ブロック状に堆積していることから人為堆積と考えられる。

土層解説
1　暗褐色　ローム粒子多量，ローム小ブロック中量
2　暗褐色　ローム粒子多量

遺物　土師器片2点が出土している。

所見　遺物が少なく時期を限定できないが，8世紀と考えられる第669号住居に掘り込まれているので，それよりは古い。

表6　熊の山遺跡6区住居跡一覧表

住居跡番号	位置	主軸方向（長軸）	平面形	規模（m）（長軸×短軸）	壁高（cm）	床面	内部施設 壁溝	主柱穴	出入口ピット	ピット	炉・竈	貯蔵穴	覆土	出土遺物	備考 新旧関係(古→新)
662	O13c7	N−0°	方形	3.60 × 3.40	44	平坦	一部	4	−	−	竈	−	自然	土師器(壺)，須恵器(坏・高坏)，刀子	本跡→SI663
663	O13c7	N−16°−E	[方形]	3.70 ×(3.50)	59	平坦	一部	−	1	−	竈	−	自然	土師器(壺)，須恵器(坏・高台付坏・長頸瓶)	SI662→本跡
665	O13b0	N−15°−E	長方形	4.90 × 3.66	28〜50	平坦	一部	3	1	−	竈	−	人為	土師器(坏)，須恵器(坏・壺)，鉄鏃	SX 8→本跡
666	O13d9	N−15°−E	方形	3.22 × 3.10	32〜38	平坦	−	−	−	1	−	−	自然	土師器(鉢)，須恵器(坏・鉢)	
667	O13e0	N−2°−W	長方形	4.88 × 4.22	20〜28	平坦	一部	−	−	−	竈	−	人為	土師器(坏・壺)，刀子	
669	O14d3	N−5°−E	[長方形]	[3.66]× 3.30	20	平坦	−	4	−	−	竈	−	人為	須恵器(蓋)，不明鉄製品	SI670→本跡
670	O14d4	N−10°−E	[長方形]	3.30 ×(1.85)	10	平坦	−	−	−	−	竈	−	人為	土師器片	本跡→SI669
671	O14d5	N−14°−E	方形	5.98 × 5.98	25	平坦	−	−	−	−	竈	−	不明	土師器(甕)，須恵器(坏)，紡石，不明鉄製品	
672	O14f5	N−63°−E	小型長方形	3.00 × 1.90	8〜25	平坦	−	−	−	−	竈	−	自然	須恵器(壺)	
686	O14h5	N−0°	不明	(2.75)×(0.60)	25	平坦	−	−	−	−	竈	−	人為	須恵器(坏・壺)	

(2)　溝

第13号溝（第120・124図）

位置　調査6区の南部，O14c8区。

規模と形状　今回の調査で確認したのは長さ（2.58）mで，上幅0.43〜0.62m，下幅0.33〜0.50m，深さ0.22mであり，断面形は逆台形である。北東方向の延長部分は，平成8年度に調査され『当財団文化財調査報告』第133集に記載されている。全体的な規模は，全長61.88m，上幅0.43〜0.75m，下幅0.33〜0.50m，深さ0.22〜0.25mである。

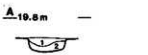
方向　O14c8区から北東方向に直線的に延びて，平成8年度調査区に至る。

覆土　2層からなり，自然堆積である。

土層解説
1　極暗褐色　ローム粒子少量，ローム小ブロック・焼土粒子微量
2　暗褐色　ローム小ブロック・粒子少量

遺物　流れ込みと考えられる土師器片51点・須恵器片38点，鉄製品1点（釘），攪乱により混入したと考えられる陶器片2点，礫5点が出土している。第121図1の釘は覆土中からの出土である。

所見　時期は，『当財団文化財調査報告』第133集でも記載されているとおり，出土土器からみて平安時代以降であると考えられる。性格は不明である。

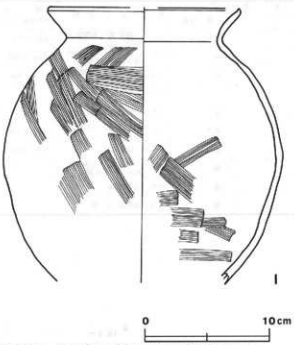


第120図　第13号溝土層実測図

第121図　第13号溝出土遺物実測図

第13号溝出土遺物観察表

図版番号	種別	計測値 長さ（cm）	幅（cm）	重量（g）	出土地点	備考
第121図1	鉄　釘	（3.6）	（0.4）	(3.18)	覆土中	M6007



第122図　第８号不明遺構出土遺物実測図

(3)　不明遺構

第８号不明遺構（第123図）

位置　調査６区の南部，O13c9区。

重複関係　北東コーナー部を第665号住居に掘り込まれている。

規模と平面形　長軸2.68m，短軸2.45mの方形である。

長軸方向　N－15°－E

壁　壁高は28cmで，外傾して立ち上がる。

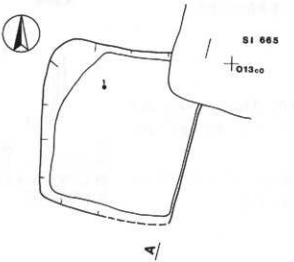
床　凸凹で，全体的に軟弱である。

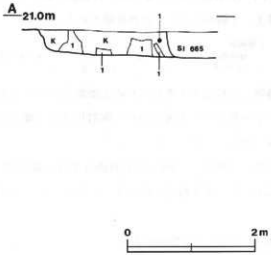
覆土　単一層である。ロームブロックを多量に含んでいることから，人為堆積と考えられる。

土層解説
1　褐　色　ローム中ブロック・粒子多量

遺物　土師器片42点，礫１点が出土している。第122図１の土師器甕は，中央部の覆土中層から出土している。

所見　本跡の時期は，第665号住居跡との重複関係から，８世紀以前と考えられる。性格については不明である。

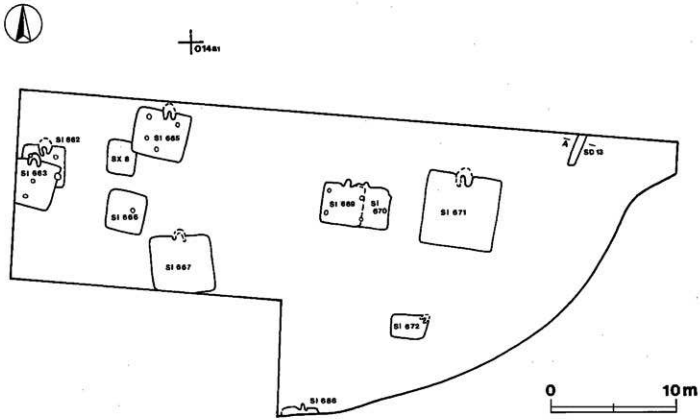




第123図　第８号不明遺構実測図

第８号不明遺構出土遺物観察表

図版番号	器　種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備　考
第122図 1	甕 土師器	A［15.2］ B（21.9）	体部から口縁部にかけての破片。体部は内湾して立ち上がる。頸部は「く」の字状に屈曲し，口縁部は外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部内・外面ハケ目調整。	砂粒・長石 にぶい橙色 普通	P6030　20% PL56 中央部覆土中層



第124図　熊の山遺跡6区遺構全体図

4　8区の遺構と遺物

(1)　竪穴住居跡

①　古墳時代

第919号住居跡（第125図）

位置　調査8区の南部，L10h2区。

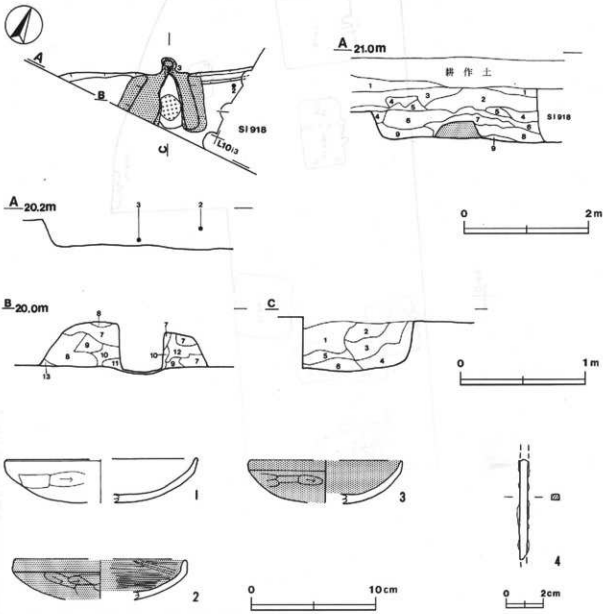
重複関係　東部が第918号住居に掘り込まれている。

規模と平面形　南東部は調査区域外に位置しており，また第918号住居に掘り込まれているために，確認できたのは，東西（3.00）m，南北（1.20）mである。

主軸方向　N－22°－W

壁　壁高は30cmで，外傾して立ち上がる。

床　ほぼ平坦である。ピットは確認されなかった。



第125図　第919号住居跡・出土遺物実測図

竈　北壁を壁外に26cmほど掘り込んで，砂質粘土で構築されている。規模は，焚口部から煙道部まで104cm，両袖部幅134cmである。第６層の下面が赤変硬化しており火床部と考えられる。袖部は，西袖部の一部が調査区域外であるが，良好に遺存している。袖部の内側は，火熱を受けて赤変硬化している。煙道は火床部から急な傾斜で立ち上がる。

竈土層解説
1　暗　褐　色　ローム中ブロック・炭化材・粘土ブロック多量，ローム小ブロック中量，炭化物少量
2　にぶい黄褐色　焼土中ブロック・粘土ブロック多量，焼土小ブロック中量
3　暗　褐　色　ローム小ブロック・ローム粒子・焼土中ブロック・焼土小ブロック多量，粘土ブロック中量
4　黒　褐　色　焼土中・小ブロック多量，粘土ブロック少量
5　暗 赤 褐 色　焼土中・小ブロック多量，焼土大ブロック中量，粘土ブロック少量
6　暗 赤 褐 色　焼土大・中ブロック多量
7　極 暗 褐 色　ローム中・小ブロック多量，焼土小ブロック・焼土粒子・炭化物中量，炭化粒子少量
8　灰 黄 褐 色　粘土粒子・砂粒多量，ローム中ブロック・焼土中ブロック・焼土小ブロック・炭化物中量，ローム小ブロック少量
9　灰 黄 褐 色　粘土粒子・砂粒多量
10　暗 赤 褐 色　焼土大・中ブロック多量
11　極暗赤褐色　焼土大ブロック・焼土中ブロック・炭化材・炭化物多量
12　灰 黄 褐 色　焼土大ブロック・焼土中ブロック・砂粒多量
13　褐　　色　炭化材・炭化物多量，ローム中ブロック・ローム小ブロック・粘土粒子・砂粒中量，焼土中ブロック少量

覆土　９層からなり，各層からロームブロックが検出され，人為堆積と考えられる。

土層解説
1　黒 褐 色　ローム小ブロック中量，焼土小ブロック少量
2　黒 褐 色　ローム中ブロック・焼土小ブロック中量，ローム小ブロック・焼土中ブロック・焼土粒子少量
3　黒 褐 色　焼土小ブロック中量，ローム小ブロック・焼土粒子少量
4　黒 褐 色　ローム中ブロック・ローム小ブロック・焼土中ブロック・焼土小ブロック中量，炭化粒子少量
5　暗 褐 色　ローム小ブロック・粒子多量，ローム中ブロック中量，焼土小ブロック少量
6　暗 褐 色　ローム大ブロック・ローム中ブロック・ローム粒子・粘土粒子多量，ローム小ブロック・焼土小ブロック中量，焼土中ブロック少量
7　暗 褐 色　ローム大ブロック・ローム中ブロック・ローム小ブロック・ローム粒子・焼土小ブロック多量，焼土中ブロック・粘土粒子中量
8　暗 褐 色　ローム中ブロック・ローム小ブロック・焼土中ブロック・焼土小ブロック・砂粒多量，粘土粒子中量
9　暗赤褐色　焼土大ブロック・焼土中ブロック・焼土粒子・砂粒・粘土粒子多量，ローム中ブロック・焼土小ブロック中量

遺物　土師器片117点，須恵器片８点，鉄製品（釘）が出土している。第125図１の土師器坏は，遺構確認面から，２の土師器坏は，北東部壁際の覆土上層から出土している。３の土師器坏は，竈内から出土している。４の鉄製品（釘）は，覆土中から出土している。

所見　本跡の時期は，出土土器から判断して７世紀前葉と考えられる。

第919号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第125図 1	坏 土師器	A [15.4] B (3.5)	底部から口縁部にかけての破片。丸底。体部から口縁部は内彎して立ち上がる。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面ヘラ削り，内面横ナデ。	砂粒・雲母・赤色粒子 にぶい橙色 普通	P8014 30% 遺構確認面
2	坏 土師器	A [13.8] B (3.2)	底部から口縁部にかけての破片。丸底。体部は内彎気味に立ち上がり，口縁部は直立する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面ヘラ削り。内面横ナデ。内・外面黒色処理。	砂粒 にぶい褐色 普通	P8015 20% 北東部壁際覆土上層
3	坏 土師器	A [12.4] B (3.4)	底部から口縁部にかけての破片。丸底。体部から口縁部は内彎気味に立ち上がる。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面ヘラ削り，内面横ナデ。内・外面黒色処理。	砂粒 黒褐色 普通	P8016 20% 竈内

図版番号	種別	計測値 長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)	出土地点	備考
第125図4	釘	(5.4)	0.45	0.3	(3.62)	覆土中	M8002 P L57

第921号住居跡（第126図）

位置　調査８区の西部，M8a6区。

規模と平面形　本跡は床面がほぼ露出した状態でみられ，壁や壁溝は確認できなかったが，床質や竈の痕跡から，長軸［3.70］m，短軸［3.60］mの方形と推定される。

主軸方向　［N－0°］

床　ほぼ平坦である。

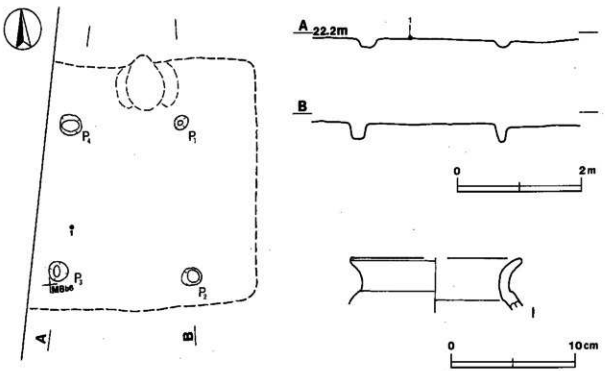
竈　北壁中央部に付設されている。大部分が削平されているため，袖部と火床部の痕跡が確認できただけである。

ピット　４か所（P1～P4）。P1～P4は，各コーナー部やや中央部寄りに位置している。径20～30cmの円形で，深さ12～28cmであり，規模と配置から主柱穴と考えられる。

覆土　覆土が薄いため，堆積状況は確認できなかった。

遺物　土師器片13点，須恵器片３点が出土している。第126図１の土師器甕は，南西部の床面から出土している。

所見　時期は，出土土器から判断して６世紀後葉から７世紀前葉と考えられる。



第126図　第921号住居跡・出土遺物実測図

第921号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第126図 1	甕 土師器	A［13.4］ B（3.8）	口縁部片。頸部は屈曲し，口縁部は外反する。	口縁部，内・外面ロクロナデ。	砂粒・赤色粒子 橙色 普通	P8017 5% 南西部床面

第926号住居跡（第127図）

位置　調査８区の南西部，M8b9区。

重複関係　北西部を第938・925号住居に掘り込まれているが，床面までは達していない。

規模と平面形　南西コーナー部が調査区域外に位置している。長軸5.60m，短軸5.55mの方形である。

主軸方向　N－22°－W

壁　壁高は38cmで，外傾して立ち上がる。

床　等間隔のトレンチャーによる撹乱を受けているが，ほぼ平坦で，中央部から北東部にかけて特に踏み固められている。

竈　北壁中央を壁外に20cmほど掘り込み，砂質粘土で構築されている。規模は，焚口部から煙道部まで100cm，両袖部幅100cmである。竈の南側がトレンチャーによる撹乱を受けているが，第１層から第３層で砂粒や粘土粒子が多量に検出されていることから，天井部の崩落土と考えられる。第６層は焼土粒子が多量混ざっており，下面が火床面と考えられる。煙道は火床部から急な傾斜で立ち上がる。

竈土層解説

1	にぶい黄褐色	粘土粒子・砂粒多量
2	にぶい黄褐色	粘土粒子・砂粒多量，焼土粒子少量
3	褐　　色	粘土粒子・砂粒多量，焼土粒子・炭化粒子少量
4	暗　褐　色	粘土粒子・砂粒中量，焼土粒子・炭化粒子少量
5	暗　褐　色	粘土粒子・砂粒中量，ローム粒子・焼土小ブロック・焼土粒子・炭化粒子少量
6	暗 赤 褐 色	焼土粒子多量，焼土小ブロック・炭化粒子・粘土粒子少量
7	暗 赤 褐 色	焼土中ブロック中量，焼土小ブロック・焼土粒子・粘土粒子・砂粒少量
8	にぶい赤褐色	焼土小ブロック・粒子中量，ローム粒子・炭化粒子・粘土粒子少量
9	にぶい褐色	ローム中ブロック・粘土粒子中量，ローム小ブロック少量，焼土粒子微量
10	にぶい赤褐色	焼土小ブロック・粘土粒子中量，焼土粒子・炭化粒子・砂粒少量
11	褐　　色	ローム小ブロック・粒子中量，炭化粒子・粘土粒子少量

ピット　３か所（P1～P3）。P1～P3の上端は径50～54cmでほぼ円形，下端は径約20cmの円形で，深さ23～42cmであり，各コーナー部のやや中央部寄りに位置している。規模と位置から主柱穴と考えられる。

覆土　４層からなり，ブロック状の堆積状況から人為堆積と考えられる。

土層解説

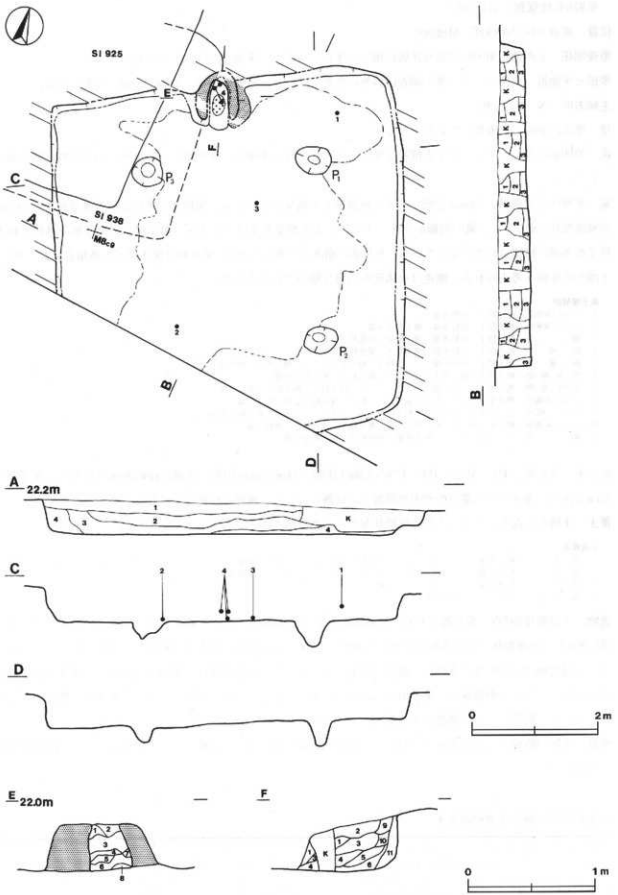
1	褐　色	ローム粒子中量，ローム小ブロック・炭化粒子少量，焼土小ブロック微量
2	褐　色	ローム粒子中量，ローム小ブロック・炭化粒子少量，ローム中ブロック微量
3	褐　色	ローム粒子中量，ローム小ブロック少量
4	褐　色	ローム小ブロック・粒子中量

遺物　土師器片387点，須恵器片６点，灰釉陶器片２点，陶器片１点，土製品１点（土玉）が出土している。第128図１の土師器坏は北東部覆土中層から逆位で，２の土師器坏は南東部の床面から逆位で出土している。３の土師器椀は，中央部の床面から逆位で出土している。４の土師器甕は，竈内から出土した破片が接合したものである。５の須恵器甕は，覆土中から出土したものである。６の土製品（土玉）は南東部の覆土中から出土している。陶器片１点は撹乱による混入と考えられる。

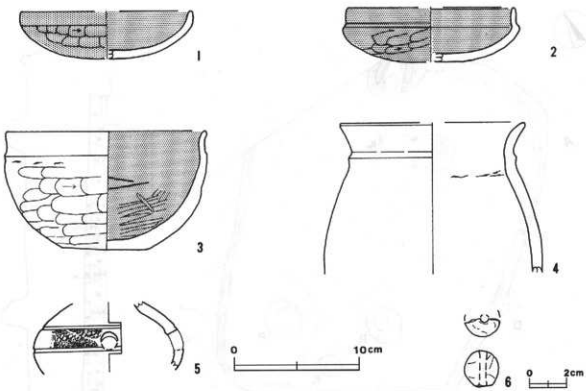
所見　本跡の時期は，出土土器から判断して６世紀後葉と考えられ，重複している第925号住居や第938号住居より古い。

第926号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器　種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備　考
第128図 1	坏 土師器	A [13.8] B 3.7	底部から口縁部にかけて一部欠損。丸底。体部は内弯気味に立ち上がり，口縁部は短く直立する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面ヘラ削り。内面横ナデ。内・外面黒色処理。	砂粒・赤色粒子 にぶい橙色 普通	P8031　50% 北東部覆土中層



第127図　第926号住居跡実測図



第128図　第926号住居跡出土遺物実測図

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第128図 2	坏 土師器	A [13.2] B (4.2)	底部から口縁部にかけての破片。丸底。体部は内彎気味に立ち上がり，口縁部との境に明瞭な稜をもつ。口縁部はやや内傾する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面ヘラ削り。内面横ナデ。内・外面黒色処理。	砂粒・雲母・長石 にぶい褐色 普通	P8032　20% 南東部床面
3	椀 土師器	A 15.9 B 9.5 C 7.0	口縁部・体部一部欠損。平底。体部は内彎して立ち上がり，口縁部との境に稜をもつ。口縁部はやや外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面ヘラ削り。内面ヘラ磨き。内面黒色処理。	砂粒・長石・石英 にぶい黄橙色 普通	P8033　75% P L58 中央部床面
4	甕 土師器	A [14.6] B (11.9)	体部から口縁部にかけての破片。体部は内彎気味に立ち上がり，口縁部との境に段をもつ。口縁部は外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部内・外面ヘラナデ。体部内面輪積み痕。	砂粒・長石・石英・赤色粒子 にぶい黄橙色 普通	P8034　15% 竈内
5	鉢 須恵器	B (5.4)	体部片。体部は内彎して立ち上がる。	体部外面網目状の叩き後，ナデ。内面ナデ。	砂粒・長石・石英 明赤褐色 普通	P8035　10% 覆土中

図版番号	種別	計測値 径(cm)	長さ(cm)	孔径(mm)	重量(g)	出土地点	備考
第128図6	土玉	(1.8)	1.9	0.4	(2.66)	南東部覆土中	D P8002　P L61

第927号住居跡（第129図）

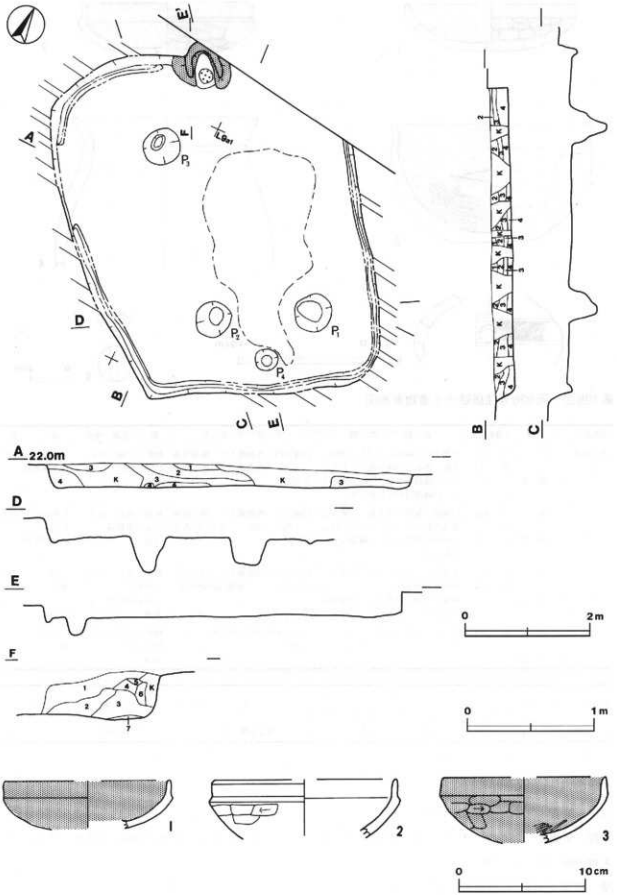
位置　調査8区の北西部，L9a1区。

規模と平面形　北東コーナー部が調査区域外に位置している。長軸5.55m，短軸4.22mの長方形である。

主軸方向　N－37°－W

壁　壁高は35cmで，外傾して立ち上がる。

壁溝　北東部は調査区域外にあり確認できなかったが，それ以外は巡っている。規模は，上幅10～20cm，下幅



第129図　第927号住居跡・出土遺物実測図

4～10cm，深さ約8cmで，断面はU字形をしている。

床　トレンチャーによる攪乱を受けている。ほぼ平坦で，中央部から東部が踏み固められている。

竈　北壁中央部に砂質粘土で構築されている。東袖部から煙道部にかけての一部が調査区域外に位置している。規模は，焚口部から煙道部まで［100］cm，両袖部幅90cmである。

竈土層解説
1　暗　褐　色　ローム小ブロック・炭化粒子中量，焼土粒子少量
2　暗 赤 褐 色　焼土粒子中量，焼土中ブロック・焼土小ブロック・炭化粒子・粘土粒子・砂粒少量
3　にぶい褐色　粘土粒子・砂粒多量，焼土粒子少量
4　暗 赤 褐 色　焼土粒子・砂粒多量，粘土粒子中量，炭化粒子少量
5　にぶい赤褐色　粘土粒子・砂粒多量，焼土粒子・炭化粒子少量
6　赤　褐　色　焼土粒子多量，炭化粒子少量
7　暗 赤 褐 色　炭化粒子多量，焼土小ブロック・焼土粒子中量

ピット　4か所（P1～P4）。P1～P3は径60cmの円形で，深さ45～58cmであり，各コーナー部やや中央部寄りに位置している。規模と配置から主柱穴と考えられる。南壁際にあるP4は径約40cmの円形で，深さ29cmである。位置的に出入り口施設に伴うピットと考えられる。

覆土　4層からなり，ブロック状の堆積状況から人為堆積と考えられる。

土層解説
1　黒褐色　炭化粒子中量，ローム小ブロック・焼土小ブロック少量
2　暗褐色　ローム小ブロック中量，ローム粒子・炭化粒子少量
3　暗褐色　ローム小ブロック・炭化粒子少量
4　褐　色　ローム小ブロック・粒子中量，焼土小ブロック微量

遺物　土師器片120点，須恵器片1点が出土している。第129図1～3の土師器坏は，覆土中から出土している。

所見　本跡の時期は，出土土器から判断して6世紀後葉と考えられる。

第927号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第129図 1	坏 土師器	A［13.0］ B（3.7）	底部から口縁部にかけての破片。丸底。体部は内彎して立ち上がり，口縁部との境にわずかに稜をもつ。口縁部は直立する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面ヘラ削り。内面横ナデ。内・外面黒色処理。	砂粒・赤色粒子 にぶい橙色 普通	P8036　20% 南西部覆土中
2	坏 土師器	A［14.4］ B（4.6）	底部から口縁部にかけての破片。丸底。体部は内彎して立ち上がり，口縁部との境に明瞭な稜をもつ。口縁部は直立する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面ヘラ削り。内面ナデ。	砂粒・雲母・長石・赤色粒子 にぶい赤褐色 普通	P8037　10% 覆土中
3	坏 土師器	A［12.8］ B（5.1）	底部から口縁部にかけての破片。丸底。体部は内彎して立ち上がり，口縁部は直立する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面ヘラ削り。内面横ナデ。内・外面黒色処理。	砂粒・赤色粒子 褐灰色 普通	P8112　10% 覆土中

第932号住居跡（第130図）

位置　調査8区の中央部，M9b4区。

重複関係　南東コーナー部が第933号住居に掘り込まれている。P1付近で第693号土坑をP5付近で第692号土坑をそれぞれ掘り込んでいる。

規模と平面形　長軸5.60m，短軸5.45mの方形である。

主軸方向　N－22°－W

壁　南東コーナー部では確認できなかったが，それ以外の壁高は20～65cmである。外傾して立ち上がる。

壁溝　第933号住居と重複している部分は確認できなかったものの，全周していたと推定される。上幅20～30cm，下幅4～8cm，深さ約4cmで，断面はU字形をしている。

床　ほぼ平坦で，中央部が踏み固められている。東壁下からP1に延びる溝ａ，同じく東壁下からP2に延びる溝ｂと西壁下からP3に延びる溝ｃ，同じく西壁下からP4に延びる溝ｄの４条が確認された。いずれも上幅20～30cm，下幅８～18cm，深さ12～20cmで，断面はU字形をしている。性格は不明である。

竈　北壁中央を壁外に24cmほど掘り込み，砂質粘土で構築されている。規模は，焚口部から煙道部まで120cm，両袖部幅80cmである。第14層は炭化粒子が多量に含まれ，焼土粒子，灰ともに中量確認されていることから，下面が火床面と考えられる。天井部は崩落しており，第１・３～５層が崩落土と考えられる。煙道は火床部から急な傾斜で立ち上がる。

竈土層解説

1　褐　　色　粘土粒子多量，砂粒中量
2　褐　　色　炭化粒子少量
3　にぶい褐色　粘土粒子・砂粒多量
4　にぶい褐色　粘土粒子多量，砂粒中量
5　にぶい褐色　粘土小ブロック・粘土粒子・砂粒多量
6　暗　褐　色　焼土粒子・炭化粒子・粘土粒子少量
7　暗　褐　色　焼土粒子中量，炭化粒子・粘土粒子・灰少量
8　褐　　色　粘土粒子・砂粒中量，炭化粒子微量
9　暗　褐　色　炭化粒子・粘土粒子中量，焼土粒子微量
10　にぶい黄褐色　粘土粒子・砂粒多量，焼土粒子・炭化粒子微量
11　にぶい黄褐色　粘土粒子・砂粒多量，焼土粒子少量，炭化粒子微量
12　暗赤褐色　焼土小ブロック・焼土粒子・炭化粒子少量
13　褐　灰　色　灰多量，炭化粒子少量
14　暗赤褐色　炭化粒子多量，焼土粒子・灰中量，焼土小ブロック少量

ピット　６か所（P1～P6）。P1～P4の上端は径52～80cm，下端は径約20cmのほぼ円形，深さ48～61cmであり，規模と配置から判断して主柱穴と考えられる。P5の上端は径50cm，下端は径25cmの円形で，深さ37cmである。位置的に出入り口施設に伴うピットと考えられる。P6の上端は径42cm，下端は径16cmの円形で，深さ46cmである。性格は不明である。

貯蔵穴　竈と東壁の中間で確認された。長径90cm，短径72cmの楕円形で，深さ60cmである。

貯蔵穴土層解説

1　黒褐色　炭化粒子中量，焼土粒子少量，焼土中ブロック微量
2　暗褐色　焼土粒子・炭化物・炭化粒子・粘土小ブロック少量
3　黒褐色　炭化粒子多量，焼土粒子少量
4　黒褐色　炭化粒子多量，焼土粒子少量，炭化物微量

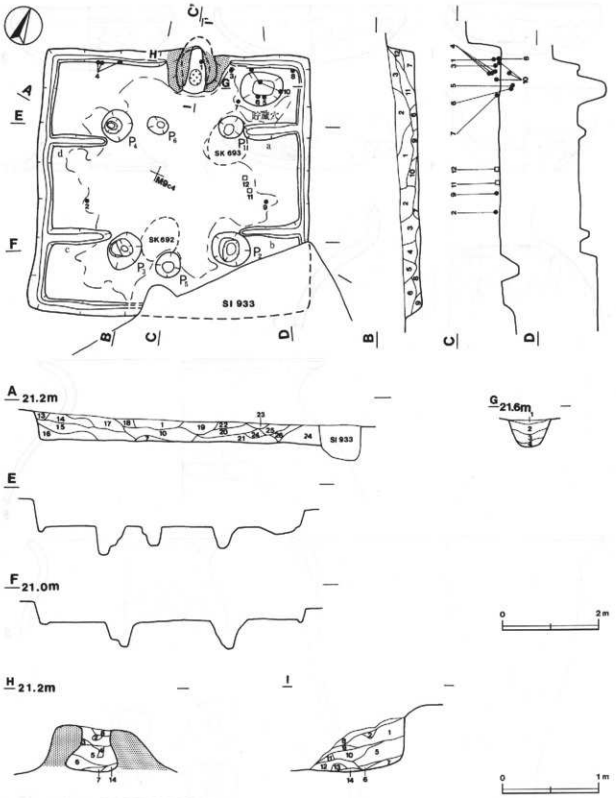
覆土　26層からなり，ブロック状の堆積状況から人為堆積と考えられる。

土層解説

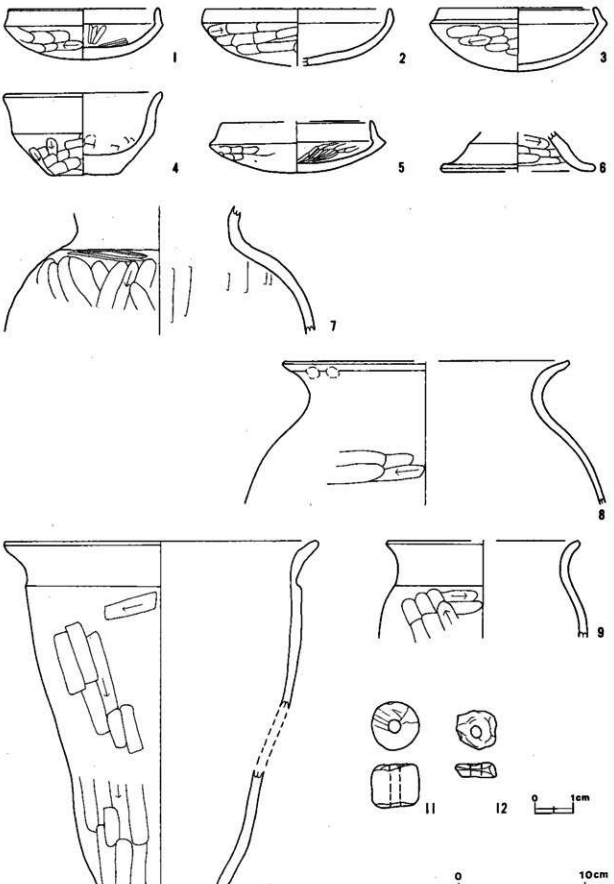
1　黒褐色　ローム小ブロック少量，ローム粒子微量
2　黒褐色　ローム小ブロック・粒子少量，ローム中ブロック・焼土粒子・炭化物微量
3　黒褐色　ローム中ブロック・ローム小ブロック・ローム粒子・焼土粒子微量
4　黒褐色　ローム粒子少量，ローム中ブロック・ローム小ブロック・焼土粒子微量
5　黒褐色　ローム小ブロック・粒子少量，ローム中ブロック・焼土粒子微量
6　黒褐色　焼土小ブロック・焼土粒子・粘土小ブロック少量，ローム小ブロック・ローム粒子・焼土中ブロック微量
7　黒褐色　ローム粒子少量，焼土中ブロック・焼土小ブロック・炭化粒子微量
8　黒褐色　ローム大ブロック・ローム中ブロック・ローム小ブロック・ローム粒子・焼土粒子微量
9　黒　色　ローム粒子中量，ローム小ブロック・焼土小ブロック微量
10　黒褐色　ローム小ブロック・ローム粒子・焼土小ブロック微量
11　黒褐色　粘土小ブロック少量，ローム中ブロック・ローム小ブロック・ローム粒子・焼土小ブロック微量
12　黒褐色　ローム粒子少量，焼土粒子微量
13　明褐色　ローム粒子多量，ローム小ブロック・炭化粒子少量
14　暗褐色　ローム中ブロック・ローム小ブロック・炭化粒子少量
15　黒褐色　炭化粒子中量，ローム小ブロック・粒子少量
16　褐　色　ローム中ブロック・粒子中量，炭化粒子少量
17　暗褐色　ローム中ブロック・ローム小ブロック・炭化粒子少量
18　暗褐色　炭化粒子少量，ローム小ブロック・焼土小ブロック微量
19　暗褐色　ローム中・小ブロック・粒子少量
20　黒褐色　ローム中ブロック・ローム小ブロック・炭化粒子中量
21　暗褐色　炭化粒子中量，ローム粒子少量，ローム小ブロック微量
22　暗褐色　ローム小ブロック中量，炭化粒子少量，炭化物微量
23　黒褐色　ローム中・小ブロック少量，炭化粒子微量
24　黒褐色　炭化粒子中量，ローム小ブロック少量，ローム中ブロック微量
25　褐　色　ローム粒子中量，ローム小ブロック少量，ローム大ブロック微量
26　黒褐色　ローム小ブロック・炭化粒子少量，ローム大ブロック微量

遺物　土師器片416点，須恵器片３点，石製品２点（臼玉）が出土している。第131図１の土師器坏は竈内から正位で出土している。２の土師器坏は西部の覆土下層から正位で出土している。３の土師器坏は竈東側北壁付近の床面から正位で出土している。４の土師器坏は竈西側北壁付近の覆土下層から出土した破片が接合したものである。５の土師器坏は貯蔵穴の覆土下層から正位で，６の土師器高坏は貯蔵穴の覆土下層，７の土師器甕は貯蔵穴西部の壁際床面からそれぞれ出土している。８の土師器甕は北東コーナー部壁際の床面直上から，９の土師器甕は東部の床面直上からそれぞれ出土している。10の土師器甑は北東コーナー部の床面や貯蔵穴の覆土中層から出土したものが接合したものである。11・12の土製品（臼玉）は東部中央床面から出土している。

所見　本跡の時期は，出土土器から判断して，６世紀後葉から７世紀前葉と考えられる。



第130図　第932号住居跡実測図



第131図　第932号住居跡出土遺物実測図

第932号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第131図 1	坏 土師器	A 12.1 B 4.0	体部・口縁部一部欠損。丸底。体部は内彎気味に立ち上がり，口縁部との境にわずかに稜をもつ。口縁部は直立する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面ヘラ削り。内面放射状のヘラ磨き。	砂粒・雲母・長石・石英・礫 にぶい褐色 普通	P8059 90% P L58 覆内
2	坏 土師器	A 14.7 B 4.5	体部一部欠損。丸底。体部は内彎気味に立ち上がり，口縁部にいたる。口縁部は直立する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面ヘラ削り後，ナデ。内面ナデ。	砂粒・赤色粒子 黒褐色 普通	P8060 70% P L58 西部覆土下層
3	坏 土師器	A 12.4 B 5.0	口縁部・体部一部欠損。丸底。体部は内彎して立ち上がり，口縁部との境に稜をもつ。口縁部はやや内傾して立ち上がる。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面ヘラ削り。内面横ナデ。	砂粒・雲母・長石・石英・赤色粒子 明赤褐色 普通	P8061 60% P L58 竈東側北壁付近床面
4	坏 土師器	A 11.2 B 6.5 C 5.0	体部・口縁部一部欠損。平底。体部は内彎気味に立ち上がり，口縁部は軽く外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面ヘラ削り。内面横ナデ。作り雑。	砂粒・長石 にぶい橙色 普通	P8062 70% P L58 竈西側 北壁付近覆土下層
5	坏 土師器	A [12.0] B 4.0	底部から口縁部にかけての破片。丸底。体部は内彎気味に立ち上がり，口縁部との境に稜をもつ。口縁部は若干内傾して立ち上がる。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面ヘラ削り後，ナデ。内面ヘラナデ。	砂粒・雲母・赤色粒子・礫 橙色 普通	P8063 40% 貯蔵穴覆土下層
6	高坏 土師器	D [11.8] E (3.2)	脚部片。	脚部内・外面横ナデ。	砂粒・雲母・赤色粒子・礫 にぶい黄橙色 普通	P8064 5% 貯蔵穴覆土下層
7	甕 土師器	B (10.2)	体部上位から口縁部にかけての破片。体部は内彎して立ち上がり，頸部は緩やかにくびれ，口縁部は外反する。	口縁部内・外面・頸部外面横ナデ。体部外面縦位のヘラ削り。内面ヘラナデ。	砂粒・長石・石英・赤色粒子・礫 明赤褐色 普通	P8065 20% P L59 貯蔵穴西部覆土 床面
8	甕 土師器	A [22.6] B [11.5]	体部上位から口縁部にかけての破片。体部は内彎気味に立ち上がり，頸部は緩やかにくびれ，口縁部は外反する。	口縁部から頸部内・外面横ナデ。体部内・外面ナデ。	砂粒・雲母・石英 にぶい褐色 普通	P8066 10% 北東コーナー部 壁際床面直上
9	甕 土師器	A [15.0] B (7.7)	体部上位から口縁部にかけての破片。体部は内彎気味に立ち上がり，頸部は緩やかにくびれ，口縁部は外反する。	口縁部内・外面・頸部外面横ナデ。頸部内面ヘラ削り。体部内・外面ナデ。	砂粒・雲母・石英・赤色粒子 にぶい褐色 普通	P8067 5% 東部床面直上
10	甕 土師器	A 24.6 B [28.1] C [9.4]	体部から口縁部にかけての破片。頸定式。体部は内彎気味に立ち上がり，口縁部は外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面縦位のヘラ削り。	砂粒・雲母・長石・石英 にぶい橙色 普通	P8068 60% P L59 北東コーナー部床面，貯蔵穴覆土中層

図版番号	種別	計測値				石質	出土地点	備考
		径 (cm)	長さ (cm)	孔径 (mm)	重量 (g)			
第131図11	白玉	1.3	1.15	0.3	2.67	滑石	東部中央床面	Q8002 P L61
12	白玉	1.1	0.4	0.3	0.47	滑石	東部中央床面	Q8003 P L61

第933号住居跡（第132図）

位置　調査８区の中央部，M9c4区。

重複関係　北部で第932住居跡を掘り込んでいる。

規模と平面形　南部が調査区域外に位置している。長軸6.25m，短軸［5.65］mの長方形と推定される。

主軸方向　N－48°－W

壁　壁高は30～55cmで，外傾して立ち上がる。

壁溝　西部壁際から東コーナー部にかけて巡っている。規模は，上幅20～28cm，下幅４～６cm，深さ２～６cmで，断面はU字形をしている。

床　ほぼ平坦で，全体的に踏み固められている。

竈　2か所。竈1は北西壁の中央を壁外に50cmほど掘り込み，竈2は北東壁の中央を壁外に46cmほど掘り込み，砂質粘土で構築されている。竈1の規模は，焚口部から煙道部まで130cm，両袖部幅120cmである。第6層は焼土粒子が多量に含まれ，焼土のブロックも中量確認されていることから，下面が火床面と考えられる。煙道は火床面から急な傾斜で立ち上がる。竈2の規模は焚口部から煙道部まで100cm，両袖部幅70cmである。炭化粒子や焼土小ブロック・焼土粒子の含有量などから判断して，第9層の下面が火床面と考えられる。天井部は確認できなかった。竈袖部の遺存状態から判断して竈1・2は同時に使用されたものと考えられる。

竈1土層解説

1	黒　褐　色	焼土小ブロック少量，ローム粒子・焼土粒子・粘土大ブロック微量
2	にぶい褐色	粘土粒子多量，ローム粒子・焼土粒子微量
3	黒　褐　色	ローム粒子・粘土大ブロック少量，焼土小ブロック・粒子微量
4	黒　褐　色	砂質粘土多量，ローム粒子・焼土粒子微量
5	赤　褐　色	焼土大ブロック・粒子多量，焼土中・小ブロック中量，砂質粘土少量
6	にぶい赤褐色	焼土粒子多量，焼土小ブロック中量，焼土中ブロック少量
7	暗　褐　色	粘土粒子多量，焼土粒子・砂粒少量
8	黒　褐　色	焼土粒子・炭化粒子中量，焼土小ブロック・粘土粒子少量
9	暗　褐　色	焼土粒子・炭化粒子・粘土粒子中量，砂粒少量
10	黒　褐　色	焼土粒子・炭化粒子中量，粘土粒子少量
11	黒　褐　色	炭化粒子多量，焼土粒子中量

竈2土層解説

1	暗赤褐色	焼土粒子中量，焼土中ブロック・焼土小ブロック・砂質粘土少量，ローム粒子微量
2	暗　褐　色	ローム粒子中量，焼土粒子微量
3	黒　褐　色	ローム粒子・焼土粒子微量
4	暗　褐　色	ローム中ブロック・ローム粒子・焼土粒子・砂質粘土少量，焼土小ブロック微量
5	暗　褐　色	粘土大ブロック多量，ローム粒子・焼土粒子微量
6	黒　褐　色	砂質粘土少量，焼土粒子・炭化粒子微量
7	褐　　色	ローム粒子・砂質粘土少量，ローム小ブロック・焼土粒子・炭化物微量
8	暗　褐　色	砂質粘土多量，ローム小ブロック・ローム粒子・焼土粒子微量
9	極暗褐色	ローム中ブロック・ローム小ブロック・ローム粒子・焼土小ブロック・焼土粒子・炭化粒子少量
10	褐　　色	粘土大ブロック多量，ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量
11	黒　褐　色	焼土小ブロック・炭化物少量，ローム小ブロック・ローム粒子・焼土粒子微量

ピット　3か所（P1～P3）。P1・P2の上端は径50～60cmの円形，下端は径16～20cmのほぼ円形，深さ75～87cmで，北東コーナー部からやや中央寄りに位置している。P3は中央部から南部が調査区域外に位置しているため詳細は不明であるが，上端径約54cm，下端径約18cmの円形と推定される。深さは87cmである。P1～P3は規模と配置から判断して主柱穴と考えられる。

貯蔵穴　竈1の東袖部からやや東寄りで確認された。長径85cm，短径58cmの楕円形で，深さ37cmである。

貯蔵穴土層解説

1	黒褐色	炭化粒子中量，ローム小ブロック・粒子少量
2	黒褐色	ローム粒子・炭化粒子少量，ローム小ブロック・焼土小ブロック微量
3	黒褐色	ローム粒子・焼土小ブロック中量，炭化粒子・粘土粒子少量

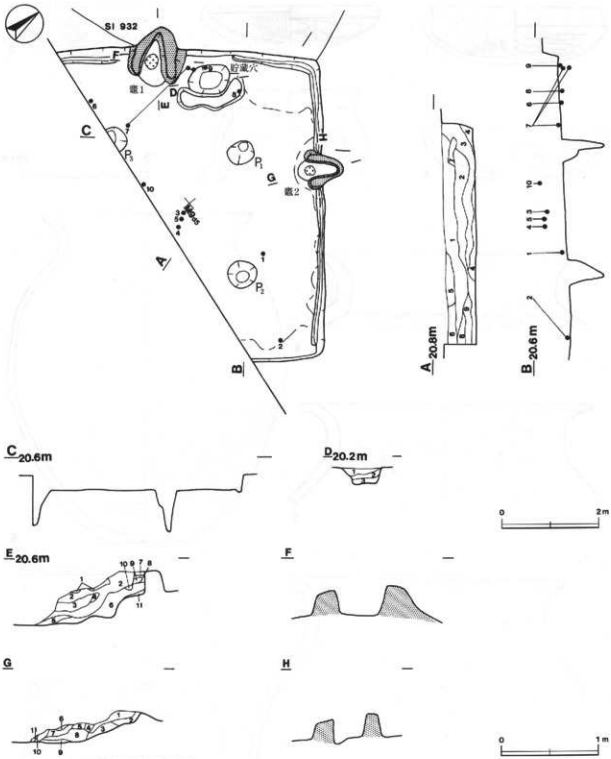
覆土　9層からなる。ブロック状の堆積状況から，人為堆積と考えられる。

土層解説

1	暗褐色	ローム小ブロック中量，ローム中ブロック・炭化粒子少量
2	暗褐色	ローム小ブロック中量，ローム粒子・炭化粒子少量
3	黒褐色	ローム小ブロック少量，ローム中ブロック微量
4	黒褐色	ローム中ブロック・炭化粒子中量，ローム小ブロック少量
5	暗褐色	ローム小ブロック・ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量
6	暗褐色	粘土粒子中量，炭化材・炭化粒子少量，炭化物微量
7	褐　色	ローム小ブロック多量，ローム大ブロック・ローム中ブロック・炭化粒子少量
8	黒褐色	ローム小ブロック・炭化粒子中量，ローム中ブロック少量
9	黒褐色	ローム中ブロック・炭化粒子中量，ローム大ブロック少量

遺物　土師器片290点，須恵器片1点，土製品1点（支脚）が出土している。第133図1の土師器坏は東部の覆土下層から逆位で，2の土師器坏は南東コーナー部の床面直上から正位で出土している。3・4の土師器坏は南部の中央の覆土中層から出土している。5の土師器小形甕は南部中央の覆土中層からと覆土中から出土した破片が接合したものである。6の土師器甕は南西部の床面から出土している。7の土師器甕は竈1の東袖付近の床面直上と竈1内焚き口付近と南西部の覆土中層からそれぞれ出土した破片が接合したものである。8の土師器甕口縁部は北部床面からと覆土中から出土した破片が接合したものである。9の土師器甕口縁部は竈東袖部付近の覆土下層から，10の土師器鉢は南部中央の覆土上層から出土している。

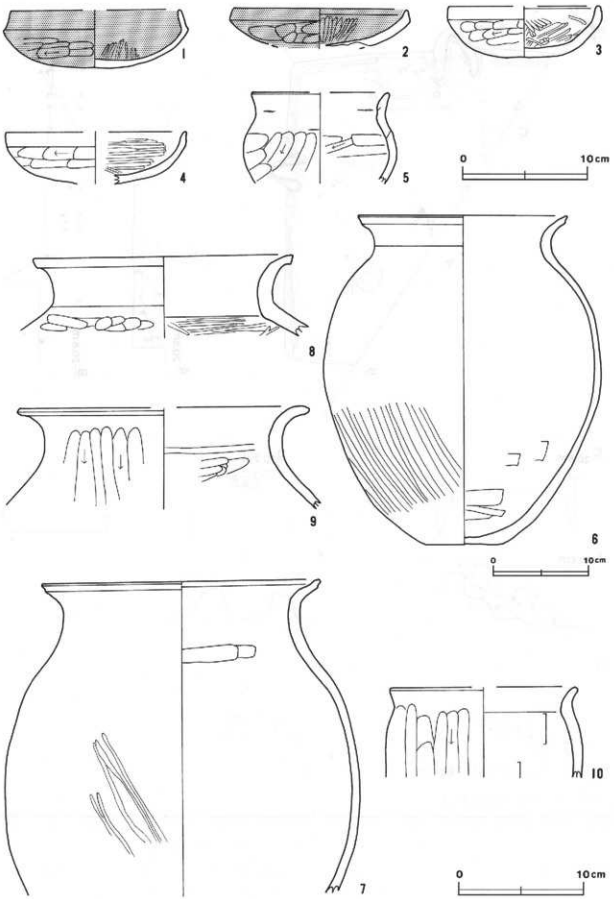
所見　本跡の時期は，出土土器から判断して7世紀と考えられる。



第132図　第933号住居跡実測図

第933号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第133図 1	坏 土師器	A [13.5] B 4.6	口縁部・体部一部欠損。丸底。体部は内彎気味に立ち上がり，口縁部との境に稜をもつ。口縁部は直立する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面ヘラ削り。内面放射状のヘラ磨き。内・外面黒色処理。	砂粒・石英 褐色 普通	P8069　60% P L.58 東部覆土下層
2	坏 土師器	A 13.9 B (3.1)	口縁部・底部一部欠損。丸底。体部は内彎気味に立ち上がり，口縁部にいたる。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面ヘラ削り。内面ヘラ磨き。内・外面黒色処理。	砂粒・雲母・赤色粒子 黒褐色　普通	P8070　70% P L.59　南東コーナー部床面直上



第133図　第933号住居跡出土遺物実測図

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第133図 3	坏 土師器	A [12.0] B 4.1	口縁部・体部一部欠損。丸底。体部は内彎して立ち上がり，口縁部にいたる。口縁部は直立する。	口縁部，体部内面ヘラ磨き。口縁部外面横ナデ。体部外面ヘラ撫り後，ナデ。	砂粒・長石・石英・赤色粒子 にぶい褐色　普通	P8071　60% 南部中央覆土中層
4	坏 土師器	A [14.4] B (4.2)	底部から口縁部にかけての破片。丸底。体部は内彎気味に立ち上がり，口縁部にいたる。口縁部は直立する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面ヘラ削り。内面ヘラ磨き。	砂粒・長石・石英 灰褐色 普通	P8072　40% 南部中央覆土中層
5	甕 土師器	A [10.8] B (7.3)	体部上位から口縁部にかけての破片。体部は内彎して立ち上がり，口縁部にいたる。口縁部は外傾する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面ヘラ削り。内面ヘラナデ。体部内面輪積み痕。	砂粒 にぶい橙色 普通	P8073　20% 南部中央覆土中層，覆土中
6	甕 土師器	A 21.4 B 34.2 C 8.0	体部一部欠損。平底。体部は内彎して立ち上がり，口縁部は外反する。頸部は外方につまみ出されている。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面ヘラ磨き。内面ヘラナデ。	砂粒・雲母・長石・石英 にぶい橙色　普通	P8074　70% P L 59 南西部床面
7	甕 土師器	A 21.8 B (24.8)	体部から口縁部にかけての破片。体部は内彎して立ち上がり，口縁部は外反する。頸部は上方につまみ上げられている。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面ヘラ磨き。内面ヘラナデ。	砂粒・雲母・長石・石英 赤褐色 普通	P8075　30% P L 59　電柱埋設近辺調査上，重1内焚き口付近　南西部覆土中層
8	甕 土師器	A 20.8 B (6.5)	体部上位から口縁部にかけての破片。体部は内彎して立ち上がる。頸部でくびれ，口縁部は外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面ヘラ撫り後，ナデ。内面ヘラ磨き。	砂粒・長石・赤色粒子 にぶい橙色　普通	P8076　10% P L 59　北部床面，覆土中
9	甕 土師器	A [23.0] B (8.1)	体部上位から口縁部にかけての破片。体部は内彎して立ち上がり，口縁部は強く外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面縦位のヘラ削り。内面ヘラナデ。	砂粒・長石・石英 橙色 普通	P8077　5% 竈東袖付近覆土下層
10	鉢 土師器	A [14.6] B (7.2)	体部上位から口縁部にかけての破片。体部は下位に稜をもち，やや外傾して立ち上がる。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面縦位のヘラ削り。内面横ナデ。	砂粒・長石 にぶい褐色 普通	P8078　5% 南部中央覆土上層

第934号住居跡（第134図）

位置　調査第８区の中央部，M9b5区。

規模と平面形　一辺4.60mの方形である。

主軸方向　N－30°－W

壁　壁高は30～65cmで，外傾して立ち上がる。

壁溝　全周している。規模は，上幅18～30cm，下幅２～８cm，深さ６～８cmで，断面はU字形をしている。

床　ほぼ平坦で，中央部が特に踏み固められている。

竈　北壁中央を壁外に40cmほど掘り込み，砂質粘土で構築されている。規模は，焚口部から煙道部まで122cm，両袖部幅98cmである。天井部は崩落しており，第４層が，粘土粒子・砂粒が多量に確認されていることから，崩落土と考えられる。第９層は焼土ブロック・焼土粒子・炭化物・炭化粒子等が中量混ざっており，下部が赤変硬化していることから，下部が火床部と考えられる。煙道は火床部から急な傾斜で立ち上がる。

竈土層解説

1　黒　褐　色　ローム粒子・粘土粒子少量，焼土粒子微量
2　にぶい黄褐色　粘土粒子・砂粒中量，ローム中ブロック少量
3　暗　褐　色　粘土粒子中量，砂粒少量，ローム小ブロック微量
4　にぶい黄褐色　粘土粒子・砂粒多量，ローム小ブロック微量
5　黒　褐　色　粘土粒子・砂粒中量，ローム小ブロック少量
6　暗　褐　色　粘土粒子中量，焼土中ブロック・焼土小ブロック・炭化粒子・砂粒少量
7　褐　色　焼土粒子・灰中量，焼土中ブロック・炭化粒子少量
8　暗赤褐色　焼土小ブロック・焼土粒子・粘土粒子・砂粒中量
9　極暗赤褐色　焼土中ブロック・焼土小ブロック・焼土粒子・炭化物・炭化粒子中量

ピット　５か所（P1～P5）。P1～P4の上端は径50～60cm，下端は径14～24cmのほぼ円形で，深さ47～57cmであり，各コーナー部やや中央部寄りに位置している。規模と配置から主柱穴と考えられる。南壁際や中央部寄りに位置するP5は径約50cmのほぼ円形で，深さ34cmである。位置的に出入り口施設に伴うピットと考えら

れる。

P1～P4土層解説
1 黒　褐　色　炭化粒子中量，ローム中ブロック少量，焼土小ブロック微量
2 暗　褐　色　ローム中・小ブロック中量
3 暗　褐　色　ローム中・小ブロック少量
4 にぶい黄褐色　ローム中ブロック中量，焼土粒子少量

覆土　14層からなり，ブロック状の堆積状況から人為堆積と考えられる。

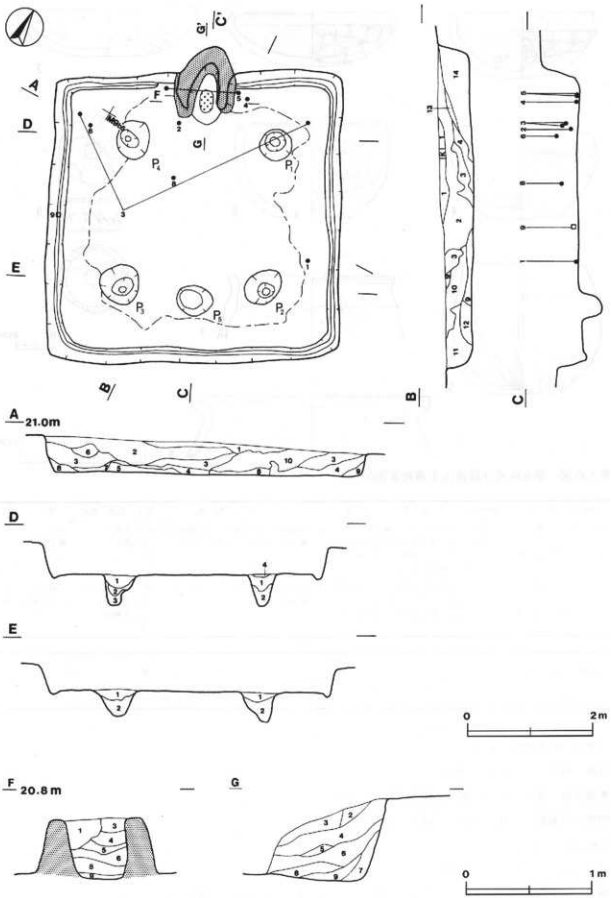
土層解説
1 極暗褐色　ローム小ブロック・粒子少量，焼土粒子・炭化粒子微量
2 黒 褐 色　ローム小ブロック・粒子少量，ローム中ブロック・焼土粒子・炭化物微量
3 暗 褐 色　ローム小ブロック中量，ローム中ブロック・粒子少量，焼土粒子微量
4 極暗褐色　焼土中ブロック・粒子少量，ローム中ブロック・ローム小ブロック・ローム粒子・炭化物・炭化粒子微量
5 褐　色　ローム粒子多量，ローム中・小ブロック中量
6 暗 褐 色　ローム小ブロック・ローム粒子・焼土小ブロック・焼土粒子・炭化物微量
7 黒 褐 色　ローム粒子少量，ローム大ブロック・ローム中ブロック・ローム小ブロック・焼土粒子・炭化物微量
8 黒 褐 色　ローム小ブロック・粒子微量
9 暗 褐 色　ローム粒子中量，ローム小ブロック微量
10 黒 褐 色　ローム小ブロック・ローム粒子・焼土粒子微量
11 極暗褐色　ローム小ブロック・ローム粒子・焼土粒子・炭化物微量
12 極暗褐色　ローム大ブロック少量，ローム小ブロック・ローム粒子・焼土粒子微量
13 暗 褐 色　ローム粒子・粘土大ブロック少量，ローム小ブロック・焼土粒子微量
14 暗 褐 色　粘土小ブロック・砂粒中量，炭化粒子・粘土大・中ブロック少量

遺物　土師器片246点，須恵器片６点，石製品１点（紡錘車），鉄滓２点，炭化材が出土している。第135図１の土師器坏は東壁付近の床面から逆位で出土している。２の土師器坏は，竈南側の覆土下層から出土している。３の土師器坏は北東コーナー部の覆土中層から出土した破片と北西コーナー部の覆土中層から出土した破片が接合したものである。４の須恵器鉢は，北東コーナー部壁際の床面から正位で出土している。５の土師器鉢は竈袖部付近の床面から出土した破片が接合したものである。６の土師器鉢は，北西コーナー部の覆土中層から，７の土師器甕は覆土中からそれぞれ出土している。８の土師器甕は中央部の覆土中層から出土している。９の石製品（紡錘車）は西部壁際中央床面直上から出土している。覆土中から鉄滓が２点出土しているが，鍛冶炉等は確認されていない。

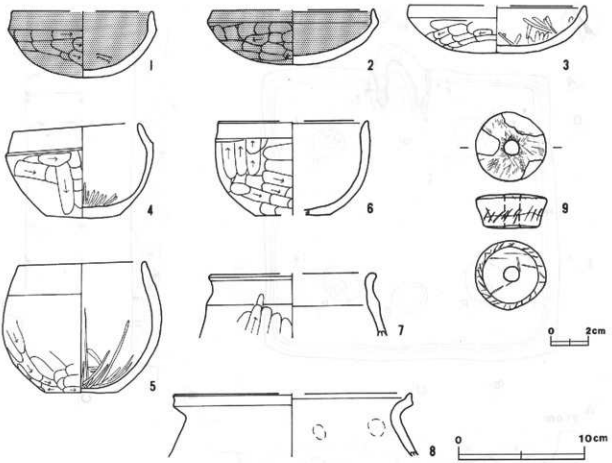
所見　本跡の時期は，出土土器から判断して７世紀前葉と考えられる。

第934号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器　種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備　考
第135図 1	坏 土師器	A [11.2] B 5.2	口縁部・体部一部欠損。丸底。体部は内彎して立ち上がり，口縁部との境にわずかに稜を持つ。口縁部は直立する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面ヘラ削り。内面ナデ。内・外面黒色処理。	砂粒・長石 にぶい橙色 普通	P8079　80% 東壁付近床面
2	坏 土師器	A [12.6] B 4.3	口縁部・体部一部欠損。丸底。体部は内彎気味に立ち上がり，口縁部にいたる。口縁部はやや内傾する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面ヘラ削り。内面横ナデ。内・外面黒色処理。	砂粒・雲母・長石 にぶい黄橙色 普通	P8080　60% 竈南側覆土下層
3	坏 土師器	A [14.0] B 3.7	底部から口縁部にかけての破片。丸底。体部は内彎気味に立ち上がり，口縁部にいたる。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面ヘラ削り。内面放射状のヘラ磨き。	砂粒・長石・石英 にぶい褐色 普通	P8081　40% 北東コーナー部 覆土中層
4	鉢 土師器	A 10.0 B 7.6 C 5.8	体部一部欠損。平底。体部は内彎して立ち上がり，口縁部との境に稜をもつ。口縁部はやや内傾する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面ヘラ削り。内面放射状のヘラ磨き。	砂粒・長石・石英 にぶい橙色 普通	P8082　95% P L 59　北東コーナー部壁際床面
5	鉢 土師器	A 10.0 B 10.5 C 5.5	底部から口縁部にかけての破片。平底。体部は内彎して立ち上がり，口縁部との境に稜をもつ。口縁部はやや内傾する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面ヘラ削り。内面放射状のヘラ磨き。	砂粒・雲母・長石・石英 にぶい黄褐色 普通	P8083　70% P L 59 竈袖部付近床面
6	鉢 土師器	A [11.8] B 7.5 C [6.0]	底部から口縁部にかけての破片。平底。体部は内彎気味に立ち上がり，口縁部にいたる。口縁部は直立する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面ヘラ削り。内面ナデ。	砂粒・雲母・長石・石英・礫 にぶい橙色 普通	P8084　20% 北西コーナー部 覆土中層



第134図　第934号住居跡実測図



第135図　第934号住居跡出土遺物実測図

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第135図7	甕 土師器	A［12.8］ B（5.1）	体部上位から口縁部にかけての破片。体部はやや内弯気味に立ち上がり，口縁部との境に稜をもつ。口縁部は外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面縦位のヘラ削り。内面ヘラナデ。	砂粒・赤色粒子にぶい橙色 普通	P8085　5% 覆土中
8	甕 土師器	A［19.0］ B（5.0）	頸部から口縁部にかけての破片。頸部でくびれ，口縁部は大きく外反する。端部は上方につまみ上げられている。	口縁部内・外面横ナデ。体部内面指頭押圧。	砂粒・雲母・長石・石英・赤色粒子にぶい赤褐色 普通	P8086　5% 中央部覆土中層

図版番号	種別	計測値				石質	出土地点	備考
		径（cm）	厚さ（cm）	孔径（cm）	重量（g）			
第135図9	紡錘車	3.7	1.8	0.8	(38.2)	滑石	西部壁際中央床面直上	Q8005　P1.59

第935号住居跡（第136図）

位置　調査8区の東部，M9c0区。

重複関係　北部で第43号掘立柱建物に掘り込まれている。

規模と平面形　長軸7.22m，短軸7.05mの方形である。

主軸方向　N－40°－W

壁　壁高は35～60cmで，外傾して立ち上がる。

壁溝　全周している。上幅16～40cm，下幅6～12cm，深さ6～8cmで，断面はU字形をしている。

床　ほぼ平坦で，中央部が特に踏み固められている。

竈　北西壁中央を壁外に40cmほど掘り込み，砂質粘土で構築されている。規模は，焚口部から煙道部まで120cm，両袖部幅100cmである。第8層の下部が赤変硬化しているため，火床部と考えられる。両袖部は良好に遺存しており，東袖部の内側は，火を受けて赤変硬化している。煙道は火床部から外傾して急に立ち上がる。

竈土層解説

1　にぶい黄褐色　粘土粒子・砂粒多量，炭化粒子少量
2　暗　褐　色　炭化粒子中量，粘土粒子・砂粒少量
3　黒　褐　色　炭化粒子多量，焼土粒子・粘土粒子少量
4　暗 赤 褐 色　焼土小ブロック・焼土粒子・炭化粒子中量
5　暗　褐　色　焼土中ブロック・焼土粒子・炭化粒子少量
6　褐　　色　粘土粒子中量，焼土粒子少量
7　暗　褐　色　炭化粒子中量，焼土粒子少量
8　暗 赤 褐 色　焼土粒子多量，焼土小ブロック中量，炭化粒子少量
9　褐　　色　粘土粒子・砂粒多量，炭化粒子少量
10　暗 赤 褐 色　焼土小ブロック・焼土粒子・炭化粒子中量
11　暗　褐　色　焼土粒子・炭化粒子少量
12　褐　　色　粘土粒子・砂粒中量，焼土粒子少量
13　にぶい黄褐色　砂粒多量，炭化粒子・粘土粒子中量
14　暗 赤 褐 色　焼土粒子多量，焼土小ブロック・炭化粒子中量，粘土粒子少量
15　にぶい黄褐色　粘土粒子多量，焼土粒子・砂粒中量，炭化粒子少量
16　暗　褐　色　焼土粒子・炭化粒子・粘土粒子・砂粒中量
17　暗 赤 褐 色　炭化粒子中量，粘土粒子・砂粒少量，焼土粒子微量
18　黒　褐　色　粘土粒子多量，焼土粒子中量，焼土小ブロック微量
19　黒　褐　色　炭化粒子多量，粘土小ブロック少量，焼土粒子微量

ピット　6か所（P1～P6）。P1～P4の上端は径64～72cmの楕円形，下端は径20～28cmのほぼ円形，深さ58～71cmであり，各コーナー部やや中央寄りに位置している。規模と配置から判断して主柱穴と考えられる。P5・P6は径30cmと20cmのほぼ円形で，深さはそれぞれ37cmと22cmである。南壁際からやや中央寄りに，P6，P5の順に位置しており，出入り口施設に伴うピットと考えられる。

貯蔵穴　竈と東壁の中間で確認された。長径100cm，短径68cmの楕円形で，深さ42cmである。

貯蔵穴土層解説

1　暗褐色　ローム小ブロック・炭化粒子中量，炭化物少量
2　暗褐色　ローム小ブロック・炭化粒子少量，炭化物微量
3　暗褐色　ローム小ブロック，炭化粒子微量
4　褐　色　ローム粒子多量，ローム小ブロック中量，ローム中ブロック少量，炭化粒子微量
5　黒褐色　粘土粒子多量，炭化粒子中量，ローム小ブロック少量
6　黒褐色　粘土粒子多量，炭化粒子中量
7　黒　色　炭化粒子多量，粘土粒子中量

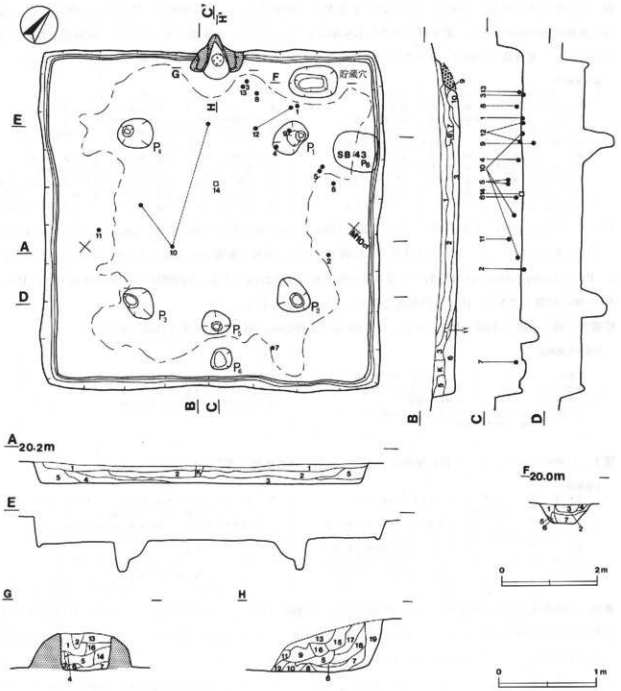
覆土　11層からなり，レンズ状に堆積していることから自然堆積と考えられる。

土層解説

1　黒　褐　色　ローム小ブロック・炭化粒子中量，焼土小ブロック・炭化物少量
2　黒　褐　色　ローム小ブロック中量，焼土粒子・炭化物少量
3　黒　褐　色　炭化粒子多量，ローム小ブロック少量
4　褐　　色　ローム小ブロック・粒子中量，炭化粒子微量
5　暗　褐　色　ローム小ブロック・ローム粒子・炭化粒子少量
6　褐　　色　ローム小ブロック・粒子中量，ローム中ブロック少量，炭化粒子微量
7　黒　褐　色　炭化粒子多量，粘土中ブロック中量，焼土小ブロック・粘土小ブロック少量
8　にぶい黄褐色　粘土粒子・砂粒多量，炭化粒子中量
9　暗　褐　色　粘土粒子中量，炭化粒子・砂粒少量，焼土小ブロック微量
10　暗　褐　色　ローム小ブロック・炭化粒子中量，粘土小ブロック少量，焼土粒子微量
11　暗 赤 褐 色　焼土中ブロック中量，焼土粒子・炭化粒子少量

遺物　土師器片453点，須恵器片10点，陶器片1点，石製品（臼玉），炭化材が出土している。第137図1の土師器坏は北部の覆土下層から，2の土師器坏は東部の床面からともに逆位で出土している。3の土師器坏は竈付近の床面直上から，4の土師器坏はP1付近の覆土下層からともに正位でそれぞれ出土している。5の土師器坏は東部の覆土中層から出土した破片が接合したものである。6の土師器坏は東部覆土中層から正位で，7の土師器坏はP6から南東コーナー部寄りの覆土下層から，8の土師器坏は竈東袖部付近の覆土下層からそれぞれ出土したものである。9の土師器高坏はP1の覆土下層と覆土中から出土した破片が接合したもので，10の土師器甕は中央部の覆土中層から下層にかけて出土した破片と覆土中から出土した破片が接合したものである。11の土師器甕は，西部の覆土中層から出土した破片と覆土中から出土した破片が接合したものである。また，12の土師器鉢は北部の覆土下層からそれぞれ正位で出土した破片が接合したものである。13の土師器の鉢は，竈東袖部付近の床面から正位で出土したものである。14の石製品（臼玉）は中央部床面から出土している。覆土上層から出土した陶器片は，撹乱による混入と考えられる。

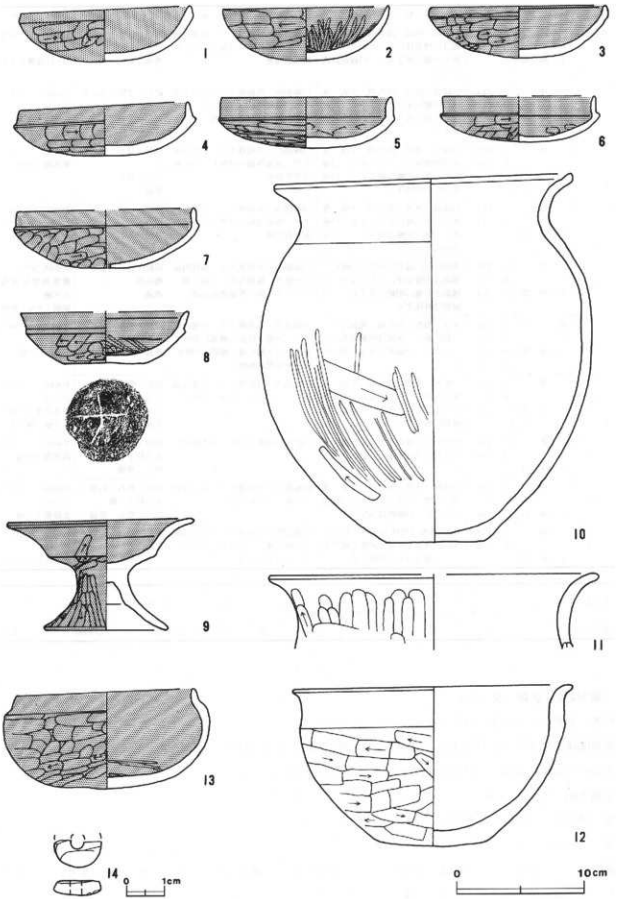
所見　本跡の時期は，出土土器から判断して，6世紀後葉と考えられる。



第136図　第935号住居跡実測図

第935号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第137図 1	坏 土師器	A 13.5 B 4.3	口縁部一部欠損。丸底。体部は内彎気味に立ち上がり，口縁部にいたる。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面ヘラ削り後，ヘラナデ。内面ナデ。内・外面黒色処理。	砂粒 にぶい橙色 普通	P8087　95% P L 59 北部覆土下層
2	坏 土師器	A 13.1 B 4.2	口縁部一部欠損。平底。体部は内彎気味に立ち上がる。	口縁部内・外面横ナデ。体部内面ヘラ磨き。体部外面ヘラ削り。内・外面黒色処理。	砂粒・雲母・赤色粒子 橙色　普通	P8088　100% P L 59 東部床面
3	坏 土師器	A 14.0 B 4.2	口縁部一部欠損。平底。体部は内彎気味に立ち上がり，口縁部は短く直立する。	口縁部内・外面横ナデ。体部内面ナデ。体部外面ヘラ削り。内・外面黒色処理。	砂粒・長石 にぶい橙色 普通	P8089　98% P L 59 竈付近床面直上



第137図　第935号住居跡出土遺物実測図

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第137図 4	坏 土師器	A 13.4 B 4.4	口縁部・体部一部欠損。平底。体部は内彎気味に立ち上がり，口縁部との境に稜をもつ。口縁部は直立する。	口縁部内・外面横ナデ。体部内面ナデ。体部外面ヘラ削り。内・外面黒色処理。	砂粒 にぶい褐色 普通	P8090 95% P L59 P1付近覆土下層
5	坏 土師器	A 13.4 B 4.1	口縁部・体部一部欠損。平底。体部は内彎気味に立ち上がり，口縁部との境に稜をもつ。口縁部は直立する。	口縁部内・外面横ナデ。体部内面ナデ。体部外面ヘラ削り後，ヘラナデ。内・外面黒色処理。	砂粒・雲母・赤色粒子 にぶい橙色 普通	P8091 90% P L59 東部覆土中層
6	坏 土師器	A [12.0] B 3.6	口縁部・体部一部欠損。平底。体部は内彎気味に立ち上がり，口縁部との境に明瞭な稜をもつ。口縁部はやや内傾する。	口縁部内・外底横ナデ。体部内面ナデ。体部外面ヘラ削り。内・外面黒色処理。	砂粒・長石・赤色粒子 にぶい橙色 普通	P8092 60% 東部覆土中層
7	坏 土師器	A [14.2] B 4.8	口縁部・体部一部欠損。平底。体部は内彎気味に立ち上がり，口縁部との境に明瞭な稜をもつ。口縁部は直立する。	口縁部内・外面横ナデ。体部内面ナデ。体部外面ヘラ削り。内・外面黒色処理。	砂粒 橙色 普通	P8093 50% P6から南東コーナー部寄り覆土下層
8	坏 土師器	A [13.4] B 4.1 C 6.4	体部から口縁部にかけての破片。体部は内彎気味に立ち上がり，口縁部との境に明瞭な稜をもつ。口縁部は外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部内面ヘラ磨き。体部外面ヘラ削り後，ヘラナデ。内・外面黒色処理。	砂粒・長石・石英 褐灰色 普通	P8094 30% 竈東袖部付近覆土下層 底面「ナ#」刻書
9	高坏 土師器	A 14.6 B 8.9 D 9.6 E 4.3	坏部・脚部一部欠損。脚部はラッパ状に開く。坏部は内彎気味に立ち上がり，口縁部は大きく外反する。	口縁部内・外面横ナデ。坏部下位から脚部にかけて横位のヘラ削り後，脚部ヘラ磨き。内・外面黒色処理。	砂粒・雲母・長石 にぶい橙色 普通	P8095 80% P L60 P1覆土下層
10	甕 土師器	A 23.5 B 29.1 C 7.6	口縁部・体部一部欠損。平底。体部は内彎して立ち上がり，最大径を中位にもつ。頸部でくびれ。口縁部は外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面縦位のヘラナデ。内面ヘラナデ。	砂粒・雲母・長石・石英 にぶい黄橙色 普通	P8096 90% P L60 中央部覆土中層から下層，覆土中
11	甕 土師器	A [25.8] B (6.0)	頸部から口縁部にかけての破片。口縁部は外反する。	口縁部外面横ナデ後，ヘラ削り。	砂粒・長石・石英・赤色粒子 橙色　普通	P8097 5% 西部覆土中層
12	鉢 土師器	A 21.8 B 12.9 C 8.6	口縁部・体部一部欠損。平底。体部は内彎して立ち上がり，口縁部にいたる。口縁部は外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面ヘラ削り。内面ヘラナデ。	砂粒・長石・石英・赤色粒子・礫 にぶい橙色　普通	P8098 95% P L60 北部覆土下層
13	鉢 土師器	A 13.8 B 7.9	完形。体部は内彎気味に立ち上がり，口縁部との境に明瞭な稜をもつ。口縁部はやや内傾する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面ヘラ削り後，ヘラ磨き。内面ナデ。内・外面黒色処理。	砂粒・長石・石英・赤色粒子 にぶい橙色　普通	P8099 100% P L60 竈東袖部付近床面

図版番号	種別	計測値 径(cm)	長さ(cm)	孔径(mm)	重量(g)	石質	出土地点	備考
第137図14	臼玉	1.3	0.4	0.3	(0.40)	滑石	中央部床面	Q8006　P L61

第942号住居跡（第138図）

位置　調査8区の西部，M9b1区。

重複関係　北部を第928号住居に，東部を第929号住居に，南部を第931号住居に掘り込まれている。

規模と平面形　長軸［5.25］m，短軸4.60mの長方形と推定される。

主軸方向　N－34°－W

壁　壁高は5～68cmで，外傾して立ち上がる。

床　ほぼ平坦である。

竈　壁などが遺存している西部から北西コーナー部にかけては確認されなかった。また，他の部分については，他の住居跡に掘り込まれているため確認できなかった。

ピット　5か所（P1～P5）。P1～P3の上端は径26～30cm，下端は径8～12cmの円形で，深さは（28～40）cm

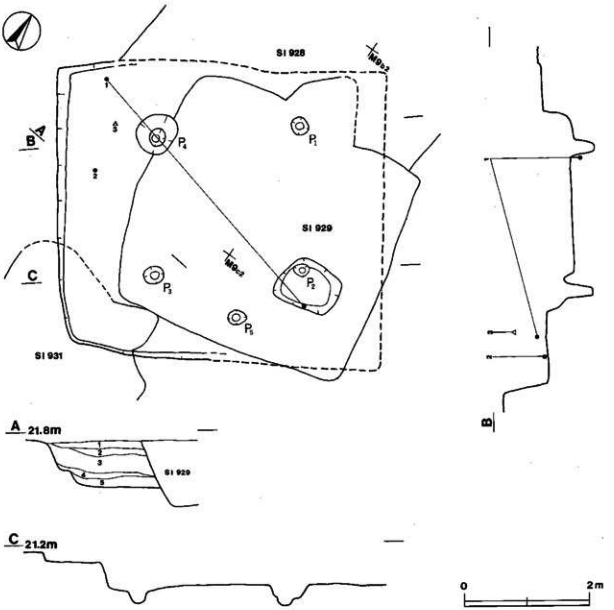
である。P4の上端は径68cm，下端は径25cmの円形で，深さ77cmである。P1～P4はいずれも主柱穴と考えられる。P5の上端は径26cm，下端は径12cmの円形で，深さ（20）cmであり，位置的に出入り口施設に伴うピットと考えられる。

覆土　5層からなり，レンズ状の堆積状況から自然堆積と考えられる。

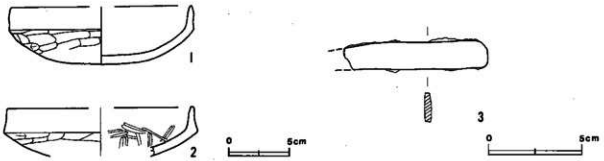
土層解説
1　暗褐色　ローム小ブロック中量，炭化粒子少量，焼土粒子微量
2　暗褐色　ローム小ブロック・炭化粒子少量
3　黒褐色　炭化粒子中量，ローム小ブロック少量，焼土粒子微量
4　黒褐色　炭化粒子中量，焼土小ブロック少量，ローム粒子微量
5　暗褐色　ローム大ブロック・ローム小ブロック・炭化粒子少量，焼土粒子微量

遺物　土師器片280点，須恵器片62点，陶器片1点，鉄製品1点（刀子）が出土している。第139図1の土師器坏は，北西コーナー部の覆土下層から出土した破片とP2の覆土下層から出土した破片が接合したものである。2の土師器坏は，北西コーナー部からやや中央部寄りの床面から出土している。3の鉄製品（刀子）は北西コーナー部覆土中層から出土している。陶器片は攪乱による混入と考えられる。

所見　本跡の時期は，出土土器から判断して6世紀後葉と考えられる。



第138図　第942号住居跡実測図



第139図　第942号住居跡出土遺物実測図

第942号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第139図 1	坏 土師器	A [14.5] B 4.5	底部から口縁部にかけての破片。丸底。体部は内彎気味に立ち上がり，口縁部との境に稜をもつ。口縁部は直立する。	口縁部，体部内・外面ロクロナデ。体部下端手持ちヘラ削り。底部一方向のヘラ削り。	砂粒・雲母・長石・石英・赤色粒子 灰褐色 普通	P8120 50% P L60 北西コーナー部覆土下層 P2覆土下層
2	坏 土師器	A [15.0] B (3.8)	底部から口縁部にかけての破片。丸底。体部は内彎気味に立ち上がり，口縁部との境にわずかに稜をもつ。口縁部は直立する。	口縁部内・外面体部内面ヘラ磨き。体部外面ヘラ削り後，ヘラ磨き。	砂粒・長石 にぶい褐色 普通	P8121 10% 北西コーナー部やや中央寄りの床面

図版番号	種別	計測値 長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)	出土地点	備考
第139図 3	刀子	(7.8)	1.6	0.4	(16.1)	北東コーナー部覆土中層	M8003 P L61

第943号住居跡（第140図）

位置　調査8区の西部，M8b7区。

重複関係　北西部で第941号住居，第939号住居に，西部で第944号住居にそれぞれ掘り込まれている。

規模と平面形　中央部から南部が調査区域外に位置し，詳細は不明であるが，規模は長軸［5.30］m，短軸(2.65)mである。

主軸方向　N－57°－W

壁　壁高は10～20cmで，外傾して立ち上がる。

床　ほぼ平坦である。

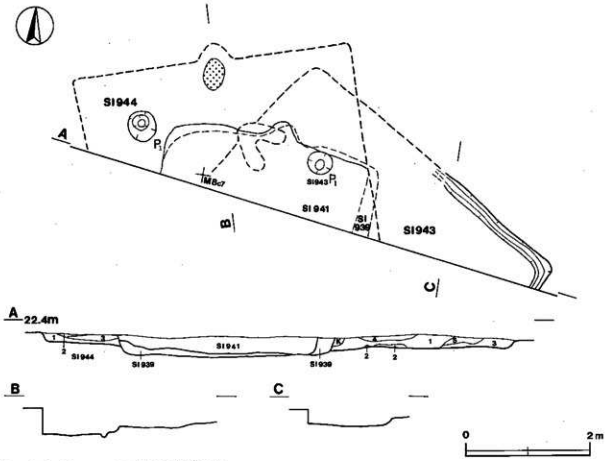
ピット　P1は竈東袖部からやや南東寄りに位置し，上端40cm，下端12cmのほぼ円形で，深さは43cmである。規模と位置から判断して主柱穴と考えられる。

覆土　5層からなり，ブロック状の堆積状況から人為堆積と考えられる。

土層解説
1　極暗褐色　ローム中ブロック・ローム小ブロック・焼土小ブロック・粘土粒子少量，ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量
2　暗褐色　ローム大ブロック，ローム小ブロック中量
3　黒褐色　ローム小ブロック少量，ローム粒子・焼土小ブロック・炭化粒子微量
4　黒褐色　ローム小ブロック少量，ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量
5　極暗褐色　ローム小ブロック・ローム粒子・焼土小ブロック・焼土粒子少量

遺物　出土していない。

所見　出土土器がないため本跡の時期は不明であるが，古墳時代後期と考えられる第944号住居跡を掘り込んでいることから，それ以降と考えられる。



第140図　第943・944号住居跡実測図

第944号住居跡（第140図）

位置　調査８区の西部，M8b7区。

重複関係　南部を第939・941号住居にそれぞれ掘り込まれている。東部で第943号住居跡を掘り込んでいる。

規模と平面形　南部が調査区域外に位置しており，第939・941号住居に掘り込まれているため，詳細は不明であるが，規模は，長軸［4.58］m，短軸（2.70）mである。

主軸方向　N－16°－W

壁　壁高は17cmで，外傾して立ち上がる。

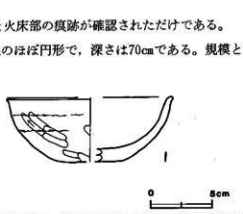
床　ほぼ平坦である。

竈　北壁中央に付設されている。大部分が削平されており，袖部と火床部の痕跡が確認されただけである。

ピット　P1は北西部コーナー寄りに位置し，上端44cm，下端26cmのほぼ円形で，深さは70cmである。規模と位置から判断して主柱穴と考えられる。

覆土　３層からなり，ブロック状の堆積状況から人為堆積と考えられる。

土層解説
1　暗褐色　ローム粒子中量，ローム小ブロック・焼土粒子微量
2　暗褐色　ローム粒子中量，焼土粒子微量
3　黒褐色　ローム小ブロック，ローム粒子・焼土小ブロック・焼土粒子・炭化粒子微量



第141図　第944号住居跡出土遺物実測図

遺物　土師器片45点が出土している。第141図１は土師器坏で，覆土上層から出土している。

所見　本跡の時期は，出土土器から判断して７世紀と考えられる。

第944号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第141図 1	坏 土師器	A［13.2］ B　5.1 C［4.4］	底部から口縁部にかけての破片。平底。体部は内彎気味に立ち上がり，口縁部は軽く外反する。	口縁部，体部内・外面ロクロナデ。体部下端ヘラ削り。	砂粒・雲母・長石・石英 にぶい橙色　普通	P8127覆土中　40%

第945号住居跡（第142図）

位置　調査８区の西部，L8i8区。

規模と平面形　北部が調査区域外に位置しているため，平面形は確認できなかった。確認できた規模は東西（3.55）m，南北（2.80）mである。

主軸方向　北部が調査区域外に位置しているため，主軸方向は確認できなかった。

壁　壁高は11～16cmである。外傾して立ち上がる。

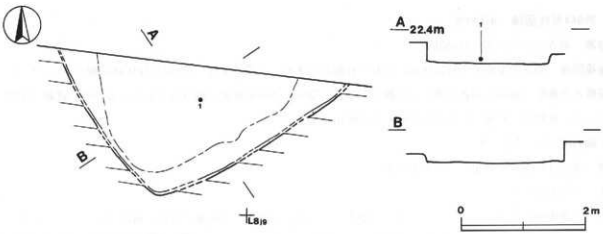
床　トレンチャーによる攪乱が激しいが，それ以外の部分から推定してほぼ平坦で，中央部を中心に踏み固められている。

竈　残存している部分においては確認されなかった。

覆土　覆土が薄いため，堆積状況は確認できなかった。

遺物　土師器片２点，炭化材が出土している。第143図１の土師器坏は，中央部の床面から出土している。

所見　本跡の時期は，出土土器や住居跡の形態から判断して，７世紀前葉と考えられる。



第142図　第945号住居跡実測図

第143図　第945号住居跡出土遺物実測図

第945号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第143図 1	坏 土師器	A［13.2］ B（3.1）	底部から口縁部にかけての破片。丸底。体部は内彎気味に立ち上がり，口縁部にいたる。口縁部は直立する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面ヘラ削り。内面横ナデ。内・外面黒色処理。	砂粒・長石 にぶい橙色 普通	P8128中央部床面　5%

② 奈良・平安時代

第917号住居跡（第144図）

位置　調査８区の南部，L10h4区。

重複関係　南西部で第918号住居跡を掘り込んでいる。

規模と平面形　長軸3.65m，短軸3.00mの長方形である。

主軸方向　N－0°

壁　壁高は25cmで，外傾して立ち上がる。

壁溝　全周している。上幅12～20cm，下幅約６cm，深さ約６cmで，断面はU字形をしている。

床　ほぼ平坦で，全体的に踏み固められている。ピットは確認されなかった。

竈　北壁中央を壁外に60cmほど掘り込み，砂質粘土で構築されている。天井部は崩落しており，第３層と第４層が崩落土と考えられる。規模は，焚口部から煙道部まで110cm，両袖部幅80cmである。第９層の下部が焼土ブロックでごつごつしていることから判断して，火床部と考えられる。火床部は，床面を約９cm掘りくぼめており，赤変硬化している。煙道は火床部から緩やかに立ち上がる。

竈土層解説
1　暗褐色　ローム粒子多量，焼土小ブロック・粒子中量
2　灰褐色　粘土多量
3　暗褐色　砂粒多量，粘土粒子中量
4　暗褐灰　粘土粒子・灰多量
5　褐　色　ローム粒子多量，ローム小ブロック中量
6　褐　色　ローム小ブロック多量，ローム粒子・粘土ブロック中量
7　褐　色　砂粒多量
8　暗褐色　砂粒多量，粘土ブロック中量
9　粘土層　焼土ブロック・砂粒多量

覆土　３層からなる。ブロック状の堆積状況から，人為堆積と考えられる。

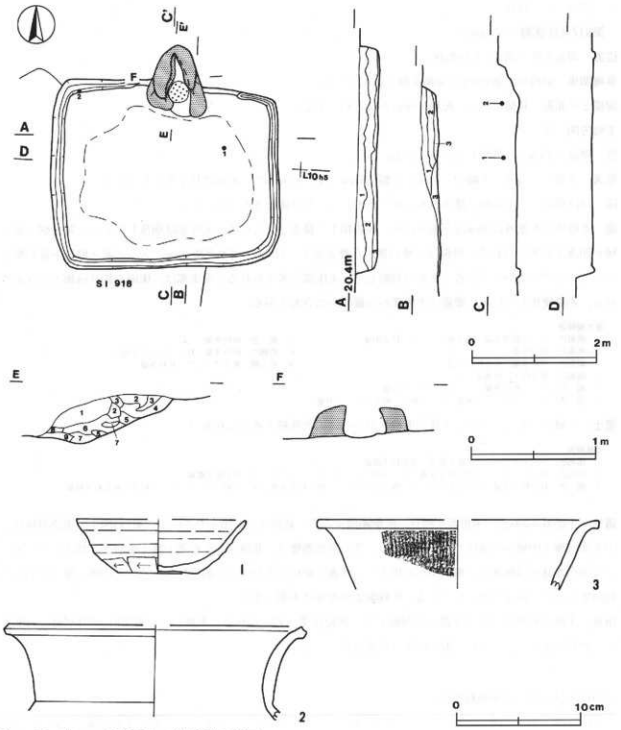
土層解説
1　暗褐色　ローム小ブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
2　暗褐色　焼土小ブロック・炭化粒子少量，ローム中ブロック・ローム小ブロック・焼土粒子微量
3　褐　色　粘土粒子中量，ローム小ブロック・焼土小ブロック・焼土粒子少量，ローム中ブロック・ローム粒子・炭化粒子微量

遺物　土師器片393点，須恵器片89点，灰釉陶器片５点，鉄滓３点が出土している。第144図１の須恵器坏は，中央部の覆土中層から逆位で出土している。２の須恵器甕は，北西コーナー部の覆土中層から出土している。３の須恵器鉢の口縁部は，覆土中から出土し，外面に縦位の平行叩きが施されている。その他，覆土中から灰釉陶器の細片，鉄滓が出土している。灰釉陶器の器種は不明である。

所見　本跡の時期は，出土土器から判断して９世紀後葉と考えられる。重複している第918号住居跡より新しい。鉄滓が出土しているが，鍛冶炉等は確認されていない。

第917号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第144図 1	坏 須恵器	A [14.4] B 4.5 C 6.4	口縁部・体部一部欠損。平底。体部は外傾して立ち上がり，口縁部はやや外反する。端部は丸く収めている。	口縁部，体部内・外面ロクロナデ。体部下端手持ちヘラ削り。底部一方向のヘラ削り。	砂粒・雲母 粒色 普通	P8003　55% P L57 中央部覆土中層
2	甕 須恵器	A [23.4] B (7.4)	口縁部片。頸部でくびれ，口縁部は大きく外反する。	口縁部外面横ナデ。内面ヘラナデ。	砂粒・雲母 灰色 普通	P8004　5% 北東コーナー部 覆土中層
3	鉢 須恵器	A [22.2] B (5.5)	口縁部から体部にかけての破片。体部はやや外傾して立ち上がり，口縁部は軽く外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部内面ナデ。外面縦位の平行叩き。	砂粒 灰色 普通	P8005　5% 覆土中



第144図　第917号住居跡・出土遺物実測図

第918号住居跡（第145図）

位置　調査８区の南部，L10h3区。

重複関係　南西部で第919号住居跡を掘り込み，北東部で第917号住居に掘り込まれている。

規模と平面形　東西コーナー部が調査区域外に位置しているため詳細は不明であるが，長方形と推定される。確認できたのは，長軸6.55m，短軸（5.05）mである。

主軸方向　N－10°－E

壁　壁高は35cmで，外傾して立ち上がる。

壁溝　南部は調査区域外にあるため確認できなかったが，それ以外は巡っている。規模は，上幅20～30cm，下幅10～16cm，深さ10～20cmで，断面はU字形をしている。

床　ほぼ平坦で，全体的に踏み固められている。

竈　北壁中央を壁外に80cmほど掘り込み，砂質粘土で構築されている。規模は，焚口部から煙道部まで190cm，両袖部幅160cmである。天井部は崩落しており，第1層から5層までが崩落土と考えられる。第9層の下部がごつごつして赤変硬化しているため，火床部と考えられる。西袖部は良好に遺存しており，西袖部の内側は，火を受けて赤変硬化している。煙道は火床部から外傾して立ち上がる。

竈土層解説

1　にぶい褐色　焼土中ブロック・焼土小ブロック・炭化物・炭化粒子・粘土粒子・砂粒多量
2　にぶい黄褐色　焼土中ブロック・焼土小ブロック・炭化粒子・粘土粒子・砂粒多量，焼土大ブロック・炭化物中量
3　にぶい黄橙色　焼土小ブロック・炭化物・粘土粒子・砂粒多量，焼土中ブロック・炭化粒子中量
4　褐　色　ローム中ブロック・焼土小ブロック・粘土粒子・粘土粒子・砂粒多量，焼土中ブロック・炭化粒子中量
5　にぶい黄褐色　焼土小ブロック・焼土粒子・粘土粒子・砂粒多量，焼土中ブロック・炭化粒子中量，炭化物少量
6　極暗褐色　焼土大ブロック・焼土粒子・炭化物多量，ローム中ブロック・焼土小ブロック・炭化材中量
7　灰　褐　色　焼土中ブロック・焼土小ブロック・灰多量，焼土粒子中量，炭化物・炭化粒子少量
8　にぶい褐色　焼土中・小ブロック多量，砂粒中量，炭化物・炭化粒子少量
9　赤　褐　色　焼土大・中ブロック多量
10　黒　褐　色　炭化材・灰多量
11　褐　灰　色　焼土粒子・砂粒多量，焼土小ブロック中量

ピット　11か所（P1～P11）。P1からP4の上端は径80～90cmの円形，下端は径25～40cmの円形で，深さ68～88cmである。各コーナー部やや中央部寄りに位置している。規模と配置から判断して主柱穴と考えられる。P5・P6は径30cmと34cmの円形で，深さ36cmと44cmであり，補助柱穴と考えられる。P7・P8は径28cmと30cmの円形で，深さは35cmと25cmである。性格は不明であるが，竈施設に伴う柱穴の可能性も考えられる。南西壁際にあるP9～P11は，上端は径28～30cm，下端は径約14cmで，深さは26～46cmである。性格は不明である。

P1～P4土層解説

1　黒褐色　ローム中ブロック中量
2　暗褐色　粘土ブロック多量，ローム中ブロック中量，ローム大ブロック・焼土粒子少量
3　暗褐色　粘土ブロック多量，ローム中ブロック中量，ローム大ブロック・焼土粒子少量
4　暗褐色　粘土ブロック多量
5　暗褐色　粘土ブロック多量，ローム中ブロック・焼土小ブロック中量，焼土粒子少量
6　暗褐色　ローム中ブロック中量，ローム小ブロック・焼土粒子・粘土ブロック少量

覆土　14層からなる。ブロック状の堆積状況から，人為堆積と考えられる。

土層解説

1　にぶい黄褐色　焼土ブロック多量，粘土粒子・砂粒多量，焼土中ブロック・炭化物中量，炭化粒子少量
2　明黄褐色　焼土小ブロック・焼土粒子多量，粘土粒子・砂粒多量，炭化粒子少量
3　にぶい黄褐色　焼土小ブロック多量，粘土粒子中量，粘土粒子・砂粒中量，炭化粒子少量
4　暗　褐　色　ローム粒子多量，焼土小ブロック多量，ローム小ブロック・焼土粒子・炭化粒子中量，炭化物・粘土粒子・砂粒少量
5　暗　褐　色　ローム小ブロック・ローム粒子・焼土粒子中量，粘土粒子・砂粒少量
6　褐　色　ローム粒子・焼土中ブロック多量，ローム小ブロック・焼土小ブロック・粘土粒子中量，炭化粒子少量
7　褐　色　ローム中ブロック・ローム粒子多量，焼土小ブロック中量，炭化材・炭化粒子少量
8　黒　褐　色　焼土小ブロック多量，ローム小ブロック・焼土中ブロック・炭化物中量，ローム粒子少量
9　黒　褐　色　焼土中・小ブロック多量，ローム小ブロック中量，炭化物少量
10　暗　褐　色　焼土小ブロック多量，ローム中ブロック・ローム小ブロック・炭化物・炭化粒子少量
11　褐　色　ローム小ブロック・焼土中ブロック・焼土小ブロック中量
12　褐　色　ローム小ブロック・焼土小ブロック中量，炭化物・炭化粒子少量
13　褐　色　ローム粒子多量，ローム中・小ブロック中量，焼土小ブロック・粒子少量
14　褐　色　ローム粒子多量，ローム中ブロック・ローム小ブロック・炭化物中量，焼土小ブロック・焼土粒子・炭化粒子少量

遺物　土師器片1843点，須恵器片387点，土製品11点（竈支脚片），石製品1点（砥石），鉄製品1点（鎌），鉄滓6点，陶器細片2点，礫1点が出土している。第146図1の土師器甕は竈内から，2の須恵器坏と6の須恵器双耳椀や7の須恵器蓋は覆土中から，3の須恵器坏は南部の床面から出土している。4の須恵器坏は，中央部やや南側の床面から逆位で出土している。5の須恵器坏は，竈西側の覆土下層から出土している。8の須恵器甕は，北東コーナー部の床面から横位で出土している。9の砥石と10の鉄製品（鎌）は，ともに覆土中から

出土している。また，北東部の床面から須恵器坏片が，南東部の床面から土師器甕口縁部片や土師器甕体部片，須恵器坏片，土師器高台付坏片がそれぞれ出土している。中央部の床面からは，須恵器蓋片，須恵器鉢の底部片が，北西部の下層から土師器甕口縁部片や器種不明の土師器片が比較的数多く出土している。覆土中から鉄滓が出土している。その他，陶器片が覆土中から出土しているが，器種は不明である。撹乱により混入したものと考えられる。また，１の土師器甕は，第919号住居跡，３・４の須恵器坏は，第917号住居に伴う出土土器の可能性も考えられる。

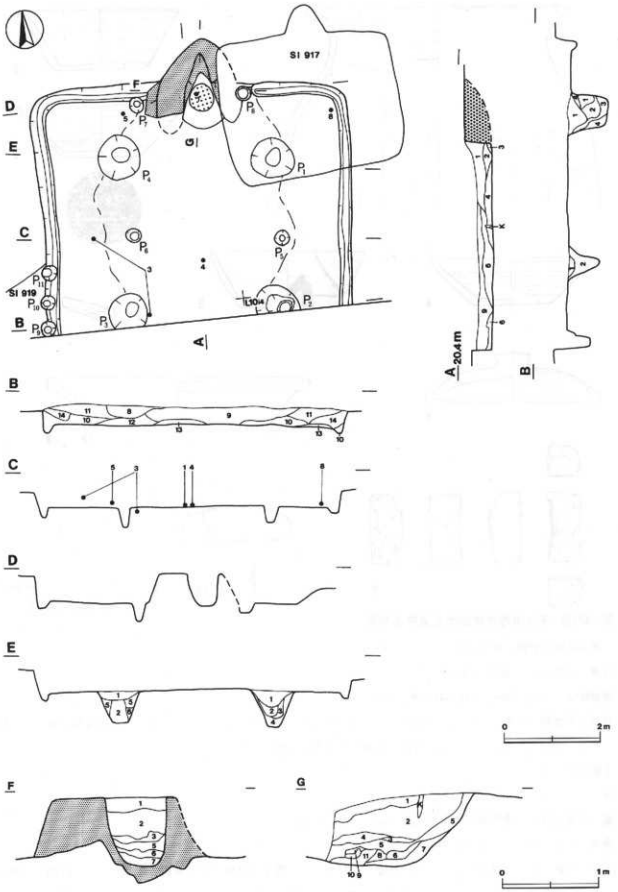
所見　本跡の時期は，出土土器から判断して９世紀前葉と考えられる。重複している第919号住居跡より新しく，第917号住居より古い。

第918号住居跡出土遺物観察表

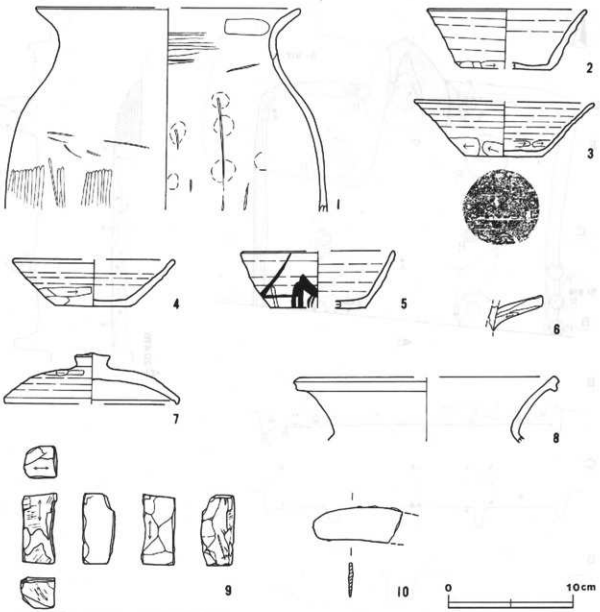
図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第146図 1	甕 土師器	A [21.0] B (16.1)	体部から口縁部にかけての破片。体部上位で内湾する。頸部でくびれ，口縁部は外反する。	口縁部，体部内・外面横ナデ。体部下端ヘラ磨き。体部内面指頭押圧。体部内面輪積み痕。	砂粒・雲母・長石・石英 にぶい橙色　普通	P8006　30% P L57 竈内
2	坏 須恵器	A 12.7 B 4.9 C [7.2]	口縁部・体部一部欠損。平底。体部は外傾して立ち上がり，口縁部は軽く外反する。端部は丸く収めている。	口縁部，体部内・外面ロクロナデ。体部下端手持ちヘラ削り。底部切り離し痕を残す二方向のヘラ削り。	砂粒・長石・石英 灰色 普通	P8007　70% P L57 覆土中
3	坏 須恵器	A [14.4] B 4.4 C 6.0	口縁部・体部一部欠損。平底。体部やや外反気味に外傾して立ち上がり，口縁部にいたる。	口縁部，体部内・外面ロクロナデ。体部下端手持ちヘラ削り。底部切り離し痕を残す二方向のヘラ削り。	砂粒・雲母・長石・石英・赤色粒子 にぶい褐色　普通	P8008　55% P L57 南部床面
4	坏 須恵器	A [12.8] B 3.7 C 6.0	底部から口縁部にかけての破片。平底。体部は外傾して立ち上がり，口縁部は軽く外反する。	口縁部・体部内・外面ロクロナデ。体部下端手持ちヘラ削り。底部不定方向のヘラ削り。	砂粒・長石・石英 灰色 普通	P8009　50% 中央部やや南側床面
5	坏 須恵器	A [12.0] B 4.5 C [7.6]	底部から口縁部にかけての破片。平底。体部は外傾して立ち上がり，口縁部にいたる。	口縁部，体部内・外面ロクロナデ。体部下端手持ちヘラ削り。底部切り離し痕を残す一方向のヘラナデ。	砂粒 灰色 普通 火錆	P8010　15% 竈西側覆土下層
6	双耳椀 須恵器	把手長 3.6 把手厚 0.8	把手片。	把手部ヘラ削り。	砂粒 灰色 普通	P8011　5% 覆土中
7	蓋 須恵器	A [13.8] B 4.1 F 2.8 G 1.1	天井部から口縁部にかけての破片。天井部は丸く，外周部はなだらかに下降し，口縁部は屈曲し，短く垂下する。つまみは擬宝のボタン状。	天井頂部は回転ヘラ削り。外周部，口縁部ロクロナデ。ロクロ目は弱い。	砂粒・石英 灰色 普通	P8012　20% 覆土中
8	甕 須恵器	A [20.2] B (5.2)	口縁部片。口縁部は外反する。	口縁部内・外面横ナデ。	砂粒・雲母・長石・石英 黄灰色　普通	P8013　5% 北東コーナー部床面

図版番号	種別	計測値 長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)	石質	出土地点	備考
第146図9	砥石	5.6	2.7	2.5	50.9	凝灰岩	覆土中	Q8001　P L57

図版番号	種別	計測値 長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)	出土地点	備考
第146図10	鎌	(7.2)	2.6	0.3	(18.0)	覆土中	M8001　P L57



第145図　第918号住居跡実測図



第146図　第918号住居跡出土遺物実測図

第922号住居跡（第147図）

位置　調査8区の西部，L8j7区。

重複関係　東部で第923号住居跡を掘り込んでいる。

規模と平面形　長軸［3.05］m，短軸［1.80］mの長方形と推定される。トレンチャーによる撹乱が激しく，壁や壁溝が確認されなかったため，規模と平面形は床質から推定した。

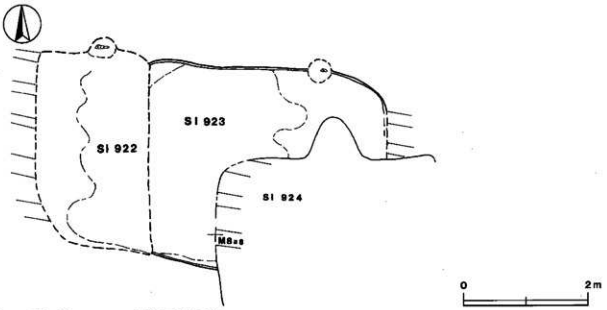
主軸方向　N－0°

床　ほぼ平坦である。

竈　撹乱を受け，火床部の一部が確認されただけである。

遺物　小片であるが，須恵器片1点が出土している。

所見　本跡の壁と壁溝及びピットは，確認できなかった。覆土の堆積状況も確認できなかった。時期は，断定できる出土土器がないために不明であるが，第923号住居跡を掘り込んでいることから，それ以降のものと考えられる。



第147図　第922・923号住居跡実測図

第923号住居跡（第147図）

位置　調査８区の西部，L8j8区。

重複関係　西部が第922号住居に，南東部が第924号住居に掘り込まれている。

規模と平面形　長軸［3.80］m，短軸3.20mの長方形と推定される。重複等で壁が確認できなかった部分は，床質から規模を推定した。

主軸方向　N－0°

壁　北側と南側の一部で確認できた。

床　等間隔のトレンチャーによる攪乱を受けているが，その合間に踏み固められた硬化面が残存している。残存部は平坦である。

竈　北壁に構築されていたと推定される。攪乱を受けているが，北壁中央部から東寄りに火床部の一部と考えられる赤変硬化部分が確認できた。

遺物　縄文土器片１点，土師器片２点，須恵器片１点が出土している。縄文土器片は混入したものである。

所見　本跡の壁溝，ピットは確認されなかった。時期は，断定できる出土土器がないために不明であるが，８世紀の後葉と考えられる第924号住居に掘り込まれており，それ以前と考えられる。

第924号住居跡（第148図）

位置　調査８区の西部，M8a8区。

重複関係　北西部で第923号住居跡を掘り込んでいる。

規模と平面形　長軸3.70m，短軸3.30mの長方形である。

主軸方向　N－3°－W

壁　壁高は50cmで，外傾して立ち上がる。

壁溝　全周している。上幅10～20cm，下幅４～６cm，深さ８cmで，断面はU字形をしている。

床　トレンチャーによる攪乱を等間隔で受けているものの，ほぼ平坦で，全体的に踏み固められている。

竈　北壁中央を壁外に70cmほど掘り込み，砂質粘土で構築されている。規模は，焚口部から煙道部まで104cm，両袖部幅80cmである。中央部より北側の一部がトレンチャーによる攪乱を受けている。天井部は一部崩落しており，第3層は砂粒や粘土が主であることから，天井部の崩落土と考えられる。両袖部の内側には，補強材として土師器甕片が使用されている。第6層は焼土粒子が多量に含まれ，下面が硬化していることから，下面が火床面と考えられる。煙道は火床部から急な傾斜で立ち上がる。覆土からは多量の土師器片が出土している。

竈土層解説
1　暗　褐　色　炭化粒子・粘土粒子少量，焼土粒子微量
2　暗　褐　色　粘土中ブロック・粒子中量，焼土粒子・炭化粒子微量
3　にぶい黄褐色　粘土粒子多量，砂粒中量，焼土粒子・炭化粒子少量
4　暗 赤 褐 色　焼土中ブロック・焼土小ブロック・焼土粒子・炭化粒子中量
5　黒　褐　色　炭化粒子多量，焼土小ブロック・粒土粒子中量
6　極暗赤褐色　焼土粒子・炭化粒子多量，焼土小ブロック中量
7　にぶい褐色　炭化粒子・粘土粒子・砂粒中量，焼土粒子少量
8　にぶい黄褐色　粘土粒子多量，砂粒中量，炭化物・炭化粒子少量
9　褐　　色　ローム粒子・粘土粒子・砂粒中量，炭化物少量，焼土粒子微量

ピット　南壁際にあるP1は上端は径30cm，下端は径12cmの円形で，深さは23cmである。位置的に出入り口施設に伴うピットと考えられる。

覆土　3層からなり，ブロック状の堆積状況から人為堆積と考えられる。

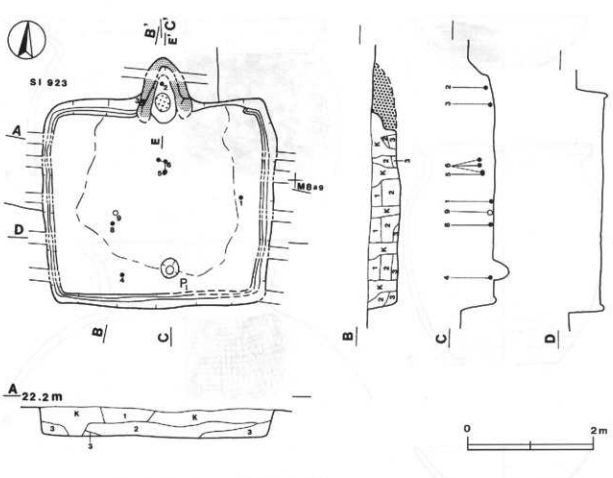
土層解説
1　暗褐色　ローム小ブロック中量，ローム粒子・炭化粒子少量
2　黒褐色　炭化物中量
3　暗褐色　ローム粒子・炭化物少量

遺物　土師器片360点，須恵器片126点，灰釉陶器片4点，土製品1点（土玉）が出土している。第149図1の土師器坏は，東部の床面から正位で出土している。2の土師器小形甕と，3の土師器甕は竈内から出土している。4の須恵器坏は，南壁際の床面から正位で出土している。5の須恵器甕は，中央部の覆土下層から出土している。6の須恵器甕は，中央部の覆土下層から出土した破片が接合したものである。7の須恵器把手付長頸瓶は，覆土中から出土した破片が接合したものである。8の灰釉陶器椀は，中央部の床面から出土した破片と覆土中から出土した破片が接合したもので，三河窯二川窯式と考えられる。9の土製品（土玉）は，中央部床面から出土している。細片のため図示できないものの，覆土中から猿投窯黒笹14号窯式と考えられる坏片3点が出土している。

所見　本跡の時期は，出土土器から判断して9世紀後葉と考えられ，重複している第923号住居跡より新しい。

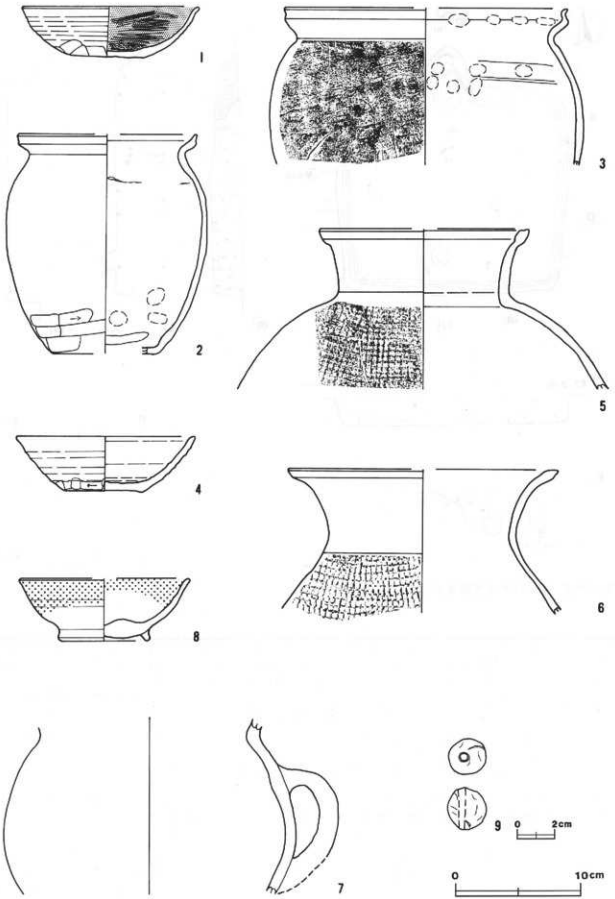
第924号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第149図 1	坏 土師器	A 13.9 B 4.2 C 6.0	口縁部・体部一部欠損。平底。体部から口縁部は内弯気味に立ち上がり口縁部はやや外反する。	口縁部，体部内・外面ロクロナデ。体部下端手持ちヘラ削り。底部ヘラ削り後ナデ。内面丁寧なヘラ磨き。内面黒色処理。	砂粒・雲母 灰黄褐色 普通	P8018 P L 57 東部床面 90%
2	甕 土師器	A [14.0] B 17.4 C [8.2]	底部から口縁部にかけての破片。体部は内弯して立ち上がる。頸部でくびれ，口縁部は外反する。口唇部外面直下に稜が巡る。	口縁部内・外面横ナデ。上位・内面ナデ。体部外面下位ヘラ削り。内面下位指頭押圧後，横ナデ。内面上位輪積み痕。	砂粒・雲母・長石・石英 暗赤褐色 普通	P8019 P L 57 竈内 40%
3	甕 土師器	A 22.4 B (12.4)	体部中位から底部にかけて欠損。体部上位は内弯して立ち上がる。頸部でくびれ，口縁部は外反する。口唇部は上方につまみ上げられている。	口縁部内・外面横ナデ。上位・内面ナデ。口縁部，内面上位指頭押圧。	砂粒・長石・石英・赤色粒子 にぶい橙色 普通	P8020 P L 57 竈内 30%



第148図　第924号住居跡実測図

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第149図 4	坏 須恵器	A 14.0 B 4.4 C 6.2	完形。平底。体部は外傾して立ち上がる。	口縁部・体部内・外面ロクロナデ。体部下端手持ちヘラ削り。底部ヘラ削り。	砂粒・雲母・長石・赤色粒子 暗赤褐色　普通	P8021　100% P L57 南壁際床面
5	甕 須恵器	A [16.4] B (12.7)	体部上位から口縁部にかけての破片。体部は内弯して立ち上がり，口縁部は外反する。端部は上方につまみ上げられている。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面格子目状の叩き。	砂粒・長石・石英 黄灰色 普通	P8022　20% P L58 中央部覆土下層
6	甕 須恵器	A [21.4] B (11.4)	体部上位から口縁部にかけての破片。体部は内弯して立ち上がり，口縁部は外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面格子目状の叩き。	砂粒・雲母・長石・石英 にぶい褐色　普通	P8023　20% P L58 中央部覆土下層
7	把手付長頸瓶 須恵器	B (13.9)	体部片。体部は内弯気味に立ち上がる。	体部内・外面ナデ。把手外面指頭押圧。	砂粒・長石・石英 灰色 普通	P8024　30% P L57 覆土中
8	椀 灰釉陶器	A [13.3] B 5.0 D 6.8 E 0.9	底部から口縁部にかけての破片。上位で軽く外反し，口縁部にいたる。	口縁部から体部内・外面ロクロナデ。	砂粒 灰白色 釉　灰オリーブ色 緻密	P8025　35% 床面，覆土中 二川窯式



第149図　第924号住居跡出土遺物実測図

図版番号	種　別	計測値				出土地点	備　考	
		径（cm）	長さ（cm）	孔径（cm）	重量（g）			
第149図9	土　玉	1.9	2.2	0.4	7.70	中央部床面	DP8001	PL61

第925号住居跡（第150図）

位置　調査8区の西部，M8b8区。

重複関係　中央部から南東部で第938号住居跡を，南東部で第926号住居跡を掘り込んでいる。

規模と平面形　長軸4.60m，短軸3.55mの長方形である。

主軸方向　N－1°－E

壁　壁高は35cmで，外傾して立ち上がる。

床　トレンチャーによる撹乱を受けているが，ほぼ平坦で，中央部が特に踏み固められている。

竈　北壁中央を壁外に30cmほど掘り込み，砂質粘土で構築されている。竈の南側でトレンチャーによる撹乱を受けている。砂粒や粘土粒子が多量に検出されていることから，第1層から第3層までが天井部の崩落土と考えられる。第7層は焼土粒子が多量・焼土小ブロックが中量混ざっていることから下面が火床面と考えられる。

竈土層解説
1　にぶい黄褐色　粘土粒子・砂粒多量，焼土粒子微量
2　にぶい赤褐色　粘土粒子・砂粒多量，焼土粒子少量，炭化粒子微量
3　にぶい黄褐色　粘土粒子多量，砂粒中量，焼土粒子少量
4　暗赤褐色　焼土粒子・粘土粒子中量，炭化粒子・砂粒少量
5　にぶい赤褐色　ローム粒子中量，炭化粒子少量，焼土粒子微量
6　暗赤褐色　粘土粒子多量，焼土小ブロック中量，焼土粒子・炭化粒子少量
7　赤褐色　焼土粒子多量，焼土小ブロック中量，炭化粒子少量

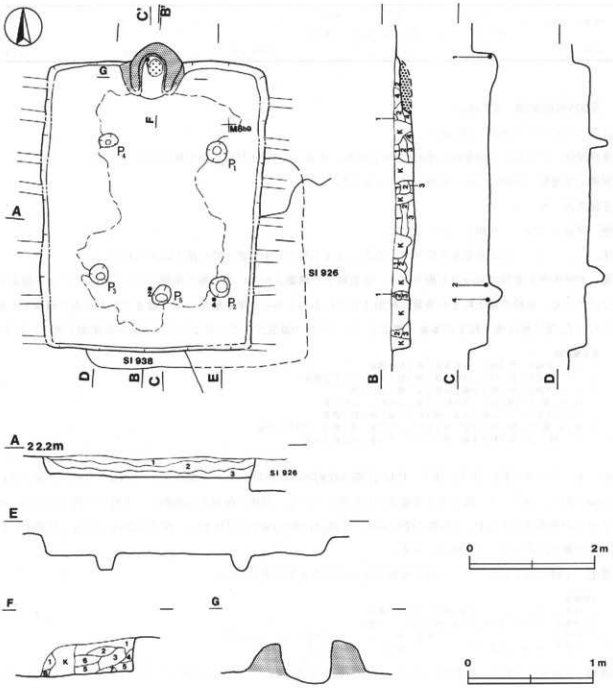
ピット　5か所（P1～P5）。P1～P4の上端は径約30cmのほぼ円形，下端は径8～18cmの円形で，深さは約28cmであり，各コーナー部やや中央部寄りに位置している。規模と配置から判断して主柱穴と考えられる。南壁やや中央寄りにあるP5は上端は径約30cm，下端は径約20cmのほぼ円形で，深さは26cmである。位置的に出入り口施設に伴うピットと考えられる。

覆土　4層からなり，ブロック状の堆積状況から人為堆積と思われる。

土層解説
1　暗褐色　焼土小ブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
2　黒褐色　炭化物・炭化粒子少量，焼土小ブロック微量
3　暗褐色　ローム小ブロック・ローム粒子・焼土小ブロック・炭化粒子少量，炭化物微量
4　暗褐色　粘土粒子中量，焼土小ブロック・焼土粒子・炭化粒子少量

遺物　土師器片470点，須恵器片102点，灰釉陶器片2点，鉄滓1点，炭化材1点が出土している。第150図1の土師器甕は，竈内から出土している。2の須恵器坏は，南部の覆土下層から逆位で出土している。3の須恵器長頸瓶は，覆土中から出土している。4の須恵器長頸瓶の頸部は，南部覆土下層から出土している。覆土中から出土した5の灰釉陶器長頸瓶は，猿投窯黒笹90号窯式前半のものと考えられる。その他，須恵器長頸瓶頸部や鉄滓が覆土中から出土している。

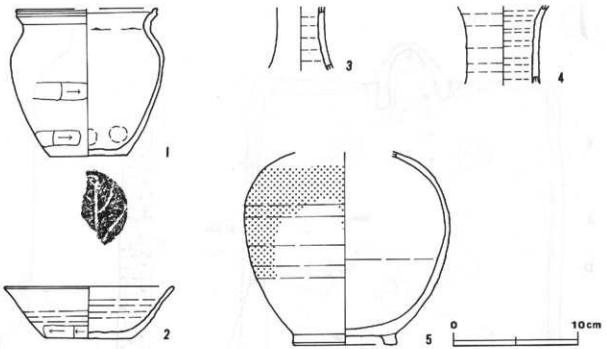
所見　本跡では，壁溝は確認できなかった。時期は，出土土器から判断して9世紀中葉と考えられる。鉄滓が出土しているが鍛冶炉等は確認されていない。



第150図　第925号住居跡実測図

第925号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第151図 1	甕 土師器	A [11.2] B 11.8 C 6.0	底部から口縁部にかけての破片。体部上位は内弯して立ち上がる。頸部でくびれ、口縁部は外反する。端部は上方につまみ上げられている。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面中・下位横位のヘラ削り。内面ナデ。輪積み痕。体部内面下位指頭押圧後、横ナデ。底部木葉痕。	砂粒・雲母・長石・石英 にぶい赤褐色 普通	P8026　45% PL58 覆内
2	坏 須恵器	A 13.4 B 4.2 C 6.8	口縁部・体部一部欠損。平底。体部は外傾して立ち上がり、口縁部にいたる。端部は丸く収めている。	口縁部、体部内・外面ロクロナデ。体部下端手持ちヘラ削り。底部切り離し痕を残す一方向のヘラナデ。	砂粒・雲母・長石・石英・赤色粒子 灰黄色　普通	P8027　60% PL57 南部覆土下層
3	長頸瓶 須恵器	B (4.8)	頸部片。頸部は外反気味に立ち上がる。	頸部内面ヘラナデ。外面ロクロナデ。	砂粒 灰色 普通	P8028　5% 覆土中



第151図　第925号住居跡出土遺物実測図

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第151図 4	長頸瓶 須恵器	B (6.2)	頸部片。頸部は外反気味に立ち上がる。	頸部内・外面ロクロナデ。	砂粒・長石・石英 オリーブ黒色 普通	P8029　5% 南部覆土下層
5	長頸瓶 灰釉陶器	B (15.4) D 8.1 E 0.9	底部から体部にかけての破片。角高台が付く。体部は内彎して立ち上がる。	体部内・外面ロクロナデ。底部・高台部ナデ。	砂粒・雲母・長石・石英 褐灰色 普通	P8030　60% P L.58　覆土中 黒焼90号窯式

第928号住居跡（第152図）

位置　調査８区の西部，M9a1区。

重複関係　南西部で第942号住居跡を掘り込み，南部が第929号住居に，東部が第930号住居に掘り込まれている。

規模と平面形　長軸5.00m，短軸［4.60］mの方形と推定される。

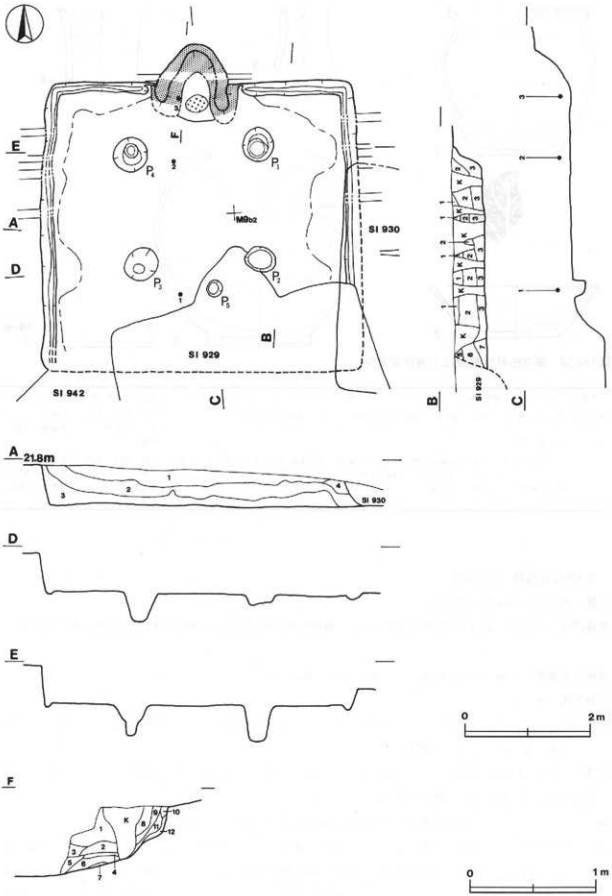
主軸方向　N－0°

壁　南西コーナー部から北東コーナー部にかけての立ち上がりが確認できた。壁高は60cmで，外傾して立ち上がる。南部の壁の立ち上がりは確認できなかった。

壁溝　第929号住居跡と重複している部分は確認できなかったが，全周していたと推定される。上幅12～14cm，下幅約６cm，深さ約８cmで，断面はU字形をしている。

床　トレンチャーによる撹乱が激しいが，撹乱以外の部分から推定してほぼ平坦である。

竈　北壁中央を壁外に62cmほど掘り込み，砂質粘土で構築されている。中央部がトレンチャーによる撹乱を受けている。規模は，焚口部から煙道部まで120cm，両袖部幅120cmと推定される。第７層には焼土粒子が大量に含まれ，下面が赤変硬化していることから，下面が火床部と考えられる。また，煙道は火床部から急な傾斜で立ち上がる。天井部は崩落しており，第２層が崩落土と考えられる。



第152図　第928号住居跡実測図

竪土層解説

1 黒 褐 色 ローム粒子・焼土粒子少量，ローム小ブロック・焼土小ブロック微量
2 暗 褐 色 砂粒中量，ローム粒子・炭化物微量
3 暗 褐 色 焼土粒子少量，ローム粒子微量
4 暗赤褐色 焼土粒子多量，焼土小ブロック・炭化物微量
5 極暗赤褐色 焼土粒子多量，焼土小ブロック少量
6 極暗褐色 焼土粒子・炭化物中量，ローム小ブロック・炭化粒子少量，ローム粒子微量
7 極暗赤褐色 焼土粒子多量，ローム小ブロック・ローム粒子・焼土小ブロック微量
8 暗 褐 色 焼土小ブロック少量，ローム粒子・焼土粒子微量
9 暗 褐 色 焼土粒子少量，ローム小ブロック・ローム粒子・焼土小ブロック微量
10 暗 褐 色 ローム粒子・焼土粒子少量
11 暗 褐 色 焼土粒子中量，ローム粒子少量，炭化粒子微量
12 褐 色 ローム粒子中量，ローム小ブロック少量，焼土粒子微量

ピット 5か所（P1～P5）。P1～P4の上端は径50～60cmではほ円形，下端は径20～40cmの円形で，深さ14～59cmであり，それぞれのコーナー部やや中央部寄りに位置している。規模と位置から判断して主柱穴と考えられる。P5は径28cmの円形で，深さは22cmである。位置的に出入り口施設に伴うピットと考えられる。

覆土 7層からなる。ブロック状の堆積状況から，人為堆積と考えられる。

土層解説

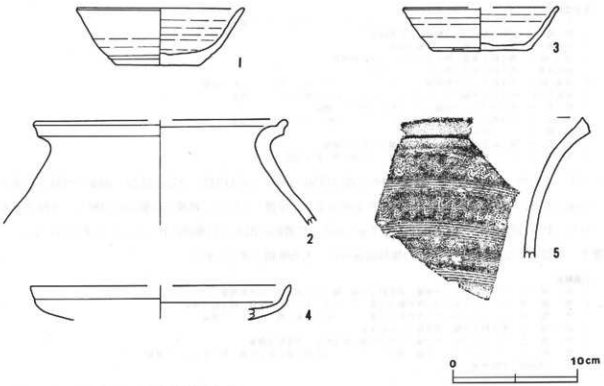
1 暗 褐 色 ローム小ブロック中量，炭化粒子少量，焼土小ブロック・炭化物微量
2 黒 褐 色 ローム小ブロック・炭化粒子中量，ローム大・中ブロック少量，焼土粒子微量
3 黒 褐 色 ローム小ブロック・炭化粒子中量，ローム粒子少量，焼土小ブロック微量
4 暗 褐 色 粘土粒子中量，炭化粒子・砂粒少量
5 黒 褐 色 ローム小ブロック中量，炭化物少量，焼土粒子・炭化粒子微量
6 黒 褐 色 ローム小ブロック中量，焼土小ブロック・炭化物・炭化粒子少量，粘土小ブロック微量
7 にぶい黄褐色 砂粒多量

遺物 土師器片214点，須恵器片42点，灰釉陶器片1点，陶器片1点，鉄滓2点が出土している。第153図1の土師器坏は中央部の覆土下層から横位で，2の土師器甕は中央部からやや北寄りの覆土下層から出土している。3の須恵器坏は，竈西袖部近くの覆土下層から出土している。4の須恵器盤は，覆土中から出土している。5の須恵器甕は，南西部覆土中層から出土している。外面に櫛描波状文が施されている。その他，覆土中から鉄滓や灰釉陶器の細片が出土しているが，鍛冶炉等は確認されず，また灰釉陶器片の器種は不明である。陶器片は撹乱により混入したものと考えられる。

所見 本跡の時期は，出土土器から判断して8世紀後半から9世紀前半と考えられる。

第928号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第153図 1	坏 土師器	A 13.2 B 4.5 C 6.6	口縁部・体部一部欠損。平底。体部は外傾して立ち上がり，口縁部は軽く外反する。	口縁部，体部内・外面ロクロナデ。底部ヘラ削り。	砂粒・雲母・長石・石英・赤色粒子 にぶい橙色 普通	P8038 80% P L57 中央部覆土下層
2	甕 土師器	A [20.0] B (8.4)	体部上位から口縁部にかけての破片。頸部でくびれ，口縁部は外反する。口唇部は上方につまみ上げられている。	口縁部内・外面横ナデ。	砂粒・雲母・長石・石英・赤色粒子 橙色 普通	P8039 10% 中央部やや北寄り覆土下層
3	坏 須恵器	A [12.2] B 3.4 C 7.4	底部から口縁部にかけての破片。平底。体部は外傾して立ち上がる。口縁部は軽く外反する。端部は丸く収めている。	口縁部・体部内・外面ロクロナデ。ロクロ目弱い。体部下端回転ヘラ削り。底部回転ヘラ切り。	砂粒・雲母・石英 褐灰色 普通	P8041 30% 竈西袖部覆土下層
4	盤 須恵器	A [20.8] B (2.6)	体部から口縁部にかけての破片。体部はやや内彎して外方に開き，屈曲して口縁部にいたる。口縁部は軽く外反する。	口縁部，体部内・外面ロクロナデ。	砂粒・雲母 黄灰色 普通	P8042 5% 覆土中



第153図　第928号住居跡出土遺物実測図

第929号住居跡（第154図）

位置　調査８区の西部，M9b1区。

重複関係　北部で第928号住居跡，東部で第930・942号住居跡を掘り込んでいる。

規模と平面形　長軸4.20m，短軸3.70mの長方形である。

主軸方向　N－9°－W

壁　壁高は50～70cmで，外傾して立ち上がる。

壁溝　全周している。上幅18～32cm，下幅４～６cm，深さ約８cmで，断面はU字形である。

床　ほぼ平坦であり，全体的に踏み固められている。

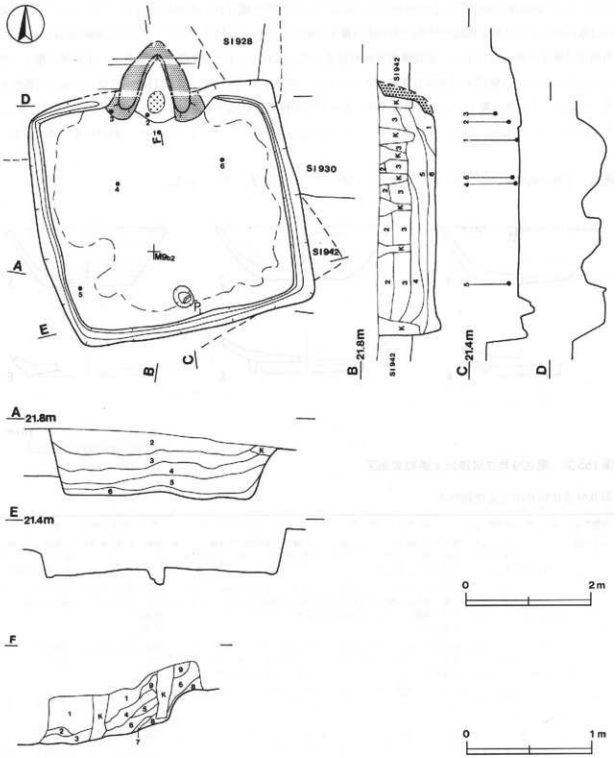
竈　北壁中央を壁外に78cmほど掘り込み，砂質粘土で構築されている。規模は，焚口部から煙道部まで130cm，両袖部幅120cmである。天井部は崩落しており，第１層と第３層が崩落土と考えられる。火床部は床面を約６cm掘りくぼめており，赤変硬化している。また，中央部と北部がトレンチャーによる攪乱を受けている。

竈土層解説

1	黒　褐　色	砂粒中量，焼土小ブロック・焼土粒子・粘土粒子少量
2	暗赤褐色	粘土粒子・砂粒中量，焼土小ブロック・焼土粒子・炭化粒子少量
3	褐　　色	砂粒多量，焼土粒子・粘土粒子中量，炭化粒子少量
4	暗赤褐色	焼土粒子中量，焼土小ブロック・炭化粒子・粘土粒子・砂粒少量
5	暗赤褐色	焼土小ブロック・砂粒中量，焼土粒子・炭化粒子・粘土粒子少量
6	黒　褐　色	炭化粒子多量，焼土小ブロック・粒子少量
7	褐　　色	ローム小ブロック・粒子中量，焼土小ブロック少量
8	褐　　色	ローム粒子中量，焼土小ブロック・粒子少量，炭化粒子微量
9	にぶい赤褐色	粘土粒子・砂粒多量，焼土粒子・炭化粒子少量

ピット　南壁際にあるＰ1は径約30cmの円形で，深さ28cmである。位置的に出入り口施設に伴うピットと考えられる。

覆土　６層からなる。レンズ状に堆積していることから，自然堆積と考えられる。



第154図　第929号住居跡実測図

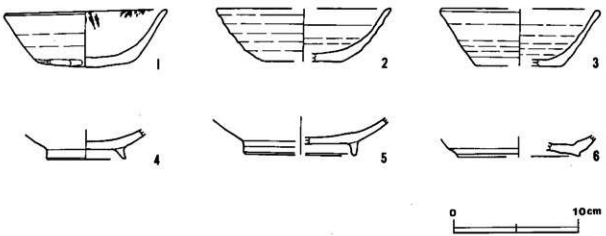
土層解説

1　にぶい黄褐色　炭化粒子・砂粒中量，粘土粒子少量
2　暗　褐　色　ローム小ブロック中量，ローム粒子・炭化粒子少量，焼土粒子微量
3　黒　褐　色　ローム小ブロック中量，炭化物少量，焼土粒子・炭化粒子微量
4　黒　褐　色　ローム小ブロック中量，焼土小ブロック・炭化物・炭化粒子少量，粘土小ブロック微量
5　黒　褐　色　ローム小ブロック・焼土小ブロック・炭化物・炭化粒子少量
6　褐　　色　ローム小ブロック・粒子中量，炭化粒子少量，焼土中ブロック・粒子微量

遺物　土師器片892点，須恵器片315点，灰釉陶器片14点，鉄製品１点（刀子），鉄滓１点が出土している。第

155図1の土師器坏は逆位で，2の須恵器坏は正位で，それぞれ竈付近の床面から出土している。3の須恵器坏は竈内から，4の須恵器高台付坏は中央部の覆土下層からそれぞれ出土している。5の灰釉陶器高台付坏は，南西部の覆土下層から出土し，猿投窯黒笹90号窯式と考えられる。6の灰釉陶器長頸瓶は，中央部の覆土下層から出土しており，猿投窯黒笹90号窯式と考えられる。器種は不明であるが，徳利形手付瓶の底部の可能性も考えられる。その他，覆土中から器種は不明であるが，猿投窯黒笹14号窯式の細片9点が出土している。また，刀子が出土しているが，刀子1点は極小片である。鉄滓が覆土中より出土しているが，鍛冶炉等は確認されていない。

所見　本跡の時期は，覆土中の出土土器から判断して9世紀後葉と考えられる。



第155図　第929号住居跡出土遺物実測図

第929号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第155図 1	坏 土師器	A 13.0 B 4.6 C 7.2	底部から口縁部にかけての破片。平底。体部は外傾して立ち上がり，口縁部は軽く外反する。	口縁部，体部内・外面横ナデ。体部下端回転ヘラ削り。底部回転ヘラ削り。	砂粒・雲母・赤色粒子 にぶい黄色　普通	P8043　80% P L57　タール付 著　竈付近床面
2	坏 須恵器	A [13.6] B 4.2 C [6.0]	底部から口縁部にかけての破片。平底。体部は内彎気味に立ち上がり，口縁部にいたる。口縁部は軽く外反する。	口縁部，体部内・外面ロクロナデ。体部下端回転ヘラ削り。底部一方向のヘラ削り。	砂粒・雲母・長石・石英・白色粒子 明褐色 普通	P8044　40% 竈付近床面
3	坏 須恵器	A [12.2] B 4.5 C [6.8]	底部から口縁部にかけての破片。平底。体部は外傾して立ち上がり，口縁部にいたる。	口縁部，体部内・外面ロクロナデ。ロクロ目荒い。体部下端手持ちヘラ削り。底部二方向のヘラ削り。	砂粒・長石・石英 黄灰色 普通	P8045　20% 竈内
4	高台付坏 須恵器	B (2.3) D 6.2 E 0.8	高台部から底部にかけての破片。高台はやや開く。	底部回転ヘラ削り。高台貼り付け後，ナデ。	砂粒・黒色粒子 暗灰黄色 普通	P8046　20% 中央部覆土下層
5	高台付坏 灰釉陶器	B (3.0) D [8.8] E 1.1	高台部から体部下位にかけての破片。高台はほぼ垂下する。体部は外傾して立ち上がる。	体部内・外面ロクロナデ。底部回転ヘラ削り後，高台貼り付け。	砂粒・長石・黒色粒子　黄灰色 釉　灰オリーブ色 普通	P8047　15% 南西部覆土下層 猿投窯黒笹90号窯式
6	長頸瓶 灰釉陶器	B (1.6) C [9.8]	高台部から体部下位にかけての破片高台は短く「ハ」の字状に開く。体部は外傾して立ち上がる。	体部内・外面ロクロナデ。底部回転ヘラ削り後，高台貼り付け。	砂粒 灰白色 釉　灰オリーブ 普通	P8048　5% 中央部覆土下層 黒笹90号窯式

第930号住居跡（第156図）

位置　調査８区の中央部，M9b2区。

重複関係　西部で第928号住居跡を掘り込み，南西コーナー部が第929号住居に掘り込まれている。

規模と平面形　長軸3.55m，短軸3.00mの長方形である。

主軸方向　N－9°－E

壁　壁高は18cmで，外傾して立ち上がる。

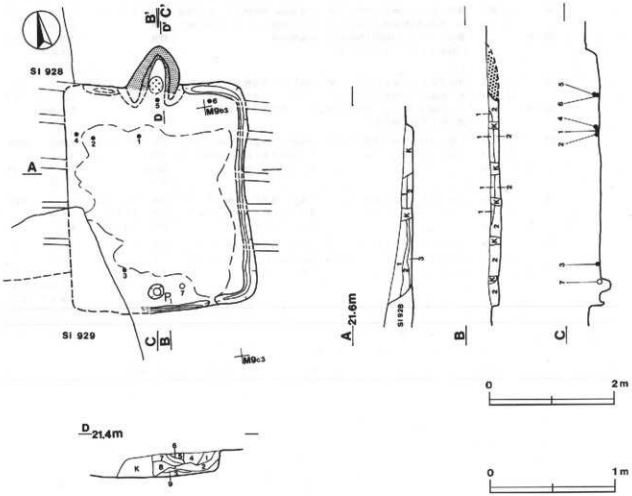
壁溝　第928・929号住居跡と重複している部分は確認できなかったが，全周していたと推定される。上幅14～20cm，下幅約５cm，深さ約６cmで，断面はU字形をしている。

床　トレンチャーによる撹乱を受けているが，撹乱以外の部分から推定してほぼ平坦である。中央部が踏み固められている。

竈　北壁中央を壁外に60cmほど掘り込み，砂質粘土で構築されている。規模は，焚口部から煙道部まで90cm，両袖部幅80cmである。南部がトレンチャーによる撹乱を受けている。

竈土層解説

1	暗赤褐色	焼土小ブロック・焼土粒子・炭化粒子少量
2	にぶい赤褐色	粘土小ブロック中量，焼土小ブロック・炭化粒子少量
3	褐色	ローム粒子中量，ローム小ブロック・粘土小ブロック少量
4	暗赤褐色	ローム小ブロック・焼土小ブロック中量，焼土中ブロック・焼土粒子・炭化粒子少量
5	暗褐色	炭化粒子少量
6	暗赤褐色	焼土粒子中量，焼土中ブロック・炭化粒子少量
7	黒褐色	炭化粒子・粘土粒子少量，ローム小ブロック・焼土小ブロック微量
8	にぶい褐色	粘土粒子多量，砂粒中量，焼土粒子・炭化粒子少量
9	暗赤褐色	粘土粒子中量，ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量



第156図　第930号住居跡実測図

ピット　南壁際にあるP1は径24cmの円形で，深さは17cmである。位置的に出入り口施設に伴うピットと考えられる。

覆土　3層からなり，レンズ状に堆積していることから自然堆積と考えられる。

土層解説
1　黒褐色　ローム粒子少量，炭化物・焼土粒子微量
2　暗褐色　ローム小ブロック・粒子少量，炭化粒子微量
3　褐　色　ローム小ブロック・粒子中量

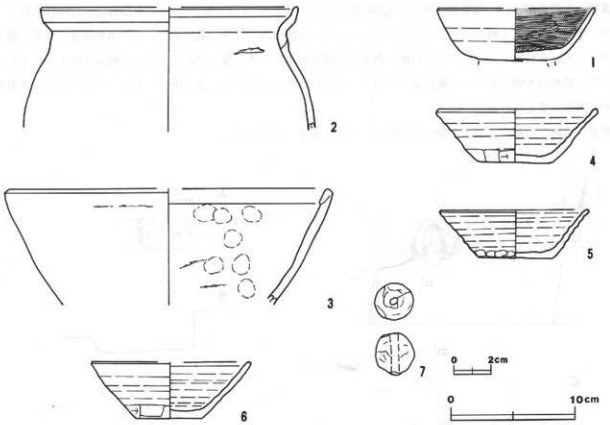
遺物　土師器片157点，須恵器片25点，土製品1点（土玉）が出土している。第157図1の土師器高台付坏は中央部から竈寄りの覆土下層から逆位で，2の土師器甕は北西コーナー部付近の床面直上から，3の土師器鉢は南西コーナー部壁際の床面直上からそれぞれ出土している。4の須恵器坏は北西コーナー部付近の覆土下層から逆位で，5の須恵器坏は竈内の焚き口付近から出土している。6の須恵器坏は北東コーナー部壁際の床面直上から出土しており，体部外面に「川カ」と朱書されている。7の土製品（土玉）は南部壁寄りの床面から出土している。

所見　本跡の時期は，出土土器から判断して9世紀中葉と考えられる。

第930号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第157図 1	高台付坏 土師器	A [12.7] B (4.2)	口縁部・体部・高台欠損。体部は外傾して立ち上がり，口縁部にいたる。	口縁部，体部外面横ナデ。口縁部・体部内面ヘラ磨き。体部下端回転ヘラ削り。内面黒色処理。	砂粒・雲母・赤色粒子 橙色　普通	P8049　60% P L57　中央部から竈寄り覆土下層
2	甕 土師器	A [20.6] B (9.8)	体部上位から口縁部にかけての破片。体部は内弯気味に立ち上がる。頸部でくびれ，口縁部は外反する。口唇部は上方につまみ上げられている。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面ナデ。内面ヘラナデ。体部内面上位輪積み痕。	砂粒・雲母・長石・石英 橙色 普通	P8050　20% P L58 北西コーナー部付近床面直上
3	鉢 土師器	A [25.4] B (9.3)	体部上位から口縁部にかけての破片。体部はやや外傾して立ち上がり，口縁部にいたる。口縁部と体部の境の内面に稜をもつ。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面ヘラナデ。内面指頭押圧後，ヘラナデ。体部内面中位輪積み痕。	砂粒・雲母 明赤褐色 普通	P8051　10% 南西コーナー部壁際床面直上
4	坏 須恵器	A 12.8 B 4.3 C 6.0	完形。平底。体部は外傾して立ち上がり，口縁部にいたる。	口縁部から体部内・外面ロクロナデ。体部下端手持ちヘラ削り。底部一方向のヘラ削り。	砂粒・長石・石英・雲母 褐灰色 普通	P8052　100% P L57 北西コーナー部覆土下層
5	坏 須恵器	A 11.9 B 4.9 C 5.8	完形。平底。体部は外傾して立ち上がり，口縁部にいたる。	口縁部，体部内・外面ロクロナデ。体部下端手持ちヘラ削り。底部一方向のヘラナデ。	砂粒・雲母・長石・石英・赤色粒子 黄灰色　普通	P8053　100% P L58 竈内
6	坏 須恵器	A [12.8] B 4.5 C 5.3	口縁部・体部一部欠損。平底。体部は外傾して立ち上がり，口縁部にいたる。	口縁部，体部内・外面ロクロナデ。体部下端手持ちヘラ削り。底部一方向のヘラ削り。	砂粒・雲母・長石・石英 黄灰色 普通	P8054　60% P L58 北東コーナー部壁際床面直上　体部外面朱書「川ヵ」

図版番号	種別	計測値 径(cm)	長さ(cm)	孔径(cm)	重量(g)	出土地点	備考
第157図7	土玉	2.1	2.2	0.4	(7.00)	南部壁寄り床面	D P8004　P L61



第157図　第930号住居跡出土遺物実測図

第931号住居跡（第158図）

位置　調査８区の南部，M9c1区。

重複関係　北部で第942号住居跡を掘り込んでいる。

規模と平面形　南部は調査区域外に位置しており，平面形は確認できなかった。確認できた規模は，長軸[2.80]m，短軸（1.05)mである。

主軸方向　N－15°－E

床　ほぼ平坦である。ピットは確認できなかった。

竈　北壁中央を壁外に54cmほど掘り込み，砂質粘土で構築されている。北部がトレンチャーによる撹乱を受けている。規模は，焚口部から煙道部まで80cm，両袖部幅80cmである。第３層に灰が中量含まれ，第４層は焼土粒子が多量，焼土小ブロックも中量含まれており，下面が硬化していることから，下面が火床面と考えられる。煙道は火床部から急な傾斜で立ち上がる。

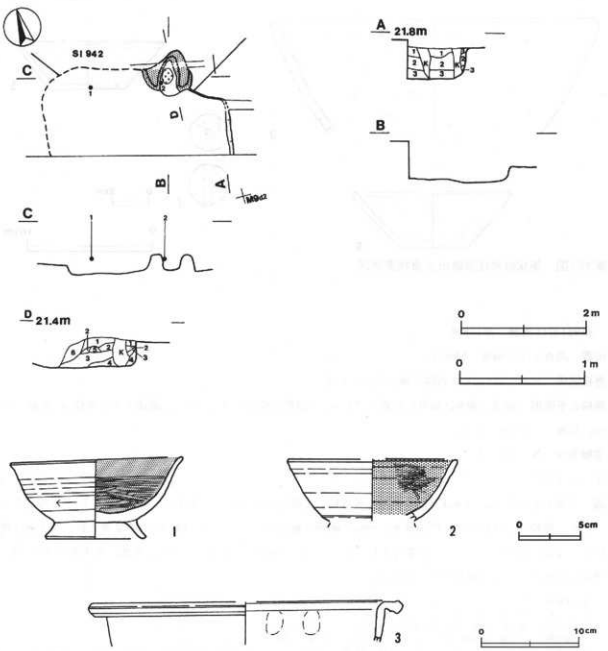
竈土層解説
1　暗赤褐色　粘土粒子中量，焼土小ブロック・焼土粒子・炭化粒子少量
2　暗赤褐色　粘土粒子多量，炭化粒子・砂粒中量，焼土小ブロック少量
3　極暗褐色　炭化物・灰中量，焼土小ブロック・焼土粒子・粘土粒子少量
4　暗赤褐色　焼土粒子多量，焼土小ブロック中量，炭化物・灰少量
5　暗赤褐色　焼土粒子多量，焼土小ブロック中量，炭化粒子少量
6　暗赤褐色　砂粒多量，炭化物・粘土粒子中量，焼土小ブロック少量

覆土　３層からなり，レンズ状に堆積していることから自然堆積と考えられる。

土層解説
1　暗褐色　ローム小ブロック少量
2　黒褐色　炭化粒子少量，ローム小ブロック微量
3　黒褐色　炭化粒子中量，ローム小ブロック微量

遺物　土師器片161点，須恵器片22点，灰釉陶器片４点が出土している。第158図１の土師器高台付坏は北西コーナー部付近の覆土上層から逆位で出土している。２の土師器高台付坏は竈内から，３の須恵器鉢は東部の覆土中からそれぞれ出土している。その他，南東部の確認面から２点，覆土中から２点の灰釉陶器細片が出土している。器種は不明であるが，確認面から出土した２点は鳴海32号窯式，覆土中から出土した２点は猿投窯黒笹90号窯式と考えられる。

所見　本跡の時期は，出土土器から判断して９世紀後葉と考えられる。



第158図　第931号住居跡・出土遺物実測図

第931号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第158図 1	高台付坏 土師器	A 13.6 B 6.5 D 7.6 E 1.5	高台部から口縁部にかけて一部欠損。高台は「ハ」の字状に開く。体部は内彎気味に立ち上がり，口縁部は外反する。	口縁部，体部外面ロクロナデ。口縁部，体部内面丁寧なヘラ磨き。底部回転ヘラ削り後，ナデ。内面黒色処理。	砂粒・雲母・長石・石英・赤色粒子 橙色 普通	P8056 70% PL59 北西コーナー部付近覆土上層
2	高台付坏 土師器	A [6.6] B (4.9)	体部から口縁部にかけての破片。体部は内彎気味に立ち上がり，口縁部にいたる。端部は丸く収めている。	口縁部，体部外面ロクロナデ。口縁部，体部内面丁寧なヘラ磨き。体部下端回転ヘラ削り。高台貼り付け。内面黒色処理。	砂粒・雲母・長石・石英・赤色粒子 橙色 普通	P8057 5% 竈内
3	鉢 須恵器	A [32.0] B (4.3)	体部上位から口縁部にかけての破片体部は外横して立ち上がり，口縁部は外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面横位の平行叩き。内面ナデ。内面上位指頭押圧。	砂粒・雲母・長石・石英 灰色　普通	P8058 5% 東部覆土中

第936号住居跡（第159図）

位置　調査8区の東部，M10d2区。

重複関係　南部中央を第690号土坑に，東部壁際を第41号掘立柱建物に掘り込まれている。

規模と平面形　南部が調査区域外に位置しているため詳細は不明であるが，長軸3.80m，短軸（3.40）mの長方形と推定される。

主軸方向　N－24°－E

壁　壁高は25～35cmで，外傾して立ち上がる。

壁溝　南部の調査区域外と竈から東コーナー部にかけては確認できなかったが，それ以外は巡っている。規模は，上幅24～30cm，下幅6～20cmで，深さは10～12cmである。

床　ほぼ平坦で，中央部が特に踏み固められている。ピットは確認されなかった。

竈　北壁中央を壁外に70cmほど掘り込み，砂質粘土で構築されている。規模は，焚口部から煙道部まで130cm，両袖部幅80cmである。第6層は焼土粒子が多量，焼土小ブロックが中量混じっていることから，下面が火床面と考えられる。支脚として使用されたと考えられる赤く焼けた雲母片岩が，立位の状態で出土している。天井部は崩落しており，粘土粒子・砂粒が多量に含まれている第1層が崩落土と考えられる。煙道は火床部から急な傾斜で立ち上がる。

竈土層解説

1　にぶい黄褐色　粘土粒子・砂粒多量
2　暗　褐　色　粘土粒子・砂粒少量，焼土中ブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
3　暗　褐　色　粘土粒子中量，焼土小ブロック・焼土粒子・炭化粒子・砂粒少量
4　にぶい黄褐色　粘土粒子・砂粒中量，焼土粒子少量，粘土小ブロック微量
5　黒　褐　色　炭化粒子中量，焼土粒子・粘土粒子・砂粒少量
6　赤　褐　色　焼土粒子多量，焼土小ブロック中量，炭化粒子微量
7　にぶい黄褐色　炭化物・炭化粒子微量
8　黒　褐　色　炭化粒子多量，焼土粒子中量，焼土小ブロック少量，粘土粒子微量

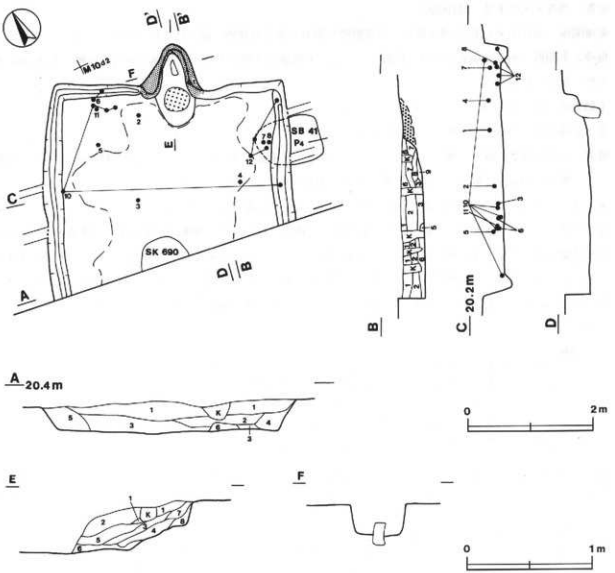
覆土　9層からなり，第5層はブロック状の堆積状況から人為堆積と考えられる。第1～4・6～9層はレンズ状の堆積状況から自然堆積と考えられる。

土層解説

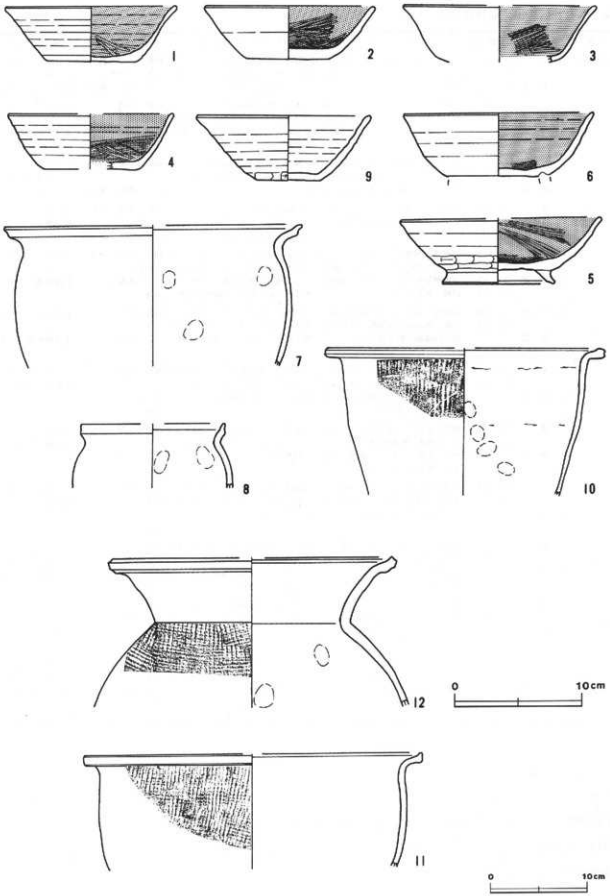
1　黒 褐 色　ローム小ブロック・ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量
2　黒 褐 色　ローム小ブロック・ローム粒子・焼土小ブロック・焼土粒子・炭化物・炭化粒子微量
3　黒 褐 色　ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量
4　暗赤褐色　焼土粒子中量，焼土中ブロック・炭化物少量
5　褐　色　ローム粒子多量，ローム中ブロック中量，ローム小ブロック少量
6　黒 褐 色　砂粒少量，ローム小ブロック・ローム粒子・焼土粒子微量
7　黒 褐 色　砂粒少量，ローム小ブロック・ローム粒子・焼土粒子・炭化物微量
8　黒 褐 色　砂粒中量，ローム小ブロック・ローム粒子・焼土中ブロック・焼土小ブロック・焼土粒子微量
9　黒 褐 色　ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量

遺物　土師器片318点，須恵器片105点が出土している。第160図１の土師器坏は竈内から，２の土師器坏は竈西袖部付近の覆土中層から正位で，３の土師器坏は中央部の覆土下層から，４の土師器坏は東部の覆土中層からそれぞれ出土している。５の土師器高台付坏は北西部の覆土中層から逆位で，６の土師器高台付坏は北部壁際の覆土下層からそれぞれ出土した破片が接合したものである。７の土師器甕片は東部覆土中層から出土したものである。８の土師器小形甕は東部の覆土下層から，９の須恵器坏は覆土上層から出土したものである。10の須恵器鉢は東部の壁際の覆土中層及び西部壁際の覆土下層，北西コーナー部の覆土下層からそれぞれ出土した破片が接合したものである。11の須恵器鉢は北西コーナー部の覆土下層から出土したものである。12の須恵器甕は中央部から東部，北東コーナー部壁際にかけての覆土下層や床面から出土した破片が接合したものである。

所見　本跡の時期は，出土土器から判断して９世紀後葉と考えられる。



第159図　第936号住居跡実測図



第160図　第936号住居跡出土遺物実測図

第936号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第160図 1	坏 土師器	A 13.5 B 4.4 C 7.2	口縁部・体部一部欠損。平底。体部は外傾して立ち上がり，口縁部は軽く外反する。	口縁部，体部外面ロクロナデ。内部ヘラ磨き。底部回転ヘラ削り後，ナデ。内面黒色処理。	砂粒・雲母・長石・石英・白色粒子 にぶい橙色　普通	P8100　80% P L 60 竈内
2	坏 土師器	A 13.4 B 4.3 C 6.5	口縁部・体部一部欠損。平底。体部は外傾して立ち上がり，口縁部にいたる。	口縁部，体部外面ロクロナデ。ロクロ目弱い。内面丁寧なヘラ磨き。底部不定方向のヘラ撫り。内面黒色処理。	砂粒・雲母 にぶい褐色 普通	P8101　70% P L 60 竈西補部付近覆土中層
3	坏 土師器	A [15.2] B (4.5)	体部から口縁部にかけての破片。体部から，口縁部は内彎気味にエ.ち上がり，口縁部は軽く外反する。	口縁部，体部内・外面ロクロナデ。ロクロ目弱い。内面黒色処理。	砂粒・長石・白色粒子 にぶい橙色　普通	P8102　20% 中央部覆土下層
4	坏 土師器	A [13.0] B 4.4 C [7.2]	底部から口縁部にかけての破片。平底。体部から口縁部は外傾して立ち上がる。	口縁部・体部外面ロクロナデ。内面丁寧なヘラ磨き。底部回転ヘラ削り。内面黒色処理。	砂粒・雲母・長石・赤色粒子 にぶい橙色　普通	P8103　20% 東部覆土中層
5	高台付坏 土師器	A [15.9] B 5.3 D 8.7 E 1.2	口縁部・体部一部欠損。高台は「八」の字状に開く。平底。体部は内彎気味に立ち上がり，口縁部は軽く外反する。	口縁部，体部外面ロクロナデ。内部丁寧なヘラ磨き。体部下端手持ちヘラ削り。底部回転ヘラ撫りの後，高台貼り付け。内面黒色処理。	砂粒・雲母・石英・赤色粒子 にぶい黄褐色 普通	P8104　70% P L 60 北西部覆土中層
6	高台付坏 土師器	A 15.0 B (5.1)	口縁部・体部一部及び高台欠損。平底。体部は内彎気味に立ち上がり，口縁部は軽く外反する。	口縁部，体部外面ロクロナデ。内面ヘラ磨き。底部切り離し痕を残す回転ヘラ削り。内面黒色処理。	砂粒・雲母・長石・石英 にぶい橙色 普通	P8105　50% P L 60 北部壁際覆土下層
7	甕 土師器	A [23.8] B (11.2)	体部から口縁部にかけての破片。体部は内彎して立ち上がり，頸部でくびれ，口縁部は外反する。端部は外方へつまみ出されている。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面ヘラ撫り。内面ヘラナデ。体部内面上位から中位指頭押圧。	砂粒・雲母・長石・石英 明赤褐色 普通	P8107　5% 東部覆土中層
8	甕 土師器	A [11.4] B (5.1)	体部上位から口縁部にかけての破片。小形甕。体部は内彎して立ち上がり，頸部でくびれ，口縁部は外反する。端部は上方につまみ上げる。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面ナデ。内面ヘラナデ。体部内面上位指頭押圧。	砂粒・雲母・長石・石英 にぶい赤褐色 普通	P8108　10% 東部覆土下層
9	坏 須恵器	A 13.6 B 5.1 C 5.1	底部から口縁部にかけての破片。平底。体部は外傾して口縁部にいたる。口縁部は軽く外反する。	口縁部・体部内・外面ロクロナデ。体部下端手持ちヘラ削り。底部一方向のヘラ削り。	砂粒・雲母・長石・石英 灰色 普通	P8109　50% 覆土中
10	鉢 須恵器	A [28.6] B (15.3)	体部から口縁部にかけての破片。体部は外傾して立ち上がり，口縁部は外反する。端部は上方につまみ上げる。	口縁部内外面横ナデ。体部外面縦位の平行叩き。内面ヘラナデ。体部内面上位から中位輪積み痕。体部内面中位指頭押圧。	砂粒・雲母・長石・石英 浅黄色 普通	P8110　40% P L 60 東部壁際覆土中層 西部壁際覆土下層
11	鉢 須恵器	A [35.2] B (11.9)	体部から口縁部にかけての破片。頸部でくびれ，口縁部は外反する。端部は上方につまみ上げる。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面格子叩き。内面ナデ。	砂粒・雲母・長石 にぶい橙色 普通	P8111　5% P L 60 北西コーナー部覆土下層
12	甕 須恵器	A [22.2] B (11.8)	体部上位から口縁部にかけての破片体部には内彎して頸部でくびれ，口縁部にいたる。口縁部は外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面格子叩き。内面ヘラナデ。体部内面上位指頭押圧。	砂粒・雲母・長石・石英 にぶい赤褐色 普通	P8106　20% P L 60　中央部から東部，北東コーナー部にかけての覆土下層や床面

第937号住居跡（第161図）

位置　調査8区の北東部，M10b3区。

重複関係　第42号掘立柱建物跡，第44号掘立柱建物跡を掘り込んでいる。

規模と平面形　長軸［2.70］m，短軸［2.30］mの長方形と推定される。

主軸方向　N－97°－E

壁　北東コーナー部から東竈を経て南東コーナー部にかけて確認され，壁高は8cmで，外傾して立ち上がる。

床　ほぼ平坦であり，中央部から竈にかけて踏み固められている。ピットは確認されなかった。

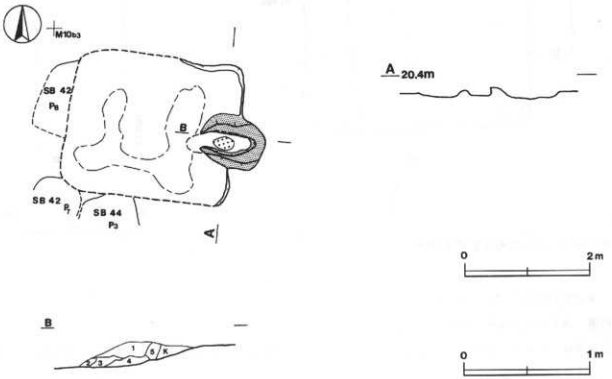
竈　東壁中央部に位置し，壁外に48cmほど掘り込んでいる。袖部の遺存状態はあまり良くない。東部はトレンチャーによる撹乱を受けている。火床面は，焼土粒子が多量，焼土小ブロック・炭化粒子が中量含まれている第4層の下面と考えられる。天井部は確認できなかった。

竈土層解説
1　暗 赤 褐 色　焼土小ブロック・炭化粒子中量，焼土粒子少量
2　暗 赤 褐 色　粘土粒子中量，焼土小ブロック・粒子少量
3　にぶい赤褐色　焼土粒子・炭化粒子中量，焼土小ブロック少量
4　赤　褐　色　焼土粒子多量，焼土小ブロック・炭化粒子中量
5　暗 赤 褐 色　焼土粒子多量，炭化粒子中量，焼土小ブロック少量

覆土　覆土が薄いため，堆積状況は確認できなかった。

遺物　出土していない。

所見　本跡の時期は土器が出土していないため不明であるが，第42号掘立柱建物跡や第44号掘立柱建物跡を掘り込んでいることから，9世紀以降と考えられる。



第161図　第937号住居跡実測図

第938号住居跡（第162図）

位置　調査8区の南西部，M8b 8区。

重複関係　中央部から南東部で第926号住居跡を掘り込み，東部から西部にかけて第925号住居に掘り込まれている。

規模と平面形　長軸［3.50］m，短軸［3.25］mの方形と推定される。

主軸方向　N－0°

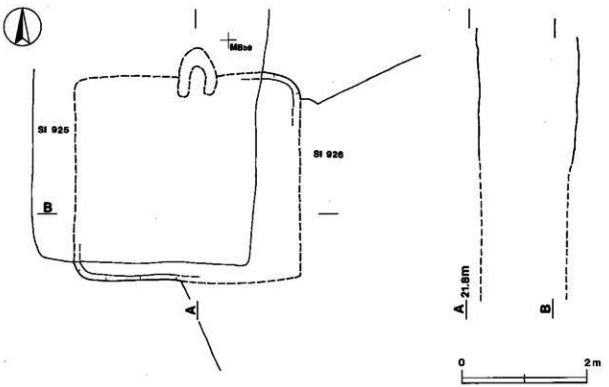
床　ほぼ平坦である。

竈　北壁に構築されていたと推定されるが，袖部と考えられる一部が確認できただけである。

覆土　覆土が薄いため，堆積状況は確認できなかった。

遺物　土師器片９点，須恵器片４点，鉄滓１点が覆土中から出土している。図示できるものはない。

所見　本跡の時期は，判断できる出土土器がないために不明であるが，６世紀後葉と考えられる第926号住居跡を掘り込み，９世紀と考えられる第925号住居跡に掘り込まれていることや，住居跡の形態から判断して９世紀以前の奈良時代の住居跡と考えられる。



第162図　第938号住居跡実測図

第939号住居跡（第163図）

位置　調査８区の西部，M8b７区。

重複関係　北東部で第943号住居跡を，北西コーナー部で第944号住居跡を掘り込み，東部で第941号住居に掘り込まれている。

規模と平面形　南部が調査区域外に位置しているため詳細は不明である。確認できたのは東西［3.49］m，南北（1.35）mである。

主軸方向　N－7°－E

壁　壁高は20cmで，外傾して立ち上がる。

溝　北西コーナー部で壁下を巡っている。上幅14cm，下幅８cm，深さ４cmで，断面はU字形である。

床　ほぼ平坦である。

竈　北壁の中央部から東寄りに付設されている。大部分が削平されており，袖部と火床部の痕跡が確認されただけである。

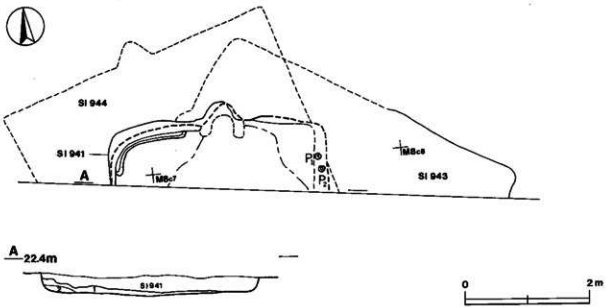
ピット　２か所。P1・P2は東壁際に位置しており，上端は径10cm，下端は径４cm，深さ４cm・10cmである。性格は不明である。

覆土　2層からなり，レンズ状の堆積状況から自然堆積と考えられる。

土層解説
1　黒褐色　焼土粒子・炭化物・炭化粒子少量
2　暗褐色　炭化粒子中量，ローム中ブロック・焼土小ブロック少量

遺物　出土していない。

所見　本跡は時期を判断する土器が出土していないため不明であるが，8世紀代と考えられる第941号住居に掘り込まれており，それ以前と考えられる。



第163図　第939号住居跡実測図

第941号住居跡（第164図）

位置　調査8区の西部，M8b7区。

重複関係　東部で第943号住居跡を，北部で第944号住居跡を，北東部で第939号住居跡を掘り込んでいる。

規模と平面形　南部が調査区域外に位置しているため詳細は不明であるが，東西［3.30］m，南北（1.40）mである。

主軸方向　N－6°－E

壁　壁高は25cmで，外傾して立ち上がる。

床　トレンチャーによる攪乱を受けているが，それ以外の部分から推定してほぼ平坦である。

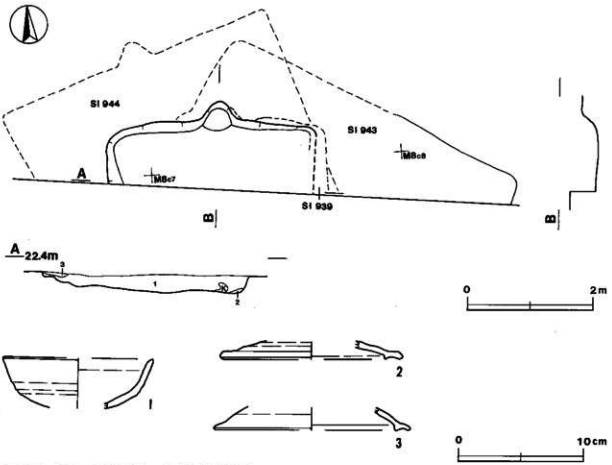
竈　北壁中央部に付設されていたと推定されるが，袖部と考えられる一部が確認されたのみである。

覆土　3層からなり，ブロック状の堆積状況から人為堆積と考えられる。

土層解説
1　極暗褐色　ローム中・小ブロック・焼土小ブロック少量，ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量
2　暗褐色　ロームブロック
3　暗褐色　ローム粒子中量，焼土粒子微量

遺物　土師器片119点，須恵器片3点，陶器片2点が出土している。第164図1の須恵器坏は覆土上層から，2の須恵器蓋，3の須恵器蓋はそれぞれ覆土中から出土している。また，1の須恵器坏は覆土が浅いため攪乱により混入した可能性がある。陶器片は攪乱により混入したものと考えられる。

所見　本跡の時期は，出土土器から8世紀と考えられる。



第164図　第941号住居跡・出土遺物実測図

第941号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第164図 1	坏 須恵器	A [11.8] B (3.9)	底部から口縁部にかけての破片。平底。体部は外傾して立ち上がり，口縁部にいたる。	口縁部，体部内・外面ロクロナデ。ロクロ目弱い。体部下端手持ちヘラ削り。	砂粒 にぶい黄橙色 普通	P8116　5% 覆土上層
2	蓋 須恵器	A [14.0] B (1.9)	外周部から口縁部にかけての破片。外周部はなだらかに下降し，内側にかえりをもつ。	外周部・口縁部ロクロナデ。ロクロ目弱い。	砂粒・雲母・長石 灰白色 普通	P8117　5% 覆土中
3	蓋 須恵器	A [15.4] B (1.8)	外周部から口縁部にかけての破片外周部はなだらかに下降し，内側にかえりをもつ。	外周部・口縁部ロクロナデ。	砂粒・雲母・石英 灰色 普通	P8118　5% 覆土中

表7　熊の山遺跡8区住居跡一覧表

住居跡番号	位置	主軸方向(長軸)	平面形	規模(m)(長軸×短軸)	壁高(cm)	床面	内部施設						覆土	出土遺物	備考 新旧関係(古→新)
							壁溝	主柱穴	炉A口ピット	ピット	炉・竈	貯蔵穴			
917	L10b4	N-0°	長方形	3.65 × 3.00	25	平坦	全周	−	−	−	竈	−	人為	須恵器(坏・蓋・鉢)	SI918→本跡
918	L10b3	N-10°-E	不明	6.85 ×(5.05)	35	平坦	一部	7	4	−	竈	−	人為	土師器(甕，鉢形土器・高・丸底鉢)，鉄，鏡石	SI919→本跡→SI917
919	L10b2	N-22°-W	不明	(3.00)×(1.20)	30	平坦	−	−	−	−	竈	−	人為	土師器(坏)，釘	本跡→SI918
921	M8a6	[N-0°]	方形	[3.70]×[3.60]	−	平坦	−	4	−	−	竈	−	−	土師器(甕)	
922	L8j7	N-0°	[長方形]	[3.05]×[1.80]	−	平坦	−	−	−	−	竈	−	−		SI923→本跡
923	L8j8	N-0°	[長方形]	[3.80] × 2.20	−	平坦	−	−	−	−	竈	−	−		本跡→SI924・SI922
924	M8a8	N-3°-W	長方形	3.70 × 3.30	50	平坦	全周	−	−	1	竈	−	人為	土師器(坏・甕)，須恵器(坏・蓋・壺・甕)，砥石，鉄鏃(柳葉)，ガラス	SI923→本跡

住居跡番号	位置	主軸方向(長軸)	平面形	規模(m)(長軸×短軸)	壁高(cm)	床面	内部施設 整理	主柱穴	周入口ピット	ピット	炉・竈	貯蔵穴	覆土	出土遺物	備考 新旧関係(古→新)
925	M 8 b8	N-1°-E	長方形	4.60 × 3.55	35	平坦	−	−	4	1	竈	−	人為	土師器(甕、鉢底器(坏・長頸瓶)、長胴甕(長胴甕))	S1926→S1934→本跡
926	M 8 b9	N-22°-W	方 形	5.60 × 5.55	38	平坦	−	−	3	−	竈	−	人為	土師器(坏・鉢・甕)、須恵器(ハソウ)、土玉	本跡→S1938→S1925
927	L 9 a1	N-37°-W	長方形	5.55 × 4.22	35	平坦	一部	−	3	1	竈	−	人為	土師器(坏)	
928	M 9 a1	N-0°	[方形]	5.00 ×[4.60]	60	平坦	[全周]	−	4	1	竈	−	人為	土師器(坏・甕)、須恵器(坏・蓋)	S1942→本跡→S1930→S1929
929	M 9 b1	N-9°-W	長方形	4.20 × 3.70	50~70	平坦	全周	−	−	1	竈	−	自然	土師器(坏、鉢底器(坏、直口付坏)、長胴甕、高台付坏、長頸瓶)	S1942→S1928→S1930→本跡
930	M 9 b5	N-9°-E	長方形	3.55 × 3.00	18	平坦	[全周]	−	−	1	竈	−	自然	土師器(高台付坏、甕、鉢)、須恵器(坏)、土玉	S1928→本跡→S1929
931	M 9 c1	N-15°-E	不 明	[2.80]×(1.05)	−	平坦	−	−	−	−	竈	−	自然	土師器(長台付坏)、須恵器(鉢)	S1942→本跡
932	M 9 b4	N-22°-W	方 形	5.65 × 5.45	20~65	平坦	[全周]	1	4	1	竈	1	人為	土師器(坏・高坏・甕・鉢)、石玉	SK692-693→本跡→S1933
933	M 9 c4	N-68°-W	[長方形]	6.25 ×[5.65]	30~55	平坦	一部	−	3	−	竈 2	1	人為	土師器(坏・鉢・甕)	S1932→本跡
934	M 9 b5	N-30°-W	方 形	4.60 × 4.60	30~65	平坦	全周	−	4	1	竈	−	人為	土師器(坏・鉢・甕)、鉄滓等	
935	M 9 c0	N-40°-W	方 形	7.22 × 7.05	35~60	平坦	全周	−	4	2	竈	1	自然	土師器(坏・高坏・甕・鉢)、石玉	本跡→SI943
936	M10d2	N-24°-E	[長方形]	3.80 ×(3.40)	25~35	平坦	一部	−	−	−	竈	−	自・人	土師器(坏・高台付坏・甕)、須恵器(坏・蓋・鉢)	本跡→SI941・SK699
937	M10b3	N-97°-E	[長方形]	[2.70]×[2.30]	8	平坦	−	−	−	−	竈	−	−		SI942・44→本跡
938	M 8 b8	N-0°	[方 形]	[3.50]×[3.25]	−	平坦	−	−	−	−	竈	−	−		S1926→本跡→SI925
939	M 8 b7	N-7°-E	不 明	[3.49]×(1.25)	20	平坦	一部	2	−	−	竈	−	自然		SI943→S1944→本跡→SI941
941	M 8 b7	N-6°-E	不 明	[3.30]×(1.40)	25	平坦	−	−	−	−	竈	−	人為	須恵器(坏・蓋)	SI943→S1944→S1938→本跡
942	M 9 b1	N-34°-W	[長方形]	[3.25]× 4.60	5~68	平坦	−	−	4	1	−	−	自然	土師器(坏)、刀子	本跡→S1928・S1929・S1931
943	M 8 b7	N-37°-W	不 明	[5.30]× (2.65)	10~20	平坦	−	−	1	−	−	−	人為		本跡→SI944→S1938→SI941
944	M 8 b7	N-16°-W	不 明	[4.58]×(2.70)	17	平坦	−	−	1	−	竈	−	人為	土師器(坏)	SI943→本跡→SI939→SI941
945	L 8 a8	−	不 明	(3.25) × (2.80)	11~16	平坦	−	−	−	−	−	−	−	土師器(坏)	

(2) 掘立柱建物跡

第35号掘立柱建物跡（第166図）

位置 調査８区の北部，M10d3区。

重複関係 第38号掘立柱建物に掘り込まれている。

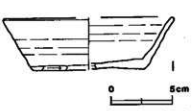
規模 梁行３間，桁行３間の総柱式の建物跡で，芯々間の梁行長約7.3m，桁行長約7.4mである。柱間寸法は梁行2.4～2.6m，桁行2.2～2.6mである。柱穴の掘り方は，平面形が長軸0.7～1.1m，短軸0.5～1.0mの隅丸長方形で，深さ43～80cmである。

桁行方向 N－3°－E

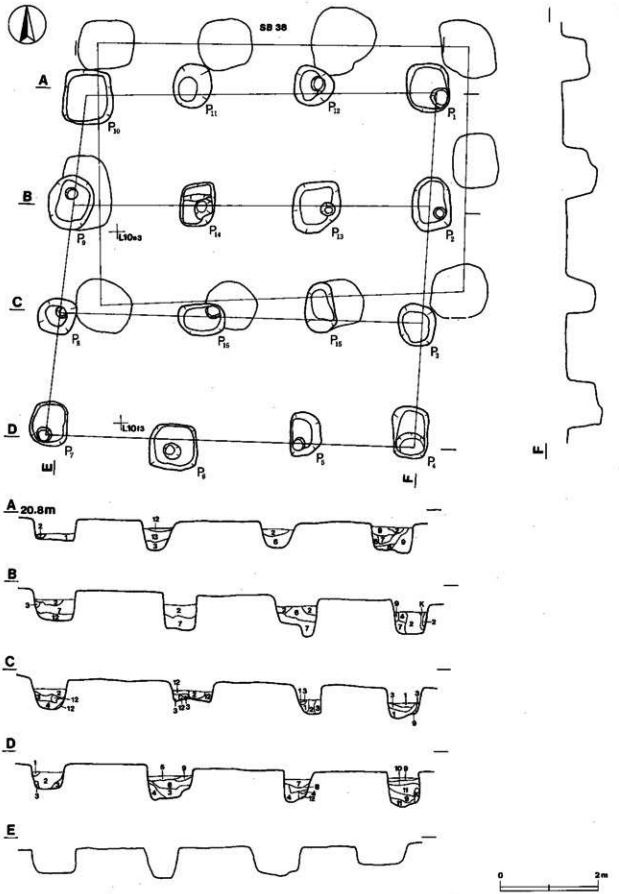
柱穴覆土 P2やP6の第２層が柱の抜き取り痕と考えられる。その他の層は突き固められていることから埋土である。

P1～P12土層解説（各ピット共通）
1 褐 色 ローム粒子多量，ローム小ブロック中量，ローム中ブロック少量
2 暗褐色 ローム中ブロック中量，ローム小ブロック・炭化粒子少量
3 暗褐色 ローム中ブロック中量，ローム小ブロック中量
4 褐 色 ローム中ブロック多量，ローム小ブロック中量，ローム粒子少量
5 褐 色 ローム中ブロック多量，ローム小ブロック・炭化粒子中量，焼土粒子少量
6 褐 色 ローム粒子多量，ローム小ブロック中量，炭化粒子少量
7 褐 色 ローム大・中ブロック・粒子多量
8 褐 色 ローム中ブロック多量，ローム小ブロック中量，ローム大ブロック少量
9 暗褐色 ローム小ブロック多量，ローム中ブロック・焼土小ブロック中量，焼土粒子少量
10 暗褐色 ローム粒子多量，ローム大ブロック・焼土小ブロック・焼土粒子中量，ローム中ブロック少量
11 暗褐色 ローム中ブロック・炭化粒子中量，ローム小ブロック・炭化粒子少量
12 明褐色 ローム大・中ブロック多量，ローム小ブロック中量
13 黒 色 ローム小ブロック・ローム粒子・炭化粒子少量

遺物 土師器片49点，須恵器片15点がP3・P5・P6・P8・P11・P14・P16を除く各柱穴の埋土から出土している。第165図１の須恵器坏片はP4の埋土から出土している。



第165図 第35号掘立柱建物跡出土遺物実測図



第166図　第35号掘立柱建物跡実測図

所見　本跡の時期は出土土器から判断して，８世紀前葉と考えられる。

第35号掘立柱建物跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第165図 1	坏 須恵器	A［13.4］ B 4.1 C［9.0］	底部から口縁部にかけての破片。平底。体部は外傾して立ち上がり，口縁部にいたる。	口縁部，体部内・外面ロクロナデ。体部下端手持ちヘラ削り。底部不定方向のヘラ削り。	砂粒・雲母・長石・石英 灰色　普通	P.813 10% 堆土

第37号掘立柱建物跡（第167図）

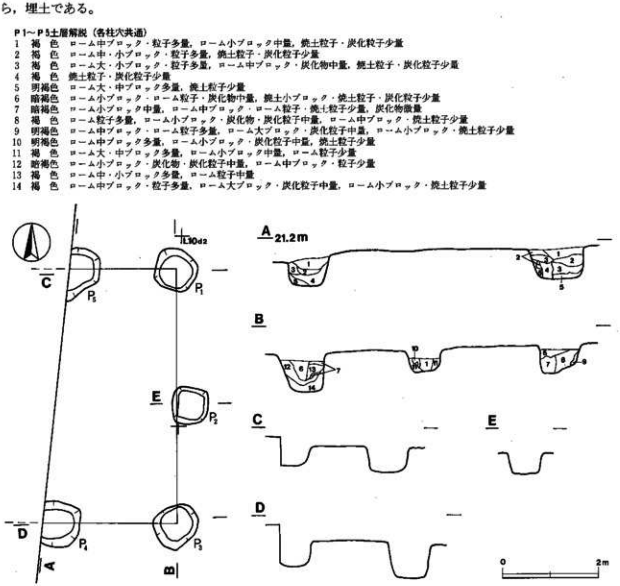
位置　調査８区の西部，L10d1区。

規模　西部が調査区域外のため桁行及び桁行長は不明であるが確認できたのは梁行２間，桁行１間の建物跡である。芯々間の梁行長約5.4mである。柱間寸法は桁行2.6～2.8m，梁行2.2～2.4mである。柱穴は，平面形が長径約1.1m，短径約0.8mの楕円形で，深さ45～75cmである。

桁行方向　N－0°

柱穴覆土　P1の第６層とP2第１層が柱の抜き取り痕と考えられる。その他の層は突き固められていることから，埋土である。

P1～P5土層解説（各柱穴共通）
1　褐　色　ローム中ブロック・粒子多量，ローム小ブロック中量，焼土粒子・炭化粒子少量
2　褐　色　ローム中・小ブロック・粒子多量，焼土粒子・炭化粒子少量
3　褐　色　ローム大・小ブロック・粒子多量，ローム中ブロック・炭化物中量，焼土粒子・炭化粒子少量
4　褐　色　焼土粒子・炭化粒子少量
5　明褐色　ローム大・中ブロック多量，焼土粒子少量
6　暗褐色　ローム小ブロック・ローム粒子・炭化物中量，焼土小ブロック・焼土粒子・炭化粒子少量
7　暗褐色　ローム小ブロック中量，ローム中ブロック・ローム粒子・焼土粒子少量，炭化物微量
8　褐　色　ローム粒子多量，ローム小ブロック・炭化物・炭化粒子中量，ローム中ブロック・焼土粒子少量
9　明褐色　ローム中ブロック・ローム粒子多量，ローム大ブロック・炭化粒子中量，ローム小ブロック・焼土粒子少量
10　明褐色　ローム中ブロック多量，ローム小ブロック・炭化粒子中量，焼土粒子少量
11　褐　色　ローム大・中ブロック多量，ローム小ブロック中量，ローム粒子少量
12　暗褐色　ローム小ブロック・炭化物・炭化粒子中量，ローム中ブロック・粒子少量
13　褐　色　ローム中・小ブロック多量，ローム粒子中量
14　褐　色　ローム中ブロック・粒子多量，ローム大ブロック・炭化粒子中量，ローム小ブロック・焼土粒子少量



第167図　第37号掘立柱建物跡実測図

遺物　土師器片16点，須恵器片４点が，P2・P3・P5の埋土から出土している。第168図１須恵器蓋はP3の埋土から，２の須恵器蓋はP5の埋土から出土している。また，P2の埋土から土師器甕細片が８点出土している。

所見　本跡の時期は，出土土器から判断して，８世紀後葉から９世紀前葉と考えられる。

第168図　第37号掘立柱建物跡出土遺物実測図

第37号掘立柱建物跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第168図 1	蓋 須恵器	A [14.0] B (2.2)	天井部から口縁部にかけての破片。天井部は頂部が平坦で，外周部はなだらかに下降する。口縁部は肥厚し，短く垂下する。	天井頂部は右回りの回転ヘラ削り。外周部・口縁部ロクロナデ。ロクロは浅い。	砂粒・長石・石英 暗青灰色 普通	P8132　10% P3埋土中
2	蓋 須恵器	A [16.4] B (1.5)	外周部から口縁部にかけての破片。外周部はなだらかに下降する。口縁部は肥厚し，短く垂下する。	外周部・口縁部ロクロナデ。	砂粒・雲母・長石 灰色 普通	P8133　10% P5埋土中

第38号掘立柱建物跡（第169図）

位置　調査８区の北部，L10d3区。

重複関係　第35号掘立柱建物跡を掘り込んでいる。

規模　梁行２間，桁行３間の側柱式の建物跡で，芯々間の梁行長約5.3m，桁行長約7.6mである。柱間寸法は桁行2.5～2.6m，梁行2.6～2.7mである。柱穴は，平面形が長軸約1.1～1.5m，短軸0.9～1.0mの隅丸長方形で，深さ55～80cmである。

桁行方向　N－90°－E

柱穴覆土　第１層が柱の抜き取り痕と考えられる。他の層は突き固められていることから，埋土である。

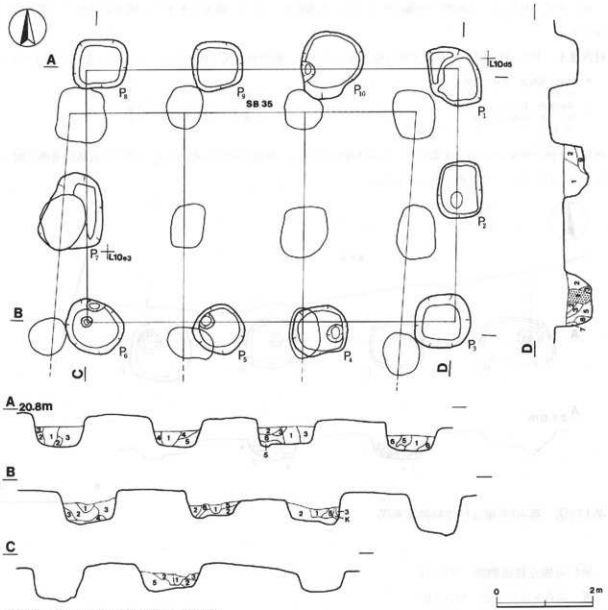
P1～P12土層解説（各柱穴共通）
1　黒褐色　ローム小ブロック中量
2　褐　色　ローム大・小ブロック中量，ローム中ブロック・炭化物少量
3　暗褐色　ローム中ブロック・ローム小ブロック・炭化物少量
4　褐　色　ローム大ブロック・ローム粒子多量，ローム中ブロック中量
5　明褐色　ローム中ブロック多量，ローム大ブロック中量
6　褐　色　ローム大ブロック多量，ローム中ブロック・焼土粒子中量
7　褐　色　ローム大ブロック多量，ローム中・小ブロック中量
8　褐　色　ローム大・中ブロック多量，焼土粒子中量，炭化物少量
9　暗褐色　ローム大・中ブロック多量，ローム小ブロック中量，炭化材・炭化物少量

遺物　土師器片72点，須恵器片34点，陶器片１点が，P4・P9を除く各ピットの埋土から出土している。第170図１の須恵器坏は，P6の埋土から出土している。２の須恵器蓋は，P8の埋土から出土している。陶器片は，撹乱による混入と考えられる。

所見　本跡の時期は，出土遺物から判断して８世紀後葉から９世紀前葉と考えられる。

第38号掘立柱建物跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第170図 1	坏 須恵器	A [11.6] B　4.1 C [7.6]	底部から口縁部にかけての破片。平底。体部は外反して立ち上がり，口縁部にいたる。	口縁部，体部内・外面ロクロナデ。体部下端手持ちヘラ削り。底部一方向のヘラ削り。	砂粒・長石・石英・赤色粒子 灰色　普通	P8135　30% P5埋土



第169図　第38号掘立柱建物跡実測図

第170図　第38号掘立柱建物跡出土遺物実測図

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第170図 2	壺 須恵器	A (14.4) B (2.1)	天井部から口縁部にかけての破片。外周部はなだらかに下降する。口縁部は屈曲し，短く垂下する。	外周部・口縁部ロクロナデ。	砂粒・長石・石英 灰色 普通	P8136　5% P8埋土

第40号掘立柱建物跡（第171図）

位置　調査8区の北部，L10c3区。

重複関係　北側部分が第5号道路状遺構に掘り込まれている。

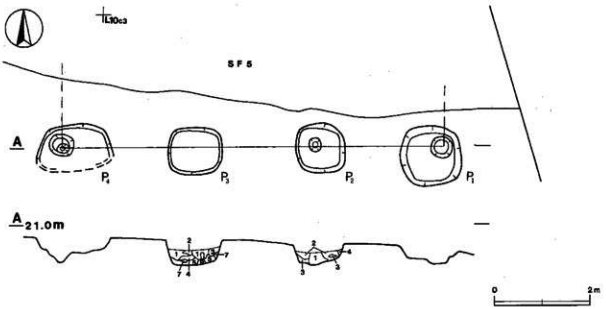
規模　梁行2間，桁行3間の側柱式の建物跡と推定される。芯々間の桁行長約7.6mである。柱間寸法は桁行

～mである。柱穴は，平面形が長軸0.9～1.4m，短軸0.6～1.1mの隅丸方形または隅丸長方形で，深さ35～50cmである。

柱穴覆土　P2の第1層が柱の抜き取り痕と考えられる。他の層は突き固められていることから，埋土である。

P1～P4土層解説（各柱穴共通）
1　黒 褐 色　ローム中ブロック中量
2　極暗褐色　粘土ブロック多量
3　褐　　色　暗褐色土多量
4　明 褐 色　ローム大・中ブロック多量
5　明 褐 色　ローム大・中・小ブロック多量
6　明 褐 色　ローム大ブロック多量
7　暗 褐 色　ローム小ブロック多量

所見　本跡の時期は，出土土器がないため不明であるが，東部が中世と考えられる第5号道路状遺構に掘り込まれているため，それ以前と考えられる。



第171図　第40号掘立柱建物跡実測図

第41号掘立柱建物跡（第173図）

位置　調査8区の北部，M10d3区。

重複関係　西部が第936号住居に掘り込まれている。南部は調査区域外である。

規模　梁行2間，桁行3間の側柱式の建物跡と推定される。芯々間の梁行長約5.2m，桁行長［5.7］mである。柱間寸法は桁行2.4～2.6m，梁行2.5～2.7mである。柱穴は，平面形が長径0.9～1.3m，短径0.8～1.1mの楕円形で，深さ48～100cmである。

桁行方向　N－8°－E

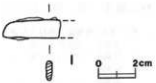
柱穴覆土　第1層は柱の抜き取り痕と考えられる。他の層は突き固められていることから埋土である。

P1～P7土層解説（各柱穴共通）
1　黒褐色　炭化粒子中量，ローム小ブロック少量
2　暗褐色　炭化粒子中量，ローム粒子少量，ローム小ブロック微量
3　暗褐色　ローム中・小ブロック中量，ローム粒子少量，炭化粒子微量
4　暗褐色　ローム小ブロック中量，ローム中ブロック・炭化粒子少量
5　褐　色　ローム粒子中量，ローム小ブロック少量，炭化粒子微量
6　暗褐色　ローム小ブロック・炭化粒子少量
7　暗褐色　ローム小ブロック・炭化粒子中量
8　黒褐色　炭化粒子中量，ローム小ブロック少量

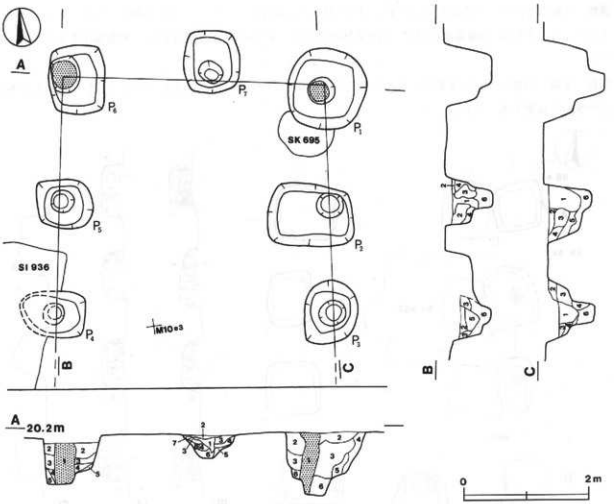
遺物　土師器片14点，須恵器片6点，鉄製品1点（刀子）がP1～P4の埋土から出土している。第172図1の刀子はP2の埋土から出土している。

所見　本跡の時期は，出土土器が細片のため判断できないものの，P4が9世紀後葉と考えられる第936号住居

に掘り込まれており，それ以前と考えられる。



第172図　第41号掘立柱建物跡出土遺物実測図



第173図　第41号掘立柱建物跡実測図

第41号掘立柱建物跡出土遺物観察表

図版番号	種別	計測値				出土地点	備考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)		
第172図1	刀子	(3.1)	1.1	0.3	(3.48)	P2埋土	鉄部M8004　PL62

第42号掘立柱建物跡（第174図）

位置　調査8区の北部，M10b3区。

重複関係　西部が第937号住居に掘り込まれている。

規模　梁行2間，桁行3間の側柱式の建物跡で，芯々間の梁行長約4.5m，桁行長約5.8mである。柱間寸法は梁行2.1～2.3m，桁行1.8～2.0mである。柱穴は，平面形が長軸約0.9～1.3m，短軸0.7～1.2mの隅丸方形または隅丸長方形で，深さ40～50cmである。

桁行方向　N－10°－E

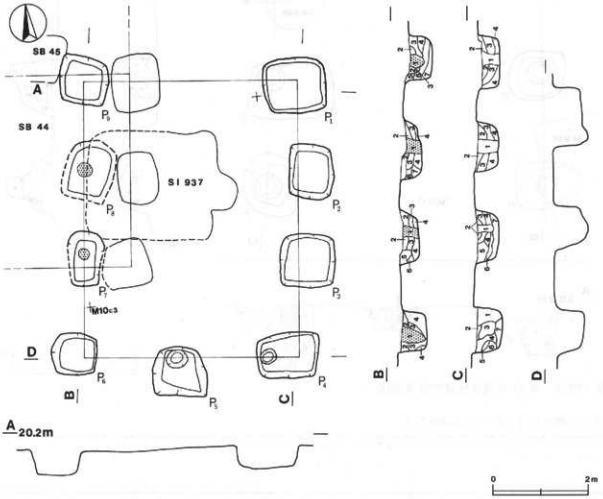
柱穴覆土　第1層が柱の抜き取り痕と考えられる。他の層は突き固めていることから，埋土である。

P1～P9土層解説（各柱穴共通）

1　黒褐色　炭化粒子中量，ローム粒子微量
2　黒褐色　炭化粒子中量，ローム小ブロック少量，ローム粒子微量
3　暗褐色　ローム中ブロック・ローム粒子・炭化粒子微量
4　暗褐色　ローム中ブロック・ローム小ブロック・ローム粒子・炭化粒子少量
5　褐　色　ローム粒子中量，ローム小ブロック少量
6　暗褐色　ローム中ブロック中量，ローム小ブロック・ローム粒子・炭化粒子少量
7　黒褐色　炭化粒子多量，ローム小ブロック少量

遺物　土師器片87点，須恵器片33点がP1～P9の埋土から出土している。いずれも細片や小片であり，図示できなかった。P1から土師器甕片22点，須恵器坏片2点が，P5から土師器甕片13点，須恵器坏片2点が出土している。

所見　本跡の時期は，出土土器や9世紀と考えられる第937号住居に掘り込まれていることから判断して8世紀中葉から後葉と考えられる。



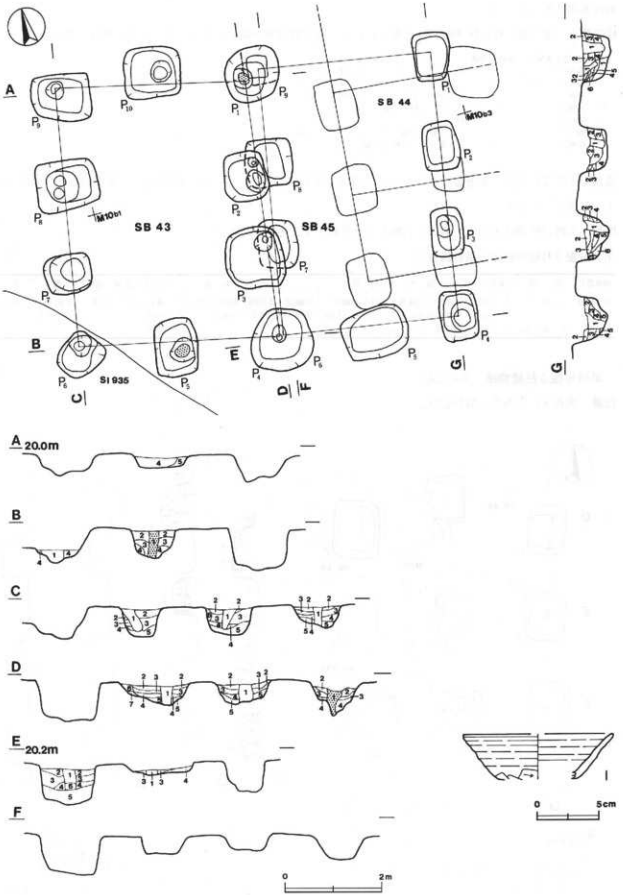
第174図　第42号掘立柱建物跡実測図

第43号掘立柱建物跡（第175図）

位置　調査8区の北部，M10b1区。

重複関係　東部で第45号掘立柱建物跡を，南西部で第935号住居跡を掘り込んでいる。

規模　梁行2間，桁行3間の側柱式の建物跡で，芯々間は梁行長4.0m，桁行長5.4mである。柱間寸法は梁行1.9～2.1m，桁行1.7～1.9mである。柱穴は，平面形が長軸0.9～1.3m，短軸0.8～1.1mの隅丸長方形で，深さ33～87cmである。



第175図　第43・45号掘立柱建物跡・出土遺物実測図

桁行方向　N－15°－E

柱穴覆土　第1層が柱の抜き取り痕と考えられる。他の層は突き固められていることから埋土である。

P1～P10土層解説（各柱穴共通）
1　暗褐色　ローム中ブロック中量，ローム小ブロック・炭化粒子少量
2　黒褐色　炭化粒子中量，ローム中・小ブロック少量
3　暗褐色　ローム小ブロック中量，ローム中ブロック・炭化粒子少量
4　暗褐色　ローム小ブロック中量，ローム粒子少量
5　褐　色　ローム小ブロック・粒子中量
6　褐　色　ローム中ブロック・ローム粒子中量，ローム小ブロック少量
7　暗褐色　ローム中・小ブロック少量，ローム粒子微量

遺物　土師器片7点，須恵器片2点が，P4・P9の埋土から出土している。第175図1の須恵器坏は，P9の埋土から出土している。

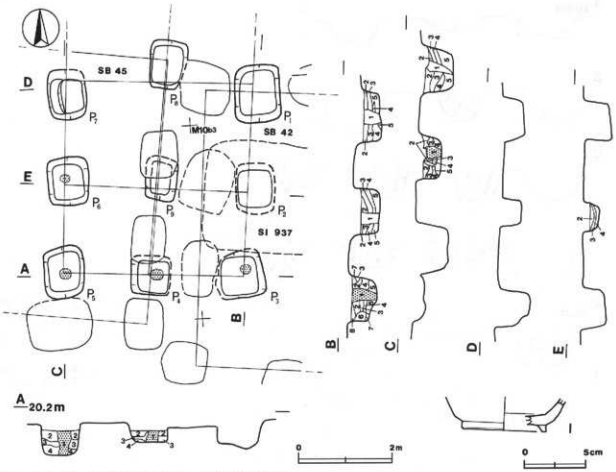
所見　本跡の時期は，出土土器から判断して9世紀中葉と考えられる。

第43号掘立柱建物跡出土遺物観察表

図版番号	器　種	計測値（cm）	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備　考
第175図 1	坏	A［12.0］	体部から口縁部にかけての破片。	口縁部，体部内・外面ロクロナデ。	砂粒・長石・石英	P8140　10%
		B　3.6	体部は外傾して立ち上がり，口縁	体部下端手持ちヘラ削り。	灰色	P9埋土
	須恵器	C［6.0］	部は軽く外反する。		普通	

第44号掘立柱建物跡（第176図）

位置　調査8区の西部，M10b2区。



第176図　第44号掘立柱建物跡・出土遺物実測図

重複関係　東部が第937号住居や第45号掘立柱建物に掘り込まれている。

規模　梁行２間，桁行２間の総柱式の建物跡で，芯々間の梁行長約3.8m，桁行長約4.0mである。柱間寸法は梁行1.8～2.0m，桁行1.9～2.1mである。柱穴は，平面形が長軸約0.9～1.2m，短軸0.7～0.9mの隅丸長方形で，深さ35～55cmである。

桁行方向　N－7°－E

柱穴覆土　第１層が抜き取り痕と考えられる。他の層は突き固められていることから，埋土である。

P１～P９土層解説（各柱穴共通）
1　暗褐色　ローム粒子・炭化粒子少量
2　暗褐色　ローム小ブロック・ローム粒子・炭化粒子少量
3　黒褐色　ローム小ブロック中量・炭化粒子中量
4　暗褐色　ローム小ブロック・粒子少量
5　暗褐色　ローム小ブロック・炭化粒子少量
6　褐　色　ローム小ブロック・粒子少量，炭化粒子微量
7　褐　色　ローム小ブロック・粒子中量
8　黒褐色　炭化粒子中量，ローム小ブロック少量，ローム粒子微量

遺物　土師器片66点，須恵器片25点，灰釉陶器片２点が，P２～P４・P９の埋土や柱の抜き取り層から出土している。第176図１の須恵器高台付坏は，P４の埋土から出土している。灰釉陶器片は細片のため器種は不明である。

所見　本跡の時期は，出土遺物から判断して８世紀と考えられる。

第44号掘立柱建物跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第176図 1	高台付坏	B（2.8） D［6.8］	高台部から体部にかけての破片。底部から屈曲して体部は立ち上がる。高台は「ハ」の字状に開く。	体部内・外面ロクロナデ。底部回転ヘラ削りの後，高台貼り付け。	砂粒・長石 褐灰色 普通	P8142 5% P4埋土
	須恵器	E 0.6				

第45号掘立柱建物跡（第175図）

位置　調査８区の北部，M10b2区。

重複関係　東部が第44号掘立柱建物跡を掘り込み，西部が第43号掘立柱建物に掘り込まれている。

規模　梁行２間，桁行３間の側柱式の建物跡である。芯々間の梁行長約3.8m，桁行長約5.5mである。柱間寸法は梁行1.8～2.0m，桁行1.8～1.9mである。柱穴は，平面形が長軸（径）約1.0m，短軸（径）約0.8mの隅丸長方形や楕円形で，深さ30～55cmである。

桁行方向　N－3°－E

柱穴覆土　第１層が柱の抜き取り痕と考えられる。他の層は突き固められていることから，埋土である。

P１～P９土層解説（各柱穴共通）
1　暗褐色　ローム中・小ブロック少量，ローム粒子微量
2　暗褐色　ローム中ブロック中量，炭化粒子少量
3　黒褐色　炭化粒子中量，ローム中・小ブロック少量
4　暗褐色　ローム小ブロック・ローム粒子・炭化粒子少量
5　暗褐色　ローム小ブロック・炭化粒子少量
6　暗褐色　ローム小ブロック中量，ローム中ブロック少量

所見　本跡は，土器が出土していないために土器から時期を判断することはできないが，８世紀と考えられる第44号掘立柱建物跡を掘り込み，９世紀中葉と考えられる第43号掘立柱建物に掘り込まれていることから判断して，８世紀から９世紀前葉と考えられる。

第46号掘立柱建物跡（第177図）

位置　調査８区の北部，M9a9区。

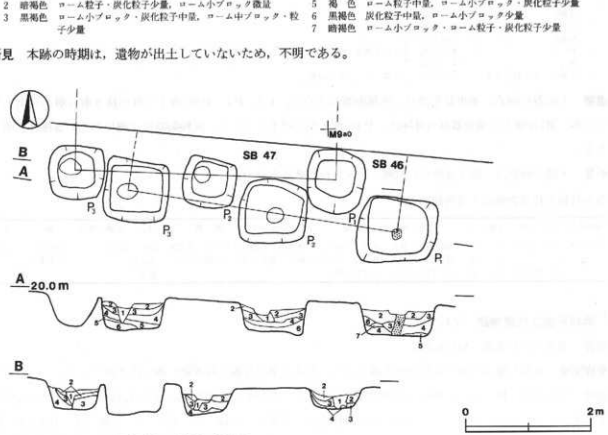
規模　北部が調査区域外のため詳細は不明である。側柱式の建物跡と推定されるが，確認できたのは東西２間で，芯々間の長さ約4.3mである。柱間寸法は2.1～2.2mである。柱穴は，平面形が一辺0.8～0.9mの隅丸方形で，深さ44～52cmである。

柱穴覆土　第１層が柱の抜き取り痕と考えられる。他の層は突き固めていることから，埋土である。

P1～P3土層解説（各柱穴共通）

1　暗褐色　ローム小ブロック・ローム粒子・炭化粒子少量
2　暗褐色　ローム粒子・炭化粒子少量，ローム小ブロック微量
3　黒褐色　ローム小ブロック・炭化粒子中量，ローム中ブロック・粒子少量
4　褐　色　ローム粒子中量，ローム中・小ブロック少量
5　褐　色　ローム粒子中量，ローム小ブロック・炭化粒子少量
6　黒褐色　炭化粒子中量，ローム小ブロック少量
7　暗褐色　ローム小ブロック・ローム粒子・炭化粒子少量

所見　本跡の時期は，遺物が出土していないため，不明である。



第177図　第46・47号掘立柱建物跡実測図

第47号掘立柱建物跡（第177図）

位置　調査８区の西部，M9a9区。

規模　北部が調査区域外のため詳細は不明である。確認できたのは，東西２間で芯々間の長さ約4.2mである。柱間寸法は2.0～2.2mである。柱穴は，平面形が一辺約1.1mの隅丸方形で，深さ32～50cmである。

柱穴覆土　第１層が抜き取り痕と考えられる。他の層は突き固められていることから，埋土である。

P1～P3土層解説（各柱穴共通）

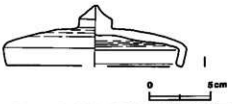
1　暗褐色　ローム粒子・炭化粒子少量
2　暗褐色　ローム小ブロック・ローム粒子・炭化粒子少量
3　黒褐色　炭化粒子中量，ローム中・小ブロック少量
4　黒褐色　ローム中ブロック・炭化粒子中量

遺物　土師器片５点，須恵器片６点が，P1・P3の埋土から出土している。第178図１の須恵器蓋はP3の埋土から出土している。

所見　本跡の時期は出土土器から判断して，８世紀と考えられる。

第47号掘立柱建物跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第178図 1	壺 須恵器	A [14.0] B 4.8 F 2.7 G 1.8	天井部から口縁部にかけての破片。天井部から外周部にかけてなだらかに下降し，口縁部は屈曲して垂下する。つまみは擬宝珠状。	天井部・外周部右回りの回転ヘラ削り。口縁部・外周内面ロクロナデ。	砂粒・雲母・長石・石英・赤色粒子 灰色 普通	P8146 P L62 P3覆土 30%



第178図　第47号掘立柱建物跡出土遺物実測図

(3) 溝

第35号溝（第179図，付図1）

位置　調査8区の南部，M9区。

規模と形状　確認できた長さ15.0m，上幅137～187cm，下幅47～90cm，深さ85～145cmで，断面はU字形をしている。

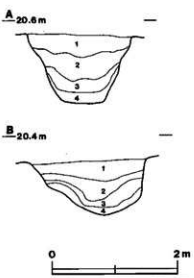
方向　M9d7区から北方向（N－0°）に，直線的に延びている。

覆土　レンズ状の堆積状況から自然堆積と考えられる。

土層解説
1　黒褐色　ローム粒子・焼土粒子・炭化物微量
2　黒褐色　ローム粒子少量，焼土粒子・炭化粒子微量
3　黒褐色　ローム粒子中量，ローム小ブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
4　黒褐色　ローム粒子多量，ローム中ブロック中量，ローム大・小ブロック少量

遺物　土師器片515点，須恵器片139点が出土している。第180・181図1・2の土師器甕，3～7の須恵器坏，8～10の須恵器高台付坏，11の須恵器高坏，12の須恵器蓋，13の須恵器盤，15の須恵器甕，16の須恵器鉢，17の須恵器椀は，いずれも覆土中から出土している。14の須恵器甕は南部の底面から斜位で出土している。

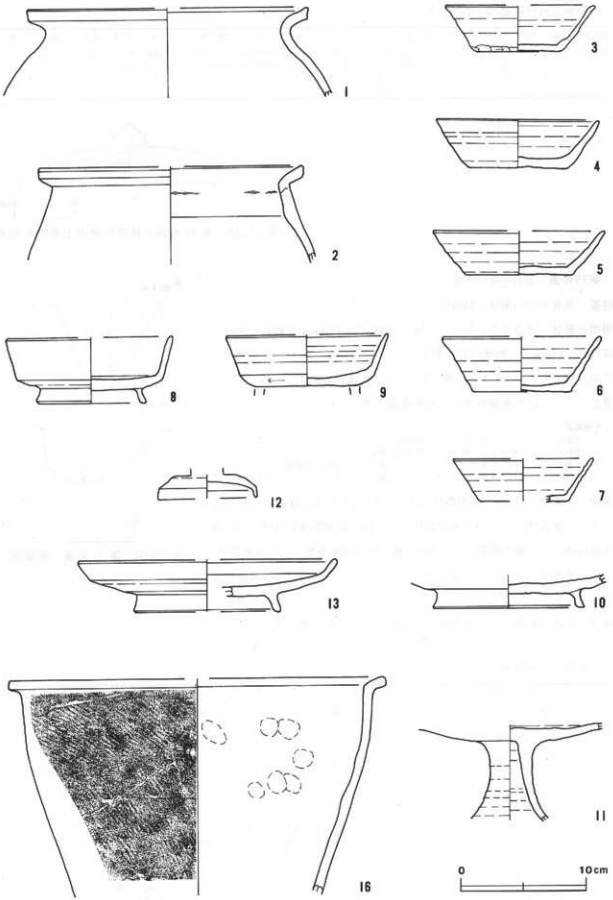
所見　本跡の時期は，出土土器から判断して8世紀中葉と考えられる。



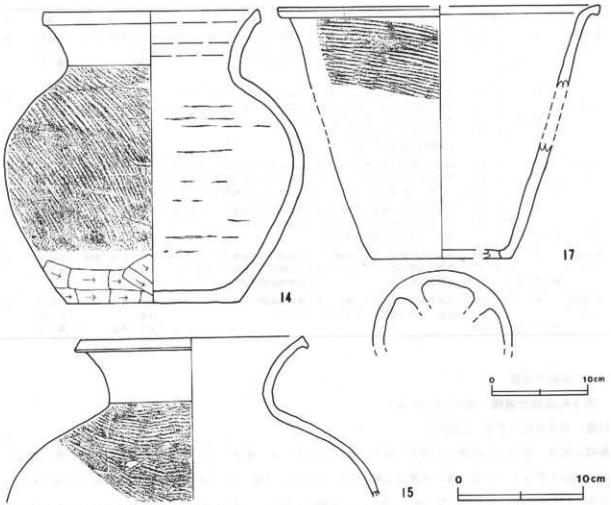
第179図　第35号溝土層実測図

第35号溝出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第180図 1	甕 土師器	A [22.4] B (7.0)	体部上位から口縁部にかけての破片。体部上位は内彎して立ち上がり，頸部でくびれ，口縁部は外反する。端部は上方につまみ上げている。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面ナデ。内面ヘラナデ。	砂粒・雲母・長石・石英 にぶい赤褐色 普通	P8149 P L61 覆土中 5%
2	甕 土師器	A [21.0] B (7.8)	体部上位から口縁部にかけての破片。体部上位は内彎して立ち上がり，頸部でくびれ，口縁部は外反する。体部は上方につまみ上げている。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面ナデ。内面ヘラナデ。	砂粒・雲母・長石・石英 明赤褐色 普通	P8150 覆土中 5%
3	坏 須恵器	A [11.8] B 3.7 C 6.7	口縁部・体部一部欠損。平底。体部は外傾して立ち上がり，口縁部はやや外反する。端部は丸く収めている。	口縁部から体部内・外面ロクロナデ。体部下端手持ちヘラ削り。底部不定方向のヘラ削り。	砂粒・雲母・長石 灰色 普通 火襷	P8153 P L61 覆土中 60%
4	坏 須恵器	A 12.8 B 3.9 C 7.8	底部から口縁部にかけての破片。平底。体部は外傾して立ち上がり，口縁部は軽く外反する。	口縁部・体部内・外面ロクロナデ。体部下端回転ヘラ削り。底部切り離し痕を残す一方向のヘラナデ。	砂粒・雲母・長石 灰黄色 普通	P8154 P L61 覆土中 70%



第180図　第35号溝出土遺物実測図（1）



第181図　第35号溝出土遺物実測図（2）

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考	
第180図 5	坏 須恵器	A [13.5] B 3.5 C 8.2	底部から口縁部にかけての破片。平底。体部は外頸して立ち上がり，口縁部にいたる。	口縁部，体部内・外面ロクロナデ。体部下端回転ヘラ削り。底部切り離し痕を残す一方向のヘラ削り。	砂粒・雲母・長石・石英 灰色　普通	P8155 PL61 覆土中	60%
6	坏 須恵器	A [13.6] B 4.3 C 7.8	底部から口縁部にかけての破片。平底。体部は外頸して立ち上がり，口縁部にいたる。	口縁部から体部内・外面ロクロナデ。底部切り離し痕を残す一方向のヘラナデ。	砂粒・雲母 暗灰色 普通	P8156 覆土中	20%
7	坏 須恵器	A [11.0] B 3.4 C [7.0]	体部から口縁部にかけての破片。平底。体部は外頸して立ち上がり，口縁部にいたる。	口縁部から体部内・外面ロクロナデ。底部一方向のヘラ削り。	砂粒・雲母・長石・石英 灰色　普通	P8157 覆土中	20%
8	高台付坏 須恵器	A [13.3] B 5.3 D 8.6 E 1.2	口縁部・体部一部欠損。体部は外頸して立ち上がる。高台は内側にあり，「ハ」の字状に開く。	口縁部・体部内・外面ロクロナデ。ロクロ目弱い。底部外周回転ヘラ削り。高台貼り付け後，ナデ。	砂粒・長石・石英・赤色粒子 暗灰色 普通	P8158 PL61 覆土中	60%
9	高台付坏 須恵器	A [12.8] B (4.1)	底部から口縁部にかけての破片。高台部欠損。体部は外頸して立ち上がる。	口縁部，体部内・外面ロクロナデ。体部下端・底部外周回転ヘラ削り。高台貼り付け。	砂粒・雲母・長石 暗灰黄色 普通	P8159 覆土中	30%
10	高台付坏 須恵器	B (2.7) D 12.0 E 1.4	高台部から体部にかけての破片。高台は底部外周にあり，「ハ」の字状に開く。	底部切り離し痕を残す回転ヘラ削りの後，高台貼り付け。	砂粒・長石・石英・赤色粒子 褐灰色　普通	P8160 覆土中	30%
11	高杯 須恵器	B (7.7)	脚部から体部にかけての破片。脚部はラッパ状に開く。	脚部内・外面ロクロナデ。	砂粒・長石 灰色 普通	P8161 PL61 覆土中	30%

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第180図 12	壺 須恵器	A 8.0 B (19)	天井部から口縁部にかけての破片。つまみ欠損。天井部は頂部が平坦で外周部は降下し，口縁部にいたる。口縁部は肥曲し，垂下する。	天井頂部は右回りの回転ヘラ削り。外周部・口縁部ロクロナデ。ロクロ目は弱い。	砂粒・雲母・長石・石英 灰黄色 普通	P8162 P L 61 覆土中 80%
13	壺 須恵器	A [20.4] B 4.1 D [11.6] E 1.4	高台部から口縁部にかけての破片。平底。高台は「ハ」の字状に開く。体部はやや外傾して外方へ開き，上方に屈曲して口縁部にいたる。口縁部は外反する。	口縁部，体部内・外面ロクロナデ。底部回転ヘラ削り後，高台貼り付け。	砂粒・雲母・長石 灰黄褐色 普通	P8166 覆土中 20%
第181図 14	甕 須恵器	A 22.5 B 30.2 C 18.0	甕部・口縁部一部欠損。平底。体部は内増して立ち上がる。甕部でくびれ，口縁部は外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面斜位の平行叩き。体部下端ヘラ削り。体部内面に輪積み痕。	雲母・石英・長石 灰色 普通	P8168 P L 61 南部底面 90%
15	甕 須恵器	A 12.9 B (12.8)	体部上位から口縁部にかけての破片。体部は内増して立ち上がり，甕部でくびれ，口縁部は外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面斜位の平行叩き。	砂粒・礫 灰色 普通	P8169 P L 61 覆土中 20%
第180図 16	鉢 須恵器	A [29.8] B (17.2)	体部から口縁部にかけての破片。体部は内彎気味に立ち上がり，口縁部は外傾する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面上位横位の平行叩き。内面ナデ。体部内面指頭押圧。	砂粒・雲母・細礫 に赤い褐色 普通	P8148 覆土中 20%
第181図 17	甕 須恵器	A [33.6] B (20.4) C 14.5	底部から体部にかけての破片。多孔式。体部は外傾して立ち上がる。	体部外面横位の平行叩き。内面ヘラナデ。	砂粒・雲母・長石・石英 灰色　普通	P8171 P L 61 覆土中 35%

(4) 道路状遺構

第5号道路状遺構（第182図，付図1）

位置　調査8区の北部，L10区。

規模と形状　東および西側とも調査区域外に延びているため，確認できた長さは28.0mだけで，溝の覆土の一部が路面を形成している。溝の規模は上幅（180～280)cm，下幅（28～88)cm，深さは最深部で70cmである。

方向　L10c5区から西方向（N－90°－W）に，直線的に延びている。

覆土　第2・4層は踏み固められた路面である。その他の層は，レンズ状の堆積状況から判断して，自然堆積と考えられる。

土層解説
1　暗褐色　ローム粒子中量，焼土小ブロック・焼土粒子・炭化粒子少量
2　明褐色　ローム中・小ブロック・粒子多量
3　褐　色　ローム粒子多量，ローム小ブロック中量，ローム中ブロック・焼土粒子少量
4　褐　色　粘土ブロック多量，ローム小ブロック中量，ローム中ブロック・焼土粒子少量

遺物　土師器片36点，須恵器片13点，鉄滓1点，陶器片2点が覆土中から出土しているが，いずれも小片である。

所見　遺構の形態から調査第7区の第3号道路状遺構につながる可能性が考えられる。本跡の時期は，出土遺物からは判断できないが，第7区の第3号道路状遺構の覆土下層から土師質土器内耳鍋が出土しており，中世と考えられることから，本跡も中世の可能性が高い。

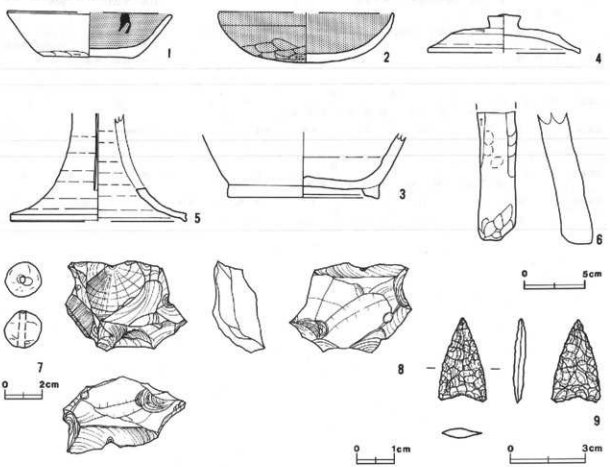
第182図　第5号道路状遺構断面・土層実測図

(5) 土坑

表8　熊の山遺跡8区土坑一覧表

土坑番号	位置	長径方向（長軸方向）	平面形	規模 長径(軸)×短径(軸)(cm)	規模 深さ(cm)	壁面	底面	覆土	主な遺物	備考 遺構関係 新旧関係(古→新)
672	L10i3	N－4°－W	楕円形	1.12 × 1.02	40	外傾	凹凸	人為		
673	L10i3	－	円形	1.07 × 0.98	25	外傾	平坦	人為		
690	M10c2	N－100°－W	楕円形	0.78 ×(0.37)	80	外傾	平坦	人為	土師器片	S1－936→本跡
692	M9e4	N－4°－W	楕円形	0.90 × 0.76	22	外傾	平坦	－		S1－932→本跡
693	M9b4	N－8°－W	楕円形	1.00 × 0.76	48	外傾	凹凸	－		S1－932→本跡
694	M10d4	N－109°－W	楕円形	1.16 × 0.80	55	外傾	平坦	人為		
695	M10d3	N－107°－W	楕円形	0.88 × 0.75	58	外傾	皿状	人為	須恵器片	SB－41・P1→本跡
696	M10e4	N－98°－W	〔楕円形〕	0.67 × 0.30	65	外傾	平坦	人為		

(6) 遺構外出土遺物



第183図　遺構外出土遺物実測図

8区遺構外出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第183図 1	坏 土師器	A [13.2] B 3.6 C 7.2	底部から口縁部にかけての破片。平底。体部は外傾して立ち上がり，口縁部にいたる。	体部外面ロクロナデ。内面ヘラ磨き体部下端手持ちヘラ削り。内面黒色処理。	砂粒・雲母 明赤褐色 普通	P8173 60% PL62 油煙付着 表採
2	坏 土師器	A [14.0] B 4.0	体部から口縁部にかけての破片。丸底。体部は内彎気味に立ち上がり口縁部にいたる。口縁部は直立する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面ヘラ削り。内面ナデ。内面黒色処理。	砂粒・雲母・赤色粒子 褐色 普通	P8174 30% 表採
3	短頸壺 須恵器	B (5.3) D 12.0 E 1.1	底部片。低い高台が付く。	ロクロ成形。底部内面自然釉。	砂粒・赤色粒子・黒色粒子 灰色 普通	P8178 10% PL62 表採
4	蓋 須恵器	A [12.2] B 3.1 F 2.5 G 1.2	天井部から口縁部にかけての破片。天井部は丸く，外周部はなだらかに下降する。口縁部は屈曲し，短く垂下する。つまみは盤高のボタン状。	天井頂部は右回りの回転ヘラ削り。外周部・口縁部ロクロナデ。ロクロ目残い。	砂粒・雲母 灰色 普通	P8179 25% PL62 表採
5	高坏 須恵器	D [14.0] E (8.6)	脚部片。脚部はラッパ状に開き，裾部は屈曲して垂下する。	脚部内・外面ロクロナデ。	砂粒・雲母・長石・石英・黒色粒子 灰色 普通	P8180 5% 表採
6	三足鍋 土師器	B (10.4)	足部片。足部はふんばる。	足部ヘラ削り後，ヘラナデ。	砂粒・雲母・長石 石英 にぶい橙色 普通	P8181 5% SI-929付近表採

図版番号	種別	計測値				出土地点	備考
		径 (cm)	厚さ (cm)	孔径 (cm)	重量 (g)		
第183図7	土玉	2.0	2.0	0.3	6.40	表採	DP8005 PL61

図版番号	種別	計測値				石質	出土地点	備考
		長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)			
第183図8	石核	2.8	3.1	1.1	6.75	黒曜石	表採	Q8004 PL62
9	石鏃	3.3	1.95	0.45	2.28	チャート	表採	Q8008 PL62

5　9区の遺構と遺物

(1) 竪穴住居跡

①奈良・平安時代

第950号住居跡（第184図）

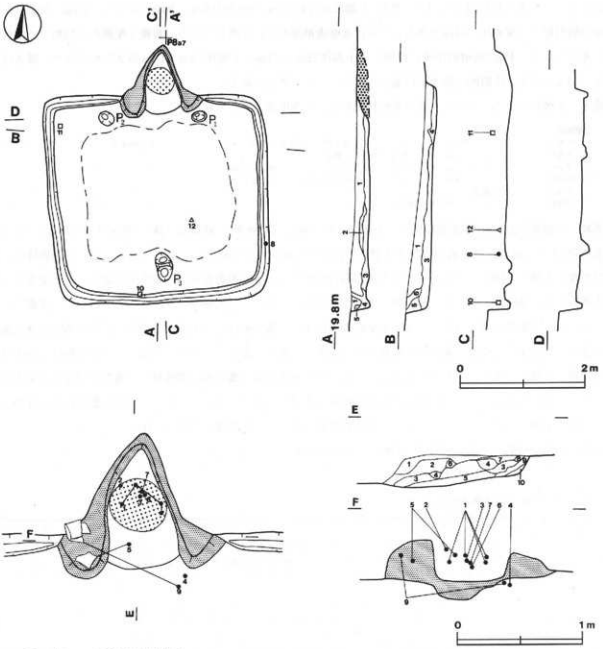
位置　調査9区の中央部，P8a6区。

規模と平面形　長軸3.50m，短軸3.30mの方形である。

主軸方向　N－2°－W

壁　壁高は12～50cmで，外傾して立ち上がる。

壁溝　全周している。規模は，上幅12～26cm，下幅4～8cm，深さ7～10cmで，断面はU字形をしている。



第184図　第950号住居跡実測図

床　ほぼ平坦であり，中央部が特に踏み固められている。

竈　北壁中央を壁外に80cmほど掘り込み，砂質粘土で構築されている。規模は焚口部から煙道部まで120cm，両袖部幅100cmである。第５層には焼土粒子が中量含まれ，下面が赤変硬化していることから，下面が火床面と考えられる。煙道は火床部から急な傾斜で立ち上がる。

竈土層解説
1　黒　褐　色　ローム小ブロック微量
2　黒　褐　色　ローム小ブロック少量
3　黒　褐　色　ローム小ブロック・焼土粒子微量
4　にぶい赤褐色　砂粒多量，ローム粒子中量，焼土粒子少量
5　暗　赤　褐　色　焼土粒子中量，ローム粒子・炭化粒子・砂粒少量
6　黒　褐　色　焼土粒子中量，炭化粒子・砂粒少量
7　黒　褐　色　焼土粒子中量，砂粒少量
8　黒　褐　色　焼土粒子微量
9　黒　褐　色　ローム小ブロック・焼土粒子微量
10　黒　褐　色　焼土粒子少量，流土小ブロック微量

ピット　３か所（P1～P3）。P1・P2の上端は長径約22cm，短径約18cm，下端は長径８～12cm，短径５～８cmの楕円形で，深さ10～14cmである。ともに北壁竈袖部寄りに位置している。規模と配置から判断して主柱穴と考えられる。P3は南壁際中央に位置し，上端径22cm，24cm，下端径12cm，13cmの２穴からなり，深さは12cm，13cmである。位置的に出入り口施設に伴うピットと考えられる。

覆土　６層からなる。ブロック状の堆積状況から，人為堆積と考えられる。

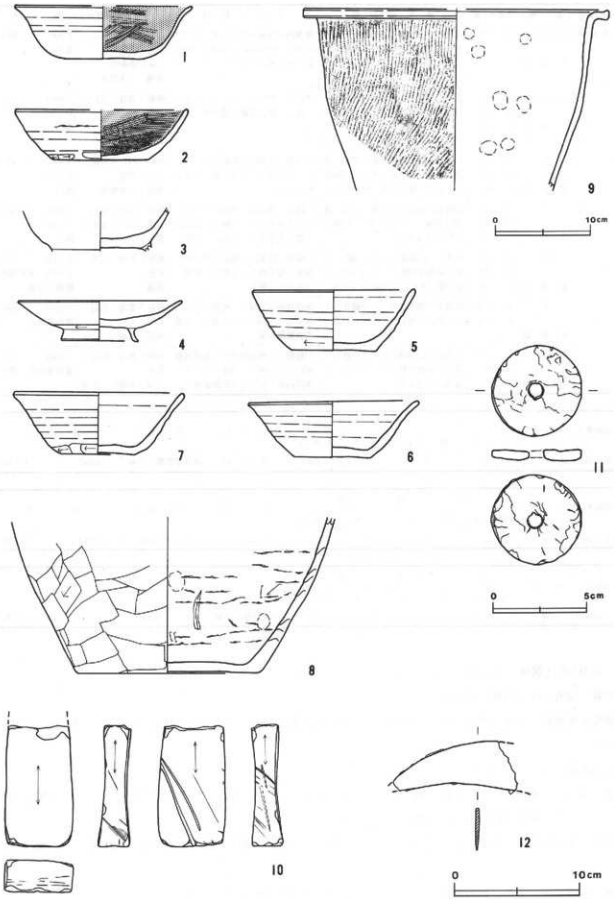
土層解説
1　黒褐色　ローム小ブロック中量，ローム中ブロック・焼土粒子・炭化粒子少量，ローム大ブロック・炭化物微量
2　黒褐色　ローム小ブロック少量，ローム粒子・焼土粒子微量
3　黒褐色　ローム小ブロック中量，ローム中ブロック・焼土小ブロック・焼土粒子微量
4　暗褐色　ローム小ブロック多量，ローム中ブロック中量，焼土小ブロック微量
5　黒褐色　ローム粒子微量
6　黒褐色　ローム小ブロック・焼土粒子微量

遺物　土師器片241点，須恵器片36点，石製品２点（砥石・紡錘車），鉄製品（鎌），鉄滓２点が出土している。第185図１の土師器坏は，竈内の覆土中層から出土した破片５点が接合したものである。２の土師器坏は，竈内の覆土上層から出土している。３の土師器高台付坏と５・６の須恵器坏は，竈内中央部からやや北寄りの火床部直上から逆位で，５・６・３の順に重なって出土しており，二次焼成を受けていることから，支脚として使用された可能性も考えられる。４の土師器高台付坏は，竈東袖付近の床面から逆位で，９の須恵器鉢は竈西袖部内から出土した破片と竈内の中層覆土から出土した破片が接合したものである。７の須恵器坏は南東部壁際の覆土下層から正位でそれぞれ出土している。８の須恵器鉢は竈西袖の補強材で，竈焚き口付近の床面から出土した破片が接合した。10の砥石は南部壁際覆土下層から斜位で出土している。11の石製紡錘車は北西コーナー覆土中層から斜位で出土している。12の鉄製品（鎌）は中央部覆土下層から出土している。

所見　本跡の時期は，出土土器から判断して９世紀後葉と考えられる。

第950号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第185図 1	坏 土師器	A [14.0] B 4.2 C 6.2	底部から口縁部にかけての破片。平底。体部は外傾して立ち上がり，口縁部は軽く外反する。	口縁部外面横ナデ。体部外面ナデ。口縁部，体部内面丁寧なヘラ磨き。底部一方向のヘラ削り。内面黒色処理。	砂粒・雲母 橙色 普通	P9001　60% P1.62 南東部床面
2	坏 土師器	A [13.6] B 5.0 C 7.5	底部から口縁部にかけての破片。平底。体部は外傾して立ち上がり，口縁部にいたる。端部は丸く収めている。	口縁部，体部外面横ナデ。口縁部，体部内面丁寧なヘラ磨き。体部下端手持ちヘラ削り。底部一方向のヘラ撫り。内面黒色処理。	砂粒・雲母・長石・石英 赤褐色 普通	P9002　40% P1底面



第185図　第950号住居跡出土遺物実測図

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第185図3	高台付坏 土師器	B (3.2)	高台部一部欠損。高台部から体部下位にかけての破片。体部は外傾して立ち上がる。	体部内・外面ロクロナデ。ロクロ目弱い。底部回転ヘラ削り。高台貼り付け後，ナデ。	砂粒・雲母・長石・石英・赤色粒子 にぶい赤褐色 普通　二次焼成	P9003　50% 竈内
4	高台付皿 土師器	A 13.0 B 3.3 D 6.1 E 1.0	体部一部欠損。体部から口縁部は外傾して立ち上がる。高台部は短く「ハ」の字状に開く。	体部内・外面ロクロナデ。底部ヘラ削り。高台部貼り付け後，ナデ。	砂粒・雲母・長石・石英 明赤褐色 普通	P9004　70% P L 62 竈内
5	坏 須恵器	A 13.0 B 4.9 C 6.8	口縁部・体部一部欠損。平底。体部は外傾して立ち上がり，口縁部にいたる。端部は丸く収めている。	口縁部，体部内・外面ロクロナデ。ロクロ目弱い。体部下端，底部回転ヘラ削り。	砂粒・長石・赤色粒子 にぶい橙色 普通　二次焼成	P9007　90% P L 62 竈内
6	坏 須恵器	A 13.6 B 4.5 C 6.0	口縁部・体部一部欠損。平底。体部は外傾して立ち上がり，口縁部は軽く外反する。	口縁部，体部内・外面ロクロナデ。体部下端手持ちヘラ削り。底部切り離し痕を残す一方向のヘラ削り。	砂粒・雲母・長石・石英 にぶい赤褐色 普通　二次焼成	P9008　70% P L 62 竈内
7	杯 須恵器	A 13.5 B 4.9 C 5.9	底部から口縁部にかけての破片。平底。体部は外傾して立ち上がり，上位で軽く外反し，口縁部にいたる。	口縁部・体部内・外面ロクロナデ。体部下端手持ちヘラ削り。底部一方向のヘラ削り。	砂粒・雲母・石英 灰色 普通	P9009　55% P L 62　南東部壁際覆土下層
8	鉢 須恵器	B (12.4) C 14.4	底部から体部にかけての破片。平底。体部は外傾して立ち上がる。	体部外面ヘラ削り。内面ヘラナデ。底部一方向のヘラ削り。体部内面輪積み痕。	砂粒・雲母・長石・石英 灰色　普通	P9010　30% 竈西袖部内
9	鉢 須恵器	A [31.8] B (18.7)	体部から口縁部にかけての破片。体部は内彎気味に立ち上がり，口縁部は外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面縦位の平行叩き。内面ヘラナデ。体部内面上位から下位指頭押圧。	砂粒・雲母・長石・石英 にぶい赤褐色　普通	P9005　20% 竈西袖部内，竈内

図版番号	種別	計測値 長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)	石質	出土地点	備考
第185図10	紡石	(9.5)	5.4	2.6	(200.9)	凝灰岩	南部壁際覆土下層	Q9001　P L 62

図版番号	種別	計測値 径(cm)	厚さ(cm)	孔径(cm)	重量(g)	石質	出土地点	備考
第185図11	紡錘車	4.7	0.6	0.8	19.4	頁岩	北西コーナー部覆土中層	Q9002　P L 62

図版番号	種別	計測値 長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)	出土地点	備考
第185図12	錘	(10.1)	3.7	0.25	(24.0)	中央部覆土下層	M9001　P L 62

第951号住居跡（第186図）

位置　調査９区の西部，P7a9区。

規模と平面形　南部が調査区域外に位置しているため詳細は不明であるが，長軸［5.60］m，短軸（4.10）mである。

主軸方向　N－3°－E

壁　東部から北東コーナーを経て竈にかけては削平されているため確認できなかったが，それ以外の部分は遺存している。壁高は約７cmで，外傾して立ち上がる。

壁溝　竈西袖部から西部にかけて巡っている。上幅16～34cm，下幅５～20cm，深さ約６cmである。断面はほぼU字形をしている。

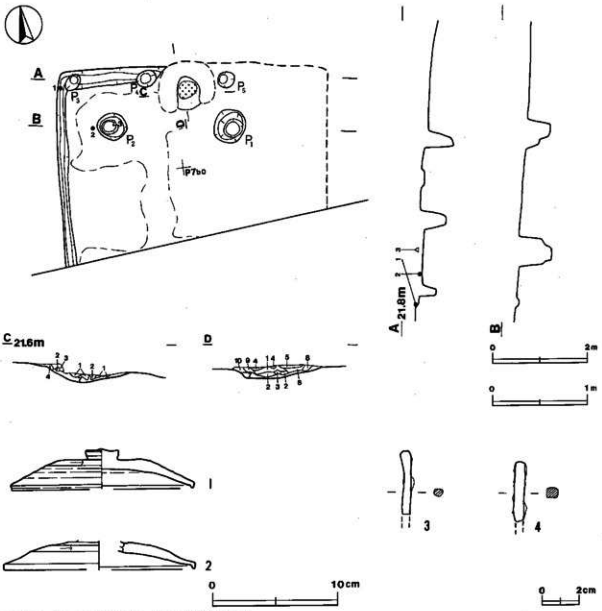
床　ほぼ平坦である。竈西袖部付近が，特にP2を中心に踏み固められている。

竈　北壁中央部に砂質粘土で構築されている。大部分が削平されており，覆土の一部と火床部及び袖の一部を

確認した。規模は，焚き口から煙道部まで100cmで，両袖部幅約120cmと推定される。第1・2層は焼土粒子が多量に含まれ，2層の下面が赤変硬化していることから，火床面と考えられる。天井部は確認できなかった。

竈土層解説
1 明赤褐色 焼土粒子多量，ローム粒子・炭化粒子少量
2 赤 褐 色 焼土粒子多量，ローム粒子少量
3 暗赤褐色 焼土粒子・炭化粒子中量，ローム粒子微量
4 暗赤褐色 焼土粒子中量，ローム粒子少量
5 褐 色 ローム粒子中量，焼土粒子少量
6 暗赤褐色 ローム粒子・焼土粒子少量，焼土小ブロック微量
7 暗 褐 色 ローム粒子・焼土小ブロック・焼土粒子少量，ローム小ブロック微量
8 にぶい赤褐色 焼土粒子・砂粒中量，ローム小ブロック・粒子少量
9 暗赤褐色 焼土粒子・炭化粒子・砂粒少量
10 暗 褐 色 焼土粒子・炭化粒子微量

ピット 5か所（P1～P5）。P1・P2の上端は径60～66cm，下端は径26～30cmの円形で，深さ51～70cmである。それぞれ東西コーナー部から竈及び中央部寄りに位置している。規模と配置から主柱穴と考えられる。P3は北西コーナー部の壁際に位置し，上端は長径38cm，短径20cmの楕円形，下端は径16cmの円形，深さ42cmである。性格は不明である。P4・P5は竈両袖部壁際に位置し，上端径32～40cm，下端径16～20cmの円形，深さ60～61cmである。性格は不明であるが，竈施設に伴う柱穴の可能性も考えられる。



第186図 第951号住居跡・出土遺物実測図

覆土　覆土が薄いため，堆積状況は確認できなかった。

遺物　土師器片67点，須恵器片13点，陶器片１点，土製品（支脚）２点，鉄製品２点（角釘），鉄滓１点が出土している。第186図１の須恵器蓋は，北西コーナー部壁際の床面から逆位で出土している。２の須恵器蓋は，北西部の床面から正位で出土している。３の鉄製品（角釘）は北西部床面直上から，４の鉄製品（角釘）は覆土中から出土している。陶器片が覆土中から出土しているが，攪乱による混入と考えられる。また鉄滓が出土しているが，鍛冶炉等は確認されていない。

所見　本跡の時期は，出土土器から判断して８世紀後葉から９世紀前葉と考えられる。

第951号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値（cm）	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第186図 1	蓋 須恵器	A [14.6] B 3.2 F 2.6 G 0.8	天井部から口縁部にかけての破片。天井部は頂部が平坦で，外周部はなだらかに下降する。口縁部は湾曲し短く垂下する。つまみはボタン状。	天井頂部回転ヘラ削り。外周部・口縁部ロクロナデ。ロクロ目は弱い。	砂粒・雲母・長石・石英・赤色粒子 灰色 普通	P9012　30% 北西コーナー部壁際床面
2	蓋 須恵器	A [15.4] B（2.3）	外周部から口縁部にかけての破片。外周部はなだらかに下降する。口縁部は短く垂下する。	外周部・口縁部ロクロナデ。ロクロ目は弱い。	砂粒・雲母・石英 灰色 普通	P9013　20% 北西部床面

図版番号	種別	計測値 長さ（cm）	幅（cm）	厚さ（cm）	重量（g）	出土地点	備考
第186図3	角釘	(3.4)	0.5	0.4	(2.24)	北西部床面直上	M9002　PL63
4	角釘	(3.2)	0.6	0.5	(3.16)	覆土中	M9003　PL63

第953号住居跡（第187図）

位置　調査９区の中央部，O8j9区。

重複関係　中央部を第７号道路状遺構に掘り込まれている。

規模と平面形　北部が調査区域外に位置しているため詳細は不明であるが，長軸3.75m，短軸（1.95）mである。

主軸方向　N－0°

壁　壁高は約10cmで，外傾して立ち上がる。

壁溝　北部の調査区域外は確認できなかったが，それ以外は巡っている。規模は，上幅14～26cm，下幅４～12cm，深さ２～14cmで，断面はU字形をしている。

床　ほぼ平坦である。

竈　竈が付設されていたものと考えられるが，遺存している部分においては確認されなかった。

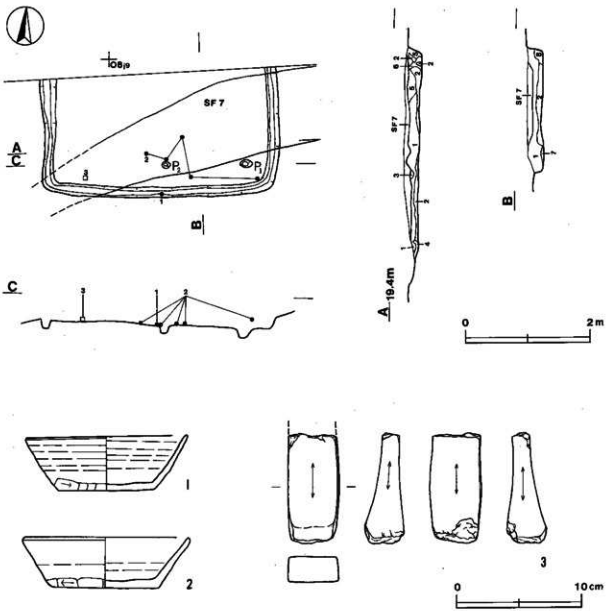
ピット　２か所（P1～P2）。南東コーナー際に位置するP1は，上端が長径20cm，短径10cm，下端が長径10cm，短径６cmの楕円形で，深さは19cmである。性格は不明である。南壁際中央に位置するP2は，上端径14cm，下端径８cmの円形，深さ18cmである。位置的に出入り口施設に伴うピットの可能性も考えられる。

覆土　８層からなる。ブロック状の堆積状況から，人為堆積と考えられる。

土層解説
1　黒　色　ローム小ブロック・焼土粒子微量
2　黒　色　ローム小ブロック少量，ローム中ブロック微量
3　黒褐色　ローム粒子微量
4　黒褐色　ローム粒子少量
5　黒褐色　ローム粒子少量，炭化粒子微量
6　褐　色　ローム粒子中量
7　暗褐色　ローム粒子少量，ローム小ブロック微量
8　黒　色　ローム小ブロック・粒子微量

遺物　土師器片75点，須恵器片22点，石製品１点（砥石）が出土している。第187図１の須恵器坏は南部の壁溝底面から横位で出土した。２の須恵器坏は，南東コーナー部際の覆土中層，南部壁際の床面，覆土中から出土した破片が接合したものである。３の石製品（砥石）は，南西コーナー壁際床面から出土している。

所見　本跡の時期は，出土土器から判断して８世紀中葉と考えられる。



第187図　第953号住居跡・出土遺物実測図

第953号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第187図 1	坏 須恵器	A 12.8 B 4.3 C 7.6	完形。平底。体部は外傾して立ち上がり，口縁部にいたる。	口縁部，体部内・外面ロクロナデ。体部下端手持ちヘラ削り。底部二方向のヘラ削り。	砂粒・長石・石英 褐灰色 普通	P9014 100% PL63 南部壁溝底面
2	坏 須恵器	A 13.2 B 4.0 C 8.7	底部から口縁部にかけての破片。平底。体部は外傾して立ち上がり，口縁部にいたる。	口縁部，体部内・外面ロクロナデ。ロクロ目弱い。体部下端手持ちヘラ削り。底部二方向のヘラ削り。	砂粒・雲母・長石 灰色 普通	P9015 65% PL63 南東コーナー部覆土中層，南部壁際床面，覆土中

図版番号	種別	計測値				石質	出土地点	備考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)			
第187図3	砥石	(9.8)	4.1	2.0	(137.5)	凝灰岩	南西コーナー部廃際床面	Q9003 P L.63

② 時期不明

第952号住居跡（第188図）

位置 調査9区の中央部，P8a5区。

規模と平面形 長軸4.08m，短軸3.80mの方形である。

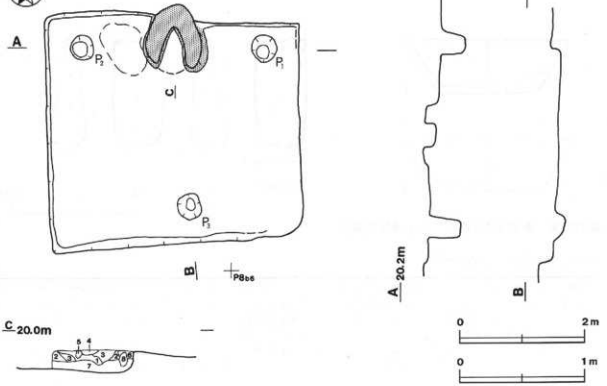
主軸方向 N－2°－W

壁 東部は確認できなかったが，それ以外の壁高は8～20cmで，外傾して立ち上がる。

床 ほぼ平坦である。竈西袖部付近に踏み固められた部分が確認できた。

竈 北壁中央部に砂質粘土で構築されている。削平されているが，覆土の一部と両袖を確認した。規模は，焚口部から煙道部まで110cmと推定される。両袖部幅は100cmである。第1・3層は焼土粒子が多量に含まれ，下面が赤変硬化していることから，火床部と考えられる。また，煙道は火床部から急な傾斜で立ち上がる。天井部は確認できなかった。

竈土層解説
1 にぶい褐色 焼土粒子多量，ローム粒子中量，砂粒少量
2 黄褐色 ローム粒子・焼土粒子・砂粒少量
3 にぶい赤褐色 焼土粒子多量，ローム粒子中量，焼土小ブロック・砂粒少量
4 暗赤褐色 焼土粒子中量，ローム小ブロック微量
5 にぶい赤褐色 ローム粒子・焼土粒子中量，焼土小ブロック・砂粒少量
6 黒褐色 粘土小ブロック中量，ローム粒子微量
7 黒褐色 焼土粒子微量
8 黒褐色 粘土ブロック



第188図 第952号住居跡実測図

ピット　3か所（P1～P3）。P1・P2の上端は径約40cm，下端は径約20cmの円形で，深さはそれぞれ40cmと50cmである。それぞれ北壁の東西コーナー部と竈の中間に位置する。規模と配列から，主柱穴と考えられる。P3は南壁近くの中央に位置し，上端径38cmのほぼ円形で，深さは16cmである。位置的に出入り口施設に伴うピットと考えられる。

遺物　出土していない。

所見　出土遺物がないため，本跡の時期は不明である。

表9　熊の山遺跡9区住居跡一覧表

住居跡番号	位置	主軸方向（長軸）	平面形	規模（m）（長軸×短軸）	壁高（cm）	床面	内部施設						覆土	出土遺物	備考 新旧関係（古→新）
							壁溝	主柱穴	出入口ピット	ピット	炉・竈	貯蔵穴			
950	P 8 a6	N－2°－W	方　形	3.50×3.30	12～50	平坦	全周		2	1	竈	－	人為	土師器・高台付椀・高台付皿，須恵器・椀，鉄製品，石臼	
951	P 7 a9	N－2°－E	不　明	[5.60]×(4.10)	7	平坦	一部	3	2	－	竈	－	－	須恵器（蓋），釘	
952	P 8 a5	N－2°－W	方　形	4.08×3.80	8～20	平坦	－	－	2	1	竈	－	－		
953	O 8 j9	N－0°	不　明	3.75×(1.95)	10	平坦	一部	1	－	1	－	－	人為	須恵器（坏），鉄G	本跡→SF7

(2)　溝

第34号溝（第189図，付図2）

位置　調査9区の東部，P9区。

重複関係　第7号道路状遺構を掘り込んでいる。

規模と形状　長さ10.7m，上幅34～66cm，下幅14～28cm，深さ11～23cmで，断面はU字形をしている。

方向　P9a0区から北方向（N－0°）に，直線的に延びている。

覆土　レンズ状の堆積状況から，自然堆積と考えられる。

第189図　第34号溝土層実測図

土層解説
1　褐　　色　ローム小ブロック・ローム粒子・焼土粒子微量
2　にぶい褐色　ローム粒子多量，焼土粒子微量
3　暗　褐　色　ローム小ブロック微量

遺物　土師器片3点，須恵器片1点が覆土中から出土しているが，いずれも細片である。

所見　本跡の時期は，出土遺物が細片のため判断できない。重複している第7号道路状遺構が8世紀～9世紀後葉と考えられ，それより新しい。比較的浅いことから，区画溝と考えられる。

(3)　道路状遺構

第7号道路状遺構（第190図，付図2）

位置　調査9区の北部，O9区。

重複関係　第953号住居跡を掘り込み，第25・26号井戸，第34号溝に掘り込まれている。

規模と形状　東および西側とも調査区域外に延びているため，確認できたのは長さ48.0m，上幅72～140cm，下幅62～86cm，深さ14～20cmである。遺構の中央部で，平面形が長軸（径）38～200cm，短軸（径）26～110cmの隅丸長方形や楕円形で，深さ3～12cmのくぼみが確認できた。

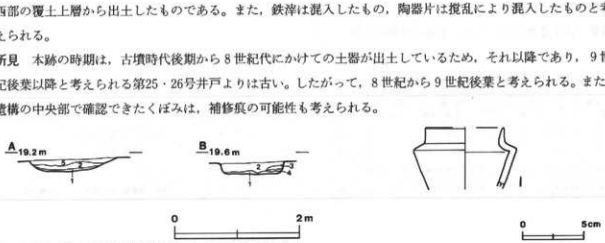
方向　O9j0区から西方向（N－90°－W）に，直線的に延びている。

覆土　第1層は硬く踏み固められている。他の層は，レンズ状の堆積状況から，自然堆積と考えられる。

土層解説
1　褐　色　ローム粒子少量，硬い
2　暗褐色　ローム小ブロック・炭化粒子微量
3　明褐色　ローム小ブロック・粒子微量
4　褐　色　ローム粒子少量，ローム小ブロック微量
5　褐　色　ローム小ブロック・焼土粒子・炭化粒子微量

遺物　土師器片177点，須恵器片143点，鉄滓10点，陶器片8点が出土している。第190図1の須恵器短頸壺は西部の覆土上層から出土したものである。また，鉄滓は混入したもの，陶器片は撹乱により混入したものと考えられる。

所見　本跡の時期は，古墳時代後期から8世紀代にかけての土器が出土しているため，それ以降であり，9世紀後葉以降と考えられる第25・26号井戸よりは古い。したがって，8世紀から9世紀後葉と考えられる。また，遺構の中央部で確認できたくぼみは，補修痕の可能性も考えられる。



第190図　第7号道路状遺構土層・出土遺物実測図

第7号道路状遺構出土遺物観察表

図版番号	器　種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備　考
第190図 1	短頸壺 須恵器	A［5.2］ B（4.9）	体部から口縁部にかけての破片。体部は外傾して立ち上がり，肩部で内稜する。口縁部は短く直立する。	口縁部から体部内・外面ロクロナデ。	砂粒 灰色 普通	P9024　5% 表採

(4)　井戸跡

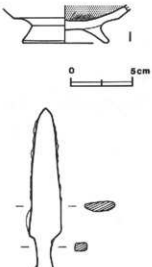
第25号井戸跡（第192図）

位置　調査9区の東部，O9j7区。

重複関係　確認面から0.5mの深さまで第26号井戸跡を掘り込み，第7号道路状遺構に掘り込まれている。

規模と形状　掘り方は漏斗状を呈している。確認面での平面形は径1.26mほどの円形で，上半は約1.6mの深さまで緩やかに狭まっていき，それから下は径0.7mの円筒状に掘り込まれている。確認面下2.7mの深さまで調査したが，その下は湧水のため調査を断念した。本跡はローム層と粘土層を掘り抜き，さらに下まで掘り込んでいる。

覆土　各層ともロームブロックや焼土ブロックを含み，人為的な堆積と考えられる。

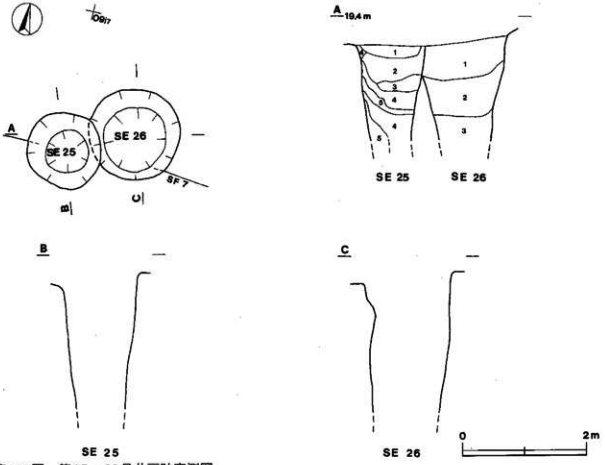


第191図　第25号井戸跡出土遺物実測図

土層解説
1　明褐灰色　焼土中ブロック・粘土粒子・砂粒多量，焼土小ブロック中量
2　褐　色　ローム大ブロック・ローム中ブロック・粘土粒子多量，焼土小ブロック・炭化物中量
3　褐　色　ローム粒子・粘土粒子多量，焼土小ブロック中量
4　にぶい褐色　ローム中ブロック・粘土粒子多量
5　褐　色　焼土中ブロック・粘土粒子多量，焼土小ブロック・砂粒中量

遺物　土師器片１点，須恵器片２点，鉄製品１点（鉄鎌）が覆土中から出土している。第191図１の土師器高台付坏と２の鉄鎌は，覆土上層から出土している。

所見　本跡の時期は，出土土器から判断して，９世紀後葉以降のものと考えられる。



第192図　第25・26号井戸跡実測図

第25号井戸跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第191図1	高台付坏 土師器	B（3.0） D 6.8 E 1.3	高台部から体部にかけての破片。高台は「ハ」の字状に開く。体部は外傾して立ち上がる。	体部内面丁寧なヘラ磨き。外面ロクロナデ。高台貼り付け後ナデ。内面黒色処理。	砂粒・赤色粒子 明赤褐色	P9017 覆土中　10%

図版番号	種別	計測値				出土地点	備考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)		
第191図2	鉄鎌	(10.7)	1.6	0.5	(16.0)	覆土中	M9004　PL63

第26号井戸跡（第192図）

位置　調査９区の東部，O9j7区。

重複関係　確認面から0.5mの深さまで第25号井戸に掘り込まれている。また，第７号道路状遺構に掘り込まれている。

規模と形状　掘り方は漏斗状を呈している。確認面での平面形は径1.46mの円形で，上半は約1.5mの深さまで緩やかに狭まっていき，それから下は径1.1mの円筒状に掘り込まれている。確認面下2.7mの深さまで調査したが，その下は湧水のため調査を断念した。本跡はローム層と粘土層を掘り抜き，さらに下まで掘り込んで

いる。

覆土　各層ともローム ブロックや焼土ブロックを含み，人為的な堆積と考えられる。

土層解説
1　褐　色　ローム小ブロック・粒子多量，焼土小ブロック・粘土粒子中量
2　褐　色　ローム中ブロック・ローム小ブロック・焼土小ブロック多量，炭化物・粘土粒子中量
3　褐　色　焼土中ブロック・焼土小ブロック・粘土粒子多量，砂粒中量

遺物　土師器片25点，須恵器片13点，礫1点が覆土中から出土している。

所見　本跡の時期は，判断する出土遺物がないため不明であるが，9世紀後葉以降と考えられる第25号井戸に掘り込まれているため，それ以前と考えられる。

第27号井戸跡（第193図）

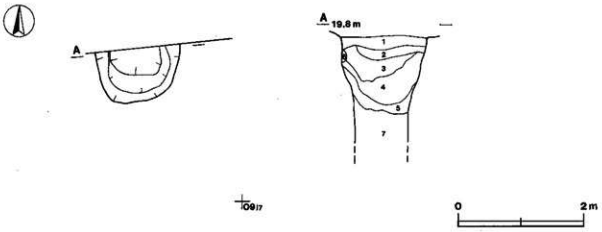
位置　調査9区の東部，O9i6区。

規模と形状　北部が調査区域外に位置しているため，詳細は不明であるが，掘り方はほぼ漏斗状をしている。上部の平面形は径［1.4］mの円形で，確認面から1.0mの深さまで狭まっていき，下部は径0.8mの円筒状に掘り込まれている。本跡は，ローム層と粘土層を掘り抜き，さらに下まで掘り込んでいる。確認面から2.0mの深さまで調査したが，それ以下は壁が崩れやすく危険が伴うため調査を断念した。

覆土　調査できた範囲の覆土は，ブロック状の堆積をしており，廃棄時に埋め戻したものと考えられる。

土層解説
1　灰　褐　色　ローム粒子中量，焼土小ブロック・炭化物少量
2　暗　褐　色　焼土小ブロック中量，ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子・粘土小ブロック少量，炭化材微量
3　暗　褐　色　焼土小ブロック・焼土粒子・炭化粒子・粘土大ブロック・粘土中ブロック・粘土小ブロック・砂粒少量
4　にぶい黄褐色　砂粒多量，粘土大ブロック中量，焼土小ブロック・炭化粒子微量
5　暗　褐　色　粘土中ブロック・粘土小ブロック・砂粒中量
6　にぶい褐色　ローム粒子中量
7　暗　褐　色　粘土中・小ブロック多量，砂粒中量

所見　本跡の時期は，遺物が出土していないため不明である。



第193図　第27号井戸跡実測図

(5) 地下式壙

第16号地下式壙（第194図）

位置　調査９区の中央部，P8a9区。

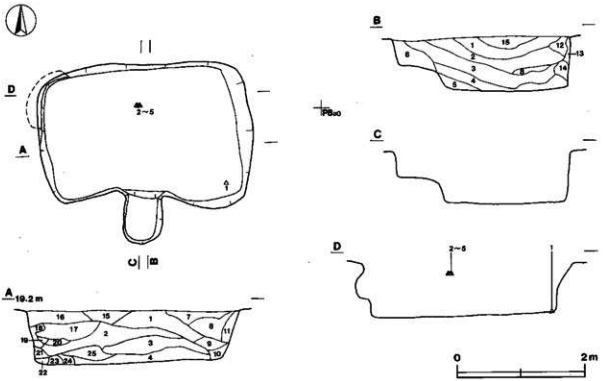
主軸方向　N－6°－W

規模と形状　竪坑は長軸0.72m，短軸0.62mの，長軸が主軸に一致する隅丸長方形で，深さは0.4mである。主室は長軸3.45m，短軸2.37mの，長軸が主軸に直交する隅丸長方形で，深さは1.02mである。天井部は崩落しており形状は不明である。壁は竪坑・主室ともほぼ垂直に立ち上がる。壁高は竪坑が約44cm，主室が約86cmである。底面は竪坑・主室とも平坦で，竪坑に比べ主室が40cmほど低くなっている。

覆土　25層からなる。第18層のローム大ブロックは，天井部が崩落したものと考えられる。その他の層は，レンズ状に堆積していることから自然堆積と考えられる。第３～６層は竪坑から流れ込んだものと考えられる。

土層解説

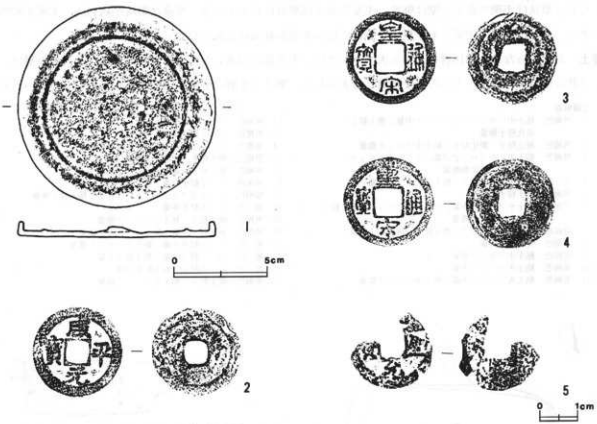
1　黒褐色　粘土中ブロック・小ブロック中量，焼土粒子・炭化粒子微量
2　黒褐色　焼土粒子・炭化粒子・粘土小ブロック微量
3　黒褐色　粘土中・小ブロック少量，ローム小ブロック・焼土粒子・炭化物微量
4　黒　色　ローム小ブロック・粘土小ブロック微量
5　黒褐色　粘土粒子中量
6　黒褐色　粘土小ブロック中量，ローム小ブロック・焼土粒子・粘土中ブロック微量
7　暗褐色　ローム小ブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
8　黒褐色　焼土粒子微量
9　黒褐色　粘土小ブロック微量
10　黒褐色　粘土大ブロック中量
11　黒褐色　粘土大ブロック中量，粘土中ブロック微量
12　黒褐色　ローム粒子微量
13　黒褐色　ローム粒子中量
14　黒褐色　ローム小ブロック，焼土粒子微量
15　黒褐色　焼土粒子・炭化粒子微量
16　黒褐色　焼土粒子少量，ローム粒子微量
17　黒褐色　ローム粒子少量
18　暗褐色　ローム大ブロック・ローム粒子・粘土粒子多量
19　褐　色　ローム粒子中量
20　黒褐色　焼土粒子・粘土中ブロック微量
21　黒褐色　粘土粒子中量，粘土中ブロック微量
22　褐　色　ローム粒子中量，粘土小ブロック微量
23　褐　色　ローム粒子中量，粘土粒子少量
24　褐　色　ローム粒子・粘土粒子中量
25　黒褐色　焼土粒子・粘土小ブロック微量



第194図　第16号地下式壙実測図

遺物　土師器片147点，須恵器片104点，鉄滓１点，和鏡１面，古銭４点，礫３点，陶器片３点が覆土中から出土している。第195図１の和鏡（菊花文鏡カ）は，南東部壁際底面から鏡面を下にして斜位で出土している。２～５の古銭は「咸平元寶」・「皇宋通宝」・「紹聖元寶」で，それぞれ中央部の覆土中層から重なり合って出土している。

所見　本跡の時期は，出土遺物から判断して中世と考えられる。性格については，埋葬関連施設と考えられる。



第195図　第16号地下式壙出土遺物実測図

第16号地下式壙出土遺物観察表

図版番号	種別	計測値						材質	備考
		面径（cm）	厚さ（cm）	縁縁径（cm）	紐径（cm）	紐高（cm）	重量（g）		
第195図 1	和鏡（菊花文鏡カ）	10.6	0.25	1.8	0.55	0.5	174.0	青銅	M9006　南東部床面 PL63　100%

図版番号	鋳名	初鋳年（西暦）	鋳造地名	出土地点	備考
第195図2	咸平元寶	998	北宋	中央部やや北寄り覆土中層	M9007　PL63
3	皇宋通寶	1038	北宋	中央部やや北寄り覆土中層	M9008　PL63
4	皇宋通寶	1038	北宋	中央部やや北寄り覆土中層	M9009　PL63
5	紹聖元寶	1094	北宋	中央部やや北寄り覆土中層	M9010　PL63

(6) 土坑

第681号土坑（第196図）

位置　調査9区の東部，P9a8区。

規模と平面形　中央部から南部が調査区域外に位置しているため全容は不明である。確認できたのは，東西2.20m，南北（1.25）m，深さ55cmである。平面形は隅丸方形と推定される。

壁面　外傾して立ち上がる。

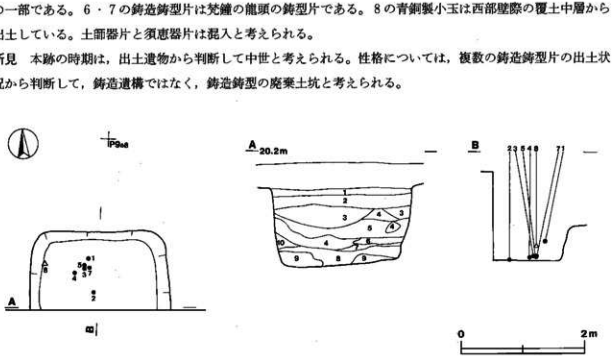
底面　平坦である。

覆土　9層からなる。ブロック状の堆積状況から人為堆積と考えられる。第8層は鋳造鋳型片や焼土ブロック・粘土ブロックが密に堆積している。第8層直上の第4層は黄灰色の粘土大ブロックが含まれ，鋳造鋳型片が少量出土している。

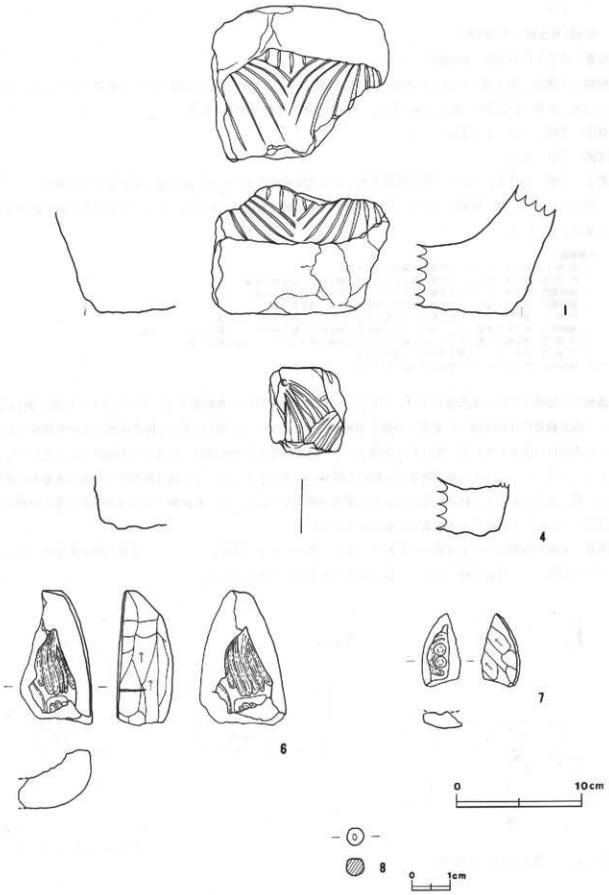
土層解説
1　暗 褐 色　粘土中・小ブロック多量，炭化物・粒子中量
2　暗 褐 色　粘土中・小ブロック多量，焼土小ブロック・焼土粒子・炭化粒子中量
3　極暗褐色　粘土中・小ブロック多量，焼土小ブロック・炭化物・炭化粒子中量
4　極暗褐色　粘土中・小ブロック多量，炭化物・炭化粒子中量，鋳型片少量
5　黒 褐 色　焼土小ブロック・焼土粒子・炭化物・粘土中ブロック・粘土小ブロック中量
6　極暗褐色　焼土粒子多量，ローム中ブロック・炭化物・炭化粒子・粘土中ブロック・粘土小ブロック中量
7　黒 褐 色　焼土粒子・粘土中ブロック・粘土小ブロック多量，焼土小ブロック・炭化粒子中量
8　黒 褐 色　粘土ブロック・焼土ブロック，鋳型片多量
9　極暗褐色　焼土小ブロック・焼土粒子・炭化粒子・粘土ブロック中量

遺物　土師器片1点，須恵器片1点，土製品136点（鋳造鋳型片），青銅製小玉1点が出土している。第197図1の鋳造鋳型片は中央部から北寄りの覆土中層から出土している。第198図2の鋳造鋳型片は中央部から南寄りの床面から出土している。第197・198図3～7の鋳造鋳型片は中央部から北寄りの床面直上からそれぞれ出土している。2・3・5の鋳造鋳型片は鐘口の鋳型の一部である。1・4の鋳造鋳型片は灯籠の蓮華座の鋳型の一部である。6・7の鋳造鋳型片は梵鐘の龍頭の鋳型片である。8の青銅製小玉は西部壁際の覆土中層から出土している。土師器片と須恵器片は混入と考えられる。

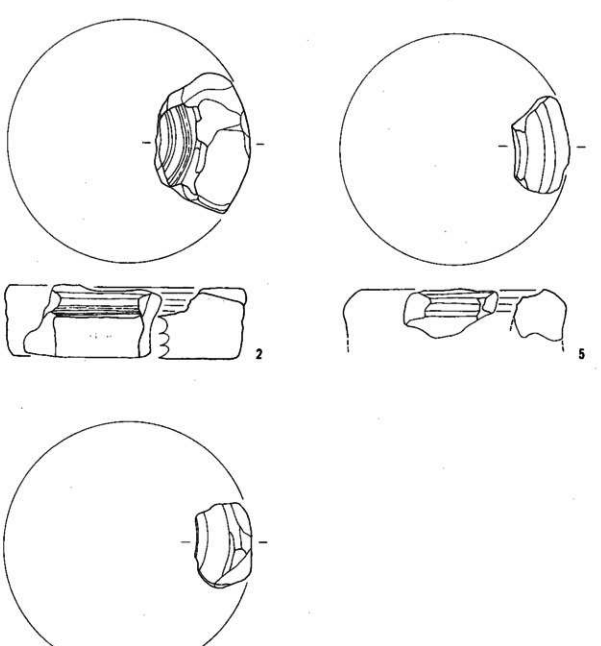
所見　本跡の時期は，出土遺物から判断して中世と考えられる。性格については，複数の鋳造鋳型片の出土状況から判断して，鋳造遺構ではなく，鋳造鋳型の廃棄土坑と考えられる。



第196図　第681号土坑実測図



第197図　第681号土坑出土遺物実測図（1）



第198図　第681号土坑出土遺物実測図（2）

第681号土坑出土遺物観察表

図版番号	種別	計測値				出土地点	備考
		口径(cm)	器高(cm)	底径(cm)	重量(g)		
第197図1	鉢型	－	(10.1)	[33.0]	(1139.1)	中央部から南寄りの覆土中層	DP9001　灯籠凍摩座鋳造鋳型片　PL64
第198図2	鉢型	[24.4]	7.6	[23.0]	(889.3)	中央部床面	DP9002　鍔口鋳造鋳型片　PL64

図版番号	種別	計測値				出土地点	備考
		口径(cm)	器高(cm)	底径(cm)	重量(g)		
第198図3	鋳型	[26.4]	(4.5)	−	(232.4)	中央部床面直上	D P 9005　鋲口鋳造鋳型片　PL64
第197図4	鋳型	−	(4.2)	[32.0]	(169.5)	中央部床面直上	D P 9006　灯籠菩提座鋳造鋳型片　PL64
第198図5	鋳型	[20.0]	(5.1)	−	(188.2)	中央部床面直上	D P 9008　鋲口鋳造鋳型片

図版番号	種別	計測値				出土地点	備考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)		
第197図6	鋳型	(10.6)	(6.9)	2.4	(198.0)	中央部床面直上	D P 9004　梵鐘龍頭鋳型片　PL64
7	鋳型	(5.8)	(3.1)	(1.3)	(16.8)	中央部床面直上	D P 9009　梵鐘龍頭鋳型片　PL64

図版番号	種別	計測値			出土地点	備考
		長さ(cm)	幅(cm)	重量(g)		
第197図8	青銅製小玉	0.45	0.5	(0.22)	西部盛土中層	M9011　PL64

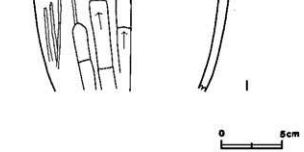
表10　熊の山遺跡9区土坑一覧表

土坑番号	位置	長径方向(光軸方向)	平面形	規模 長径(軸)×短径(軸)(m)	深さ(cm)	壁面	底面	覆土	主な遺物	備考 重複関係 新旧関係(古→新)
681	P 9 a8	N−88°−E	−	2.20 ×(1.25)	55	外傾	平坦	人為	土師器片,須恵器片,土製品(鋳型)	
682	O 9 i9	−	円形	1.18 × 1.18	42	外傾	平坦	人為	土師器片	
683	P 8 a7	−	隅丸長方形	1.10 × 0.95	20	外傾	凹凸	人為		
686	P 8 b6	N−0°	楕円形	0.90 × 0.85	20	外傾	平坦	人為	土師器片,須恵器片	

(7)　遺構外出土遺物

9区遺構外出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第199図1	素 土師器	A [20.6] B (13.2)	体部から口縁部にかけての破片。体部は内彎気味に立ち上がり,頸部でくびれ,口縁部は外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面ナデ。一部ヘラ磨き。	砂粒 赤褐色 普通	P 9027　5% 表採 P L 64



第199図　遺構外出土遺物実測図

6　11区の遺構と遺物

(1)　竪穴住居跡

① 古墳時代

第734号住居跡（第200図）

位置　調査11区の中央部，G11j0区。

重複関係　北壁を第733号住居に，南東コーナー部を第19号地下式壙に掘り込まれている。

規模と平面形　長軸4.30m，短軸4.20mの方形である。

主軸方向　N－18°－W

壁　壁高は約40cmで，ほぼ垂直に立ち上がる。

壁溝　第19号地下式壙に掘り込まれて確認できない部分を除き，巡っている。上幅10～15cm，下幅5～10cm，深さ約10cmで，断面はU字形をしている。

床　平坦で，壁際を除き踏み固められている。

竈　北壁中央部を壁外へ20cmほど掘り込んで，砂を多量に含む砂質粘土で構築されている。煙道部は第733号住居に掘り込まれている。両袖部幅は110cmである。袖部内面は火熱を受けて赤変硬化が著しい。火床部は床面とほぼ同じ高さで，焼土ブロックと焼土粒子とが約10cmの厚さで堆積している。煙道は，比較的緩やかな傾斜で立ち上がる。竈土層中，第7層が砂粒を多量に含んでいることから，天井部の崩落土と考えられる。

竈土層解説
1　暗　褐　色　ローム粒子・焼土粒子中量，ローム中ブロック・ローム小ブロック・焼土小ブロック少量
2　極暗赤褐色　焼土粒子多量，ローム粒子・焼土中ブロック中量，焼土小ブロック・炭化粒子少量
3　灰　白　色　焼土粒子・灰多量，焼土小ブロック中量，炭化粒子少量
4　にぶい褐色　焼土小ブロック・粒子中量，ローム粒子少量
5　赤　褐　色　焼土中ブロック・小ブロック・粒子中量，炭化粒子少量
6　明赤褐色　ローム粒子・焼土粒子中量，ローム小ブロック少量
7　赤　褐　色　焼土小ブロック・焼土粒子・砂粒多量，炭化物中量，炭化粒子少量
8　暗赤褐色　焼土粒子多量，ローム粒子・焼土小ブロック中量

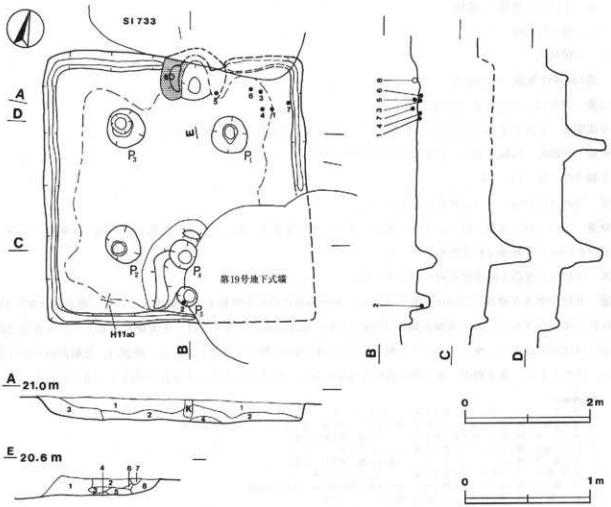
ピット　5か所（P1～P5）。P1～P3は，それぞれ北東部，南西部，北西部に位置し，径60～65cmの円形で，深さは70～75cmである。規模と配置から主柱穴と考えられる。P4は径約45cmの円形で，深さは37cmである。P5は径約35cmの円形で，深さは25cmである。P4及びP5は，位置的に出入り口施設に伴うピットと考えられる。

覆土　4層からなる。レンズ状に堆積していることから自然堆積と考えられる。

土層解説
1　暗褐色　ローム粒子・炭化物少量，焼土粒子・炭化粒子微量
2　褐　色　ローム粒子多量，ローム小ブロック少量，焼土粒子・炭化粒子微量
3　褐　色　ローム粒子多量，ローム中ブロック・炭化物微量
4　暗褐色　ローム小ブロック・炭化物中量，ローム粒子少量

遺物　土師器片296点，須恵器片4点及び土製品1点（支脚片）が出土している。第201図に示した土器はいずれも土師器である。1・3・4の坏，6の甕は北東コーナー付近の床面から正位で，2の坏はP5の覆土中層から逆位で，5の坏は竈東袖端部の覆土下層から逆位で，7の甑は北東コーナー付近の床面から斜位で，8の支脚は竈内の覆土下層から斜位で出土している。

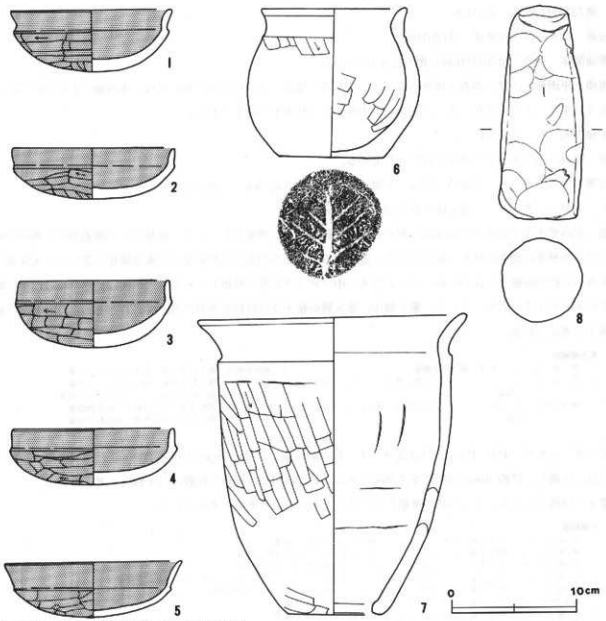
所見　本跡の時期は，出土土器から判断して6世紀前半と考えられる。



第200図　第734号住居跡実測図

第734号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器　種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備　考
第201図 1	坏 土師器	A 12.8 B 4.9	体部・口縁部一部欠損。丸底。体部は内彎して立ち上がり，明瞭な稜を持つ。口縁部は外反する。	口縁部内・外面，体部内面横ナデ。体部外面ヘラ削り。内・外面黒色処理。	砂粒 にぶい黄橙色 普通	P110003　95% P L.65　北東コーナー付近床面
2	坏 土師器	A 12.8 B 3.7	体部・口縁部一部欠損。丸底。体部は内彎して立ち上がり，明瞭な稜を持つ。口縁部は直立する。	口縁部内・外面，体部内面横ナデ。体部外面ヘラ削り。内・外面黒色処理。	砂粒・雲母 にぶい橙色 普通	P110004　90% P L.65 P5覆土中層
3	坏 土師器	A 12.0 B 5.2	体部・口縁部一部欠損。丸底。体部は内彎して立ち上がり，明瞭な稜を持つ。口縁部は内傾する。	口縁部内・外面横ナデ。体部内面雑な横ナデ。外面ヘラ削り。内・外面黒色処理。	砂粒・雲母 にぶい橙色 普通	P110005　95% P L.65　北東コーナー付近床面
4	坏 土師器	A 12.8 B 4.5	口縁部一部欠損。丸底。体部は内彎して立ち上がり，明瞭な稜を持つ。口縁部は直立する。	口縁部内・外面，体部内面横ナデ。体部外面ヘラ削り。内・外面黒色処理。	砂粒・長石・石英・雲母 にぶい黄橙色　普通	P110006　95% P L.65　北東コーナー付近床面
5	坏 土師器	A 14.0 B 4.3	口縁部一部欠損。丸底。底部内面中央部が径約3.5cmの円形にわずかにくぼむ。体部は内彎して立ち上がり，明瞭な稜を持つ。口縁部は外反する。	口縁部内・外面，体部内面横ナデ。体部外面ヘラ削り。内・外面黒色処理。	砂粒・雲母・長石 にぶい橙色 普通	P110007　95% P L.65 竈東袖補部覆土下層



第201図　第734号住居跡出土遺物実測図

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第201図 6	甕 土師器	A 11.5 B 12.0 C 8.0	口縁部一部欠損。小形。平底。体部は内弯して立ち上がり，頸部との境で段を成す。頸部から口縁部は緩やかに外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部内面ヘラナデ。体部内面には輪積痕が残る。外面ヘラ削り後，ナデ。底部木葉痕。	砂粒・礫 にぶい橙色 普通	P 110008 95% P L.65 北東コーナー付近床面
7	底 土師器	A 21.4 B 23.8 C 6.8	完形。無底式。体部は緩やかに内弯して立ち上がり，頸部との境で段を成す。頸部から口縁部は緩やかに外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部内面ヘラナデ。体部内面には輪積み痕が残る。外面ヘラ削り後，ナデ。	砂粒 にぶい橙色 普通	P 110009 100% P L.65 北東コーナー付近床面

図版番号	種別	計測値 径(cm)	計測値 長さ(cm)	計測値 重量(g)	出土地点	備考
第201図8	土製支脚	12.0	4.0～6.5	767.9	竈内覆土下層	D P 11001　P L.104

第735号住居跡（第202図）

位置　調査11区の中央部，H12b1区。

重複関係　南部で第762号住居に掘り込まれている。

規模と平面形　西部が調査区域外へ延びているため，確認できたのは南北軸4.85m，東西軸（2.55）mである。北及び東コーナーが直角であることから，方形または長方形と推定される。

主軸方向　N－25°－W

壁　壁高は20～40cmで，ほぼ垂直に立ち上がる。

壁溝　全周している。上幅15～20cm，下幅10～15cm，深さ約10cmで，断面はU字形をしている。

床　平坦で，各コーナー部を除き踏み固められている。

竈　北西壁中央部を壁外へ50cmほど掘り込んで，砂質粘土で構築されている。撹乱のため煙道部の大部分は壊され，西袖部は調査区域外へ延びている。遺存する東袖部の内面は火熱を受けて赤変硬化が著しい。火床部は床面から約10cm掘りくぼめられ，ロームの大・中ブロックが厚く堆積している。火床面は径約25cmの円形に焼土の大ブロックが広がっている。竈土層中，第8層が粘土及び砂粒を多量に含んでいることから，天井部の崩落土と考えられる。

竈土層解説

1	黒　褐　色	ローム粒子・焼土粒子微量	4	極暗赤褐色	焼土粒子中量，焼土小ブロック少量
2	暗　褐　色	ローム中・小ブロック少量，焼土小ブロック・炭化粒子微量	5	暗赤褐色	焼土粒子多量，焼土小ブロック少量
3	極暗褐色	ローム小ブロック・ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量	6	暗赤褐色	焼土粒子多量，ローム小ブロック微量
			7	暗　褐　色	砂粒多量，ローム粒子・炭化物微量
			8	褐　　色	粘土粒子・砂粒多量，炭化粒子中量

ピット　2か所（P1・P2）。P1は北コーナー付近に位置し，径約55cmの円形，深さ44cm，P2は東コーナー付近に位置し，径約50cmの円形，深さ54cmである。P1及びP2は規模と配置から主柱穴と考えられる。

覆土　18層からなる。レンズ状に堆積していることから，自然堆積と考えられる。

土層解説

1	暗褐色	ローム粒子少量，ローム小ブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
2	黒褐色	ローム粒子少量，ローム中ブロック・ローム小ブロック・炭化粒子微量
3	黒褐色	ローム中・小ブロック少量，ローム小ブロック・焼土粒子・炭化物微量
4	黒褐色	ローム粒子少量，ローム大ブロック・ローム中ブロック・ローム小ブロック・焼土粒子・炭化物微量
5	黒褐色	ローム粒子・焼土粒子少量，ローム小ブロック・焼土小ブロック・炭化物微量
6	極暗褐色	ローム粒子少量，ローム小ブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
7	黒褐色	ローム粒子少量，ローム小ブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
8	黒褐色	ローム粒子・焼土小ブロック少量
9	黒褐色	ローム粒子中量，焼土粒子・炭化粒子微量
10	暗褐色	ローム粒子中量，焼土粒子・炭化粒子微量
11	暗褐色	ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量
12	暗褐色	ローム粒子中量，粘土粒子少量，ローム中ブロック・小ブロック微量
13	褐　　色	ローム粒子中量，ローム小ブロック少量，ローム中ブロック・焼土粒子微量
14	暗褐色	ローム小ブロック・粒子少量，炭化粒子微量
15	黒褐色	ローム小ブロック中量，ローム粒子少量
16	暗褐色	ローム小ブロック・粒子少量，炭化粒子微量
17	暗褐色	ローム小ブロック中量，ローム粒子少量，ローム中ブロック・炭化粒子微量
18	極暗褐色	ローム粒子少量，ローム小ブロック・焼土小ブロック・焼土粒子・炭化粒子微量

遺物　土師器片364点，須恵器片5点及び土製品1点（支脚）が出土している。第203図に示した土器は，すべて土師器である。1～3の坏は竈東側の床面から正位で，4の坏は中央部やや東寄りの覆土下層から正位で，6の甕は北コーナー部の床面からつぶれた状態で横位で出土している。5の甕は覆土中から出土している。7の支脚は竈内の覆土下層から出土している。図示しなかった遺物のほとんどは土師器甕の体部細片で，混入したものと考えられる。

所見　本跡の時期は，出土土器から判断して6世紀後半と考えられる。